

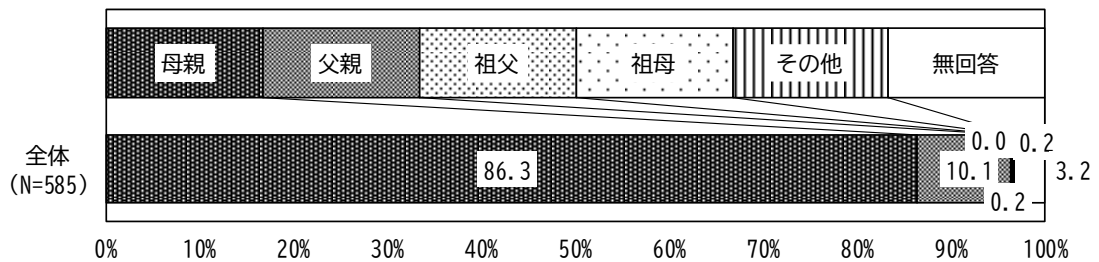
第2章 子どもの育ちや発達に関する調査

(1) 回答者について

F 1 記入される方とあて名のお子さん(以下、お子さん)との関係についておたずねします。(1つに○)

- ・「母親」(86.3%)が最も多く、次いで「父親」(10.1%)が続いている。

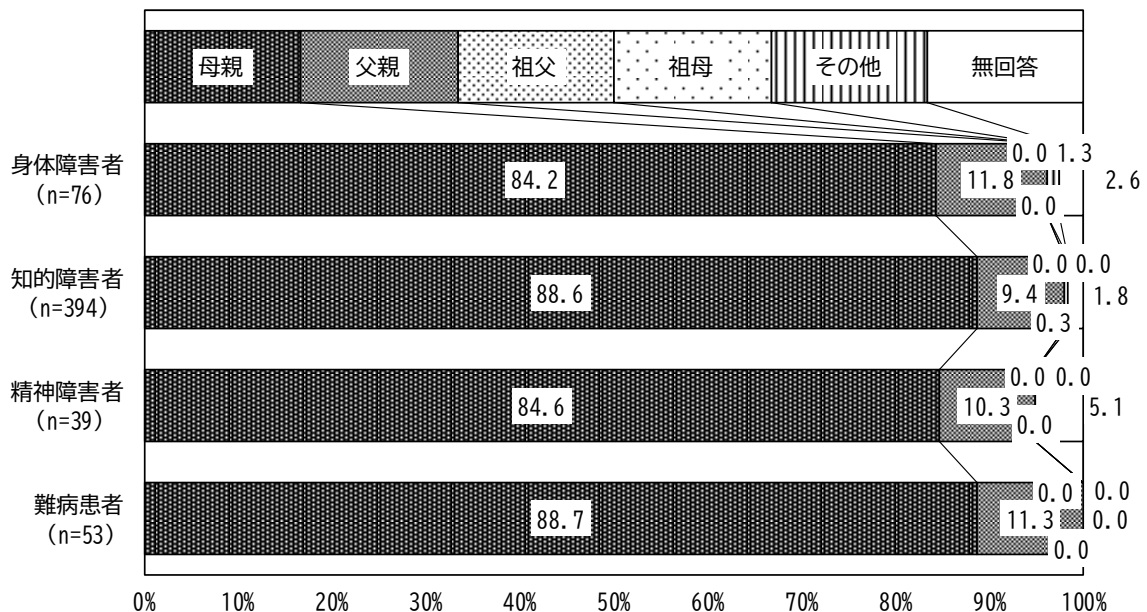
図表 記入者とお子さんの関係(全体)



【障害等の種類別】

- ・身体障害者、知的障害者、精神障害者、難病患者のいずれも「母親」(身体：84.2%、知的：88.6%、精神：84.6%、難病：88.7%)が最も多く、次いで「父親」(身体：11.8%、知的：9.4%、精神：10.3%、難病：11.3%)が続いている。

図表 記入者とお子さんの関係(障害等の種類別)



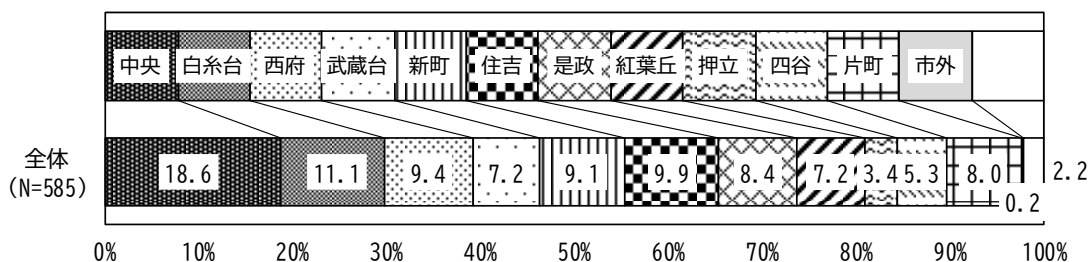
(2) 子どもの基本属性について

F2 お子さんはどちらにお住まいですか。(1つに○)

*市内にお住まいの方は 内にも記入してください。

- ・「市内」が97.6%である。
- ・「市内」と回答した人を市内11か所の文化センター圏域ごとにみると、「中央文化センター圏域」(18.6%)が最も多く、次いで「白糸台文化センター圏域」(11.1%)、「住吉文化センター圏域」(9.9%)が続いている。

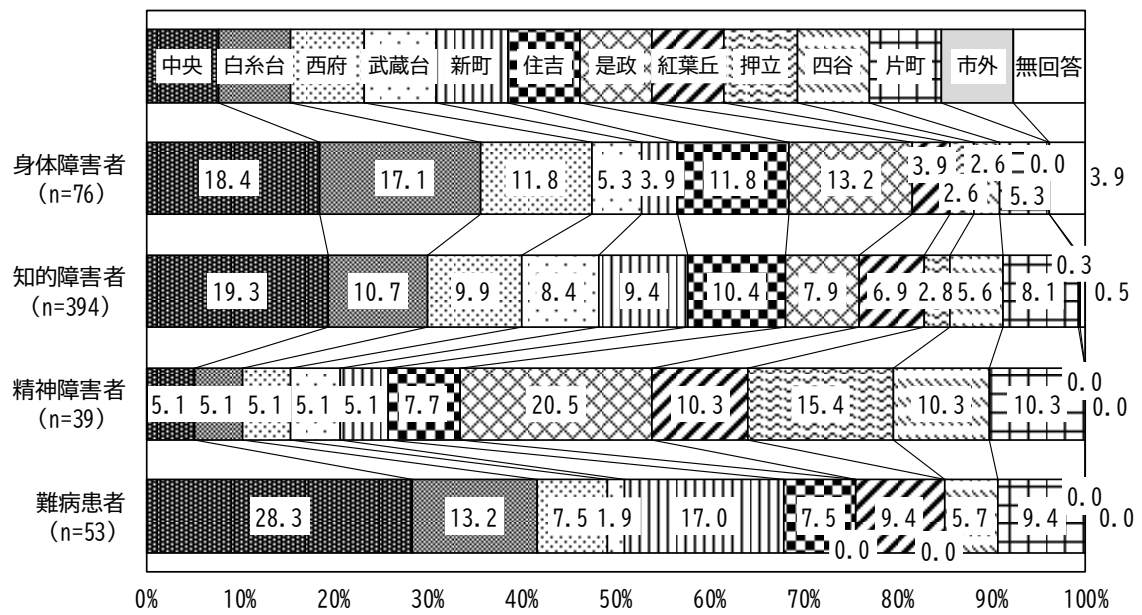
図表 居住地域（全体）



【障害等の種類別】

- ・身体障害者、知的障害者、精神障害者、難病患者、児童通所・障害福祉サービス利用者のいずれも「市内」(身体：96.1%、知的：99.2%、精神：100.0%、難病：100.0%)である。
- ・身体障害者を文化センター圏域ごとにみると、「中央文化センター圏域」(18.4%)が最も多く、次いで「白糸台文化センター圏域」(17.1%)、「是政文化センター圏域」(13.2%)が続いている。
- ・知的障害者を文化センター圏域ごとにみると、「中央文化センター圏域」(19.3%)が最も多く、次いで「白糸台文化センター圏域」(10.7%)、「住吉文化センター圏域」(10.4%)が続いている。
- ・精神障害者を文化センター圏域ごとにみると、「是政文化センター圏域」(20.5%)が最も多く、次いで「押立文化センター圏域」(15.4%)、「紅葉丘文化センター圏域」(10.3%)と「四谷文化センター圏域」(10.3%)が同率で続いている。
- ・難病患者を文化センター圏域ごとにみると「中央文化センター圏域」(28.3%)が最も多く、次いで「新町文化センター圏域」(17.0%)、「白糸台文化センター圏域」(13.2%)が続いている。

図表 居住地域（全体、障害等の種類別）

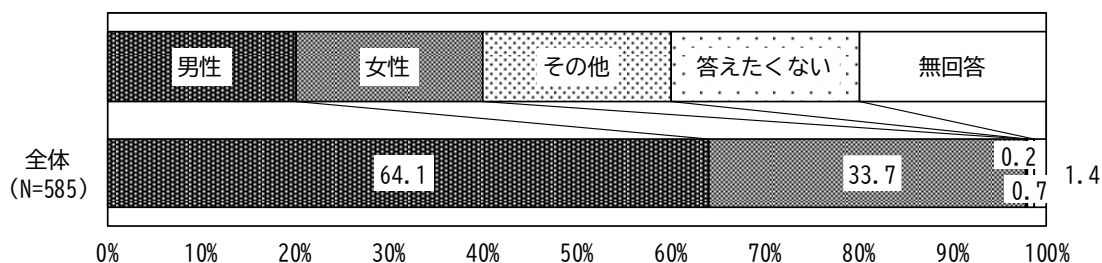


F3(1) 性別 お子さんの性別と年齢をお答えください。(1つに○)

性別 *戸籍上の区別とは別にお子さんのお気持ちを踏まえて、ご記入ください。

- ・「男性」が64.1%、「女性」が33.7%である。

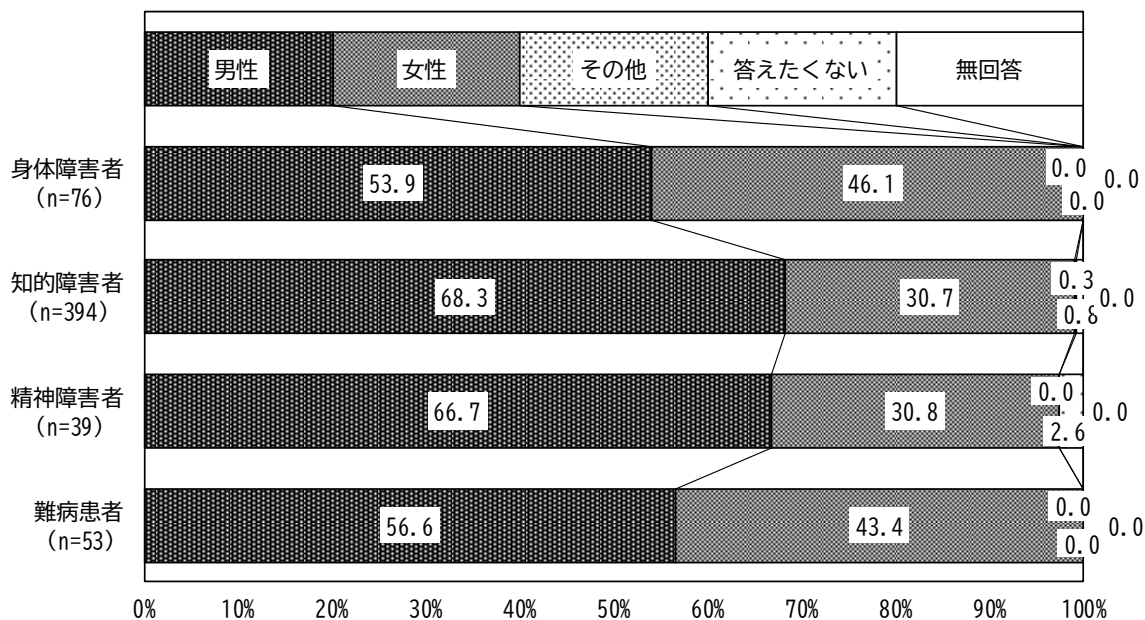
図表 宛名のお子さんの性別（全体）



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「男性」が53.9%、「女性」が46.1%である。
- ・知的障害者は「男性」が68.3%、「女性」が30.7%である。
- ・精神障害者は「男性」が66.7%、「女性」が30.8%である。
- ・難病患者は「男性」が56.6%、「女性」が43.4%である。

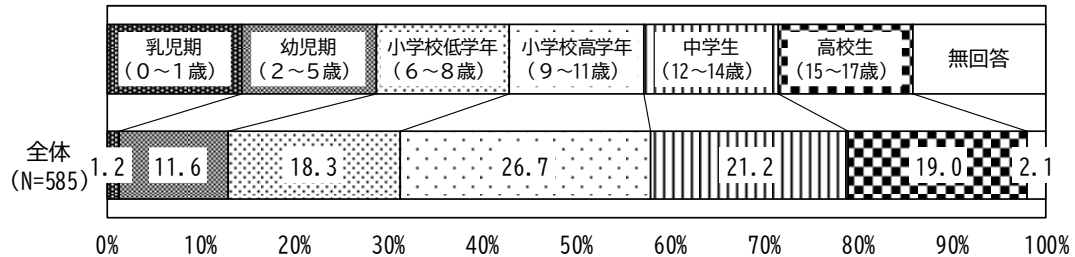
図表 宛名のお子さんの性別（障害等の種類別）



F3 (2) 年齢 *令和7年4月1日現在の年齢でお答えください。

- ・「小学校高学年(9～11歳)」(26.7%)が最も多く、次いで「中学生」(21.2%)、「高校生」(19.0%)が続いている。

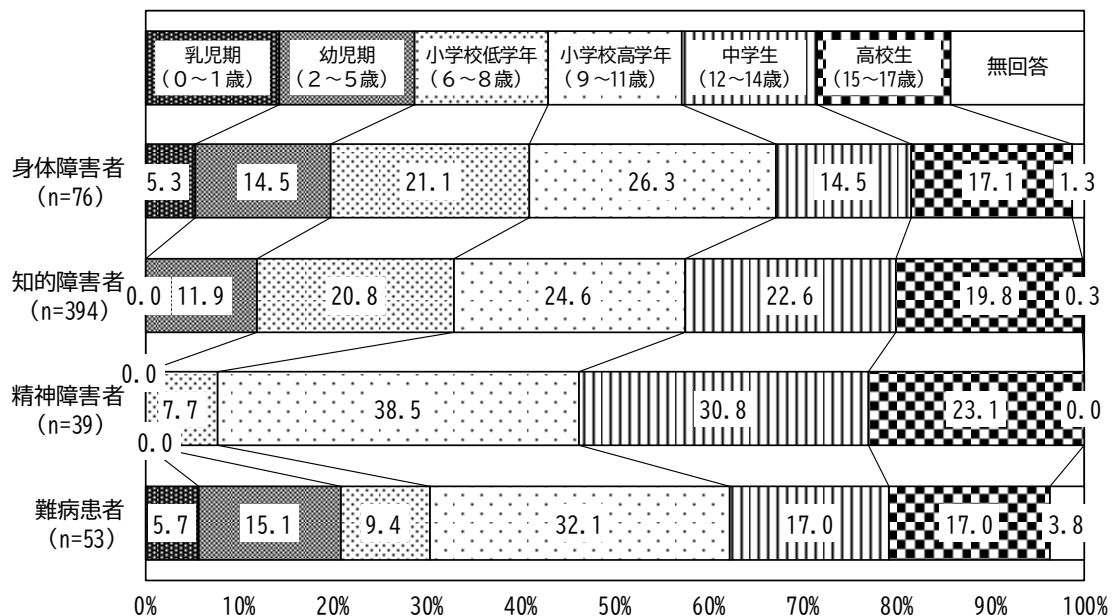
図表 宛名のお子さんの年齢（全体）



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「小学校高学年(9～11歳)」(26.3%)が最も多く、次いで「小学校低学年(6～8歳)」(21.1%)、「高校生(15～17歳)」(17.1%)が続いている。
- ・知的障害者は「小学校高学年(9～11歳)」(24.6%)が最も多く、次いで「中学生(12～14歳)」(22.6%)、「小学校低学年(6～8歳)」(20.8%)が続いている。
- ・精神障害者は「小学校高学年(9～11歳)」(38.5%)が最も多く、次いで「中学生(12～14歳)」(30.8%)、「高校生(15～17歳)」(23.1%)が続いている。
- ・難病患者は「小学校高学年(9～11歳)」(32.1%)が最も多く、次いで「中学生(12～14歳)」(17.0%)と「高校生(15～17歳)」(17.0%)が同率が続いている。

図表 宛名のお子さんの年齢（障害等の種類別）



F4 お子さんがお持ちの手帳または受給者証の種類ごとに、現在の程度に○をつけてください。

- ・身体障害者手帳の所持者は129人である。等級は「1級」(56人)が最も多く、次いで「2級」(27人)、「3級」(21人)が続いている。年代別では学齢期が58人と最も多い。
- ・愛の手帳の所持者は394人である。「4度」(215人)が最も多く、次いで「2度」(101人)、「3度」(70人)が続いている。年代別では学齢期が179人と最も多い。
- ・精神障害者保健福祉手帳の所持者は49人である。「3級」(27人)が最も多く、次いで「2級」(22人)が続いている。年代別では中学生～17歳が29人と最も多い。
- ・特定医療費受給者証の所持者は50人である。年代別では学齢期(18人)と中学生～17歳(18人)が同人数で最も多い。
- ・児童通所受給者証・障害福祉サービス受給者証の所持者は228人である。年代別では学齢期が122人と最も多い。

図表 所持する手帳の程度(全体、年代別)

【身体障害者手帳】

			1級	2級	3級	4級	5級	6級	無回答	(人) 所持者数 (再掲)
全体		(N=585)	56	27	21	19	4	2	456	129
年代別	乳幼児期	(n=73)	10	1	3	5	1	0	53	20
	学齢期	(n=255)	21	16	9	9	2	1	197	58
	中学生～17歳	(n=230)	25	10	8	5	1	1	180	50

【愛の手帳】

			1度	2度	3度	4度	無回答	(人) 所持者数 (再掲)
全体		(N=585)	8	101	70	215	191	394
年代別	乳幼児期	(n=73)	1	4	16	26	26	47
	学齢期	(n=255)	2	55	32	90	76	179
	中学生～17歳	(n=230)	5	41	22	99	63	167

【精神障害者保健福祉手帳】

			1級	2級	3級	無回答	(人) 所持者数 (再掲)
全体		(N=585)	0	22	27	536	49
年代別	乳幼児期	(n=73)	0	0	0	73	0
	学齢期	(n=255)	0	12	8	235	20
	中学生～17歳	(n=230)	0	10	19	201	29

【特定医療受給者証】

			受給して いる	受給して いない	無回答	(人) 所持者数 (再掲)
全体		(N=585)	50	109	426	50
年代別	乳幼児期	(n=73)	12	11	50	12
	学齢期	(n=255)	18	45	192	18
	中学生～17歳	(n=230)	18	46	166	18

【児童通所受給者証・障害福祉サービス受給者証】

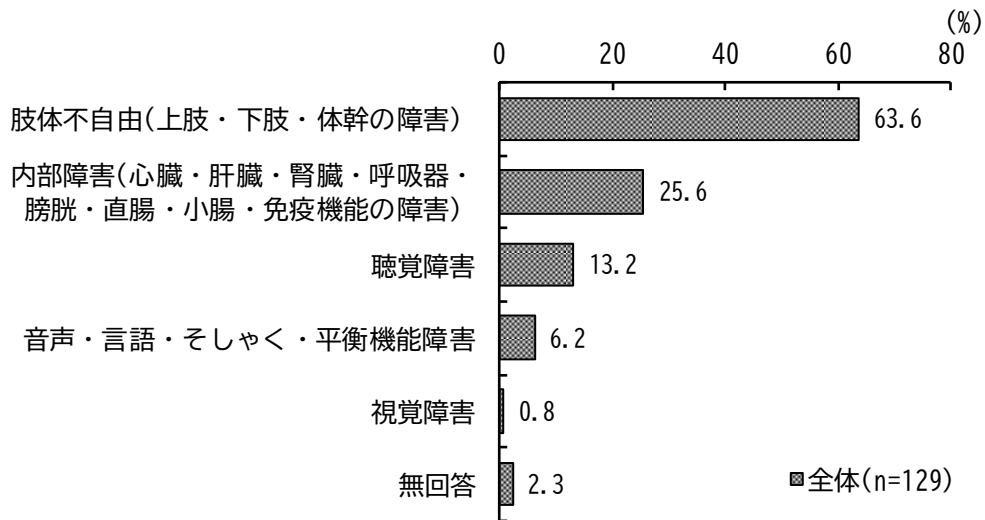
			受給して いる	受給して いない	無回答	(人) 所持者数 (再掲)
全体		(N=585)	228	64	293	228
年代別	乳幼児期	(n=73)	28	6	39	28
	学齢期	(n=255)	122	20	113	122
	中学生～17歳	(n=230)	78	32	120	78

F 5 身体障害者手帳をお持ちの方におたずねします。お子さんの身体障害者手帳に記載された項目は次のどれですか。(いくつでも○)

- ・「肢体不自由(上肢・下肢・体幹の障害)」(63.6%)が最も多く、次いで「内部障害(心臓・肝臓・腎臓・呼吸器・膀胱・直腸・小腸・免疫機能の障害)」(25.6%)、「聴覚障害」(13.2%)が続いている。

図表 身体障害者手帳に記載された項目（全体：複数回答）

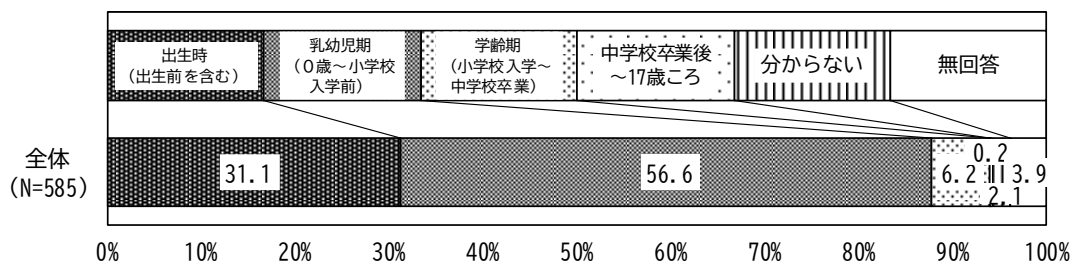
<身体障害者手帳所持者>



F6 お子さんの主な障害や疾病が生じたのは、いつごろですか。(1つに○)

- ・「乳幼児期(0歳～小学校入学前)」(56.6%)が最も多く、次いで「出生時(出生前を含む)」(31.1%)となっている。9割近くが小学校入学前に主な障害や疾病が生じている。

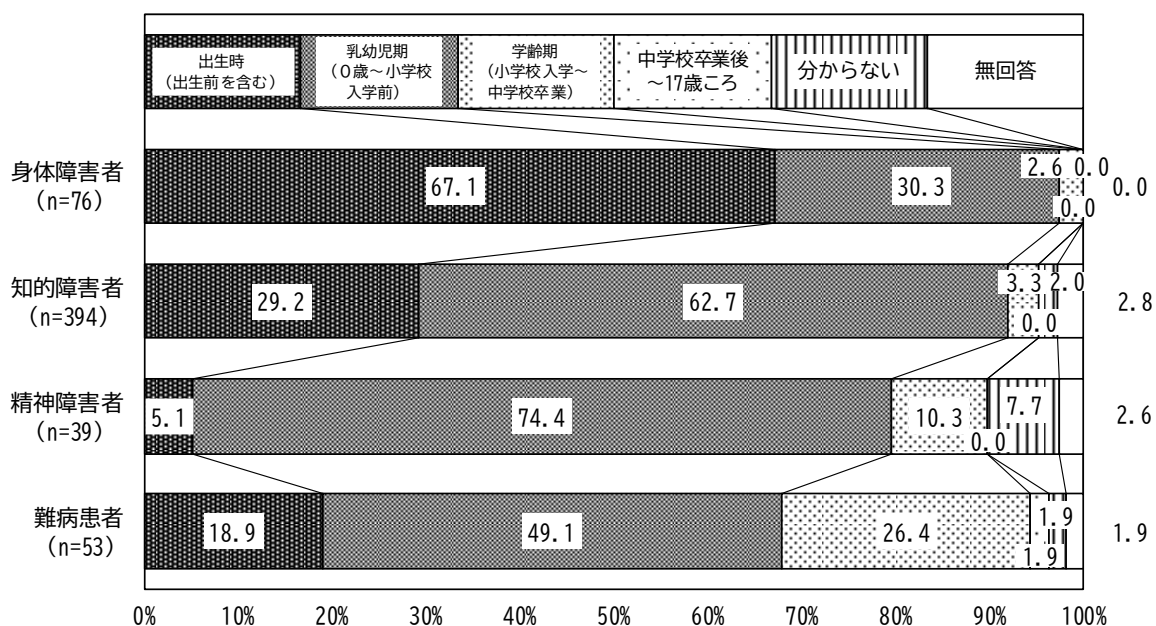
図表 宛名のお子さんに障害・疾病が生じた時期(全体)



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「出生時(出生前を含む)」(67.1%)が最も多く、次いで「乳幼児期(0歳～小学校入学前)」(30.3%)となっている。
- ・知的障害者は「乳幼児期(0歳～小学校入学前)」(62.7%)が最も多く、次いで「出生時(出生前を含む)」(29.2%)となっている。
- ・精神障害者は「乳幼児期(0歳～小学校入学前)」(74.4%)が最も多く、次いで「学齢期(小学校入学～中学校卒業)」(10.3%)となっている。
- ・難病患者は「乳幼児期(0歳～小学校入学前)」(49.1%)が最も多く、次いで「学齢期(小学校入学～中学校卒業)」(26.4%)となっている。

図表 宛名のお子さんに障害・疾病が生じた時期(障害等の種類別)



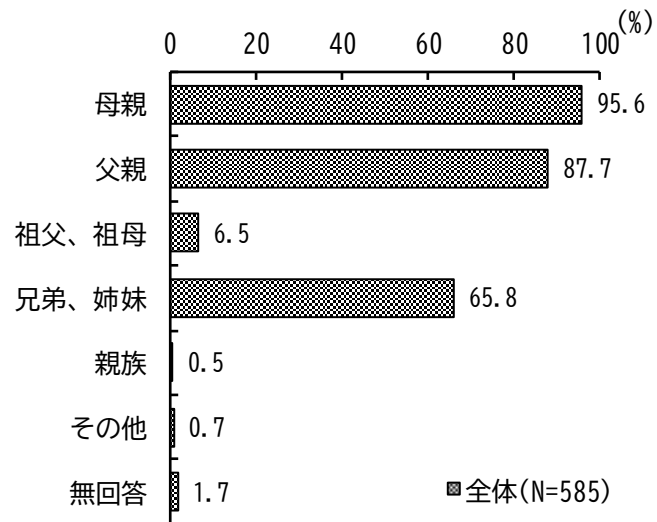
F 7 お子さんと同居（*）している方はどなたですか。（いくつでも○）

* 2世帯住宅は同居としてお答えください。

* お子さんの父母の親族を含めてお答えください。

- ・「母親」（95.6%）が最も多く、次いで「父親」（87.7%）、「兄弟、姉妹」（65.8%）が続いている。

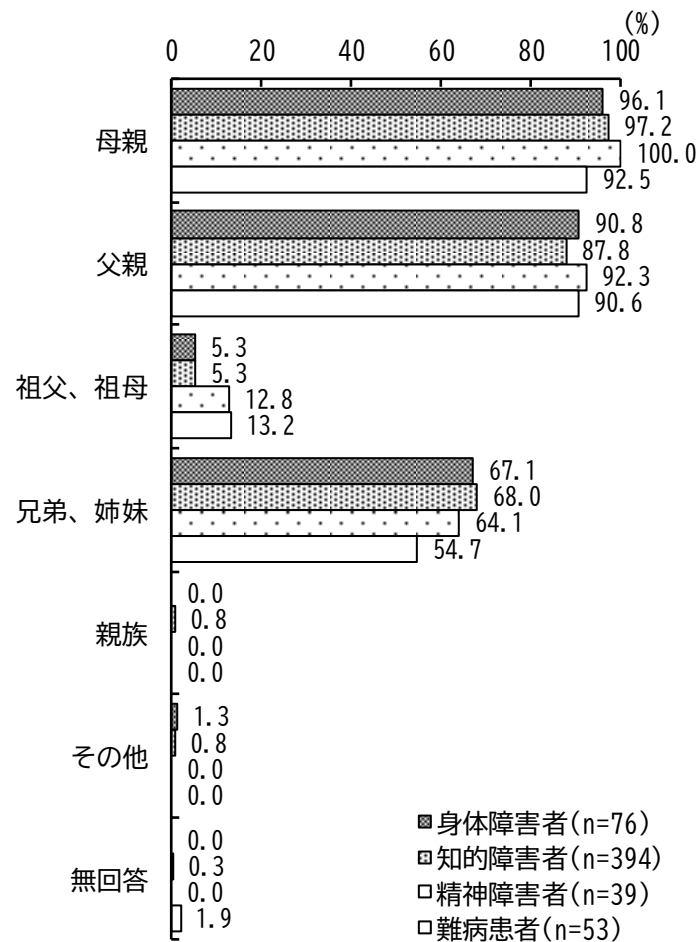
図表 宛名のお子さんの同居者（全体：複数回答）



【障害等の種類別】

- ・身体障害者、知的障害者、精神障害者、難病患者、児童通所・障害福祉サービス利用者のいずれも「母親」(身体：96.1%、知的：97.2%、精神：100.0%、難病：92.5%)が最も多く、次いで「父親」(身体：90.8%、知的：87.8%、精神：92.3%、難病：90.6%)、「兄弟、姉妹」(身体：67.1%、知的：68.0%、精神：64.1%、難病：54.7%)となっている。

図表 宛名のお子さんの同居者（障害等の種類別：複数回答）

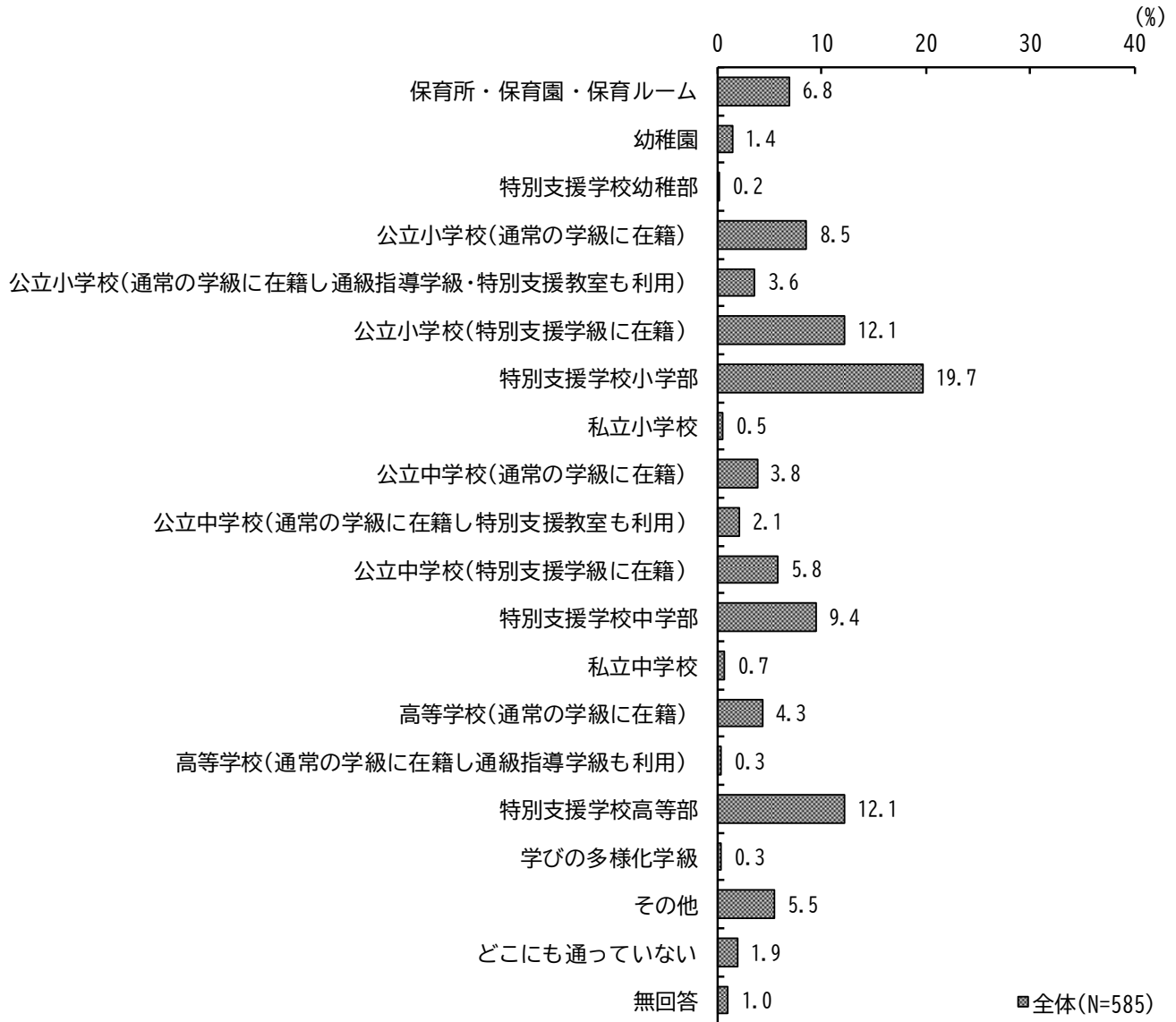


(3) 通園・通学の状況について

問1 お子さんは現在、保育所・保育園・幼稚園や学校に通っていますか。(1つに○)

- ・「どこにも通っていない」(1.9%)と「無回答」(1.0%)を除いた<現在、通園・通学している人>は97.1%である。

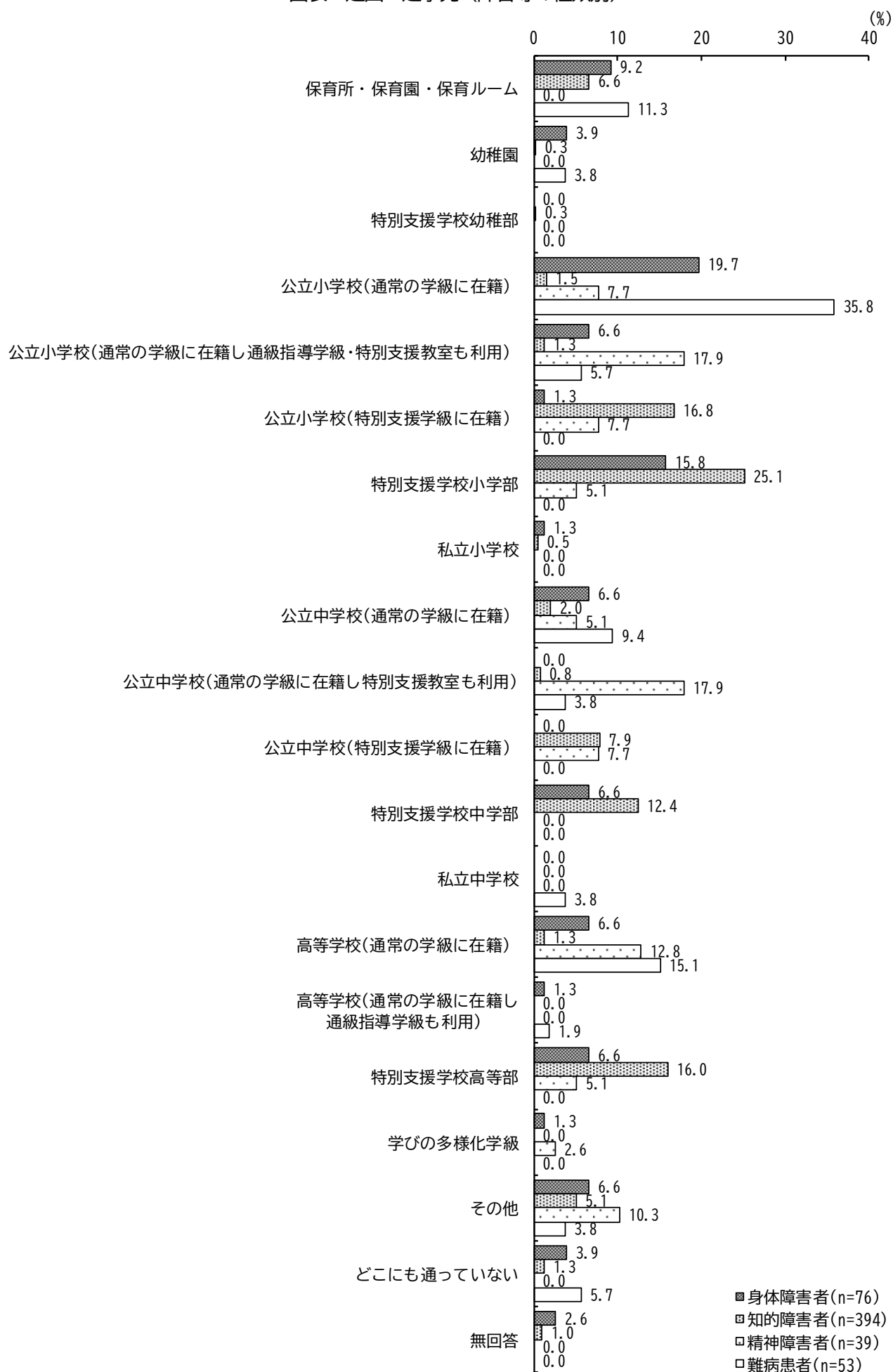
図表 通園・通学先(全体)



【障害等の種類別】

- ・「どこにも通っていない」と「無回答」を除いた<現在、通園・通学している人>は、身体障害者は93.5%、知的障害者は97.7%、精神障害者は100.0%、難病患者は94.3%である。

図表 通園・通学先（障害等の種類別）

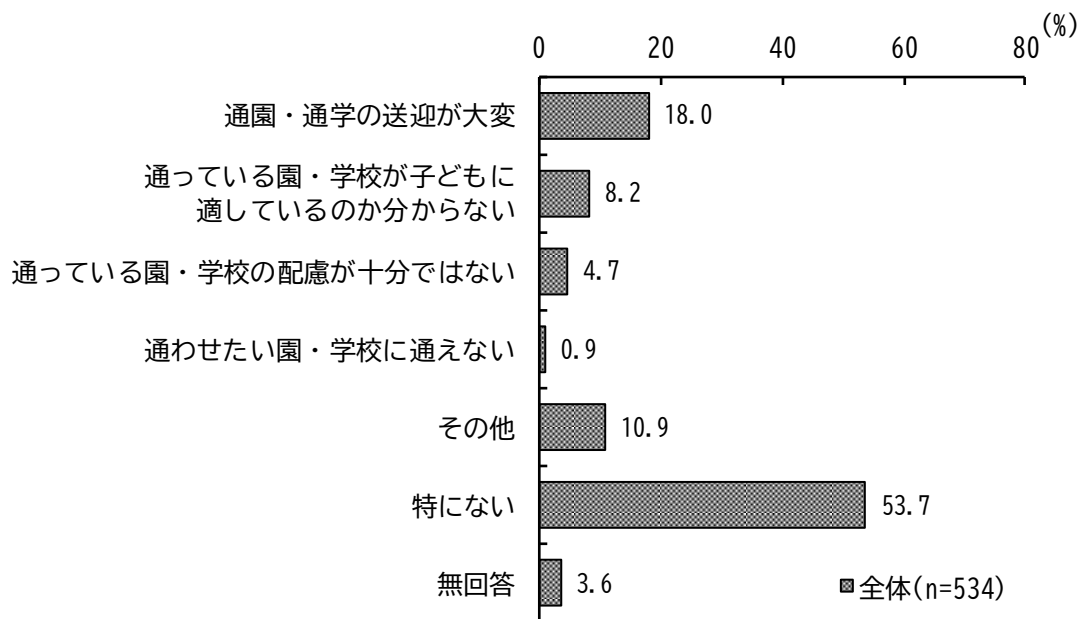


問1-1 問1で「1」～「16」と答えた方におたずねします。

お子さんの通園・通学で、困っていることはありますか。(1つに○)

- ・「特にない」(53.7%)と「無回答」(3.6%)を除く 42.7%がなんらかの理由で困っている。「通園・通学の送迎が大変」(18.0%)が最も多く、次いで「通っている園・学校が子どもに適しているか分からない」(8.2%)、「通っている園・学校の配慮が十分ではない」(4.7%)が続いている。「その他」(10.9%)も1割を超えている。

図表 通園・通学での困りごと（全体）
<通園・通学している人>

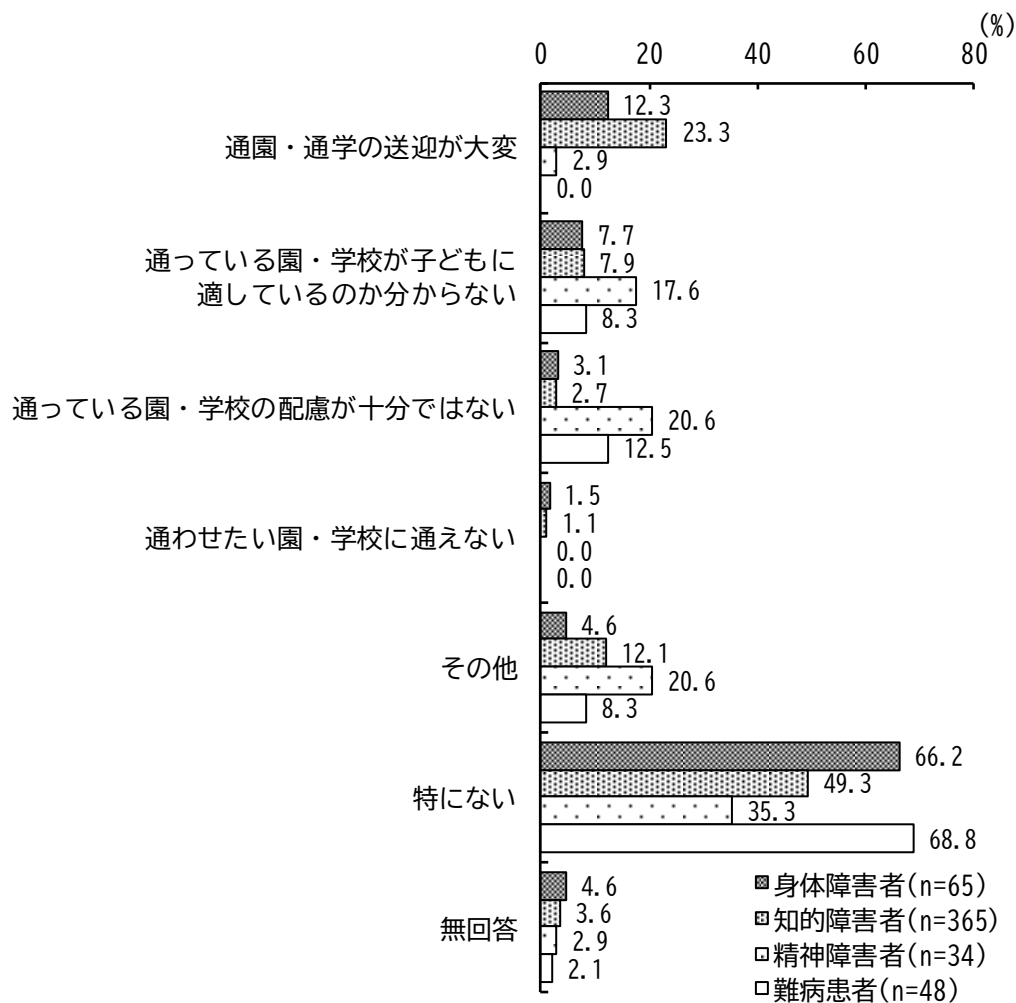


【障害等の種類別】

- ・「特にない」と「無回答」を除き、身体障害者は29.2%、知的障害者は47.1%、精神障害者は61.8%、難病患者は29.1%がなんらかの理由で困っている。
- ・身体障害者、知的障害者は「通園・通学の送迎が大変」（身体：12.3%、知的：23.3%）が最も多い。
- ・精神障害者、難病患者は、「通っている園・学校の配慮が十分ではない」（精神：20.6%、難病：12.5%）が最も多い。

図表 通園・通学での困りごと（障害等の種類別）

<通園・通学している人>

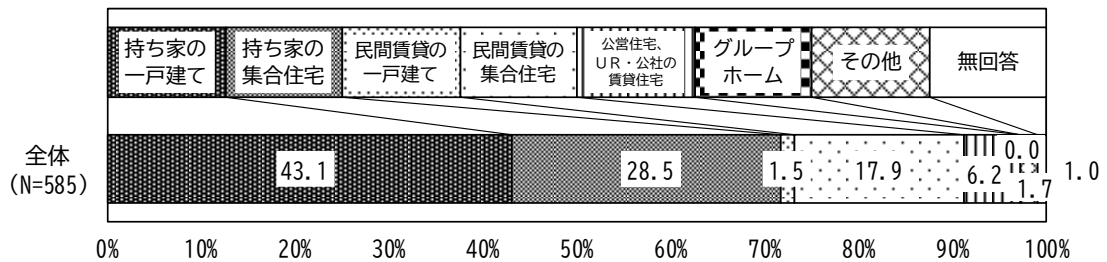


(4) 回答者の住まいについて

問2 あなた(記入者)のお住まいは次のうちどれですか。(1つに○)

- ・「持ち家の一戸建て」(43.1%)が最も多く、次いで「持ち家の集合住宅」(28.5%)、「民間賃貸の集合住宅」(17.9%)が続いている。

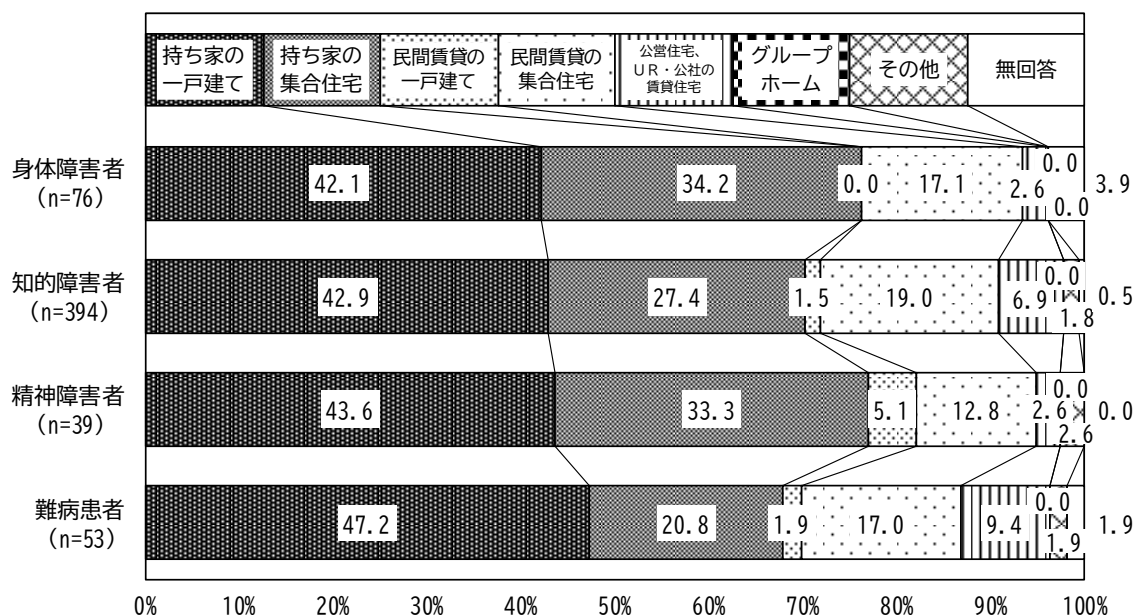
図表 住居形態(全体)



【障害等の種類別】

- ・障害等の種類別でも、全体の傾向と同様、「持ち家の一戸建て」(身体：42.1%、知的：42.9%、精神：43.6%、難病：47.2%)が最も多く、次いで「持ち家の集合住宅」(身体：34.2%、知的：27.4%、精神：33.3%、難病：20.8%)、「民間賃貸の集合住宅」(身体：17.1%、知的：19.0%、精神：12.8%、難病：17.0%)が続いている。
- ・知的障害者、難病患者は「民間賃貸の一戸建て」、「民間賃貸の集合住宅」、「公営住宅、UR・公社の賃貸住宅」を合わせた<賃貸住宅>の割合(知的：27.4%、難病：28.3%)が、身体障害者や精神障害者(身体：19.7%、精神：20.5%)より6ポイント以上高い。

図表 住居形態(障害等の種類別)

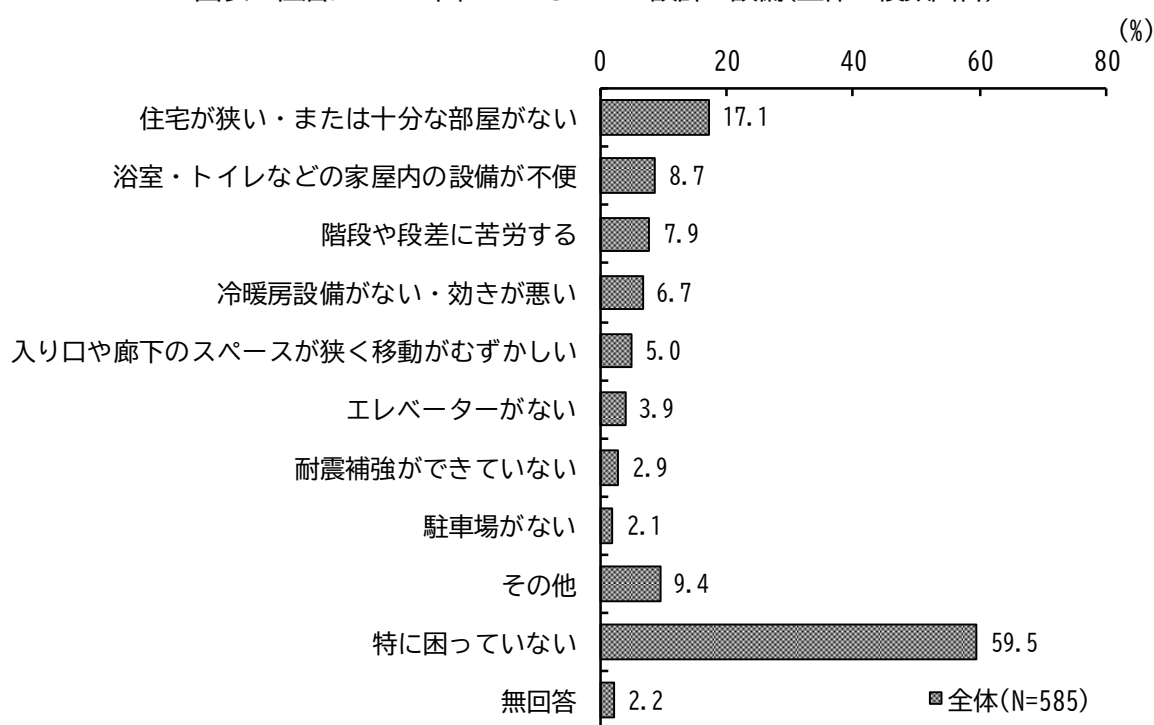


問3 お住まいについて何か困っていることがありますか。

(1) 設計・設備について(いくつでも○)

- ・「特に困っていない」(59.5%)が最も多いが、それ以外では「住宅が狭い・または十分な部屋がない」(17.1%)が最も多く、次いで「浴室・トイレなどの家屋内の設備が不便」(8.7%)、「階段や段差に苦労する」(7.9%)が続いている。「その他」(9.4%)も1割近い。

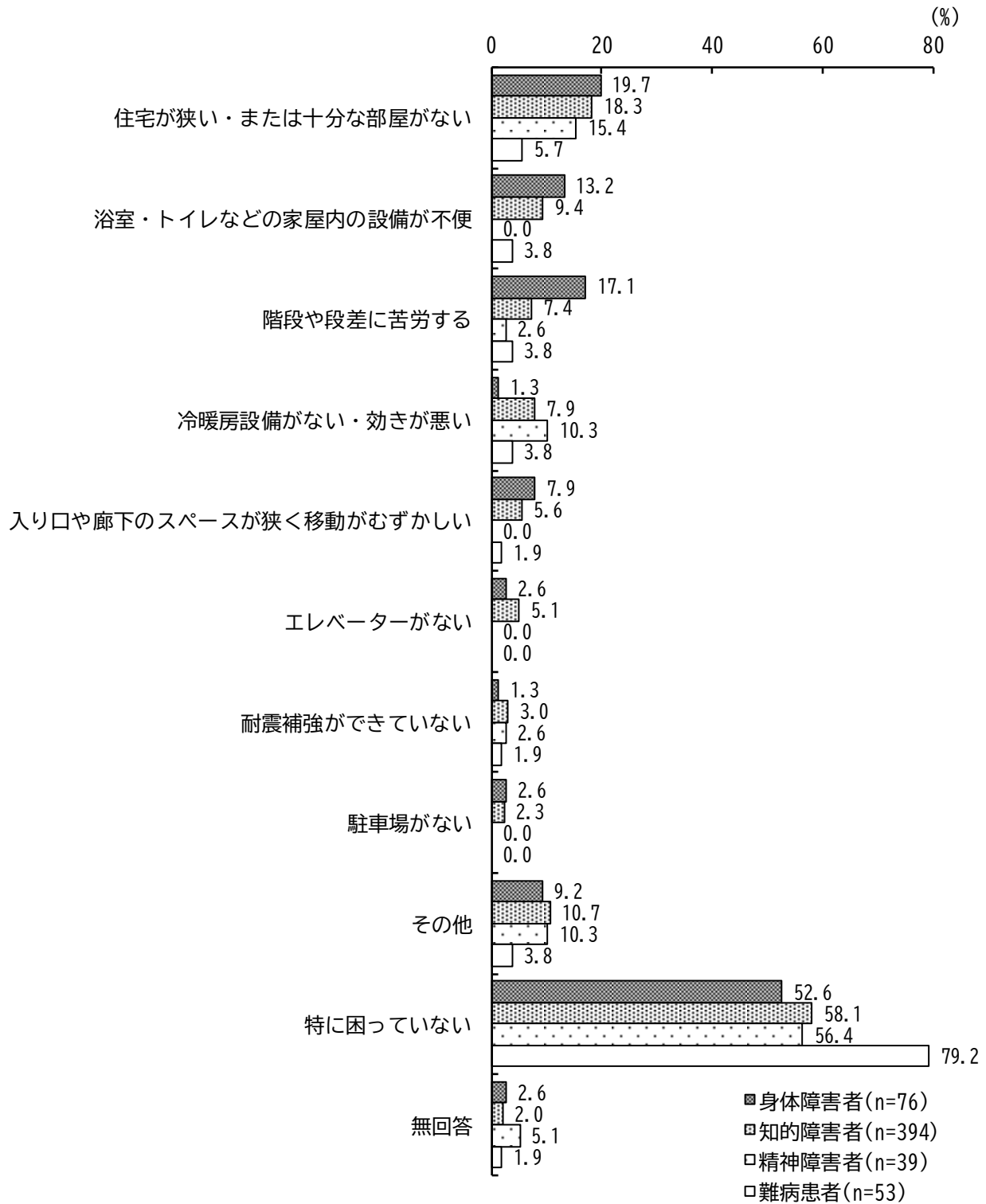
図表 住居について困っていること：設計・設備(全体：複数回答)



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「特に困っていない」(52.6%)が最も多いが、それ以外では「住宅が狭い・または十分な部屋がない」(19.7%)が最も多く、次いで「階段や段差に苦労する」(17.1%)、「浴室・トイレなどの家屋内の設備が不便」(13.2%)が続いている。
- ・知的障害者は「特に困っていない」(58.1%)が最も多いが、それ以外では「住宅が狭い・または十分な部屋がない」(18.3%)が最も多く、「浴室・トイレなどの家屋内の設備が不便」(9.4%)が続いている。
- ・精神障害者は「特に困っていない」(56.4%)が最も多いが、それ以外では「住宅が狭い・または十分な部屋がない」(15.4%)、「冷暖房設備がない・効きが悪い」(10.3%)が続いている。
- ・難病患者は「特に困っていない」(79.2%)が最も多いが、それ以外では「住宅が狭い・または十分な部屋がない」(5.7%)が続いている。

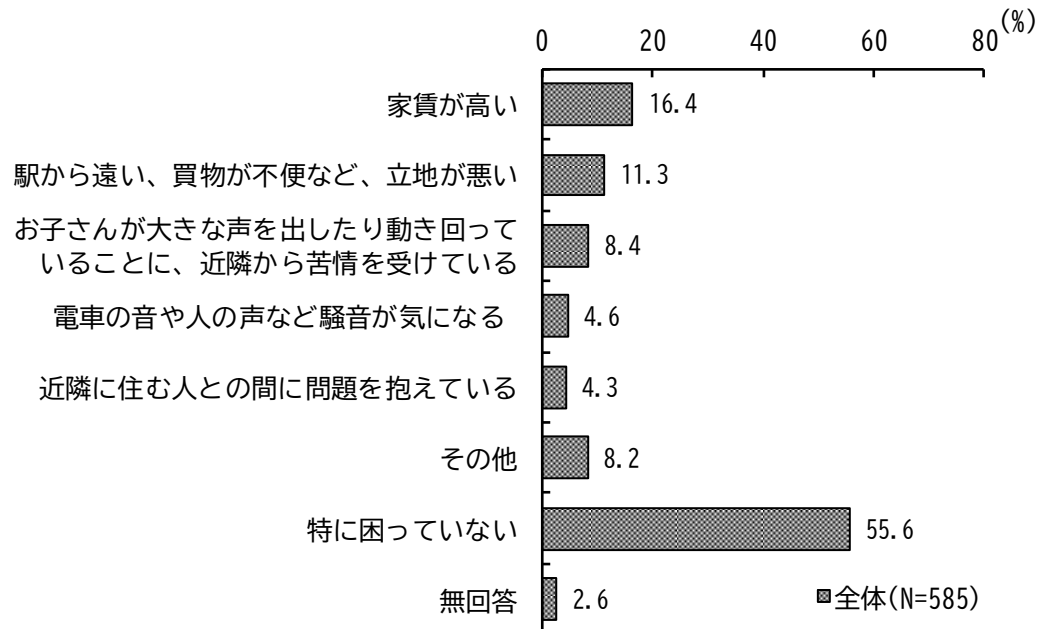
図表 住居について困っていること：設計・設備(障害等の種類別：複数回答)



(2) 住宅事情について(いくつでも○)

- ・「特に困っていない」(55.6%)が最も多いが、それ以外では「家賃が高い」(16.4%)が最も多く、「駅から遠い、買物が不便など、立地が悪い」(11.3%)、「お子さんが大きな声を出したり動き回っていることに、近隣から苦情を受けている」(8.4%)が続いている。

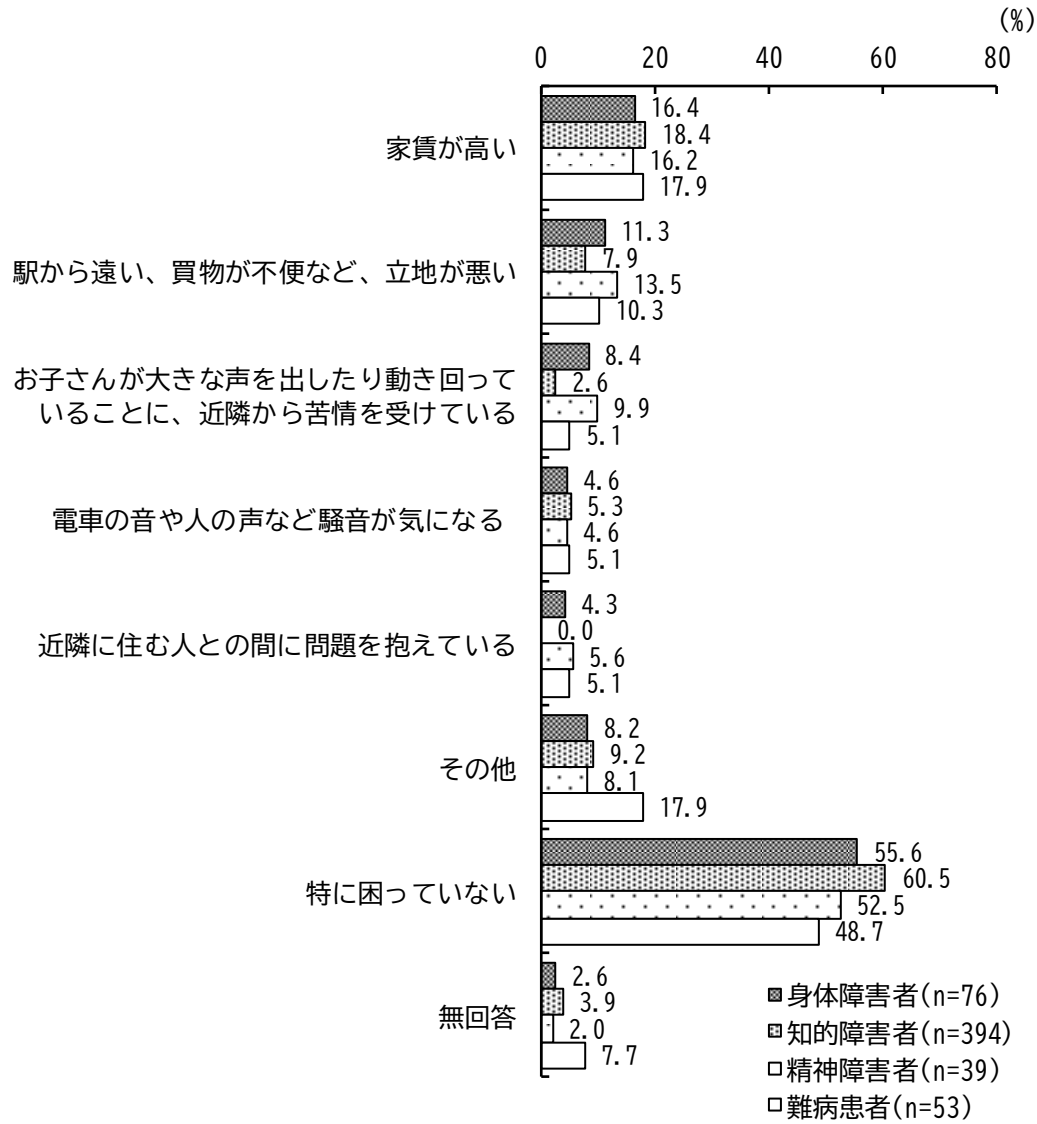
図表 住居について困っていること：住宅事情(全体：複数回答)



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「特に困っていない」(55.6%)が最も多いが、それ以外では「家賃が高い」(16.4%)が最も多く、次いで「駅から遠い、買物が不便など、立地が悪い」(11.3%)が続いている。
- ・知的障害者は「特に困っていない」(60.5%)が最も多いが、それ以外では「家賃が高い」(18.4%)が最も多く、次いで「その他」(9.2%)が続いている。
- ・精神障害者は「特に困っていない」(52.5%)が最も多いが、それ以外では「家賃が高い」(16.2%)、「駅から遠い、買物が不便など、立地が悪い」(13.5%)が続いている。
- ・難病患者は「特に困っていない」(48.7%)が最も多いが、それ以外では「家賃が高い」(17.9%)と「その他」(17.9%)が同率が続いている。

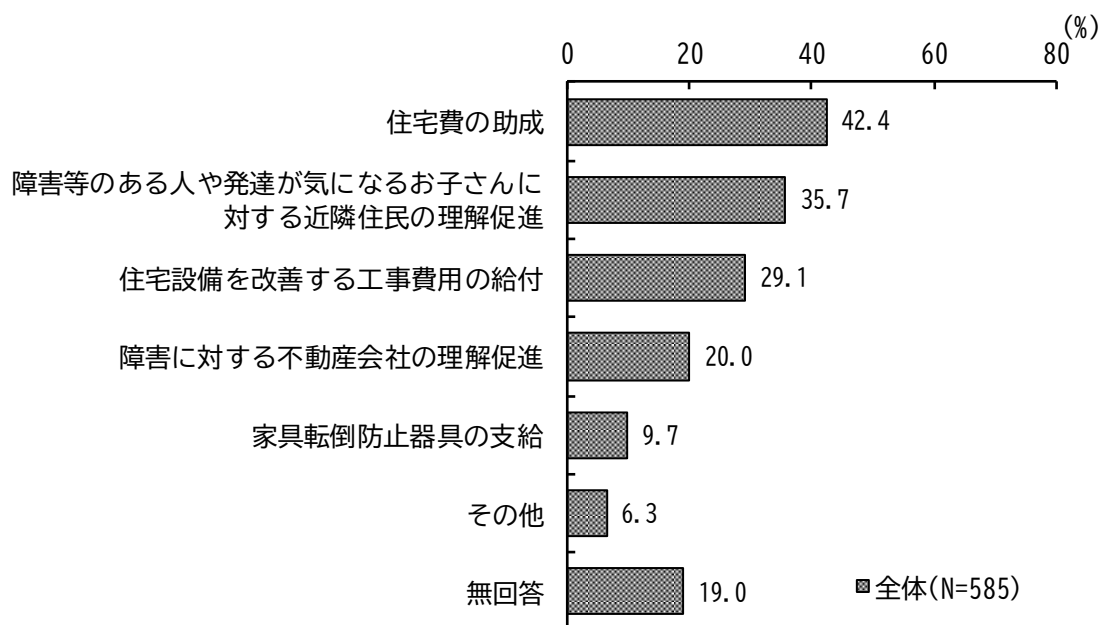
図表 住居について困っていること：住宅事情(障害等の種類別：複数回答)



問4 お住まいに関する困りごとで、希望する支援は次のどれですか。(いくつでも○)

- ・「住宅費の助成」(42.4%)が最も多く、次いで「障害等のある人や発達が気になるお子さんに対する近隣住民の理解促進」(35.7%)、「住宅設備を改善する工事費用の給付」(29.1%)が続いている。

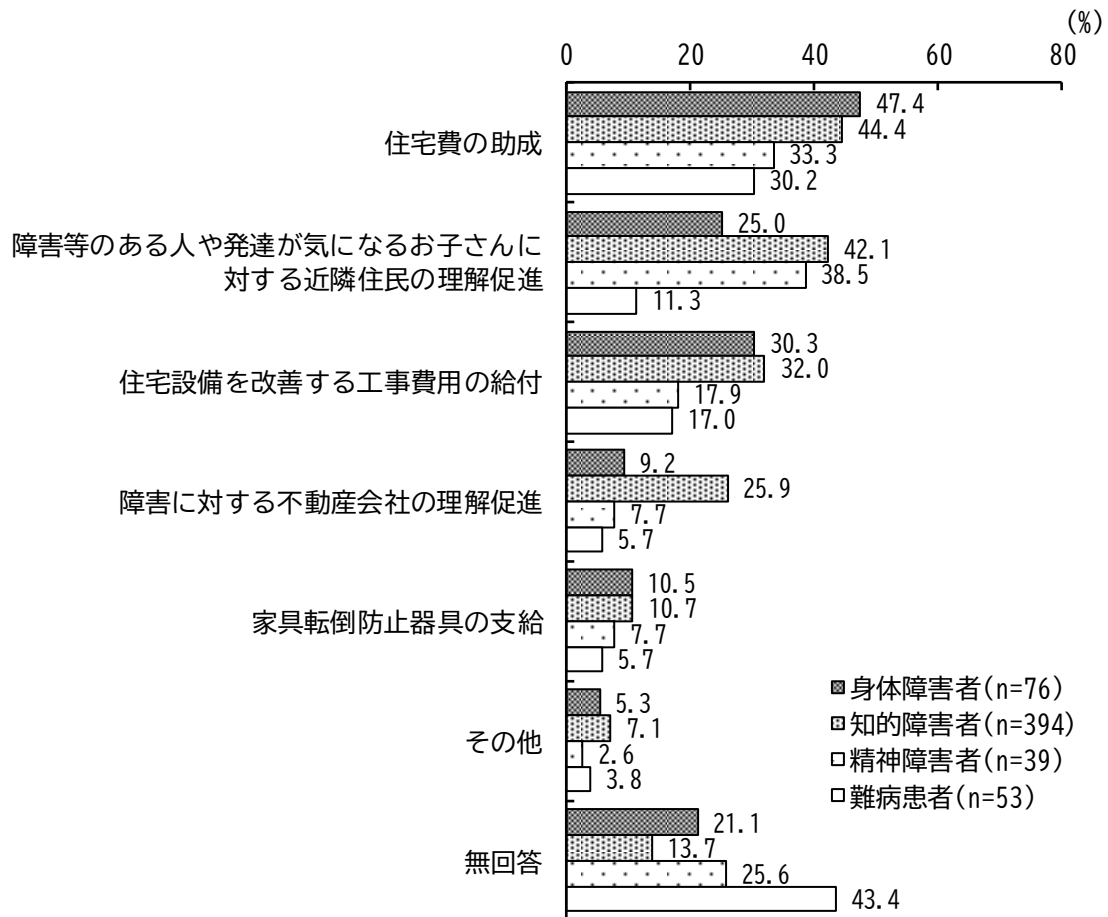
図表 住居の困りごとに対して希望する支援(全体：複数回答)



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「住宅費の助成」(47.4%)が最も多く、次いで「住宅設備を改善する工事費用の給付」(30.3%)、「障害等のある人や発達が気になるお子さんに対する近隣住民の理解促進」(25.0%)が続いている。
- ・知的障害者は「住宅費の助成」(44.4%)が最も多く、次いで「障害等のある人や発達が気になるお子さんに対する近隣住民の理解促進」(42.1%)、「住宅設備を改善する工事費用の給付」(32.0%)が続いている。
- ・精神障害者は「障害等のある人や発達が気になるお子さんに対する近隣住民の理解促進」(38.5%)が最も多く、次いで「住宅費の助成」(33.3%)、「住宅設備を改善する工事費用の給付」(17.9%)が続いている。
- ・難病患者は「住宅費の助成」(30.2%)が最も多く、次いで「住宅設備を改善する工事費用の給付」(17.0%)、「障害等のある人や発達が気になるお子さんに対する近隣住民の理解促進」(11.3%)が続いている。

図表 住居の困りごとに対して希望する支援(障害等の種類別：複数回答)



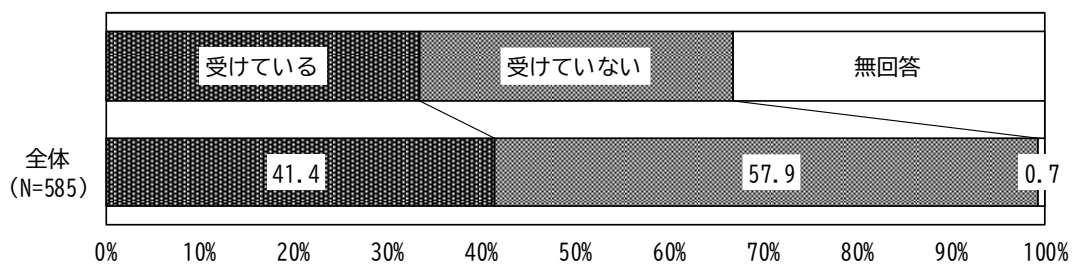
(5) 日常生活について

問5 お子さんは、日常生活において障害や疾病などがあるために何らかの介助を受けていますか。

(1つに○)

- ・「受けている」は41.4%、「受けていない」は57.9%である。

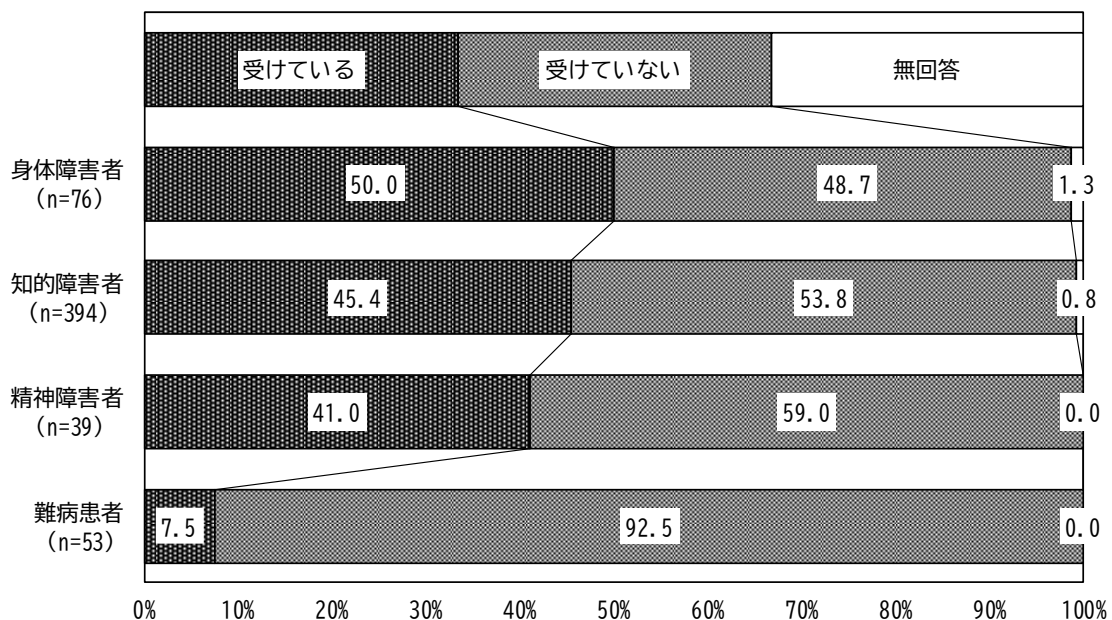
図表 介助の状況(全体)



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「受けている」は50.0%、「受けていない」は48.7%である。
- ・知的障害者は「受けている」は45.4%、「受けていない」は53.8%である。
- ・精神障害者は「受けている」は41.0%、「受けていない」は59.0%である。
- ・難病患者は「受けている」は7.5%、「受けていない」は92.5%である。

図表 介助の状況(障害等の種類別)



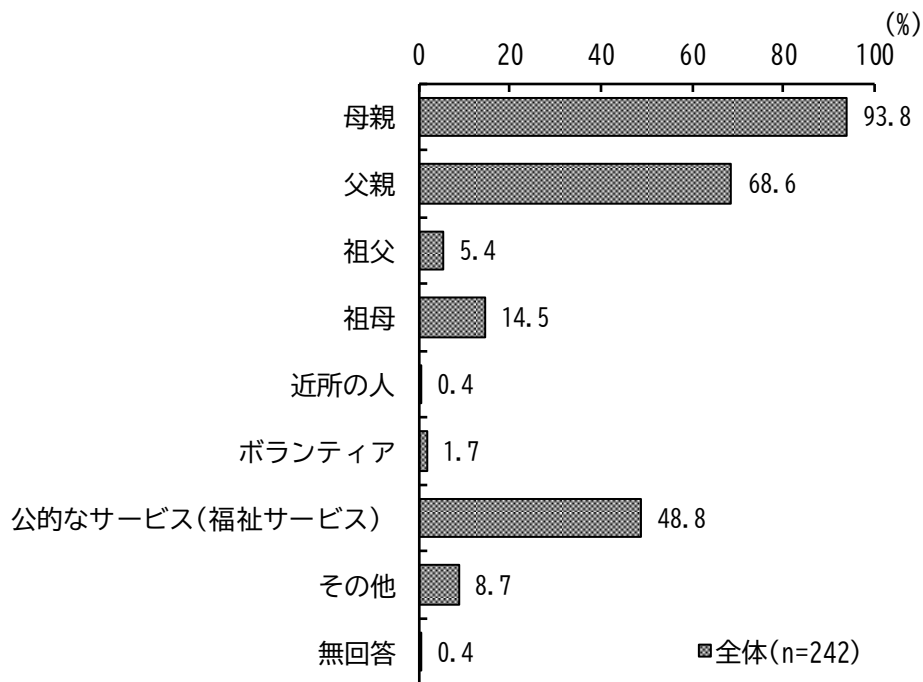
問5-1 問5で「1. 受けている」と答えた方におたずねします。

(1) 介助をしている人はどなたですか。(いくつでも○)

- ・「母親」(93.8%)が最も多く、次いで「父親」(68.6%)、「公的なサービス(福祉サービス)」(48.8%)が続いている。

図表 介助をしている人(全体：複数回答)

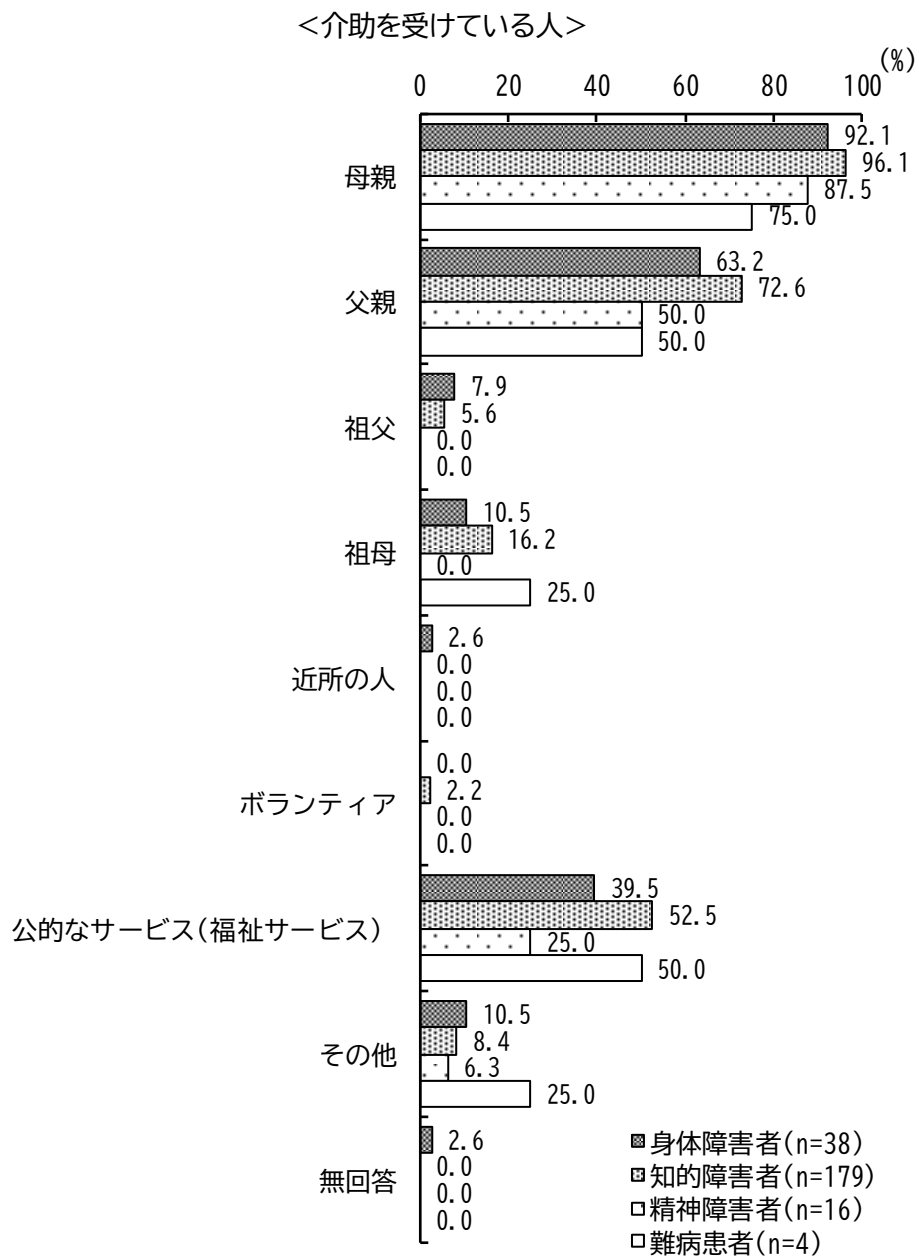
<介助を受けている人>



【障害等の種類別】

- ・身体障害者、知的障害者、精神障害者は全体と同様、「母親」(身体：92.1%、知的：96.1%、精神：87.5%)が最も多く、次いで「父親」(身体：63.2%、知的：72.6%、精神：50.0%)、「公的なサービス(福祉サービス)」(身体：39.5%、知的：52.5%、精神：25.0%)が続いている。
- ・難病患者は「母親」(75.0%)が最も多く、次いで「父親」(50.0%)と「公的なサービス(福祉サービス)」(50.0%)が同率で続いている。

図表 介助をしている人(障害等の種類別：複数回答)



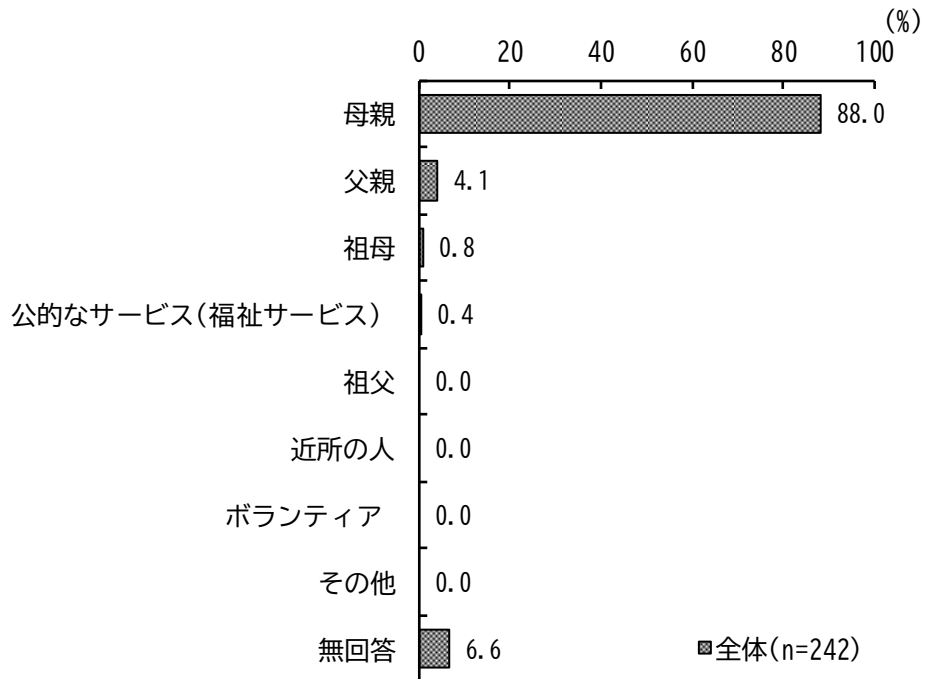
問5-1 問5で「1.受けている」と答えた方におたずねします。

(2) 主に介助している人はどなたですか。

((1)の選択肢から1つだけ の中に記入してください)

- ・「母親」(88.0%)が最も多く、それ以外は1割に満たない。

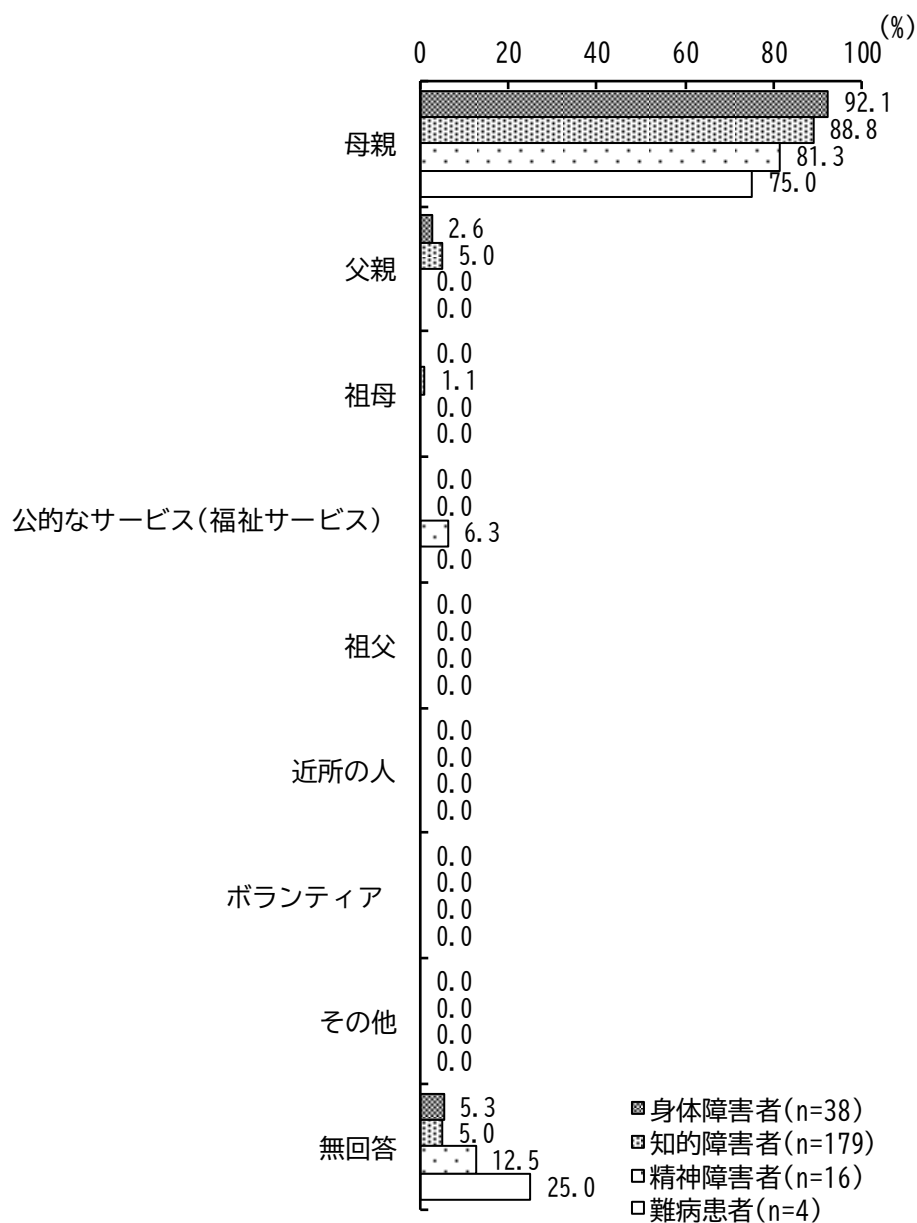
図表 主に介助している人(全体)
<介助を受けている人>



【障害等の種類別】

- ・ 障害等の種類別でも、「母親」(身体：92.1%、知的：88.8%、精神：81.3%、難病：75.0%)が最も多い。

図表 主に介助している人(障害等の種類別)
<介助を受けている人>



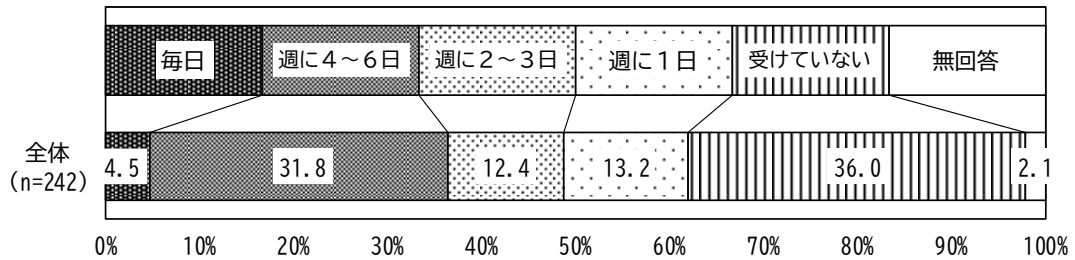
問5-2 問5で「1. 受けている」と答えた方におたずねします。

お子さんは、障害や疾病などの支援として公的なサービス(例：ホームヘルプ・訪問看護)による介助を1週間のうち何日ぐらい受けていますか。(1つに○)

- ・「受けていない」(36.0%)が最も多く、次いで「週に4～6日」(31.8%)、「週に1日」(13.2%)が続いている。

図表 公的サービスによる介助の頻度(全体)

<介助を受けている人>

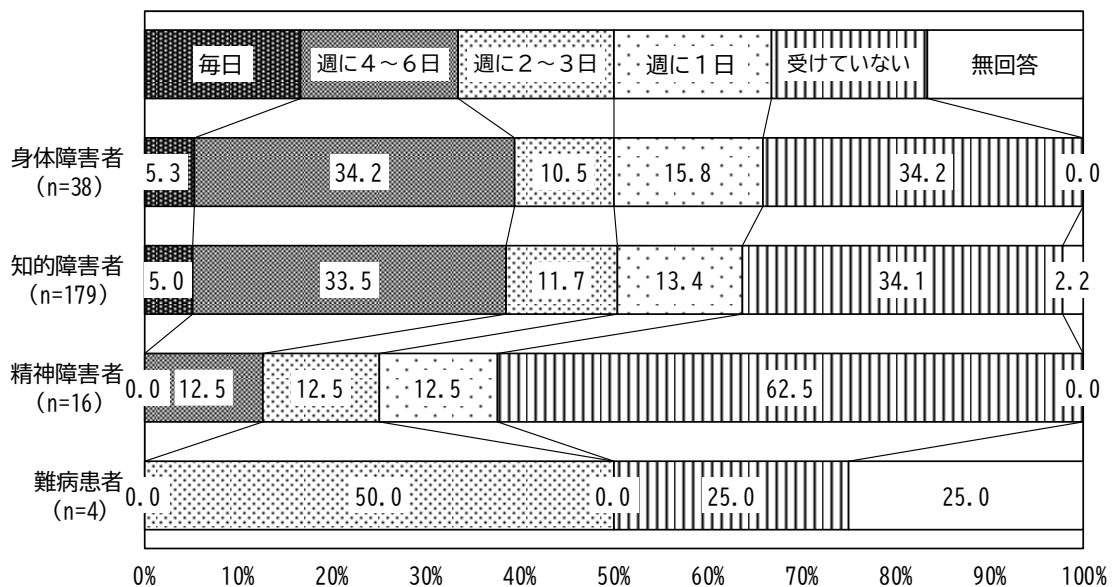


【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「受けていない」(34.2%)と「週に4～6日」(34.2%)が同率で最も多く、次いで「週に1日」(15.8%)が続いている。
- ・知的障害者は「受けていない」(34.1%)が最も多く、次いで「週に4～6日」(33.5%)、「週に1日」(13.4%)が続いている。
- ・精神障害者は「受けていない」(62.5%)が最も多く、次いで「週に4～6日」(12.5%)、「週に2～3日」(12.5%)、「週に1日」(12.5%)が同率が続いている。
- ・難病患者は、回答数が4人と少ないが、「週に4～6日」(2人、50.0%)が比較的多く、次いで「受けていない」(1人、25.0%)となっている。

図表 公的サービスによる介助の頻度(障害等の種類別)

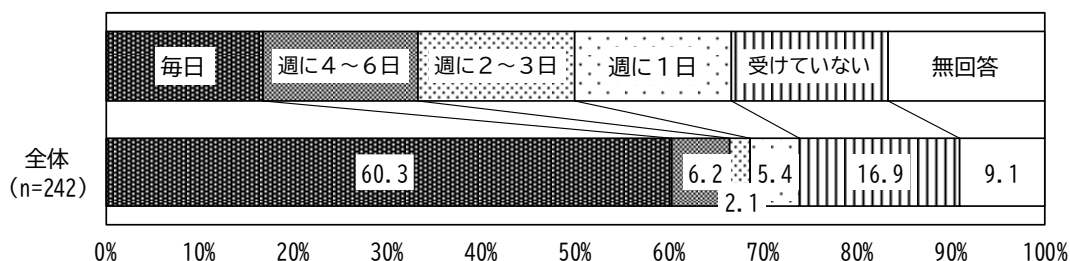
<介助を受けている人>



問5-3 問5で「1. 受けている」と答えた方におたずねします。お子さんは、障害や疾病などの支援として家族・親族・ボランティア(公的なサービスを除く)の介助を1週間のうち何日ぐらい受けていますか。(1つに○)

- ・「毎日」(60.3%)が最も多く、次いで「受けていない」(16.9%)、「週に4～6日」(6.2%)、「週に1日」(5.4%)が続いている。

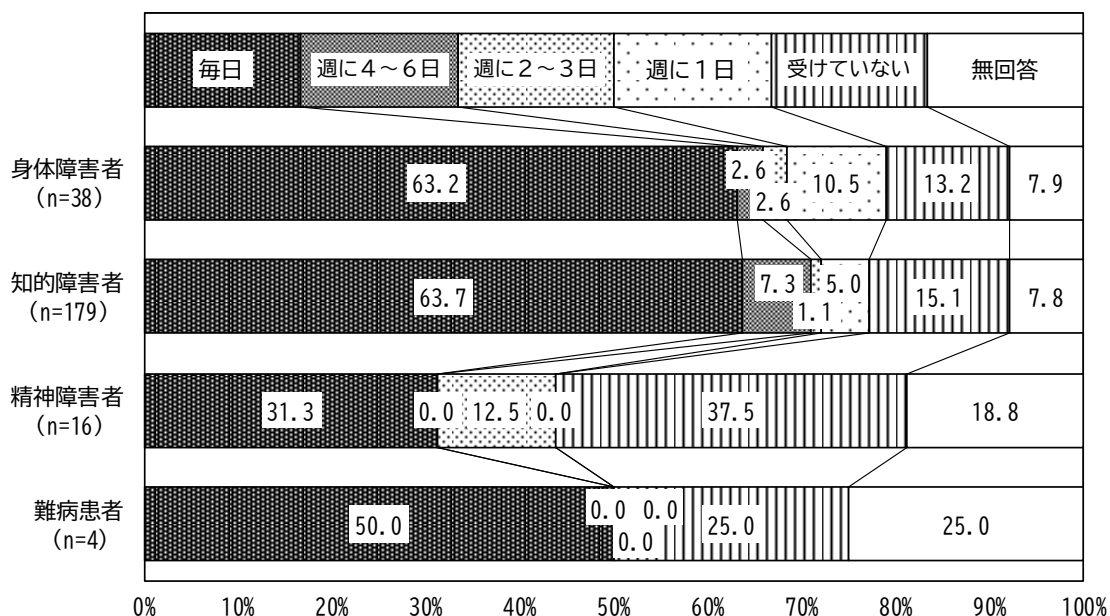
図表 家族等介助の頻度(全体)
<介助を受けている人>



【障害等の種類別】

- ・身体障害者、知的障害者、難病患者では、いずれも「毎日」(身体：63.2%、知的：63.7%、難病：50.0%)が最も多く、次いで「受けていない」(身体：13.2%、知的：15.1%、難病：25.0%)が続いている。
- ・精神障害者は「受けていない」(37.5%)が最も多く、次いで「毎日」(31.3%)が続いている。

図表 家族等介助の頻度(障害等の種類別)
<介助を受けている人>

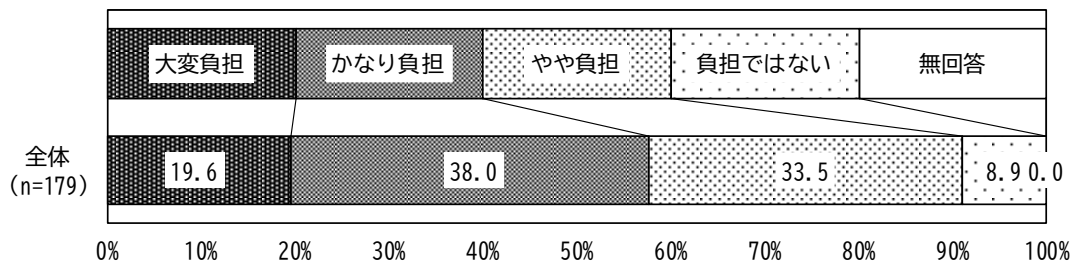


問5-3-1 問5-3で「1」～「4」と答えた方の家族・親族におたずねします。

お子さんの介助による負担感はいかがですか。（1つに○）

- ・「かなり負担」（38.0%）が最も多く、次いで「やや負担」（33.5%）、「大変負担」（19.6%）、「負担ではない」（8.9%）となっている。「大変負担」と「かなり負担」を合わせると6割近くとなっており、家族等の介助の負担感がうかがえる。

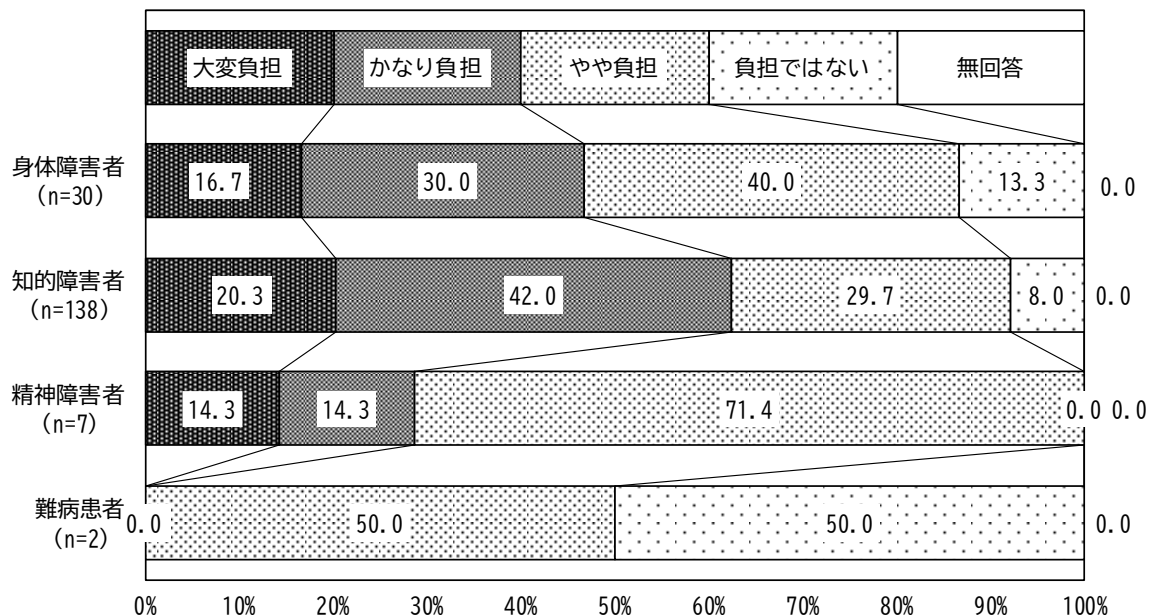
図表 家族等介助の負担感（全体）
<家族・親族等の介護を受けている人>



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「やや負担」（40.0%）が最も多く、「かなり負担」（30.0%）が続いている。
- ・知的障害者は「かなり負担」（42.0%）が最も多く、「やや負担」（29.7%）が続いている。
- ・精神障害者は「やや負担」（71.4%）が最も多く、「大変負担」と「かなり負担」（それぞれ14.3%）が同率で続いている。
- ・難病患者は2人のみの回答で、「やや負担」（50.0%）と「負担ではない」（50.0%）が同率となっている。

図表 家族等介助の負担感（障害等の種類別）
<家族・親族等の介護を受けている人>



(6) 福祉サービスの利用について

問6 お子さんの福祉サービスの利用状況・利用意向について、おたずねします。(1)～(14)のそれぞれについて、「1」～「7」にいくつでも○をつけてください。

- ・「希望通り利用できている」と「利用しているが希望通りではない」をあわせた<利用者層>は、『放課後等デイサービス』(46.5%)が最も多く、次いで『障害児相談支援』(23.6%)、『児童発達支援』(17.4%)、『補装具費の支給・日常生活用具費の給付』(14.2%)、『子ども発達支援センターはばたき』(6.8%)が続いている。
- ・「利用したいが事業所に空きがない」と「利用したい事業所がない」、「今後、利用したい」をあわせた<未利用者層>は、『日中一時支援』(34.5%)が最も多く、次いで『移動支援』(32.5%)、『短期入所(ショートステイ)』(30.6%)が続いている。『行動援護』(25.0%)、『障害児相談支援』(20.7%)も2割を超えている。

【障害等の種類別】

- ・身体障害者は、<利用者層>では『補装具費の支給・日常生活用具費の給付』(38.2%)、<未利用者層>では『移動支援』(21.1%)と『日中一時支援』(21.1%)が同率で最も多い。
- ・知的障害者は、<利用者層>では『放課後等デイサービス』(56.3%)、<未利用者層>では『日中一時支援』(42.6%)が最も多い。
- ・精神障害者は、<利用者層>では『放課後等デイサービス』(43.6%)、<未利用者層>では『障害児相談支援』(33.3%)が最も多い。
- ・難病患者は、<利用者層>では『放課後等デイサービス』(18.9%)、<未利用者層>では『放課後等デイサービス』(13.2%)と『保育所等訪問支援』(13.2%)が同率で最も多い。

図表 福祉サービスの利用状況、利用意向(全体、障害等の種類別)

(1) 居宅介護(ホームヘルプ)

			(%)									
			希望通り 利用でき ている	利用して いるが希 望通りで はない	利用した いが事業 所に空き がない	利用した い事業所 がない	今後、利 用したい	利用した くない	分からな い	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者 層 (再掲)
障害種別	全体	(N=585)	2.6	1.4	0.7	0.2	10.3	25.6	33.5	25.8	3.9	11.1
	身体障害者	(n=76)	5.3	2.6	0.0	0.0	9.2	25.0	42.1	15.8	7.9	9.2
	知的障害者	(n=394)	2.5	1.5	1.0	0.3	12.4	22.1	32.0	28.2	4.1	13.7
	精神障害者	(n=39)	0.0	0.0	0.0	0.0	5.1	41.0	23.1	30.8	0.0	5.1
	難病患者	(n=53)	1.9	0.0	0.0	0.0	0.0	34.0	43.4	20.8	1.9	0.0

(2) 同行援護

			(%)									
			希望通り 利用でき ている	利用して いるが希 望通りで はない	利用した いが事業 所に空き がない	利用した い事業所 がない	今後、利 用したい	利用した くない	分からな い	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者 層 (再掲)
障害種別	全体	(N=585)	0.0	0.0	0.2	0.3	4.3	27.5	36.6	31.1	0.0	4.8
	身体障害者	(n=76)	0.0	0.0	0.0	0.0	5.3	25.0	50.0	19.7	0.0	5.3
	知的障害者	(n=394)	0.0	0.0	0.3	0.5	4.3	24.6	35.0	35.3	0.0	5.1
	精神障害者	(n=39)	0.0	0.0	0.0	0.0	7.7	43.6	20.5	28.2	0.0	7.7
	難病患者	(n=53)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	35.8	43.4	20.8	0.0	0.0

(3) 行動援護

			(%)									
			希望通り 利用でき ている	利用して いるが希 望通りで はない	利用した いが事業 所に空き がない	利用した い事業所 がない	今後、利 用したい	利用した くない	分からな い	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者 層 (再掲)
	全体	(N=585)	0.7	0.9	1.9	0.9	22.2	19.3	29.9	24.3	1.5	25.0
障害種別	身体障害者	(n=76)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	51.3	23.7	0.0	0.0
	知的障害者	(n=394)	1.0	1.0	2.3	1.3	31.7	14.2	23.6	24.9	2.0	35.3
	精神障害者	(n=39)	0.0	0.0	5.1	0.0	10.3	25.6	33.3	25.6	0.0	15.4
	難病患者	(n=53)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	35.8	43.4	20.8	0.0	0.0

(4) 短期入所(ショートステイ)

(%)												
			希望通り 利用でき ている	利用して いるが希 望通りで はない	利用した いが事業 所に空き がない	利用した い事業所 がない	今後、利 用したい	利用した くない	分からな い	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者 層 (再掲)
	全体	(N=585)	2.1	3.2	6.2	1.5	22.9	19.5	22.6	22.1	5.3	30.6
障害種別	身体障害者	(n=76)	0.0	5.3	5.3	0.0	13.2	23.7	38.2	14.5	5.3	18.4
	知的障害者	(n=394)	3.0	3.6	7.9	2.3	29.4	14.0	16.8	23.1	6.6	39.6
	精神障害者	(n=39)	0.0	0.0	2.6	0.0	7.7	33.3	28.2	28.2	0.0	10.3
	難病患者	(n=53)	0.0	0.0	0.0	0.0	1.9	35.8	39.6	22.6	0.0	1.9

(5) 児童発達支援

(%)												
			希望通り 利用でき ている	利用して いるが希 望通りで はない	利用した いが事業 所に空き がない	利用した い事業所 がない	今後、利 用したい	利用した くない	分からな い	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者 層 (再掲)
障害種別	全体	(N=585)	13.2	4.3	2.4	1.5	9.2	16.4	25.1	27.9	17.4	13.2
	身体障害者	(n=76)	5.3	6.6	0.0	2.6	7.9	21.1	35.5	21.1	11.8	10.5
	知的障害者	(n=394)	16.0	3.8	2.8	1.5	10.4	12.9	22.1	30.5	19.8	14.7
	精神障害者	(n=39)	10.3	5.1	7.7	2.6	5.1	17.9	20.5	30.8	15.4	15.4
	難病患者	(n=53)	9.4	3.8	0.0	0.0	5.7	28.3	35.8	17.0	13.2	5.7

(6) 放課後等デイサービス

(%)												
			希望通り 利用でき ている	利用して いるが希 望通りで はない	利用した いが事業 所に空き がない	利用した い事業所 がない	今後、利 用したい	利用した くない	分からな い	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者 層 (再掲)
障害種別	全体	(N=585)	32.8	13.7	6.0	1.5	10.8	10.4	13.0	11.8	46.5	18.3
	身体障害者	(n=76)	17.1	7.9	5.3	1.3	11.8	15.8	27.6	13.2	25.0	18.4
	知的障害者	(n=394)	39.8	16.5	6.9	1.3	11.4	6.1	7.1	10.9	56.3	19.5
	精神障害者	(n=39)	33.3	10.3	2.6	7.7	5.1	12.8	10.3	17.9	43.6	15.4
	難病患者	(n=53)	13.2	5.7	3.8	0.0	9.4	22.6	35.8	9.4	18.9	13.2

(7) 保育所等訪問支援

(%)												
			希望通り 利用でき ている	利用して いるが希 望通りで はない	利用した いが事業 所に空き がない	利用した い事業所 がない	今後、利 用したい	利用した くない	分からな い	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者 層 (再掲)
障害種別	全体	(N=585)	2.6	0.9	1.7	0.7	12.5	18.3	35.7	27.7	3.4	14.9
	身体障害者	(n=76)	2.6	0.0	0.0	0.0	18.4	22.4	35.5	21.1	2.6	18.4
	知的障害者	(n=394)	3.0	0.8	2.0	0.8	11.2	15.7	36.0	30.5	3.8	14.0
	精神障害者	(n=39)	0.0	2.6	2.6	2.6	15.4	20.5	28.2	28.2	2.6	20.5
	難病患者	(n=53)	1.9	1.9	0.0	0.0	13.2	26.4	39.6	17.0	3.8	13.2

第2部 調査結果の概要

(8) 居宅訪問型児童発達支援

											(%)	
		希望通り 利用でき ている	利用して いるが希 望通りで はない	利用した いが事業 所に空き がない	利用した い事業所 がない	今後、利 用したい	利用した くない	分からな い	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者 層 (再掲)	
全体		(N=585)	0.2	0.2	0.7	0.3	3.6	27.0	37.6	30.4	0.3	4.6
障害種別	身体障害者	(n=76)	0.0	0.0	0.0	0.0	3.9	28.9	44.7	22.4	0.0	3.9
	知的障害者	(n=394)	0.3	0.3	0.8	0.5	3.6	23.6	37.3	33.8	0.5	4.8
	精神障害者	(n=39)	0.0	0.0	2.6	0.0	0.0	43.6	23.1	30.8	0.0	2.6
	難病患者	(n=53)	0.0	0.0	0.0	0.0	5.7	34.0	39.6	20.8	0.0	5.7

(9) 障害児相談支援

											(%)	
		希望通り 利用でき ている	利用して いるが希 望通りで はない	利用した いが事業 所に空き がない	利用した い事業所 がない	今後、利 用したい	利用した くない	分からな い	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者 層 (再掲)	
	全体	(N=585)	20.2	3.4	4.6	1.4	14.7	10.9	25.6	19.1	23.6	20.7
障害種別	身体障害者	(n=76)	15.8	0.0	2.6	0.0	13.2	15.8	36.8	15.8	15.8	15.8
	知的障害者	(n=394)	25.1	4.8	5.3	1.3	16.0	6.9	21.3	19.3	29.9	22.6
	精神障害者	(n=39)	10.3	0.0	10.3	7.7	15.4	15.4	20.5	20.5	10.3	33.3
	難病患者	(n=53)	1.9	1.9	0.0	0.0	9.4	20.8	45.3	20.8	3.8	9.4

(10) 移動支援

(10)移動支援

											(%)	
			希望通り 利用でき ている	利用して いるが希 望通りで はない	利用した いが事業 所に空き がない	利用した い事業所 がない	今後、利 用したい	利用した くない	分からな い	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者 層 (再掲)
障害種別	全体	(N=585)	3.1	2.4	4.3	0.7	27.5	16.1	25.5	20.5	5.5	32.5
	身体障害者	(n=76)	1.3	0.0	0.0	0.0	21.1	19.7	46.1	11.8	1.3	21.1
	知的障害者	(n=394)	4.1	3.6	5.8	1.0	33.2	10.4	20.1	21.8	7.6	40.1
	精神障害者	(n=39)	0.0	0.0	5.1	0.0	17.9	33.3	20.5	23.1	0.0	23.1
	難病患者	(n=53)	0.0	0.0	0.0	0.0	9.4	32.1	37.7	20.8	0.0	9.4

(11) 日中一時支援

											(%)	
			希望通り 利用でき ている	利用して いるが希 望通りで はない	利用した いが事業 所に空き がない	利用した い事業所 がない	今後、利 用したい	利用した くない	分からな い	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者 層 (再掲)
障害種別	全体	(N=585)	1.9	1.2	3.4	1.5	29.6	15.2	25.0	22.2	3.1	34.5
	身体障害者	(n=76)	2.6	2.6	1.3	0.0	19.7	15.8	40.8	17.1	5.3	21.1
	知的障害者	(n=394)	2.3	1.3	4.6	2.3	35.8	10.9	19.5	23.4	3.6	42.6
	精神障害者	(n=39)	0.0	0.0	2.6	0.0	20.5	28.2	25.6	23.1	0.0	23.1
	難病患者	(n=53)	0.0	0.0	0.0	0.0	9.4	30.2	39.6	20.8	0.0	9.4

(12) 意思疎通支援

											(%)	
		希望通り 利用でき ている	利用して いるが希 望通りで はない	利用した いが事業 所に空き がない	利用した い事業所 がない	今後、利 用したい	利用した くない	分からな い	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者 層 (再掲)	
障害種別	全体	(N=585)	0.2	0.0	0.0	0.0	2.4	26.8	38.8	31.8	0.2	2.4
	身体障害者	(n=76)	0.0	0.0	0.0	0.0	5.3	21.1	51.3	22.4	0.0	5.3
	知的障害者	(n=394)	0.3	0.0	0.0	0.0	1.5	24.9	37.8	35.5	0.3	1.5
	精神障害者	(n=39)	0.0	0.0	0.0	0.0	2.6	43.6	23.1	30.8	0.0	2.6
	難病患者	(n=53)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	34.0	45.3	20.8	0.0	0.0

(13) 補装具費の支給等

											(%)	
		希望通り 利用でき ている	利用して いるが希 望通りで はない	利用した いが事業 所に空き がない	利用した い事業所 がない	今後、利 用したい	利用した くない	分からな い	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者 層 (再掲)	
全体		(N=585)	8.5	5.6	0.0	0.0	6.2	21.4	30.6	27.7	14.2	6.2
障害種別	身体障害者	(n=76)	23.7	14.5	0.0	0.0	15.8	7.9	23.7	14.5	38.2	15.8
	知的障害者	(n=394)	7.9	5.6	0.0	0.0	5.1	20.1	31.0	30.5	13.5	5.1
	精神障害者	(n=39)	0.0	0.0	0.0	0.0	5.1	35.9	25.6	33.3	0.0	5.1
	難病患者	(n=53)	1.9	0.0	0.0	0.0	1.9	34.0	41.5	20.8	1.9	1.9

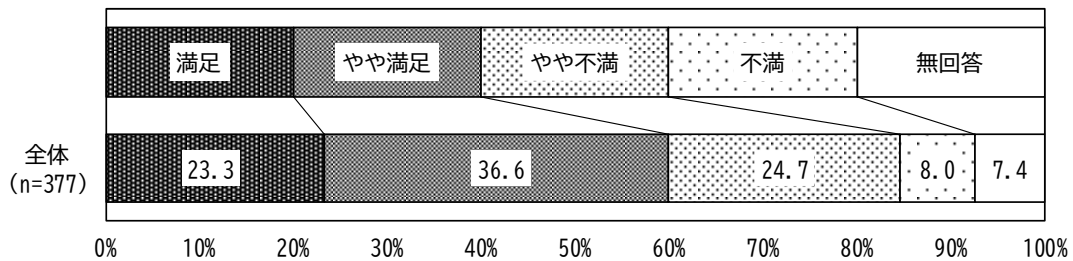
(14) 子ども発達支援センターはばたき

(%)												
		希望通り 利用でき ている	利用して いるが希 望通りで はない	利用した いが事業 所に空き がない	利用した い事業所 がない	今後、利 用したい	利用した くない	分からな い	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者 層 (再掲)	
障害種別	全体	(N=585)	6.0	0.9	1.0	0.3	6.2	21.5	32.6	31.5	6.8	7.5
	身体障害者	(n=76)	3.9	0.0	1.3	1.3	6.6	19.7	44.7	22.4	3.9	9.2
	知的障害者	(n=394)	7.1	1.3	1.0	0.3	6.1	19.5	29.7	35.0	8.4	7.4
	精神障害者	(n=39)	2.6	0.0	2.6	0.0	12.8	20.5	30.8	30.8	2.6	15.4
	難病患者	(n=53)	3.8	0.0	0.0	0.0	1.9	34.0	41.5	18.9	3.8	1.9

問6-1 問6の(1)～(14)で1つでも「1」、「2」と答えた方におたずねします。福祉サービスについて、満足していますか。(1つに○)。

- ・福祉サービスの満足度は、「満足」(23.3%)と「やや満足」(36.6%)をあわせた＜満足層＞は、59.9%である。「やや不満」(24.7%)と「不満」(8.0%)をあわせた＜不満層＞は32.7%である。

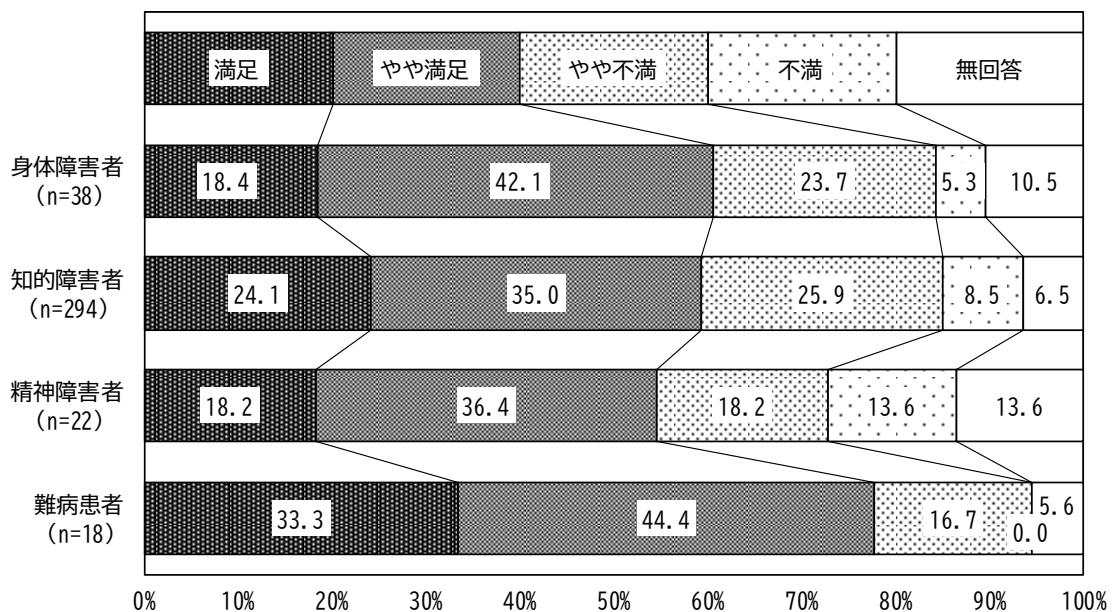
図表 福祉サービスの満足度(全体)
＜福祉サービスを利用している人＞



【障害等の種類別】

- ・障害等の種類別でも、＜満足層＞(身体：60.5%、知的：59.1%、精神：54.6%、難病：77.7%)が＜不満層＞(身体：29.0%、知的：34.4%、精神：31.8%、難病：16.7%)を上回っている。
- ・難病患者者は、＜満足層＞(77.7%)と＜不満層＞(16.7%)の差が最も大きい。

図表 福祉サービスの満足度(障害等の種類別)
＜福祉サービスを利用している人＞



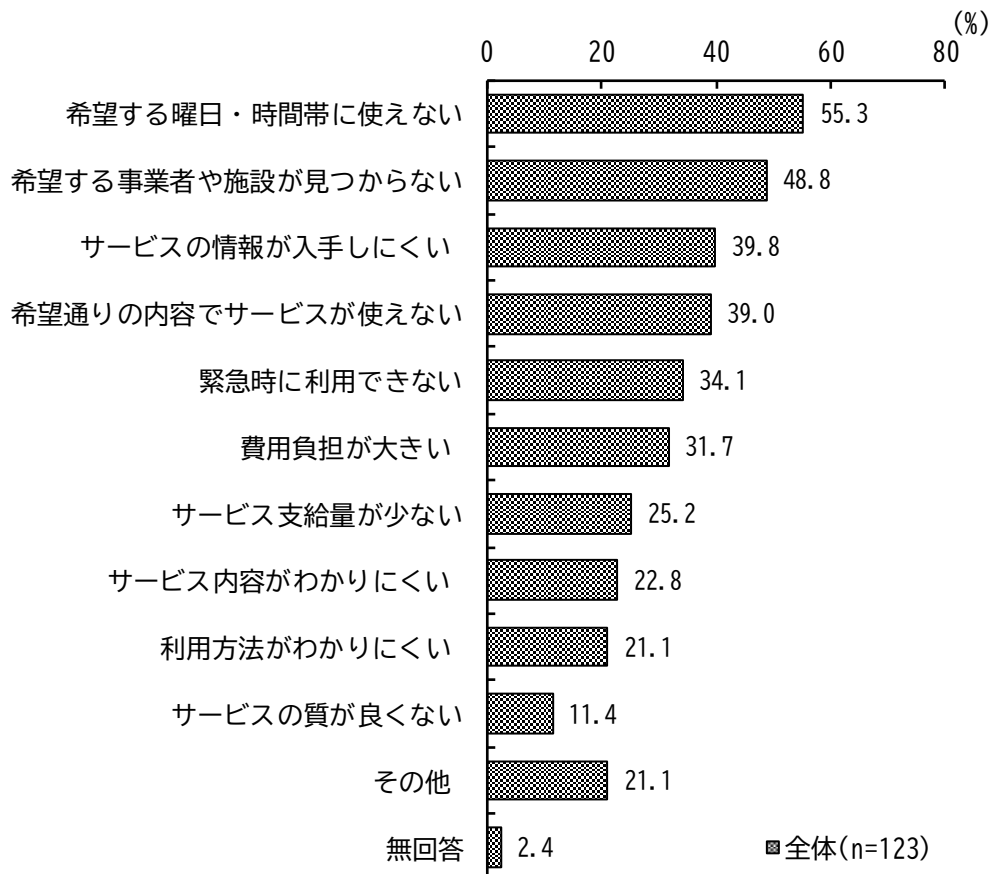
問6-2 問6-1で「3」「4」と答えた方におたずねします。

福祉サービスの不満な理由はどれですか。(いくつでも○)

- ・「希望する曜日・時間帯に使えない」(55.3%)が最も多く、「希望する事業者や施設が見つからない」(48.8%)、「サービスの情報が入手しにくい」(39.8%)、「希望通りの内容でサービスが使えない」(39.0%)が続いている。

図表 福祉サービスに不満な理由(全体：複数回答)

<サービスの利用にあたって不満を感じている人>

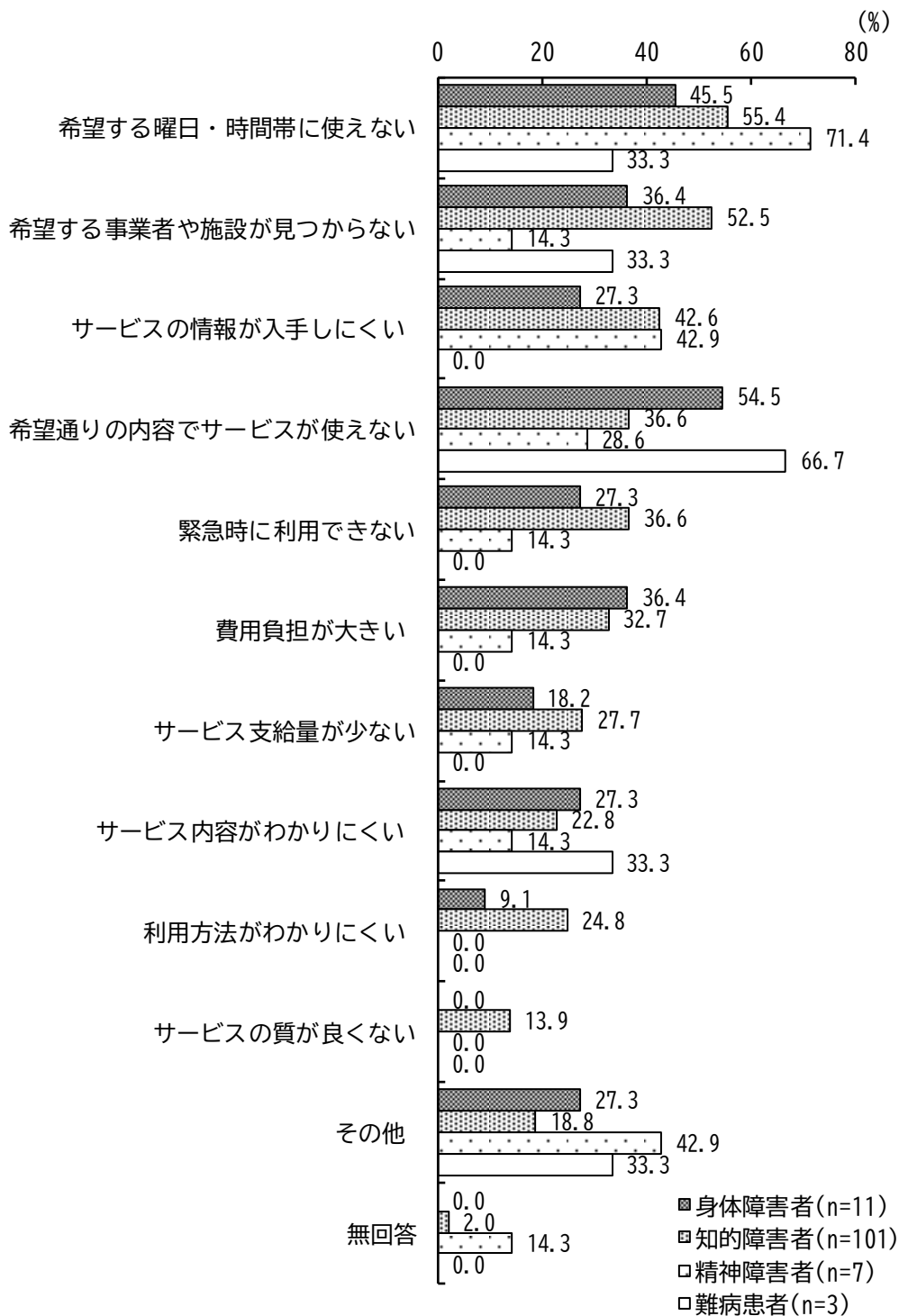


【障害等の種類別】

- ・身体障害者は、「希望通りの内容でサービスが使えない」(54.5%)が最も多い。
- ・知的障害者は、「希望する曜日・時間帯に使えない」(55.4%)が最も多い。
- ・精神障害者は、「希望する曜日・時間帯に使えない」(71.4%)が最も多い。
- ・難病患者は、回答者が3人しかいないが、「希望する曜日・時間帯に使えない」(2人、66.7%)が最も多い。

図表 福祉サービスに不満な理由(障害等の種類別：複数回答)

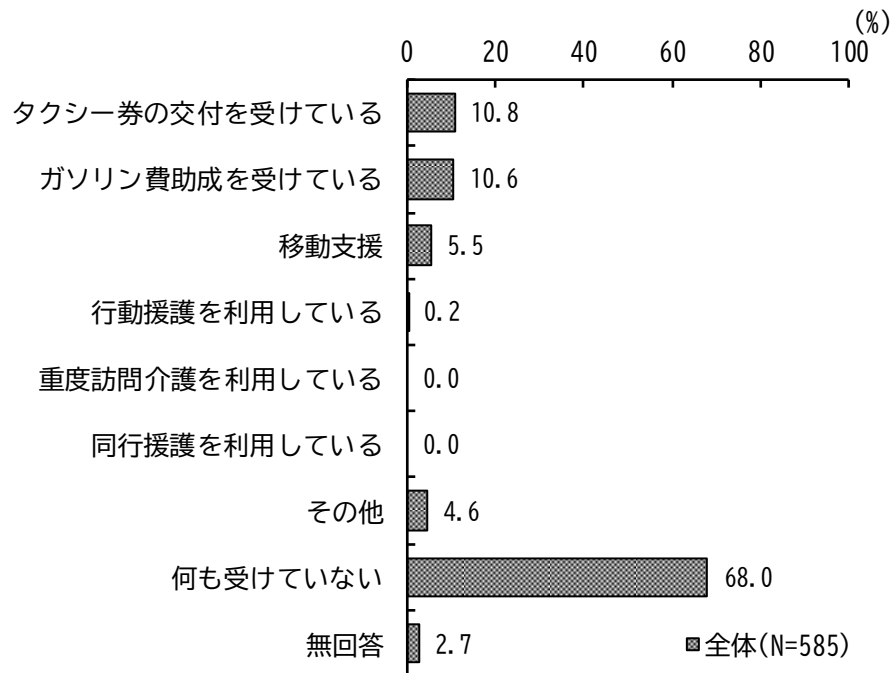
<サービスの利用にあたって不満を感じている人>



問7 あなたは、外出の際に何らかの制度を受けていますか。(いくつでも○)

- ・ 7割近い人が「何も受けていない」(68.0%)と回答しているが、それを除くと「タクシー券の交付を受けている」(10.8%)が最も多く、次いで「ガソリン費の助成を受けている」(10.6%)、「移動支援」(5.5%)が続いている。

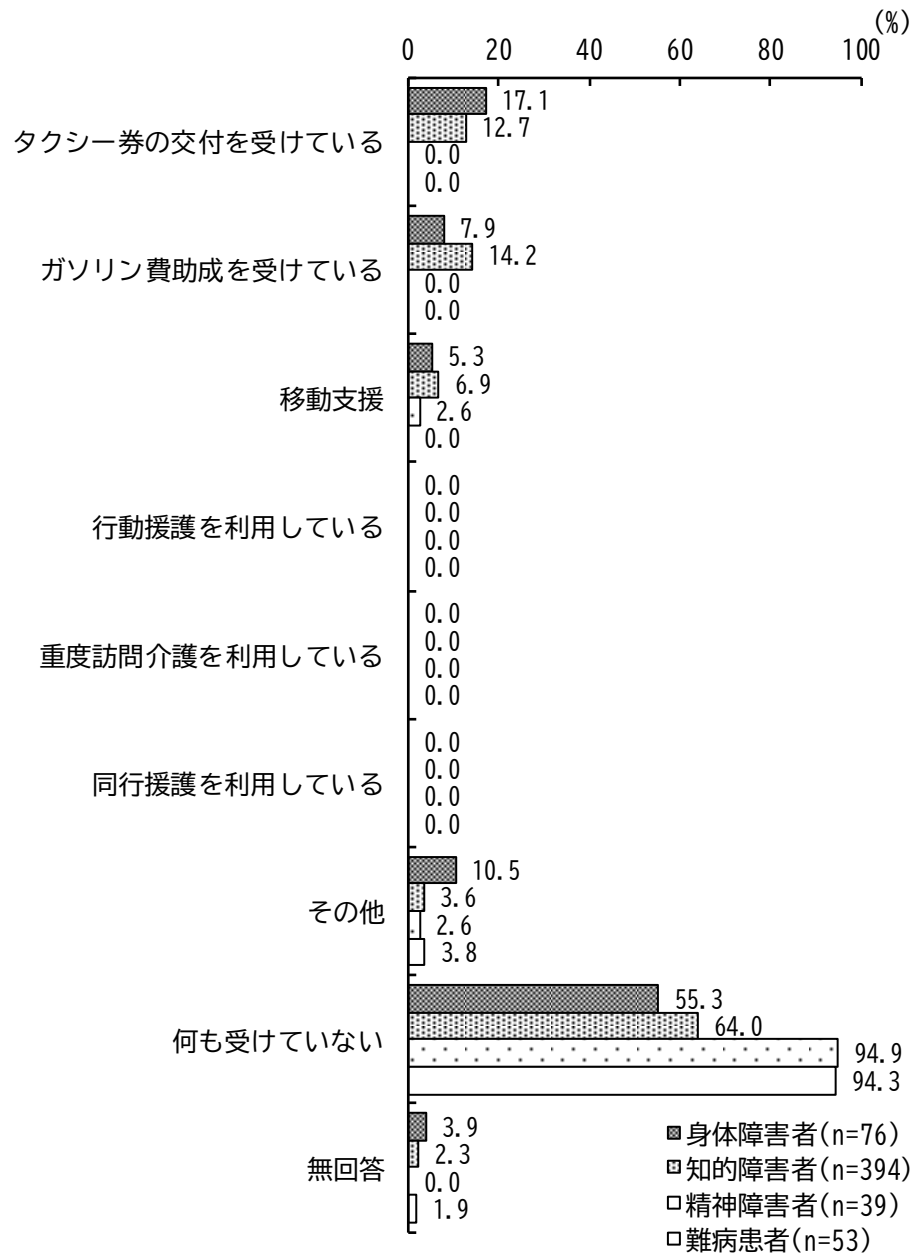
図表 外出の際に受けている制度(全体：複数回答)



【障害等の種類別】

- ・ 障害等の種類別でも、「何も受けていない」(身体：55.3%、知的：64.0%、精神：94.9%、難病：94.3%)が最も多くなっている。
- ・ 次いで多いのは、身体障害者は「タクシー券の交付」(17.1%)、知的障害者は「ガソリン費助成を受けている」(14.2%)、精神障害者は「移動支援」(2.6%)、難病患者は「その他」(3.8%)となっている。

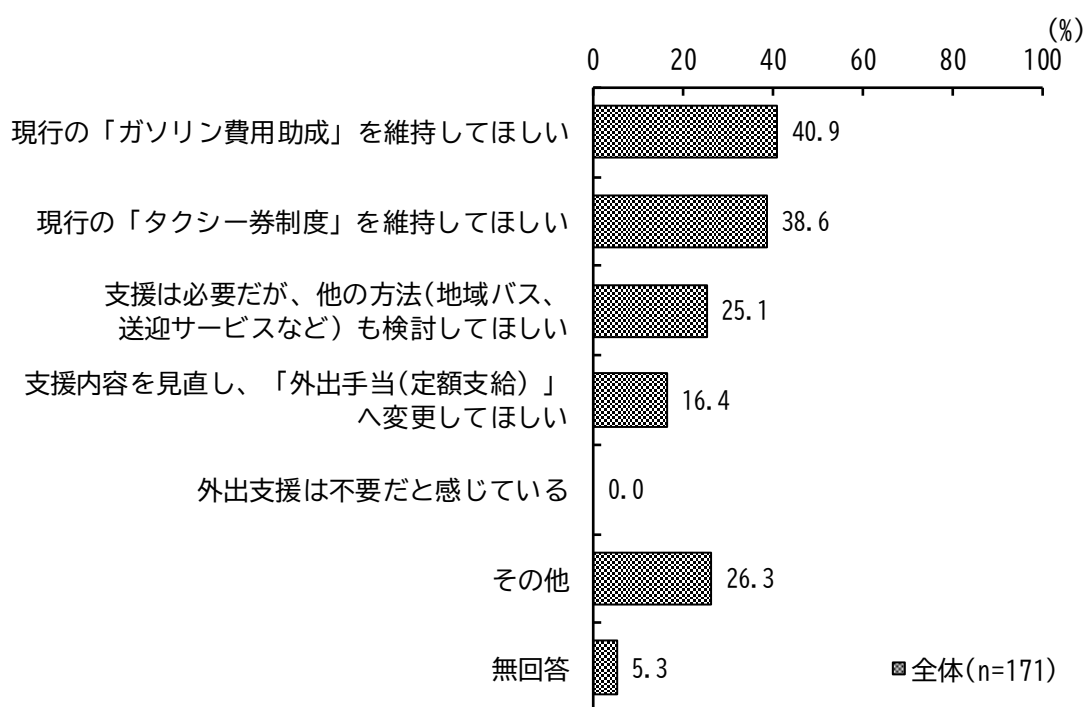
図表 外出の際に受けている制度(障害等の種類別：複数回答)



問8 問7で何らかのサービスを受けている方にお伺いします。現行の制度について感じていることを教えてください。(いくつでも○)

- ・「現行の『ガソリン費助成』を維持してほしい」(40.9%)が最も多く、次いで「現行の『タクシー券制度』を維持してほしい」(38.6%)、「支援は必要だが、他の方法(地域バス、送迎サービスなど)も検討してほしい」(25.1%)、「支援内容を見直し、『外出手当(定額支給)』へ変更してほしい」(16.4%)が続いている。

図表 現行制度について感じていること(全体：複数回答)
<サービスを受けている人>

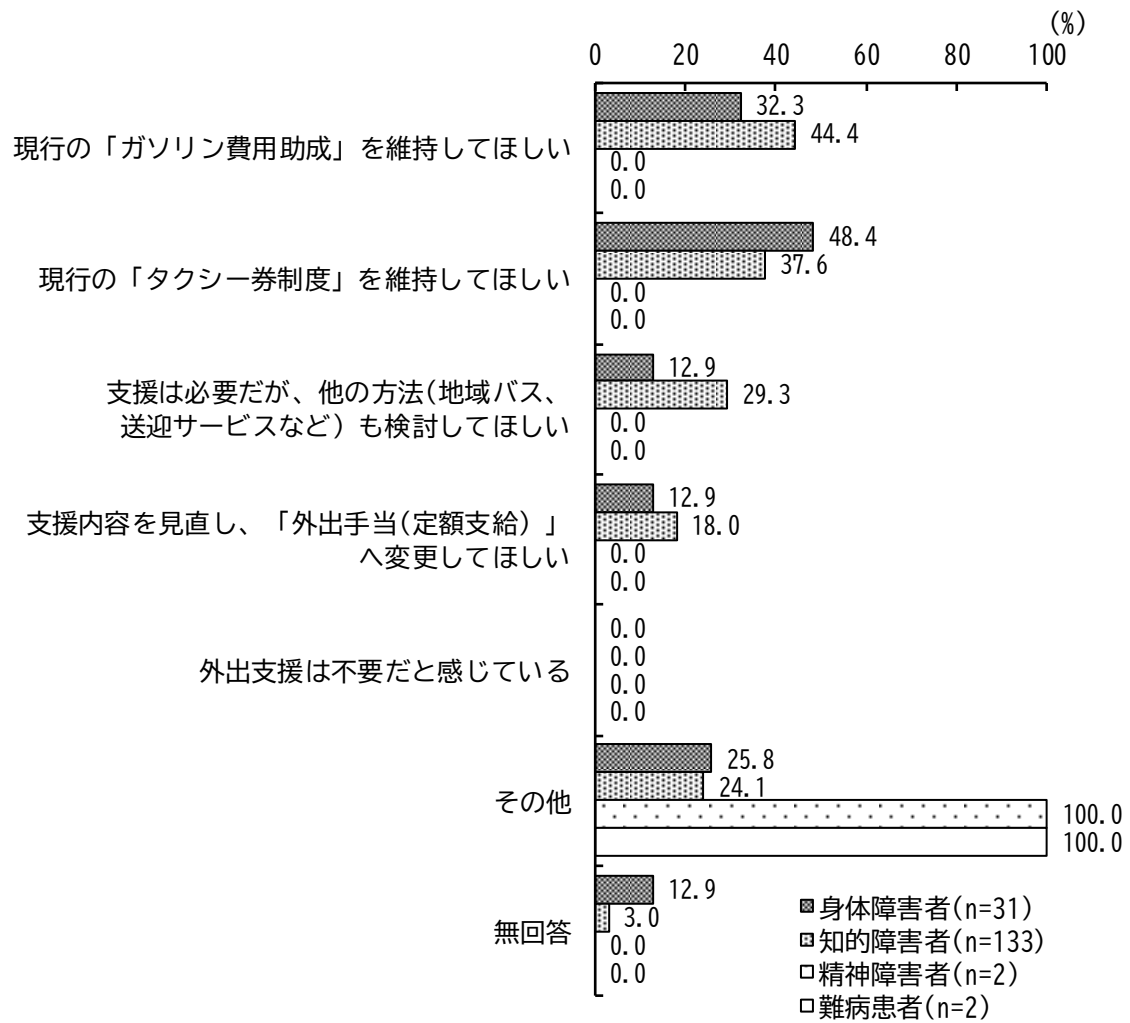


【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「現行の『タクシー券制度』を維持してほしい」(48.4%)が最も多く、「現行の『ガソリン費助成』を維持してほしい」(32.3%)、「その他」(25.8%)が続いている。
- ・知的障害者は「現行の『ガソリン費助成』を維持してほしい」(44.4%)が最も多く、「現行の『タクシー券制度』を維持してほしい」(37.6%)、「支援は必要だが、他の方法(地域バス、送迎サービスなど)も検討してほしい」(29.3%)が続いている。
- ・精神障害者と難病患者はそれぞれ回答者が2人しかおらず、いずれも「その他」(100.0%)と回答している。

図表 現行制度について感じていること(障害等の種類別：複数回答)

<サービスを受けている人>



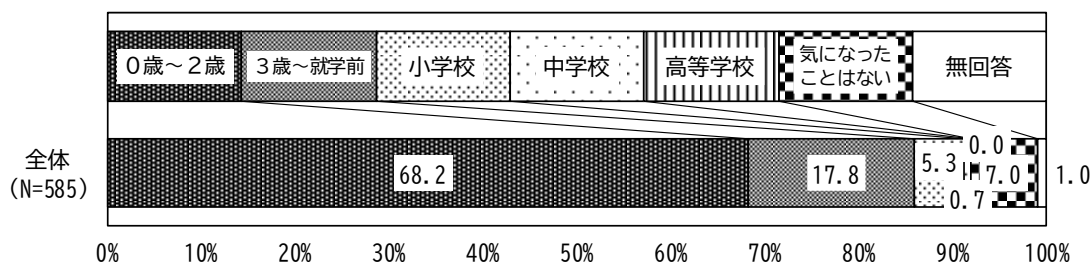
(7) 子どもの育ちや発達の状況について

問9 あなた(記入者)はお子さんの育ちや発達について、気になったことはありますか。

初めて気になった時期についてお答えください。(1つに○)

- ・「0歳～2歳」(68.2%)が最も多く、「3歳～就学前」(17.8%)が続いている。就学前が8割を超えている。

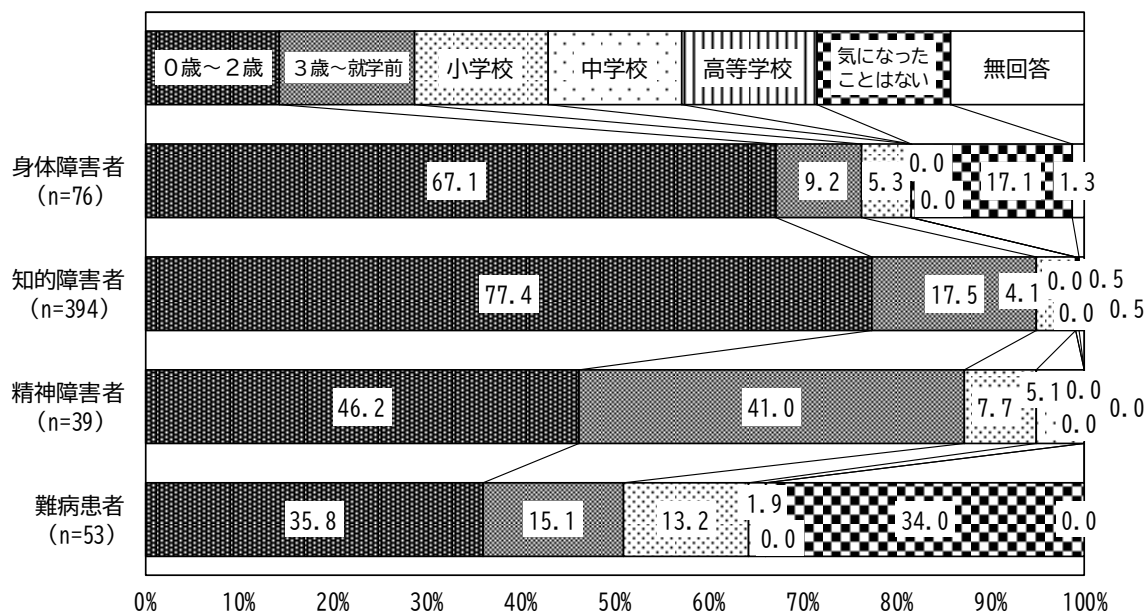
図表 子どもの育ちや発達について、初めて気になった時期(全体)



【障害等の種類別】

- ・障害等の種類別でも、「0歳～2歳」(身体：67.1%、知的：77.4%、精神：46.2%、難病：35.8%)が最も多い。
- ・精神障害者は、「3歳～就学前」(41.0%)も4割を超えている。

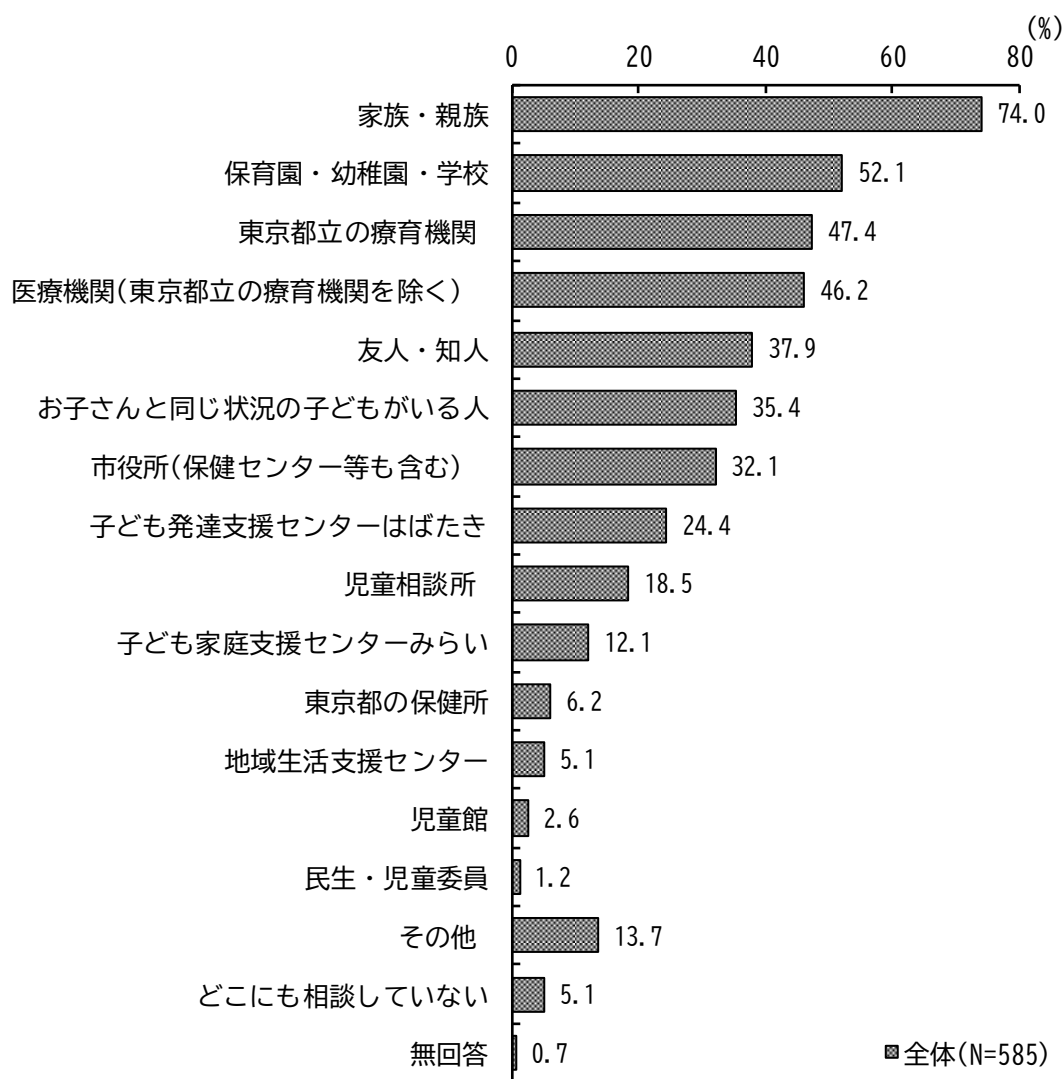
図表 子どもの育ちや発達について、初めて気になった時期(障害等の種類別)



問 10 あなた(記入者)はお子さんの育ちや発達について、次の人・相談機関等に相談したことはありますか。(いくつでも○)

- ・「どこにも相談していない」と「無回答」を除いた＜相談経験のある人＞は94.2%である。
- ・相談先は「家族・親族」(74.0%)が最も多く、次いで「保育園・幼稚園・学校」(52.1%)、「東京都立の療育機関」(47.2%)、「医療機関(東京都立の療育機関を除く)」(46.2%)が続いている。「友人・知人」(37.9%)、「お子さんと同じ状況の子どもがいる人」(35.4%)、「市役所(保健センター等も含む)」(32.1%)も3割を超えている。

図表 相談した人・相談機関等(全体：複数回答)



【障害等の種類別】

- ・ <相談経験のある人>は、身体障害者は88.2%、知的障害者は99.0%、精神障害者は100.0%、難病患者は75.5%である。
- ・ 相談先は、「家族・親族」（身体：68.4%、知的：77.9%、精神：84.6%、難病：62.3%）が最も多い。
- ・ 相談先として2番目に多いのは、身体障害者は「医療機関(東京都立の療育機関を除く)」（57.9%）、知的障害者は「保育園・幼稚園・学校」（55.3%）、精神障害者は「保育園・幼稚園・学校」（79.5%）、難病患者は「医療機関(東京都立の療育機関を除く)」（39.6%）となっている。

図表 相談した人・相談機関等(全体、障害等の種類別：複数回答)

			家族・親族	保育園・幼稚園・学校	東京都立の療育機関	医療機関（東京都立の療育機関を除く）	友人・知人	お子さんと同じ状況の子どもがいる人	市役所（保健センター等も含む）	子ども発達支援センターはばたき	児童相談所
障害種別	全体	(N=585)	74.0	52.1	47.4	46.2	37.9	35.4	32.1	24.4	18.5
	身体障害者	(n=76)	68.4	38.2	46.1	57.9	35.5	22.4	22.4	9.2	1.3
	知的障害者	(n=394)	77.9	55.3	52.0	44.7	37.8	40.9	35.3	28.9	23.6
	精神障害者	(n=39)	84.6	79.5	51.3	56.4	66.7	41.0	41.0	38.5	28.2
	難病患者	(n=53)	62.3	37.7	20.8	39.6	28.3	18.9	22.6	7.5	1.9

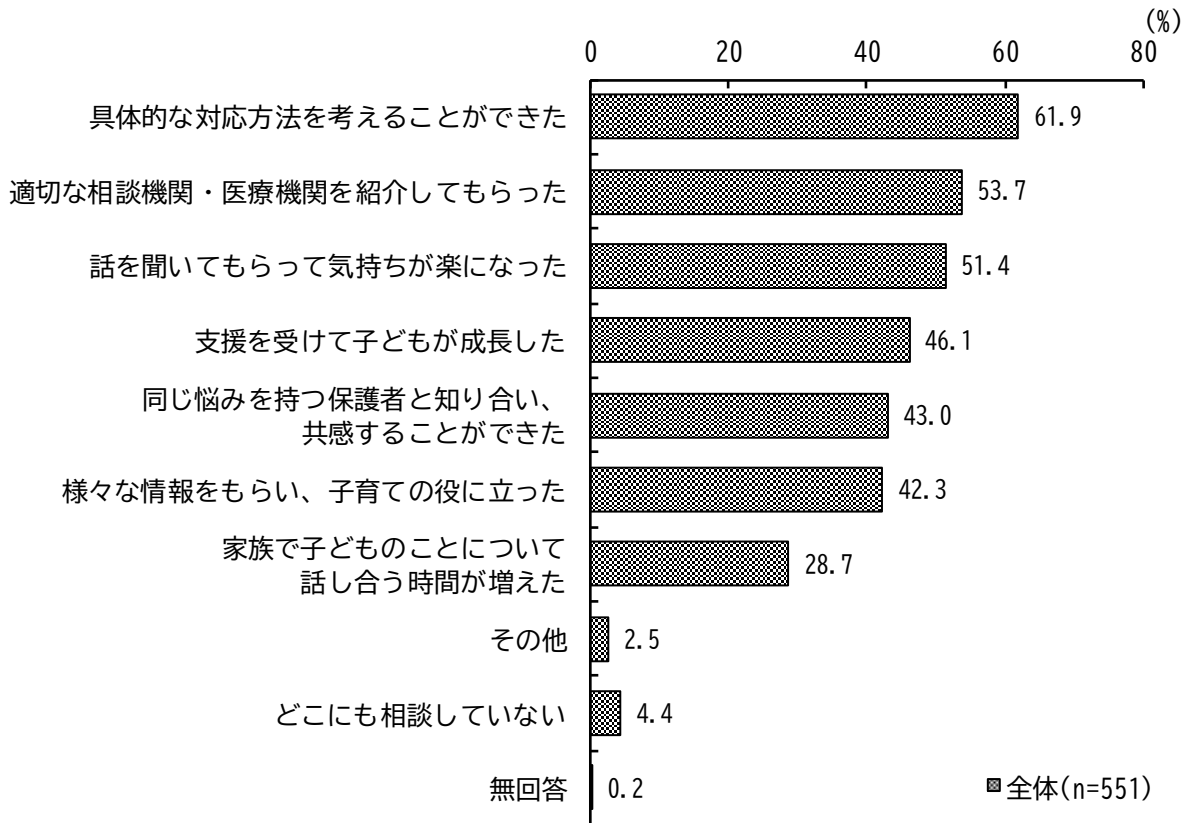
			子ども家庭支援センターみらい	東京都の保健所	地域生活支援センター	児童館	民生・児童委員	その他	どこにも相談していない	無回答	相談経験のある人（再掲）
障害種別	全体	(N=585)	12.1	6.2	5.1	2.6	1.2	13.7	5.1	0.7	94.2
	身体障害者	(n=76)	9.2	6.6	1.3	3.9	0.0	10.5	11.8	0.0	88.2
	知的障害者	(n=394)	12.7	6.1	5.8	3.0	1.0	14.0	0.8	0.3	99.0
	精神障害者	(n=39)	20.5	10.3	10.3	0.0	2.6	23.1	0.0	0.0	100.0
	難病患者	(n=53)	7.5	5.7	3.8	0.0	3.8	13.2	24.5	0.0	75.5

問10-1 問10で「1」～「15」のいずれかを選んだ方におたずねします。相談をしたことで、どのような効果がありましたか。(いくつでも○)

- ・「具体的な対応方法を考えることができた」(61.9%)が最も多く、次いで「適切な相談機関・医療機関を紹介してもらった」(53.7%)、「話を聞いてもらって気持ちが楽になった」(51.4%)が続いている。
- ・「支援を受けて子どもが成長した」(46.1%)、「同じ悩みを持つ保護者と知り合い、共感することができた」(43.0%)、「様々な情報をもらい、子育ての役に立った」(42.3%)も4割を超えている。

図表 相談の効果(全体：複数回答)

<相談した経験のある人>

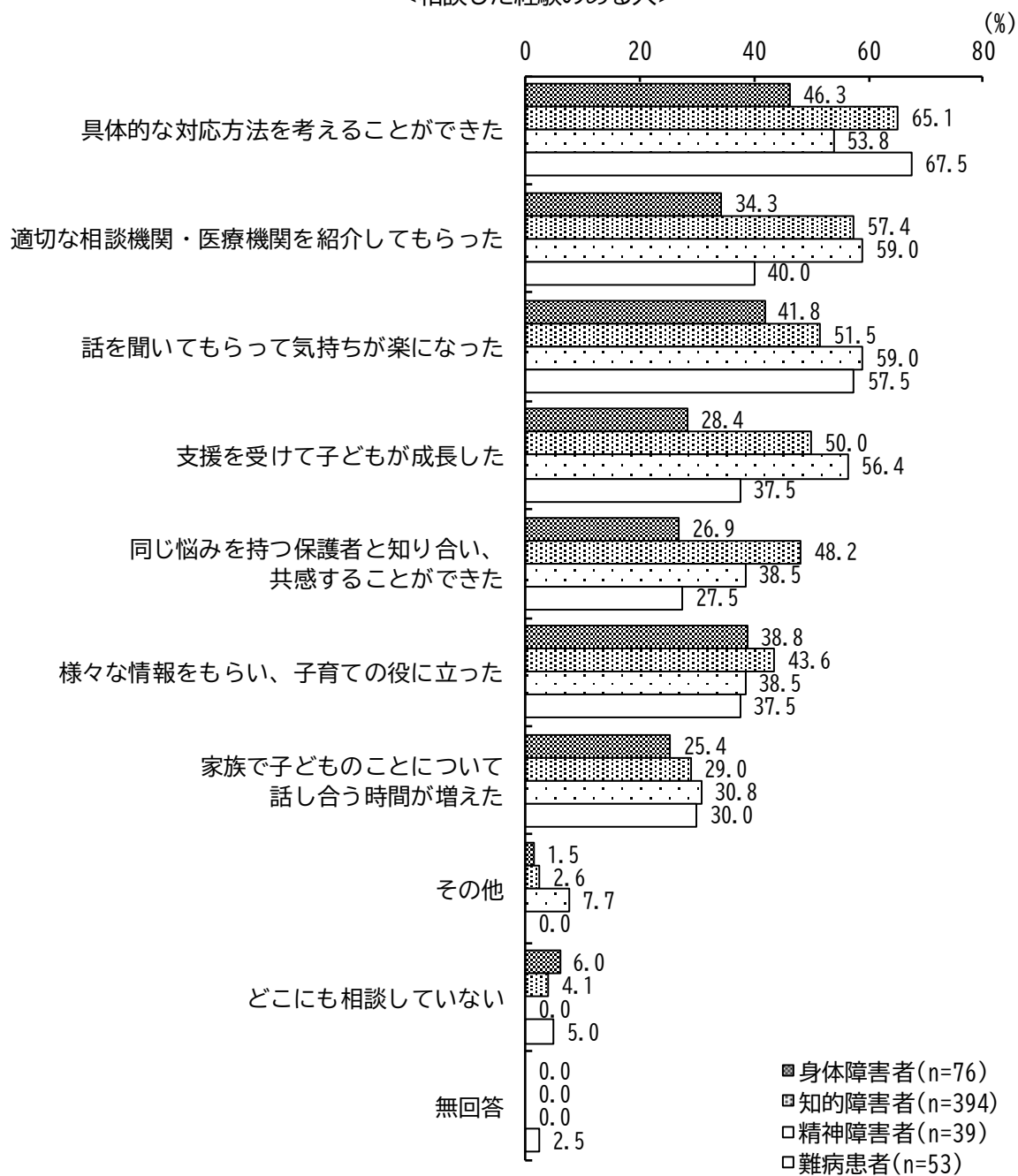


【障害等の種類別】

- ・身体障害者、知的障害者、難病患者は「具体的な対応方法を考えることができた」(身体：46.3%、知的：65.1%、難病：67.5%)が最も多い。
- ・精神障害者は「適切な相談機関・医療機関を紹介してもらった」(59.0%)と「話を聞いてもらって気持ちが楽になった」(59.0%)が同率で最も多い。
- ・2番目に多いのは、身体障害者は「話を聞いてもらって気持ちが楽になった」(41.8%)、知的障害者は「適切な相談機関・医療機関を紹介してもらった」(57.4%)、精神障害者は「具体的な方法を考えることができた」(53.8%)、難病患者は「話を聞いてもらって気持ちが楽になった」(57.5%)となっている。

図表 相談の効果(障害等の種類別：複数回答)

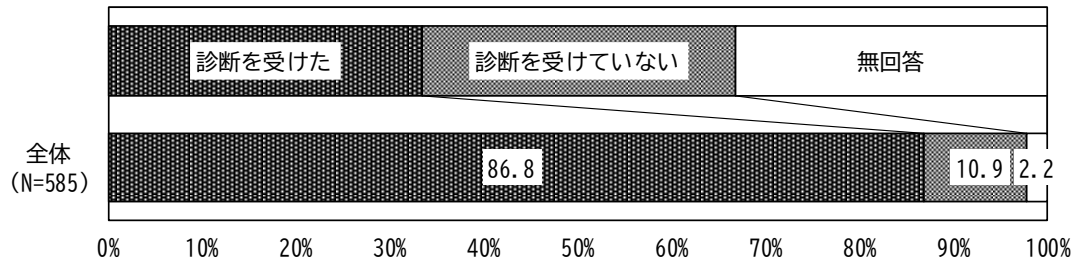
<相談した経験のある人>



問11 あなた(記入者)はお子さんの育ちや発達について、医療機関で診断を受けましたか。(1つに○)

- ・「診断を受けた」は86.8%、「診断を受けていない」は10.9%である。

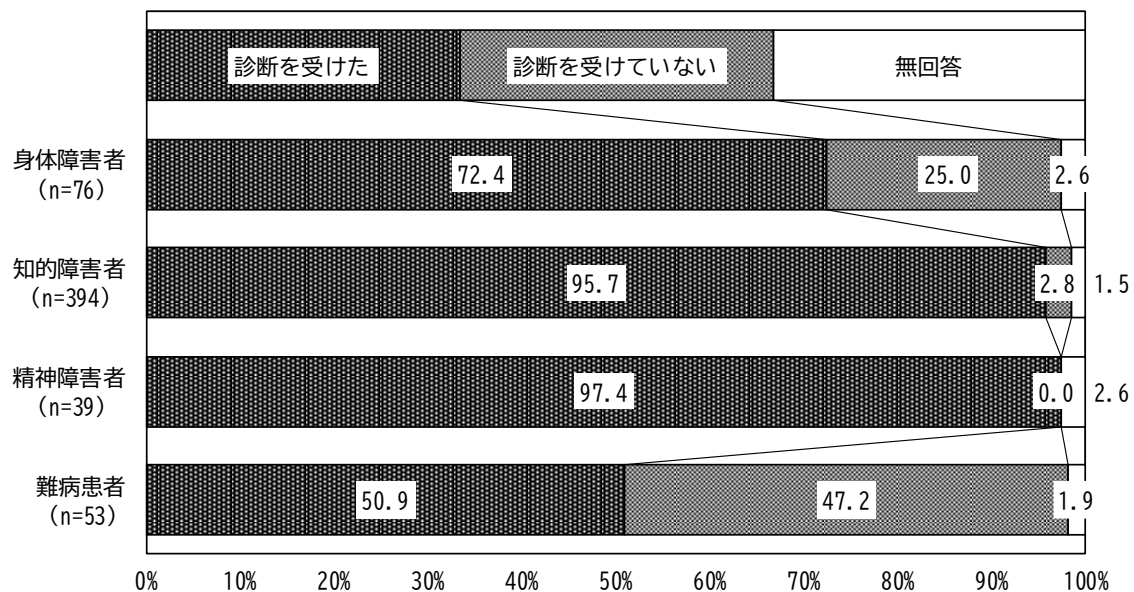
図表 育ちや発達に関する診断の有無(全体)



【障害等の種類別】

- ・「診断を受けた」は、身体障害者は72.4%、知的障害者は95.7%、精神障害者は97.4%、難病患者は50.9%となっている。

図表 育ちや発達に関する診断の有無(障害等の種類別)

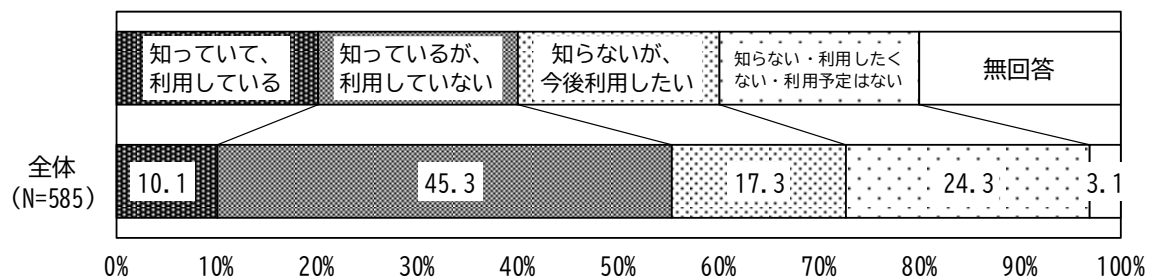


問 12 あなた(記入者)は、障害等のある人や育ちや発達が気になる子に関する府中市内の次の相談機関等を知っていますか。((1) ~ (5) について、それぞれ1つに○)

(1) 地域生活支援センター (み～な、あけぼの、プラザ、ふらっと)

- ・「知っているが、利用していない」(45.3%)が最も多い。「知っていて、利用している」(10.1%)と「知っているが、利用していない」をあわせた＜知っている＞は 55.4%である。「知らないが、今後利用したい」は 17.3%である。

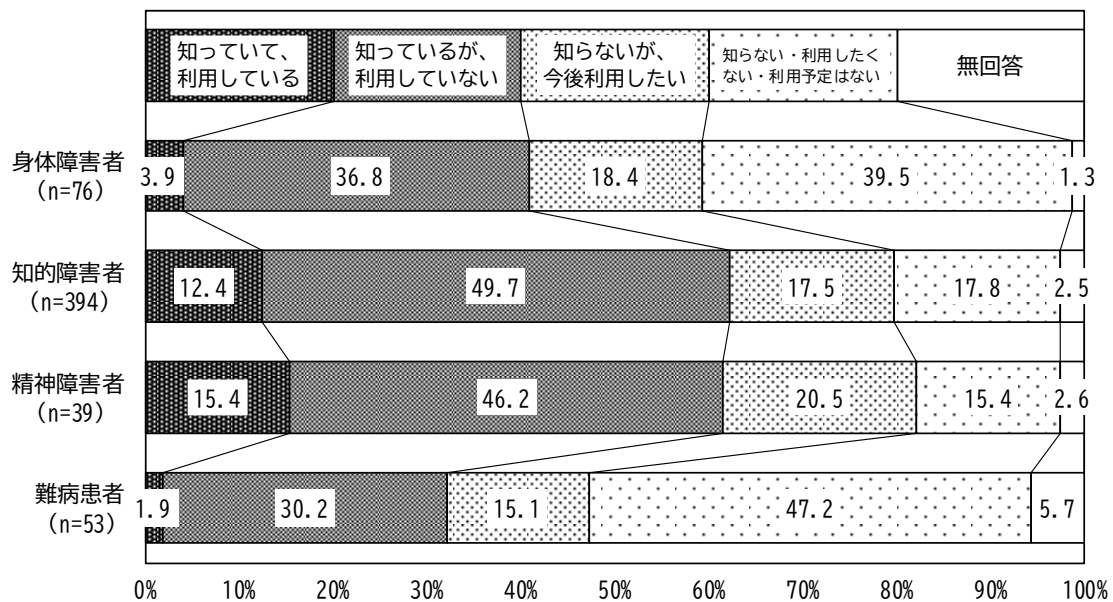
図表 市内の相談機関等の認知度・利用状況：地域生活支援センター
(み～な、あけぼの、プラザ、ふらっと) (全体)



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「知っていて、利用している」(3.9%)と「知っているが、利用していない」(36.8%)をあわせた<知っている>は40.7%である。「知らないが、今後利用したい」は18.4%である。
- ・知的障害者は「知っていて、利用している」(12.4%)と「知っているが、利用していない」(49.7%)をあわせた<知っている>は62.1%である。「知らないが、今後利用したい」は17.5%である。
- ・精神障害者は「知っていて、利用している」(15.4%)と「知っているが、利用していない」(46.2%)をあわせた<知っている>は61.6%である。「知らないが、今後利用したい」は20.5%である。
- ・難病患者は「知っていて、利用している」(1.9%)と「知っているが、利用していない」(30.2%)をあわせた<知っている>は32.1%である。「知らないが、今後利用したい」は15.1%である。

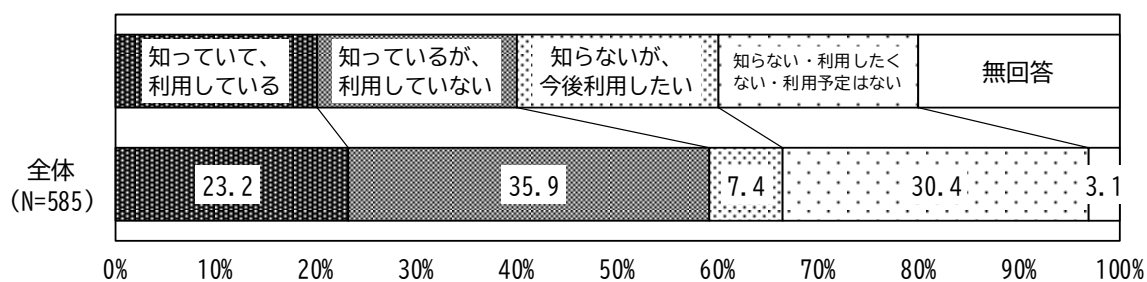
図表 市内の相談機関等の認知度・利用状況：地域生活支援センター
(み～な、あけぼの、プラザ、ふらっと) (障害等の種類別)



(2) 子ども発達支援センター はばたき

- ・「知っているが、利用していない」(35.9%)が最も多い。「知っているが、利用していない」と「知っていて、利用している」(23.2%)をあわせた<知っている>は 59.1%である。「知らないが、今後利用したい」は 7.4%である。

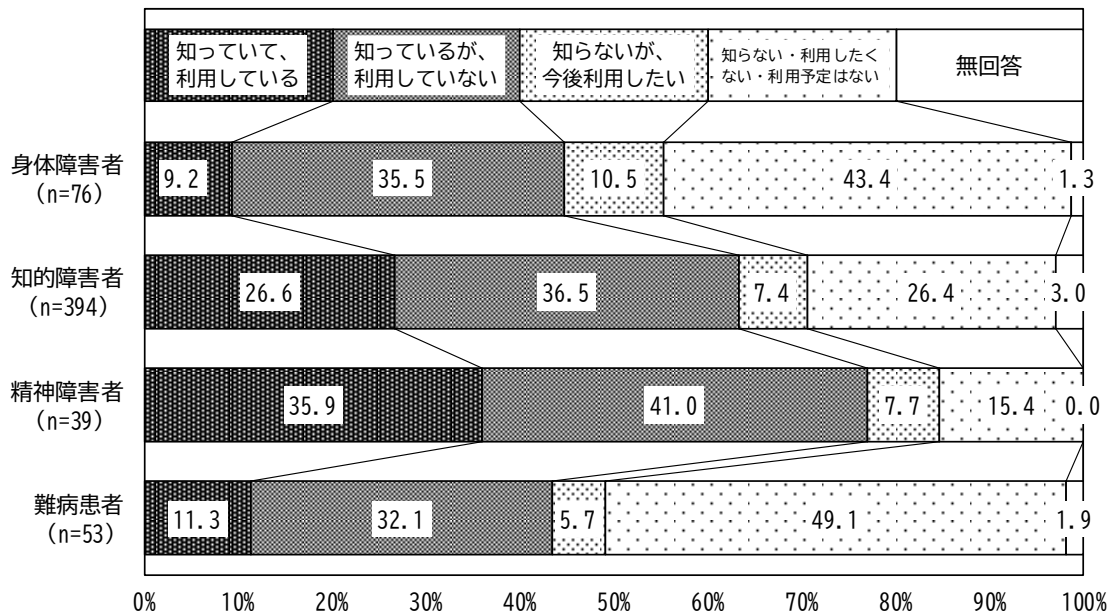
図表 市内の相談機関等の認知度・利用状況：子ども発達支援センター はばたき（全体）



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「知っていて、利用している」(9.2%)と「知っているが、利用していない」(35.5%)をあわせた<知っている>は44.7%である。「知らないが、今後利用したい」は10.5%である。
- ・知的障害者は「知っていて、利用している」(26.6%)と「知っているが、利用していない」(36.5%)をあわせた<知っている>は63.1%である。「知らないが、今後利用したい」は7.4%である。
- ・精神障害者は「知っていて、利用している」(35.9%)と「知っているが、利用していない」(41.0%)をあわせた<知っている>は76.9%である。「知らないが、今後利用したい」は7.7%である。
- ・難病患者は「知っていて、利用している」(11.3%)と「知っているが、利用していない」(32.1%)をあわせた<知っている>は43.4%である。「知らないが、今後利用したい」は5.7%である。

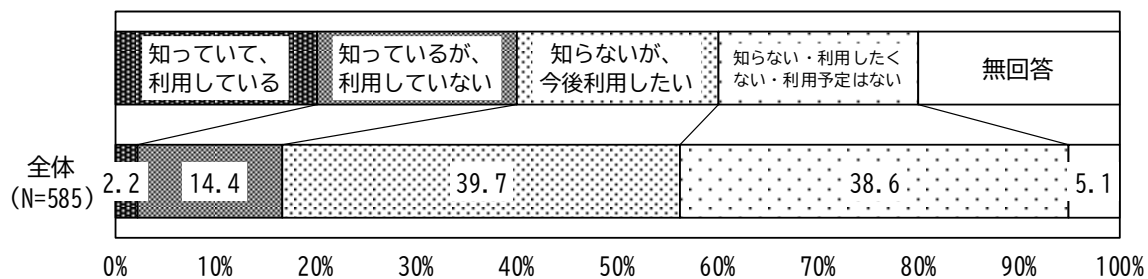
図表 市内の相談機関等の認知度・利用状況：子ども発達支援センター はばたき
(障害等の種類別)



(3) 身体障害者相談員・知的障害者相談員

- ・「知っていて、利用している」(2.2%)と「知っているが、利用していない」(14.4%)をあわせたと知っている>は16.6%である。「知らないが、今後利用したい」は39.7%である。

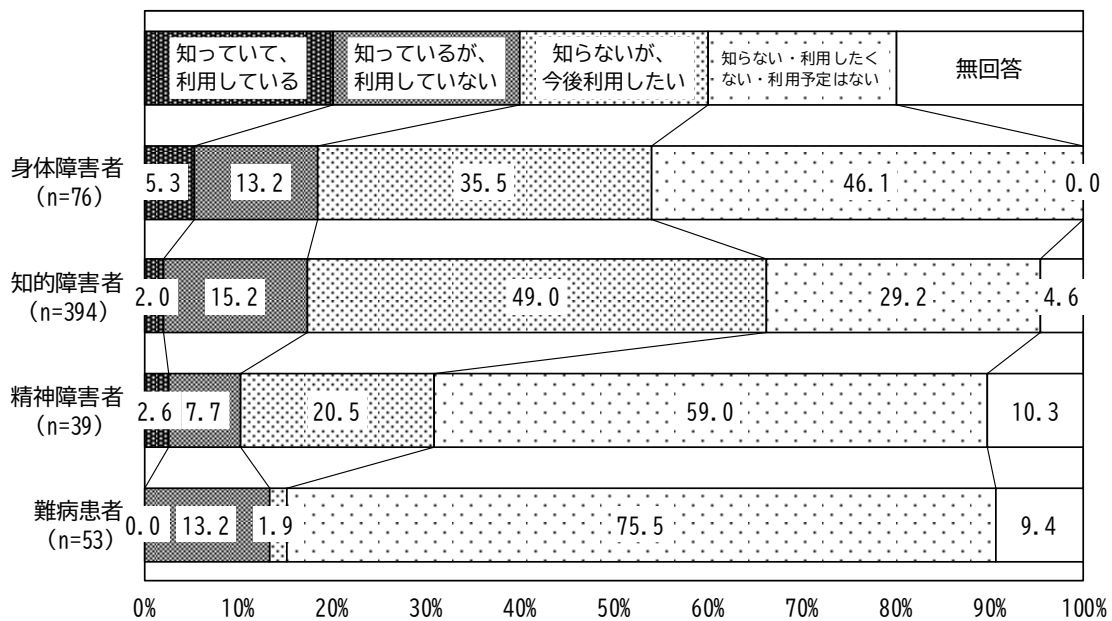
図表 市内の相談機関等の認知度・利用状況：身体障害者相談員・知的障害者相談員（全体）



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「知っていて、利用している」(5.3%)と「知っているが、利用していない」(13.2%)をあわせた<知っている>は18.5%である。「知らないが、今後利用したい」は35.5%である。
- ・知的障害者は「知っていて、利用している」(2.0%)と「知っているが、利用していない」(15.2%)をあわせた<知っている>は17.2%である。「知らないが、今後利用したい」は49.0%である。
- ・精神障害者は「知っていて、利用している」(2.6%)と「知っているが、利用していない」(7.7%)をあわせた<知っている>は10.3%である。「知らないが、今後利用したい」は20.5%である。
- ・難病患者は「知っていて、利用している」は0.0%である。「知っているが、利用していない」(13.2%)をあわせた<知っている>は13.2%である。「知らないが、今後利用したい」は1.9%である。

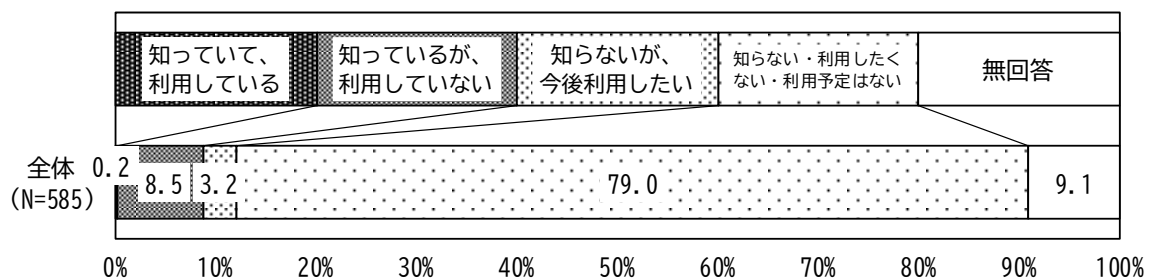
図表 市内の相談機関等の認知度・利用状況：身体障害者相談員・知的障害者相談員
(障害等の種類別)



(4) 聴覚障害者相談事業

- ・「知っていて、利用している」(0.2%)と「知っているが、利用していない」(8.5%)をあわせて「知っている」は8.7%である。「知らないが、今後利用したい」は3.2%である。

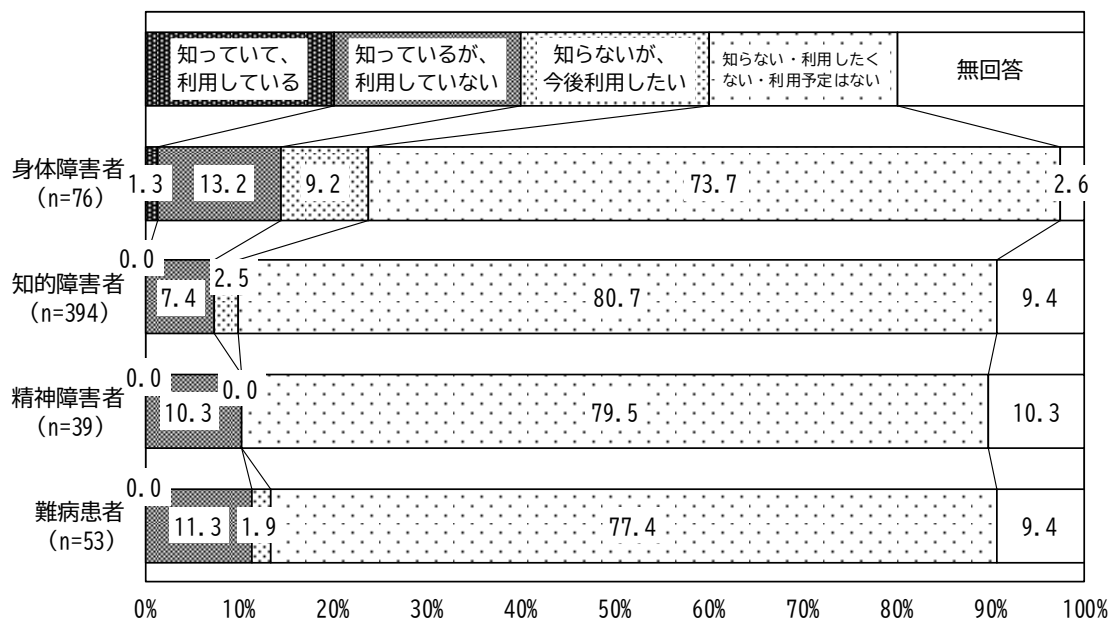
図表 市内の相談機関等の認知度・利用状況：聴覚障害者相談事業（全体）



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「知っていて、利用している」(1.3%)と「知っているが、利用していない」(13.2%)をあわせた<知っている>は14.5%である。「知らないが、今後利用したい」は9.2%である。
- ・知的障害者は「知っていて、利用している」(0.0%)と「知っているが、利用していない」(7.4%)をあわせた<知っている>は7.4%である。「知らないが、今後利用したい」は2.5%である。
- ・精神障害者は「知っていて、利用している」(0.0%)と「知っているが、利用していない」(10.3%)をあわせた<知っている>は10.3%である。「知らないが、今後利用したい」は0.0%である。
- ・難病患者は「知っていて、利用している」(0.0%)と「知っているが、利用していない」(11.3%)をあわせた<知っている>は11.3%である。「知らないが、今後利用したい」は1.9%である。

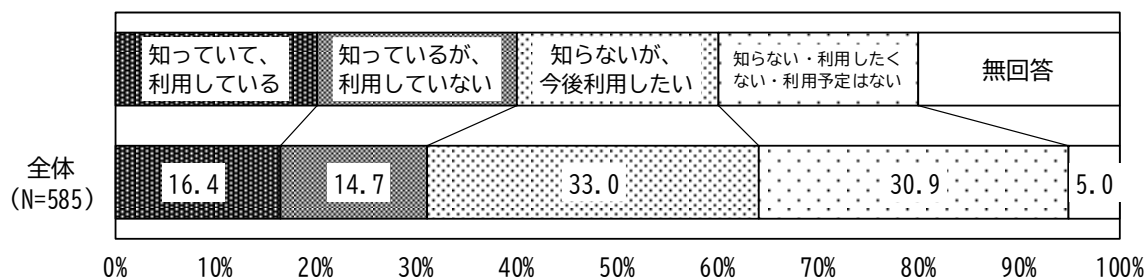
図表 市内の相談機関等の認知度・利用状況：聴覚障害者相談事業（障害等の種類別）



(5) 障害児相談支援事業所

- ・「知っている、利用している」(16.4%)と「知っているが、利用していない」(14.7%)をあわせたと知っている>は31.1%である。「知らないが、今後利用したい」は33.0%である。

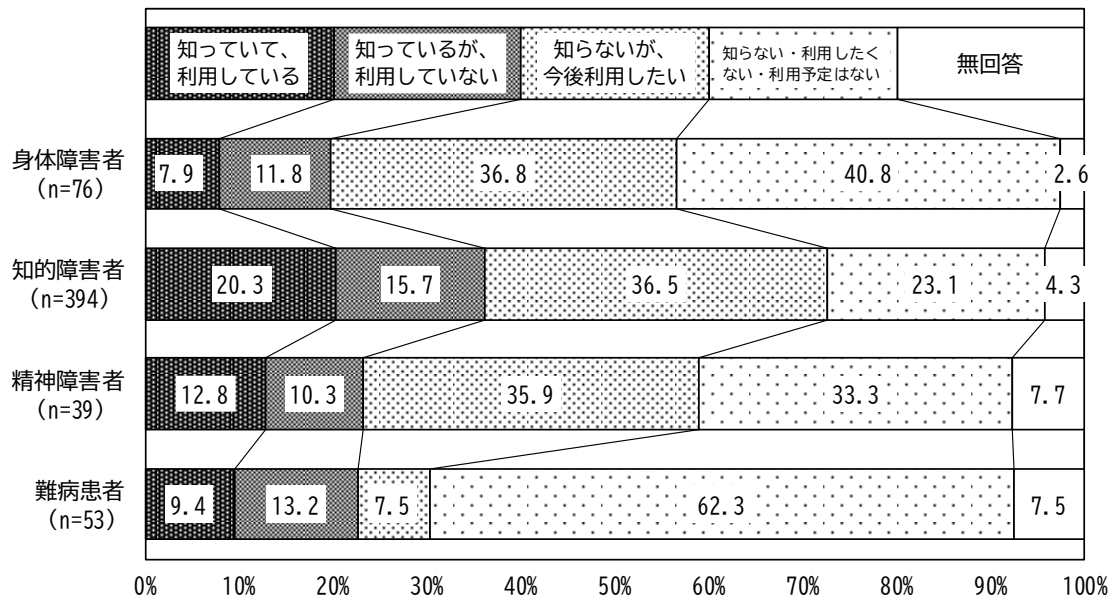
図表 市内の相談機関等の認知度・利用状況：障害児相談支援事業所（全体）



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「知っていて、利用している」(7.9%)と「知っているが、利用していない」(11.8%)をあわせた<知っている>は19.7%である。「知らないが、今後利用したい」は36.8%である。
 - ・知的障害者は「知っていて、利用している」(20.3%)と「知っているが、利用していない」(15.7%)をあわせた<知っている>は36.0%である。「知らないが、今後利用したい」は36.5%である。
 - ・精神障害者は「知っていて、利用している」(12.8%)と「知っているが、利用していない」(10.3%)をあわせた<知っている>は23.1%である。「知らないが、今後利用したい」は35.9%である。
- 難病患者は「知っていて、利用している」(9.4%)と「知っているが、利用していない」(13.2%)をあわせた<知っている>は22.6%である。「知らないが、今後利用したい」は7.50%である。

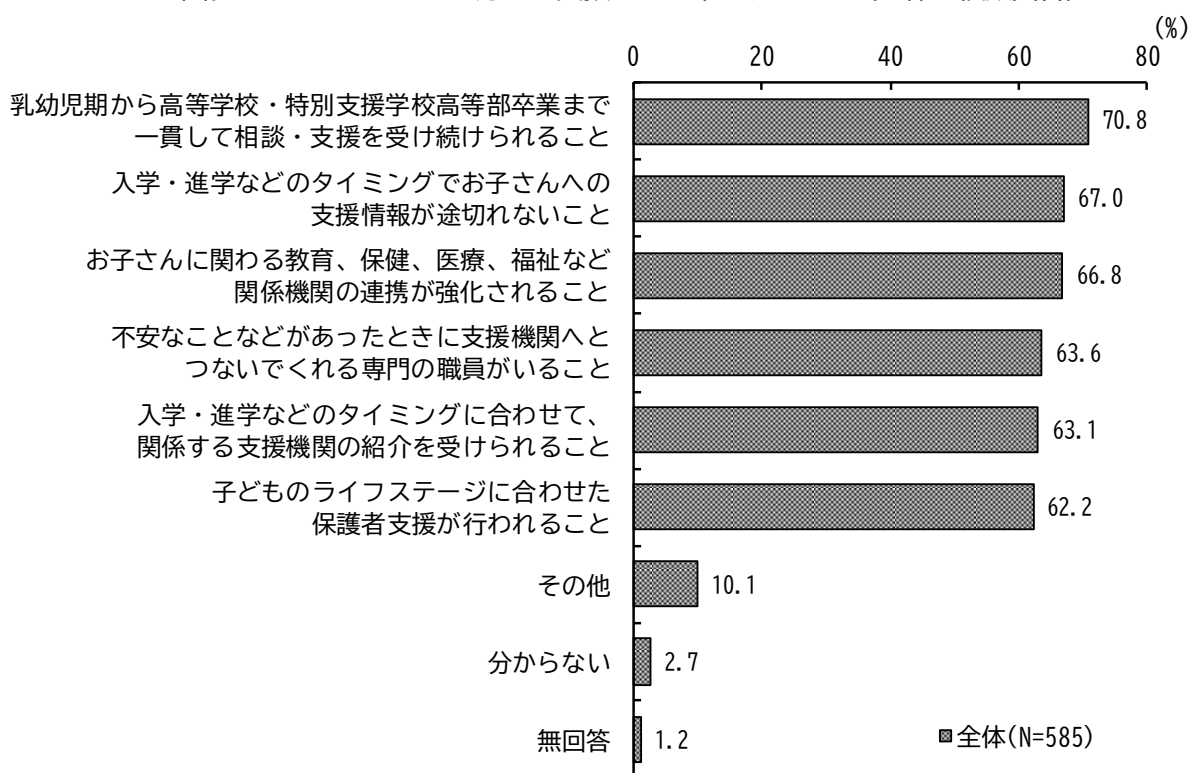
図表 市内の相談機関等の認知度・利用状況：障害児相談支援事業所（障害等の種類別）



問 13 あなた(記入者)は、お子さんの育ちや発達へのライフステージに合わせた切れ目のない支援として、次のうちどのようなことを希望されますか。(いくつでも○)

- ・「乳幼児期から高等学校・特別支援学校高等部卒業まで一貫して相談・支援を受け続けられること」(70.8%)が最も多く、「「入学・進学などのタイミングでお子さんへの支援情報が途切れないこと」(67.0%)、「お子さんに関わる教育、保健、医療、福祉など関係機関の連携が強化されること」(66.8%)が続いている。
- ・「不安なことなどがあったときに支援機関へつないでくれる専門の職員がいること」(63.6%)、「入学・進学などのタイミングに合わせて、関係する支援機関の紹介を受けられること」(63.1%)、「子どものライフステージに合わせた保護者支援が行われること」(62.2%)も6割を超えている。

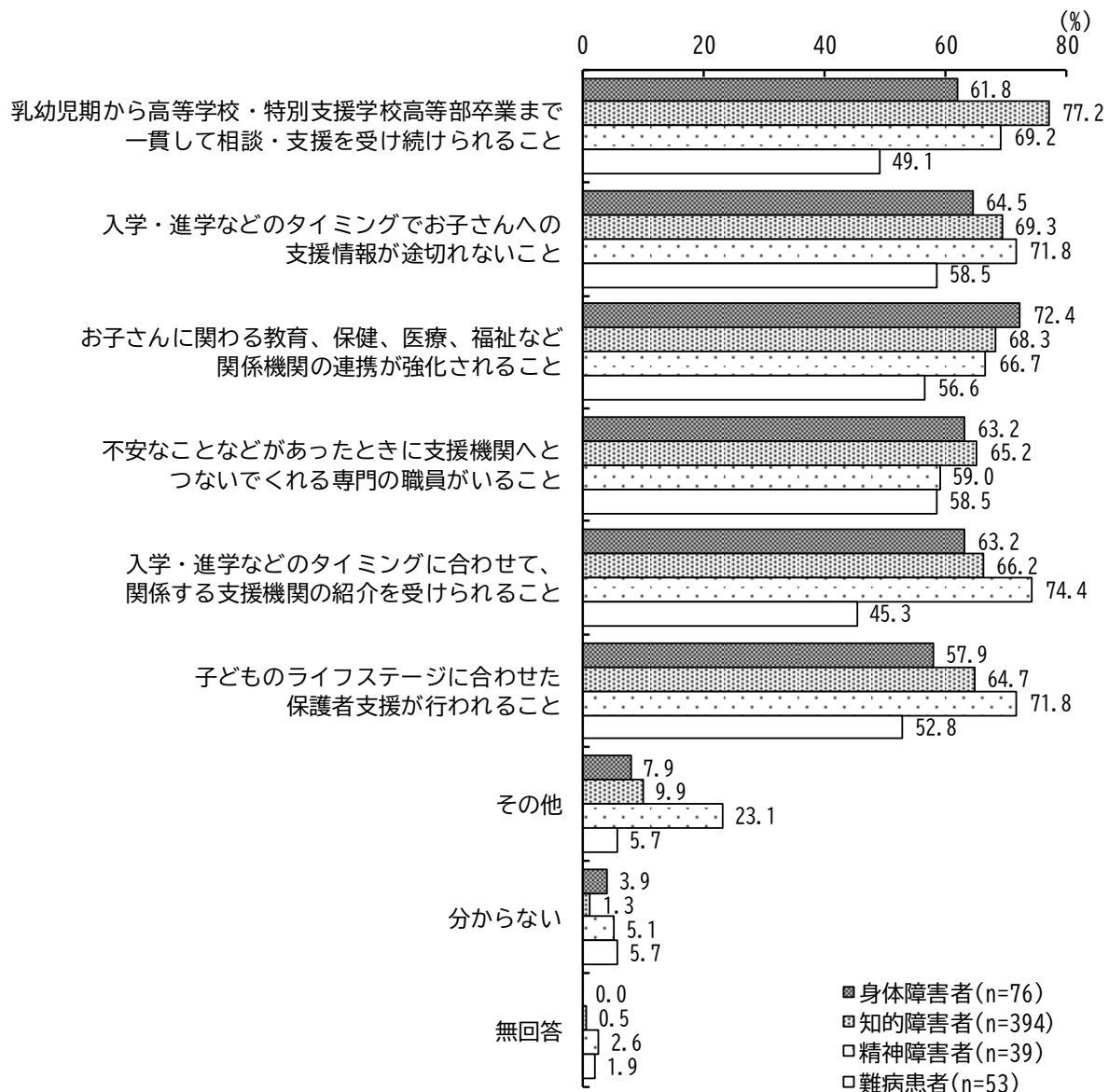
図表 ライフステージに応じた支援として希望すること（全体：複数回答）



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「お子さんに関わる教育、保健、医療、福祉など関係機関の連携が強化されること」(72.4%)が最も多い。
- ・知的障害者は「乳幼児期から高等学校・特別支援学校高等部卒業まで一貫して相談・支援を受け続けられること」(77.2%)が最も多い。
- ・精神障害者は「入学・進学などのタイミングに合わせて、関係する支援機関の紹介を受けられること」(74.4%)が最も多い。
- ・難病患者は「入学・進学などのタイミングでお子さんへの支援情報が途切れないこと」(58.5%)と「不安なことなどがあったときに支援機関へつないでくれる専門の職員がいること」(58.5%)が同率で最も多い。

図表 ライフステージに応じた支援として希望すること（障害等の種類別：複数回答）



【障害等の種類×年代別】

- ・身体障害者は、学齢期で「お子さんに関わる教育、保健、医療、福祉など関係機関の連携が強化されること」(83.3%)が全体より15ポイント以上高い。
- ・知的障害者は、乳幼児期で「乳幼児期から高等学校・特別支援学校高等部卒業まで一貫して相談・支援を受け続けられること」(87.2%)と「入学・進学などのタイミングでお子さんへの支援情報が途切れないこと」(85.1%)が全体より15ポイント以上高い。
- ・精神障害者は、学齢期で「入学・進学などのタイミングに合わせて、関係する支援機関の紹介を受けられること」(77.8%)が全体より15ポイント近く高い。
- ・難病患者は、乳幼児期で「入学・進学などのタイミングに合わせて、関係する支援機関の紹介を受けられること」(72.7%)で全体より10ポイント近く高い。

図表 ライフステージに応じた支援として希望すること
(全体、障害等の種類別、障害等の種類×年代別：複数回答)

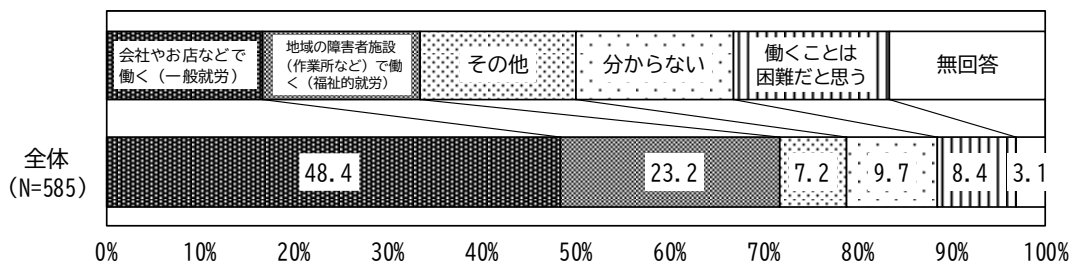
				(%)									
				乳幼児期から高等学校・特別支援学校高等部卒業まで一貫して相談・支援を受け続けられること	入学・進学などのタイミングでお子さんへの支援情報が途切れないこと	お子さんに関わる教育、保健、医療、福祉など関係機関の連携が強化されること	不安なことなどがあつたときに支援機関へつないでくれる専門の職員がいること	入学・進学などのタイミングに合わせて、関係する支援機関の紹介を受けられること	子どものライフステージに合わせた保護者支援が行われること	その他	分からない	無回答	
全体				(N=585)	70.8	67.0	66.8	63.6	63.1	62.2	10.1	2.7	1.2
障害種別・年代別	身体障害者	身体障害者	(n=76)	61.8	64.5	72.4	63.2	63.2	57.9	7.9	3.9	0.0	
		知的障害者	(n=394)	77.2	69.3	68.3	65.2	66.2	64.7	9.9	1.3	0.5	
		精神障害者	(n=39)	69.2	71.8	66.7	59.0	74.4	71.8	23.1	5.1	2.6	
		難病患者	(n=53)	49.1	58.5	56.6	58.5	45.3	52.8	5.7	5.7	1.9	
	身体障害者	乳幼児期	(n=15)	93.3	93.3	100.0	73.3	100.0	86.7	0.0	0.0	0.0	
		学齢期（小学生）	(n=36)	58.3	61.1	83.3	66.7	55.6	52.8	11.1	2.8	0.0	
		中学生～17歳	(n=24)	50.0	54.2	41.7	50.0	54.2	50.0	4.2	8.3	0.0	
		知的障害者	(n=47)	87.2	85.1	68.1	72.3	72.3	76.6	14.9	0.0	0.0	
		学齢期（小学生）	(n=179)	76.5	75.4	68.7	65.4	72.6	64.8	10.1	0.6	0.6	
		中学生～17歳	(n=167)	74.9	58.1	67.7	63.5	58.1	61.1	8.4	2.4	0.6	
	精神障害者	乳幼児期	(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
		学齢期（小学生）	(n=18)	61.1	61.1	61.1	44.4	77.8	61.1	27.8	5.6	5.6	
		中学生～17歳	(n=21)	76.2	81.0	71.4	71.4	71.4	81.0	19.0	4.8	0.0	
	難病患者	乳幼児期	(n=11)	54.5	72.7	72.7	63.6	72.7	54.5	0.0	0.0	9.1	
		学齢期（小学生）	(n=22)	50.0	50.0	31.8	50.0	22.7	54.5	0.0	4.5	0.0	
		中学生～17歳	(n=18)	44.4	55.6	77.8	61.1	55.6	50.0	16.7	11.1	0.0	

問14 あなた(記入者)は、将来、お子さんにどのようなところで働いてほしいと考えていますか。

(1つに○)

- ・「会社やお店などで働く(一般就労)」(48.4%)が最も多く、次いで「地域の障害者施設(作業所など)で働く(福祉的就労)」(23.2%)、「分からない」(9.7%)が続いている。

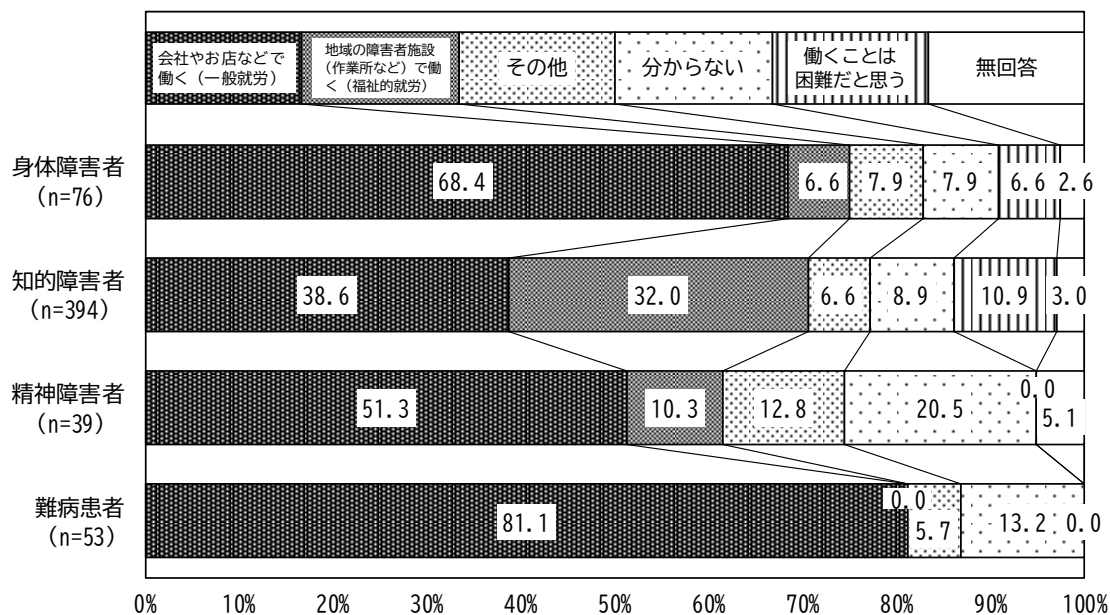
図表 お子さんの将来の働く場の希望(全体)



【障害等の種類別】

- ・身体障害者、知的障害者、精神障害者、難病患者のいずれも「会社やお店などで働く(一般就労)」(身体: 68.4%、知的: 38.6%、精神: 51.3%、難病: 81.1%)が最も多い。
- ・知的障害者は「地域の障害者施設(作業所など)で働く(福祉的就労)」(32.0%)が全体より9ポイント近く高い。

図表 お子さんの将来の働く場の希望(障害等の種類別)

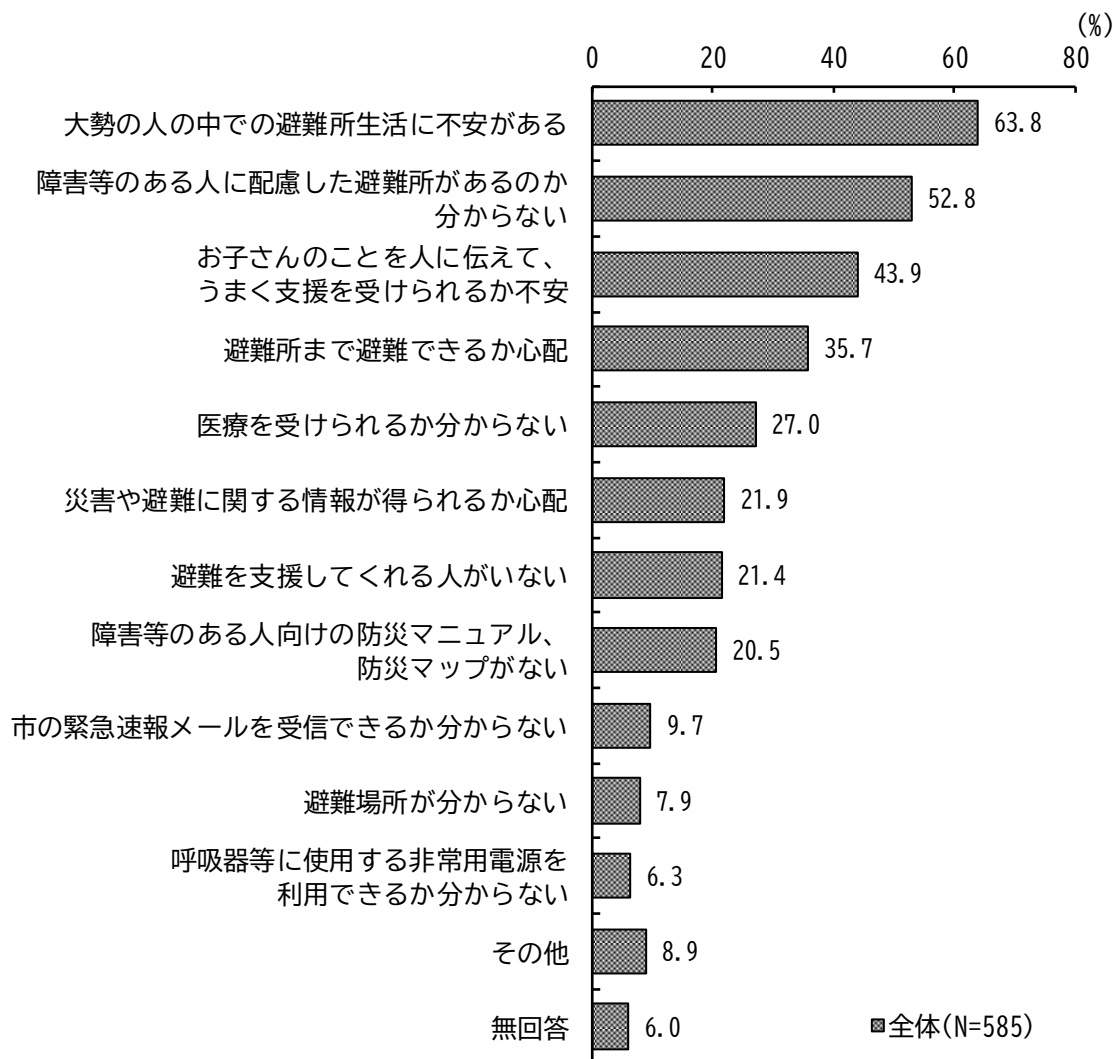


(8) 防災について

問15 災害時に困ること・不安なことは何ですか。(いくつでも○)

- ・「大勢の人の中での避難所生活に不安がある」(63.8%)が最も多く、「障害等のある人に配慮した避難所があるのか分からない」(52.8%)、「お子さんのことを人に伝えて、うまく支援を受けられるか不安」(43.9%)、「避難所まで避難できるか心配」(35.7%)が続いている。

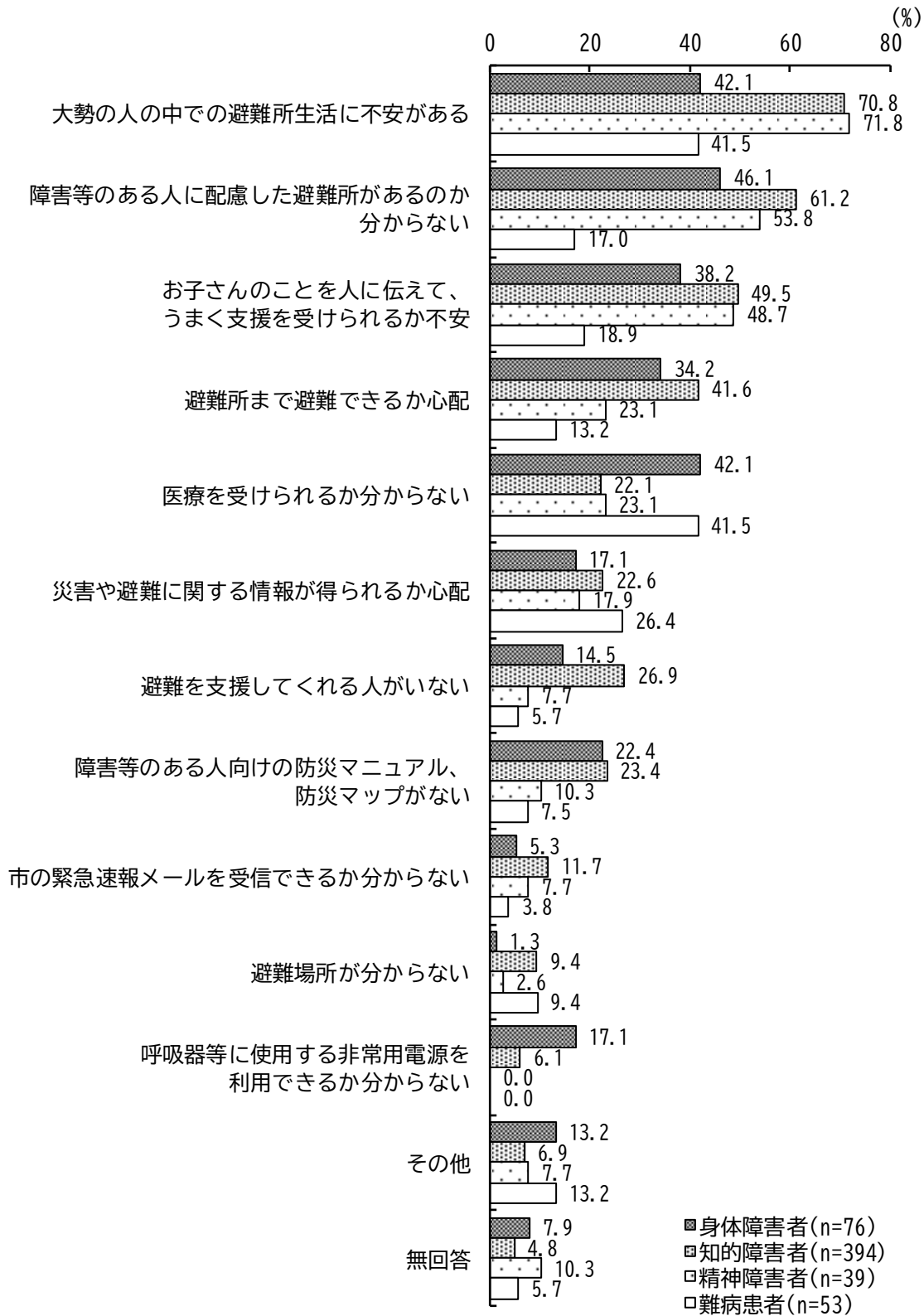
図表 災害時に困ること・不安なこと(全体：複数回答)



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「障害等のある人に配慮した避難所があるのか分からない」(46.1%)、知的障害者、精神障害者は「大勢の人の中での避難所生活に不安がある」(知的：70.8%、精神：71.8%)、難病患者は「大勢の人の中での避難所生活に不安がある」(41.5%)と「医療を受けられるかわからない」(41.5%)が同率で最も多い。
- ・2番目に多いのは、身体障害者は「大勢の人の中での避難所生活に不安がある」(42.1%)、知的障害者、精神障害者は「障害等のある人に配慮した避難所があるのか分からない」(知的：61.2%：精神：53.8%)、難病患者は「災害や避難に関する情報が得られるか心配」(26.4%)である。

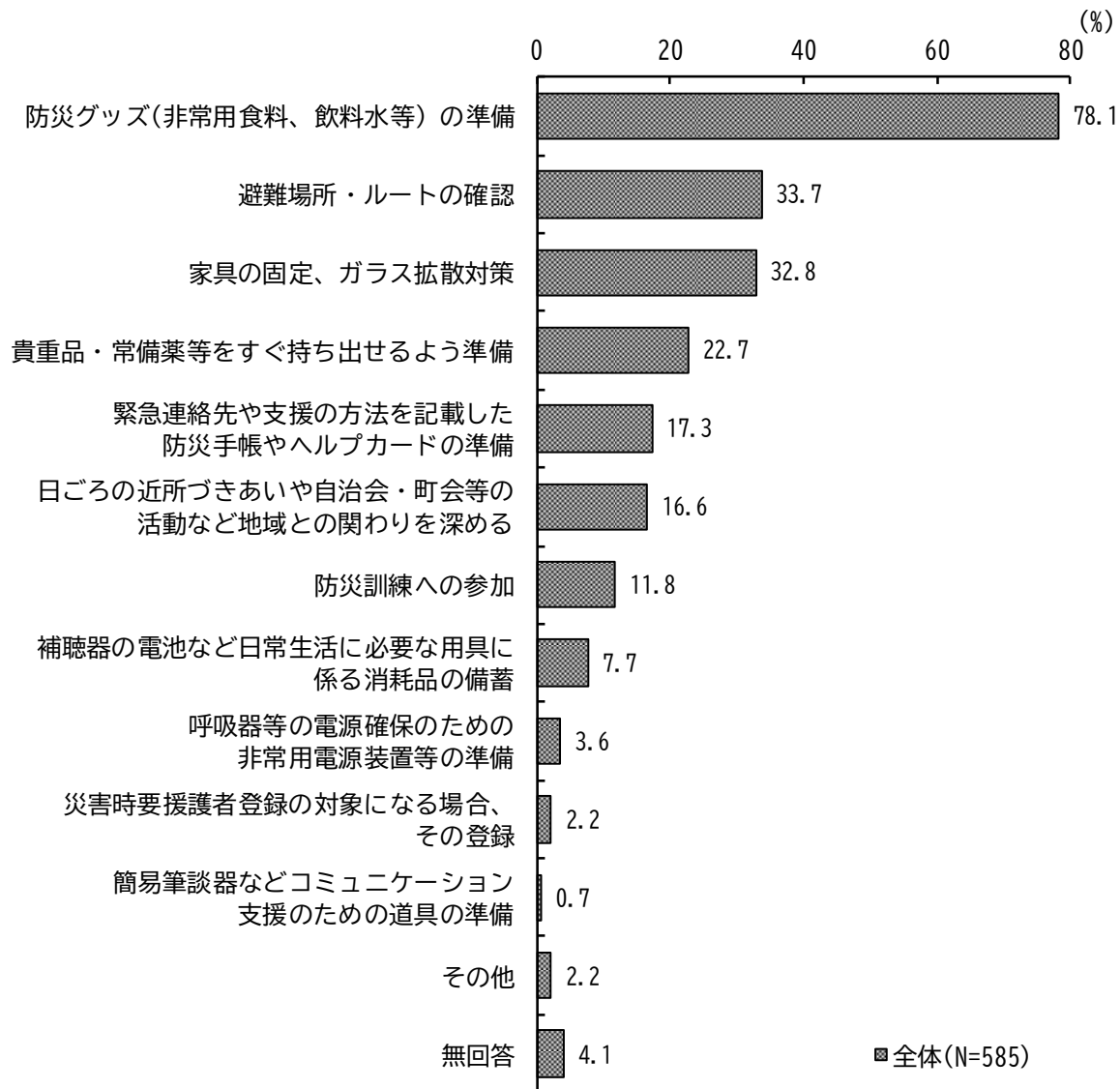
図表 災害時に困ること・不安なこと(障害等の種類別：複数回答)



問16 災害時に備えて、ふだんからどのようなことを行っていますか。(いくつでも○)

- ・「防災グッズ(非常用食料、飲料水等)の準備」(78.1%)が最も多く、次いで「避難場所・ルートの確認」(33.7%)、「家具の固定、ガラス拡散対策」(32.8%)が続いている。

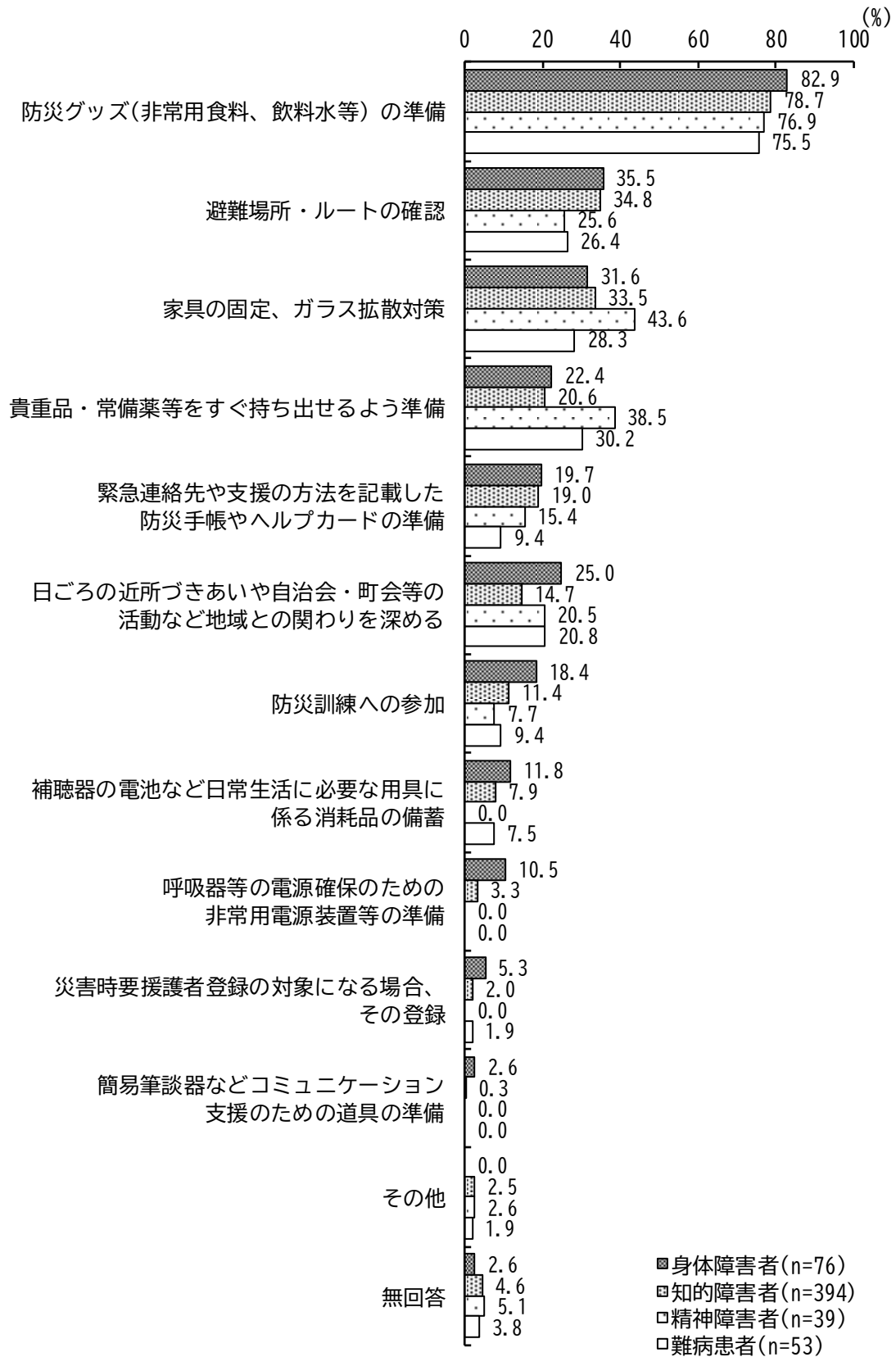
図表 災害対策としてふだんから行っていること(全体：複数回答)



【障害等の種類別】

- ・障害等の種類別でも、「防災グッズ(非常用食料、飲料水等)の準備」(身体：82.9%、知的：78.7%、精神：76.9%、難病：75.5%)が最も多い。
- ・精神障害者は「家具の固定、ガラス拡散対策」(43.6%)、「貴重品・常備薬等をすぐ持ち出せるよう準備」(38.5%)が全体より10ポイント以上高い。

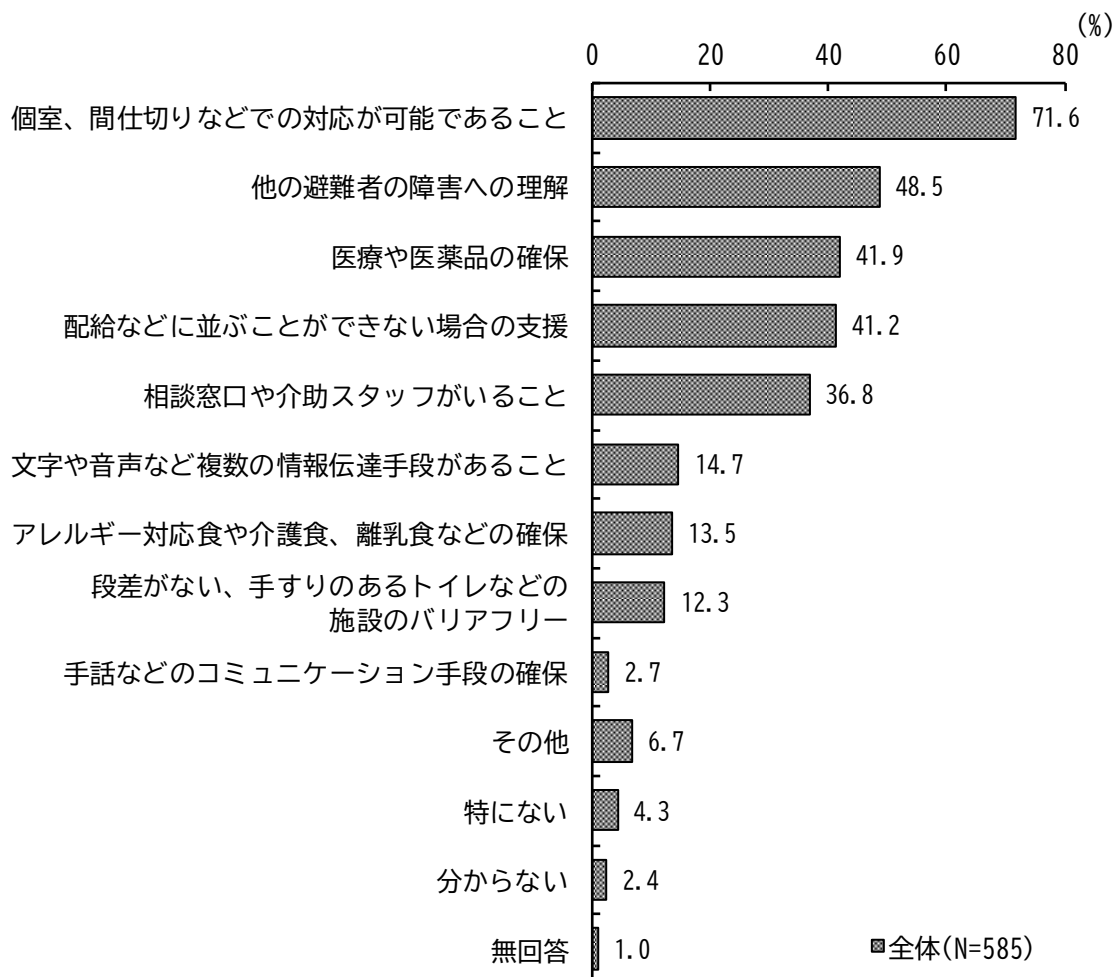
図表 災害対策としてふだんから行っていること(障害等の種類別：複数回答)



問17 地震などの災害が発生したときに、避難所で配慮してほしいことは何ですか。(いくつでも○)

- ・「個室、間仕切り(パーテーション)などでの対応が可能であること」(71.6%)が最も多く、次いで「他の避難者の障害への理解」(48.5%)、「医療や医薬品の確保」(41.9%)、「配給などに並ぶことができない場合の支援」(41.2%)が続いている。

図表 避難場所で希望する配慮(全体：複数回答)

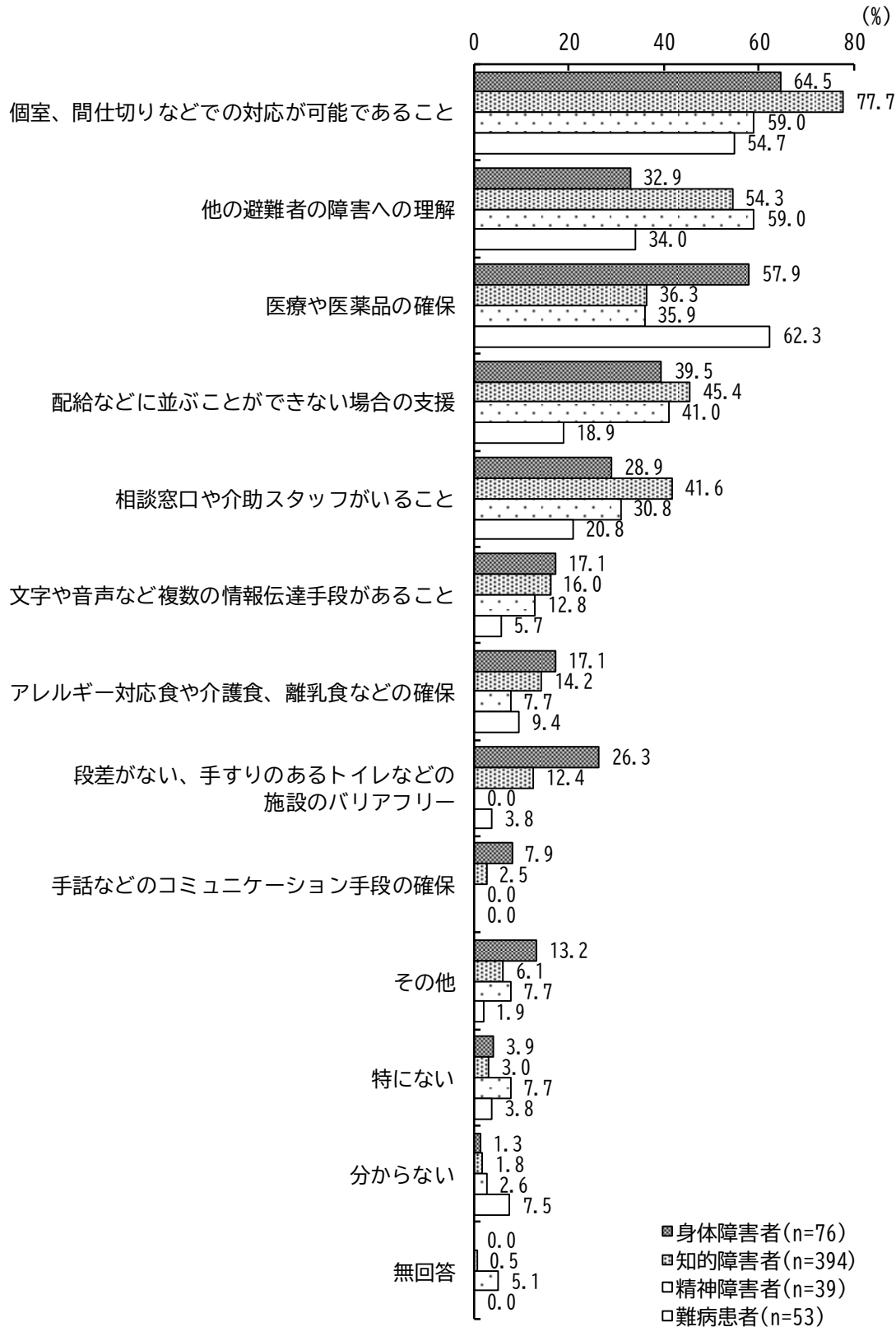


【障害等の種類別】

- ・身体障害者、知的障害者は、いずれも「個室、間仕切り(パーテーション)などでの対応が可能であること」(身体：64.5%、知的：77.7%)、精神障害者は「個室、間仕切り(パーテーション)などでの対応が可能であること」(59.0%)と「他の避難者の障害への理解」(59.0%)が同率で最も多い。難病患者は「医療や医薬品の確保」(62.3%)が最も多い。
- ・身体障害者は「医療や医薬品の確保」(57.9%)、「段差がない、手すりのあるトイレなどの施設のバリアフリー」(26.3%)が全体より10ポイント以上高い。

- ・知的障害者は「個室、間仕切り(パーテーション)などでの対応が可能であること」(77.7%)、「他の避難者の障害への理解」(54.3%)が全体より5ポイント以上高い。
- ・精神障害者は「他の避難者の障害への理解」(59.0%)が全体より10ポイント以上高い。

図表 避難場所で希望する配慮(障害等の種類別：複数回答)

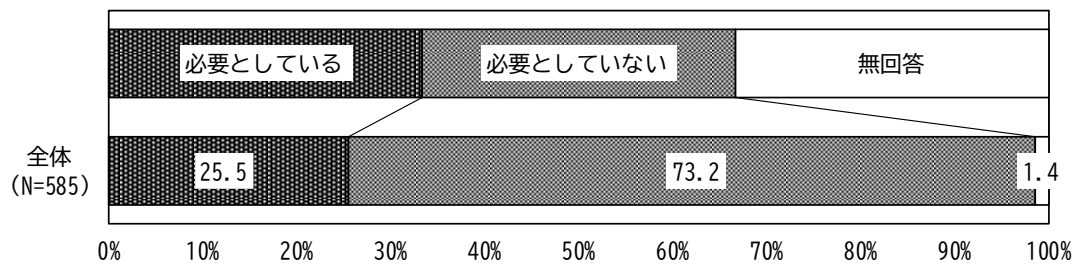


(9) 医療・医療的ケアについて

問 18 お子さんは、日常的に何らかの医療・医療的ケアを必要としていますか。障害者手帳所持の有無に関わらずお答えください。(1つに○)

- ・「必要としている」は25.5%である。

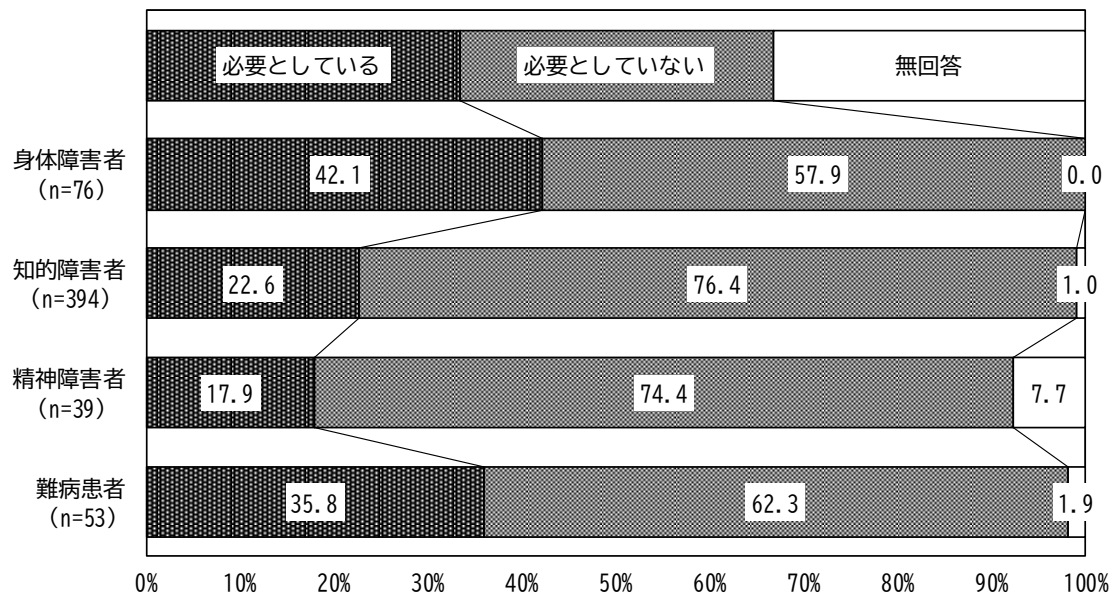
図表 現在何らかの医療・医療的ケアを必要としているか(全体)



【障害等の種類別】

- ・「必要としている」は、身体障害者で42.1%、知的障害者で22.6%、精神障害者で17.9%、難病患者で35.8%である。

図表 現在何らかの医療・医療的ケアを必要としているか(障害等の種類別)

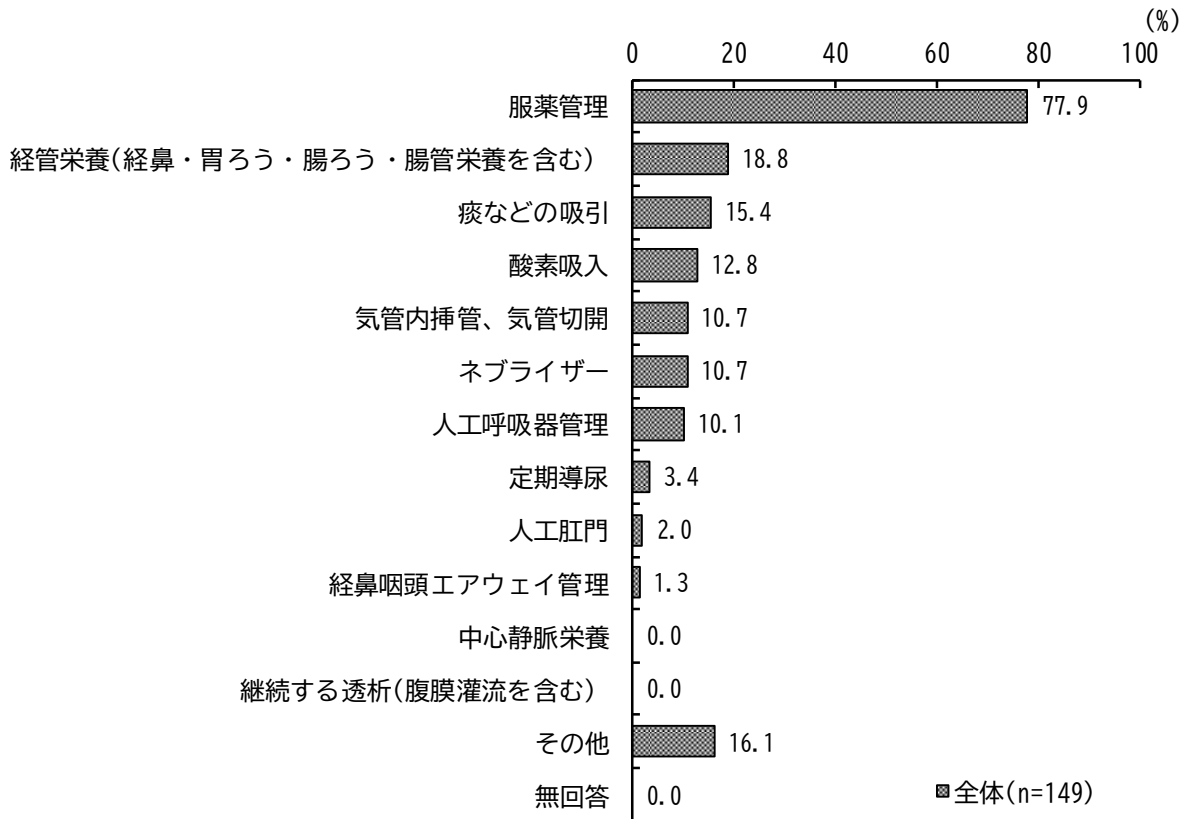


問18-1 問18で「1. 必要としている」とお答えの方におたずねします。

現在、お子さんはどのような医療・医療的ケアを受けていますか。(いくつでも○)

- ・「服薬管理」(77.9%)が最も多く、「経管栄養(経鼻・胃ろう・腸ろう・腸管栄養を含む)」(18.8%)、「痰などの吸引」(15.4%)、「酸素吸入」(12.8%)が続いている。

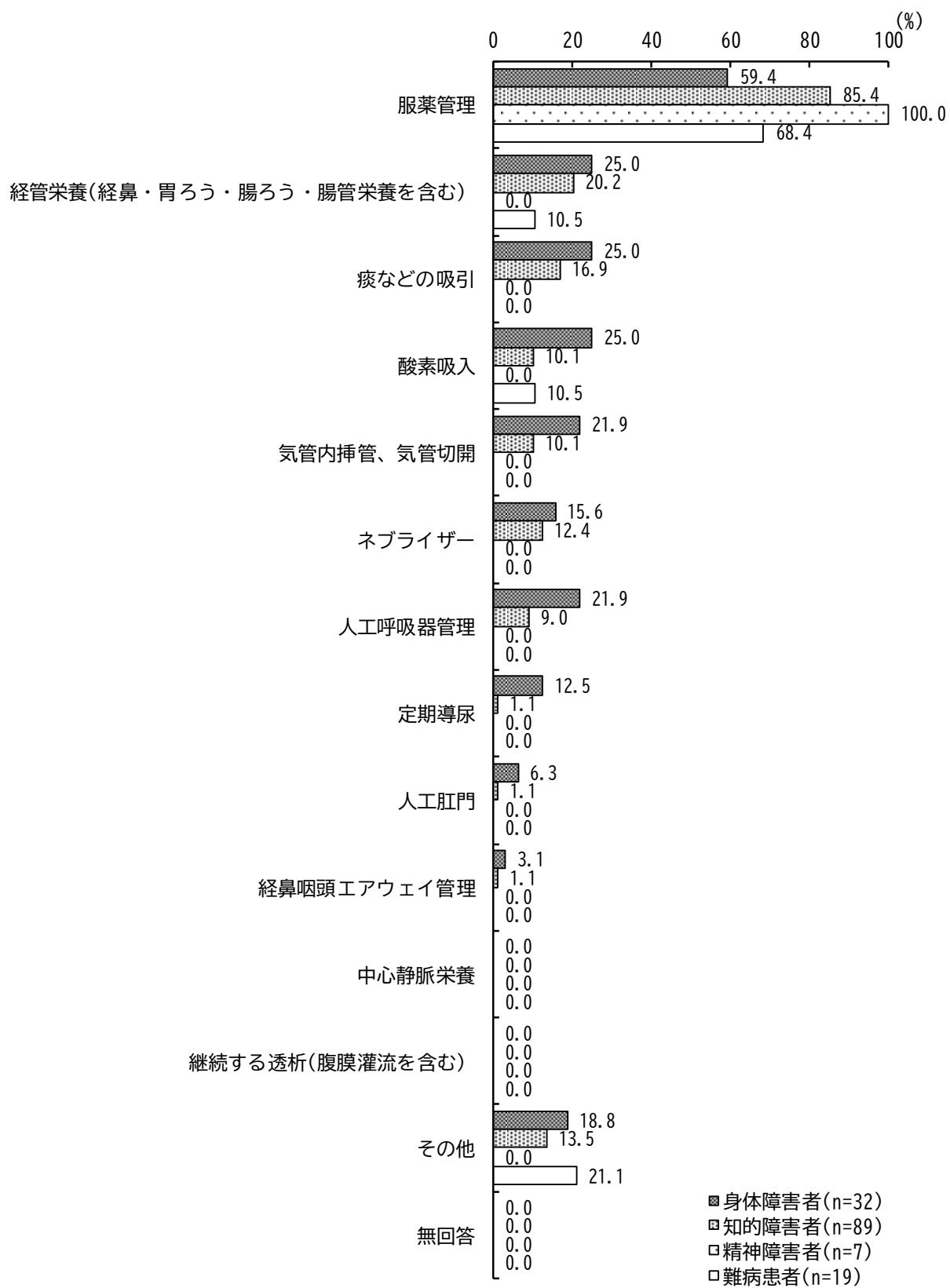
図表 現在受けている医療・医療的ケア(全体：複数回答)
＜医療・医療的ケアを必要としている人＞



【障害等の種類別】

- ・ 障害等の種類別でも、「服薬管理」(身体：59.4%、知的：85.4%、精神：100.0%、難病：68.4%)が最も多い。
- ・ 2番目に多いのは、身体障害者は「経管栄養(経鼻・胃ろう・腸ろう・腸管栄養を含む)」(25.0%)と「痰などの吸引」(25.0%)、「酸素吸入」(25.0%)、知的障害者は「経管栄養(経鼻・胃ろう・腸ろう・腸管栄養を含む)」(20.2%)、精神障害者は「その他」(13.5%)、難病患者は「経管栄養(経鼻・胃ろう・腸ろう・腸管栄養を含む)」(10.5%)と「酸素吸入」(10.5%)となっている。

図表 現在受けている医療・医療的ケア(障害等の種類別：複数回答)
 <医療・医療的ケアを必要としている人>



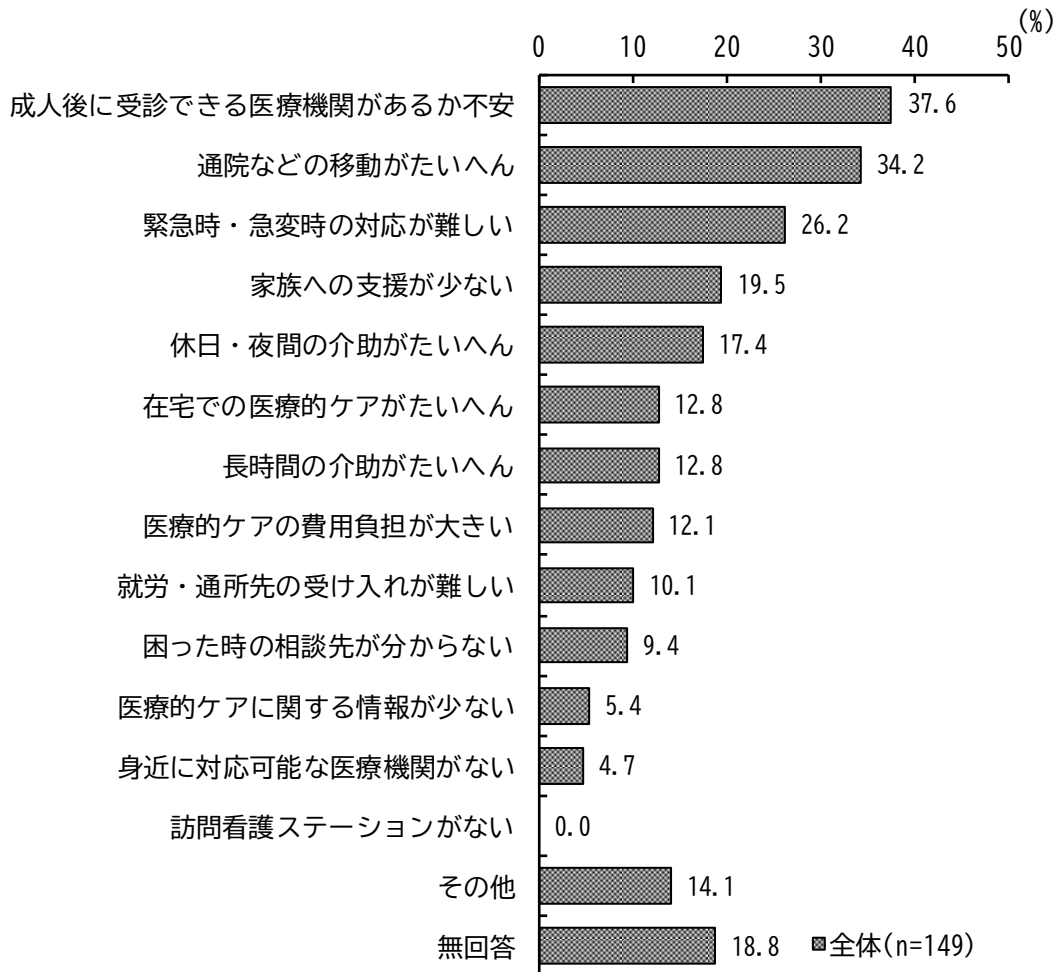
問18-2 問18で「1. 必要としている」とお答えの方におたずねします。

お子さんの医療・医療的ケアにあたって、困りごとはありますか。(いくつでも○)

- ・「成人後に受診できる医療機関があるか不安」(37.6%)が最も多く、「通院などの移動がたいへん」(34.2%)、「緊急時・急変時の対応が難しい」(26.2%)、「家族への支援が少ない」(19.5%)が続いている。

図表 医療・医療的ケアの困りごと(全体：複数回答)

<医療・医療的ケアを必要としている人>

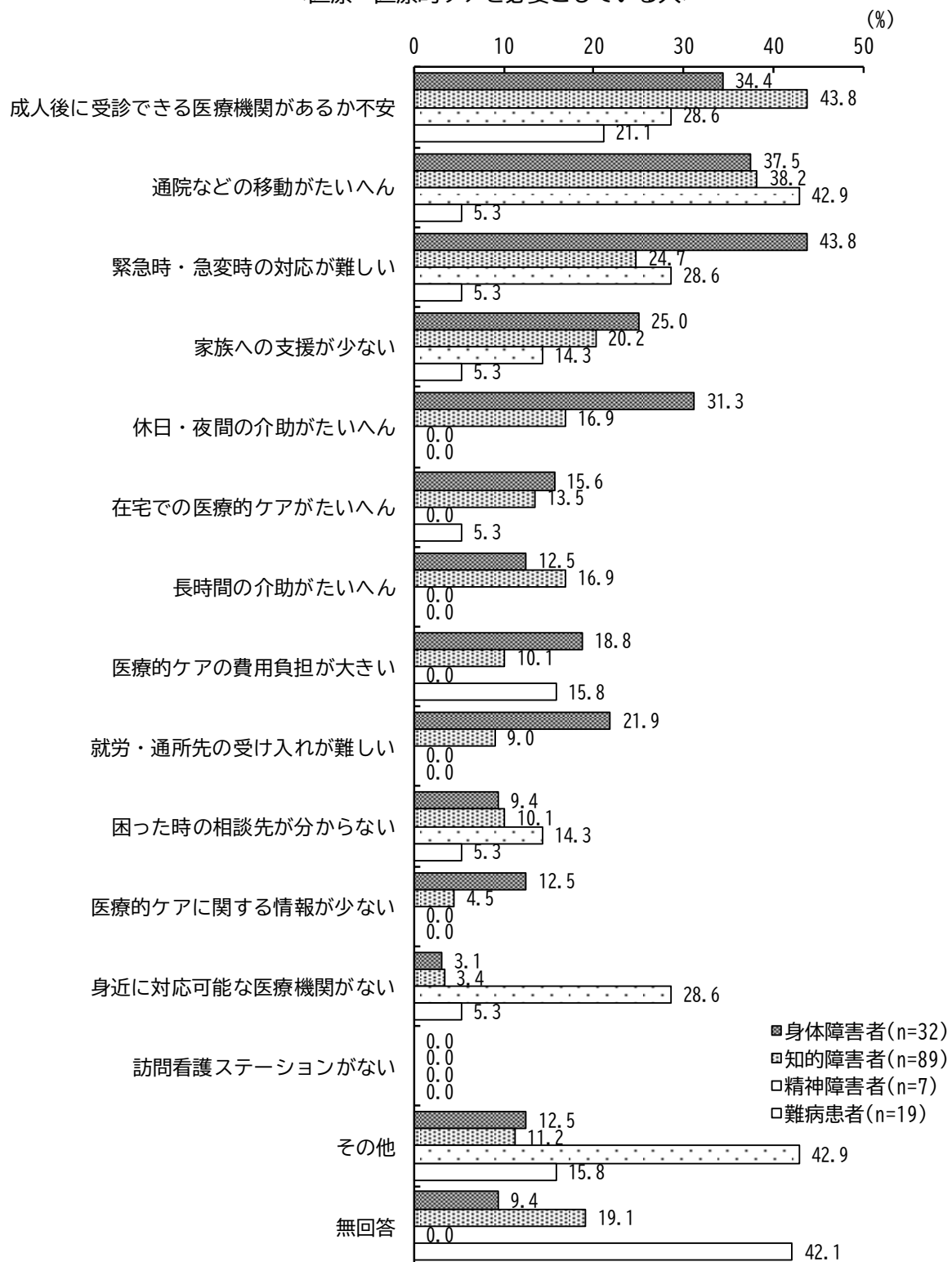


【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「緊急時・急変時の対応が難しい」(43.8%)、知的障害者、難病患者は「成人後に受診できる医療機関があるか不安」(知的：43.8%、難病：21.1%)、精神障害者は「通院などの移動がたいへん」(42.9%)が最も多い。
- ・2番目に多い困りごとは、身体障害者、知的障害者は「通院などの移動がたいへん」(身体：37.5%、知的：38.2%)、精神障害者は「成人後に受診できる医療機関があるか不安」(28.6%)と「緊急時・急変時の対応が難しい」(28.6%)、難病患者は「医療的ケアの費用負担が大きい」(15.8%)である。

図表 医療・医療的ケアの困りごと(障害等の種類別：複数回答)

<医療・医療的ケアを必要としている人>



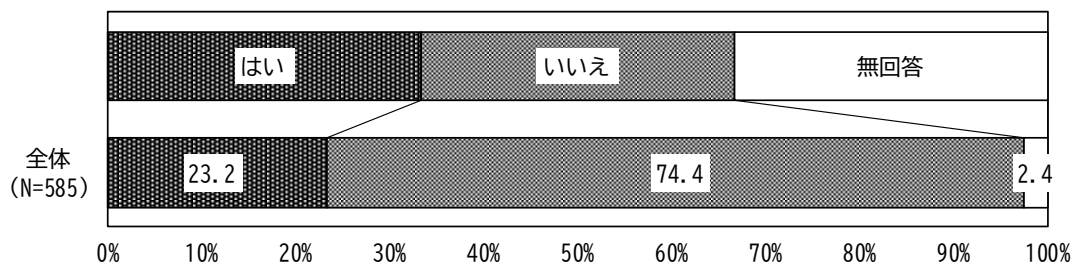
(10) 共生社会について

問 19 「共生社会※(ノーマライゼーション)」は府中市民に十分理解されていると思いますか。(1つに○)

※「共生社会」とは？…全ての国民が、障害のある・なしによって分け隔てられることなく、お互いに人格と個性を尊重し合いながら生きる社会のこと。

- ・「はい」23.2%、「いいえ」74.4%である。

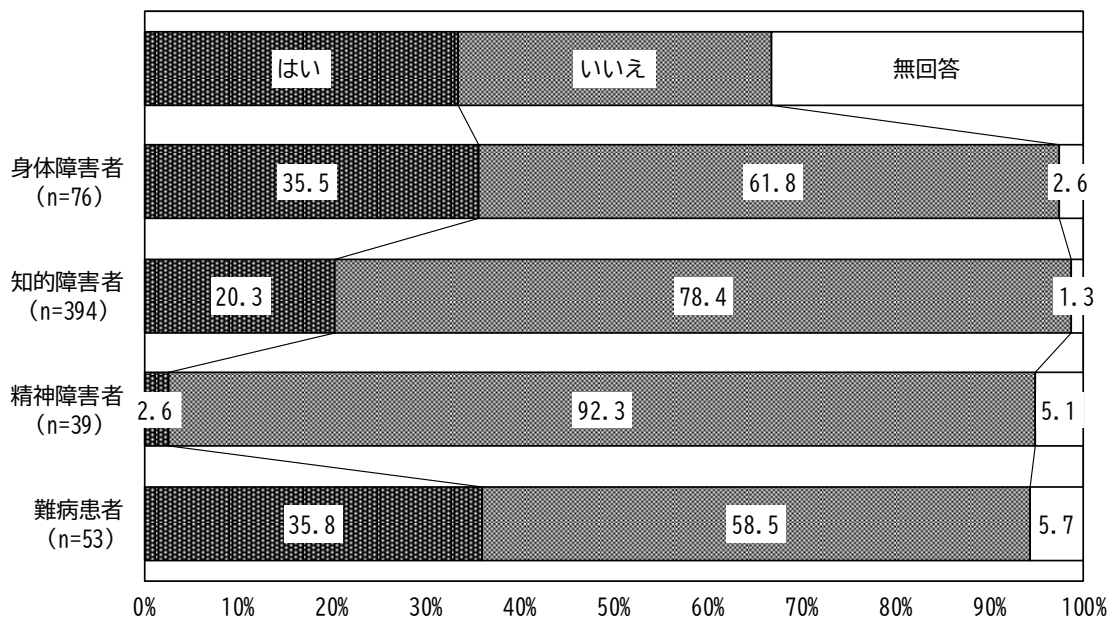
図表 市民のノーマライゼーションの理解(全体)



【障害等の種類別】

- ・「いいえ」は、身体障害者は 61.8%、知的障害者は 78.4%、精神障害者は 92.3%、難病患者は 58.5%である。

図表 市民のノーマライゼーションの理解(障害等の種類別)



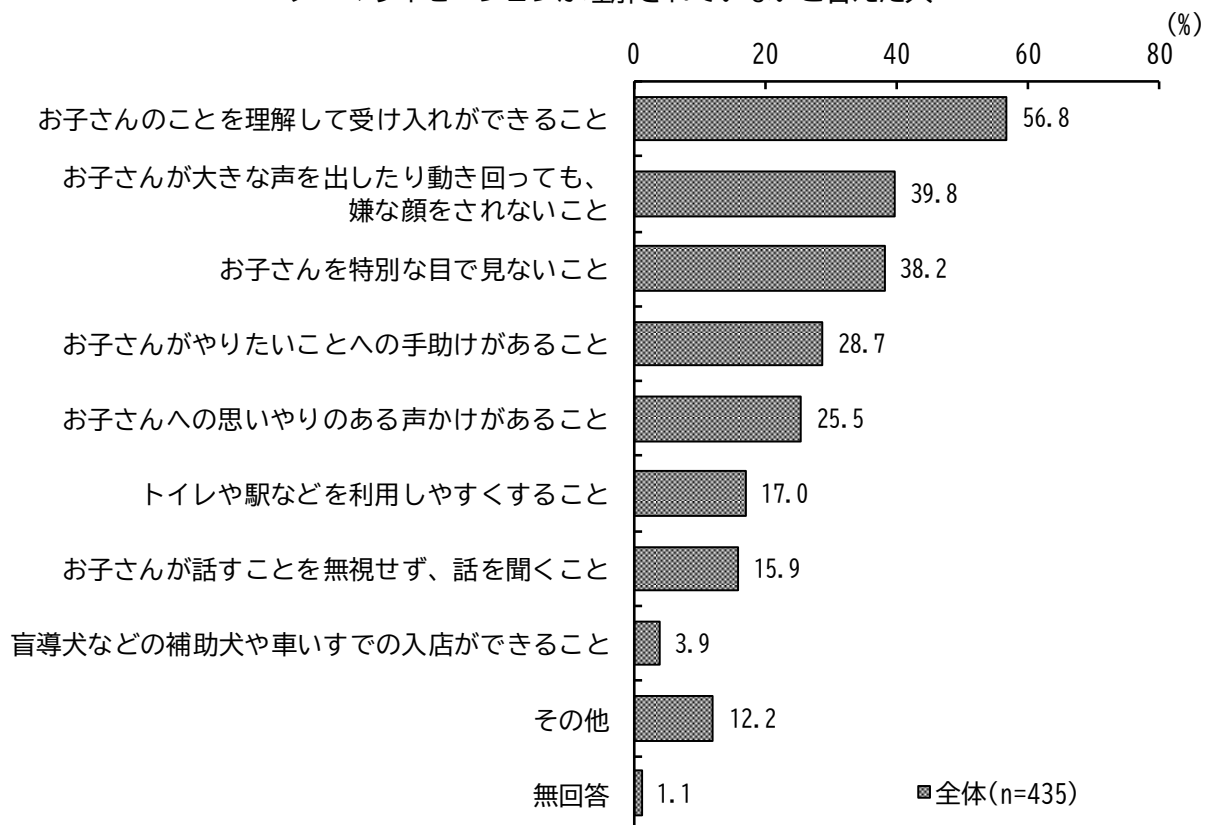
問19-1 問19で「2. いいえ」と答えた方におたずねします。

どのようなことがあればお子さんが「理解されている」と思いますか。(3つまで○)

- ・「お子さんのことを理解して受け入れができること」(56.8%)が最も多く、「お子さんが大きな声を出したり動き回っても、嫌な顔をされないこと」(39.8%)、「お子さんを特別な目で見ないこと」(38.2%)が続いている。

図表 どのようなことがあれば「理解されている」と思うか(全体：複数回答3つまで)

<ノーマライゼーションが理解されていないと答えた人>

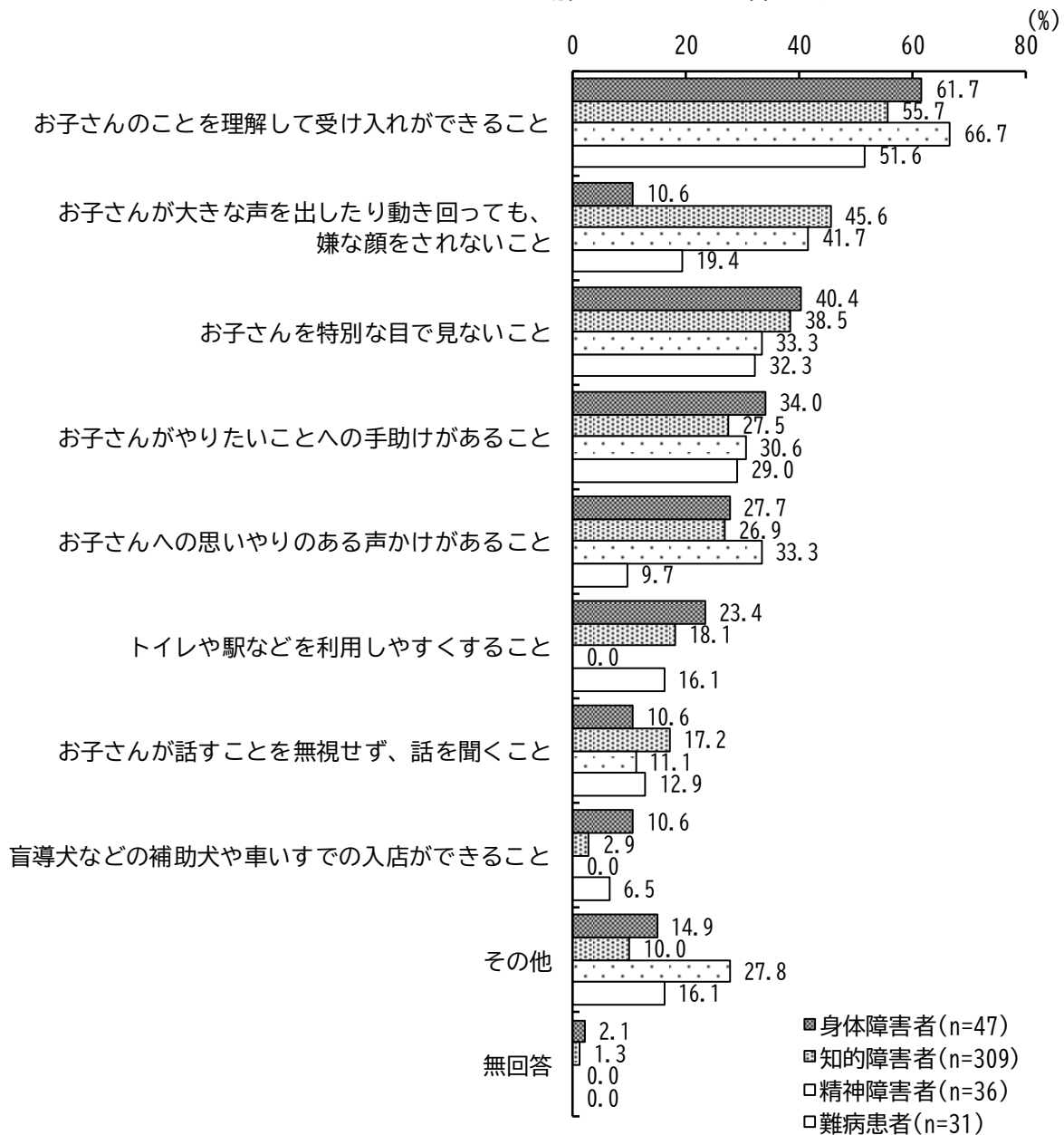


【障害等の種類別】

- ・ 障害等の種類別でも、「お子さんのことを理解して受け入れができること」（身体：61.7%、知的：55.7%、精神：66.7%、難病：51.6%）が最も多い。
- ・ 2番目に多いのは、身体障害者と難病患者は「お子さんを特別な目で見ないこと」（身体：40.4%、難病 32.3%）、知的障害者と精神障害者は「お子さんが大きな声を出したり動きまわっても、嫌な顔をされないこと」（知的：45.6%、精神：41.7%）となっている。

図表 どのようなことがあれば「理解されている」と思うか(障害等の種類別：複数回答（3つまで））

<ノーマライゼーションが理解されていないと答えた人>

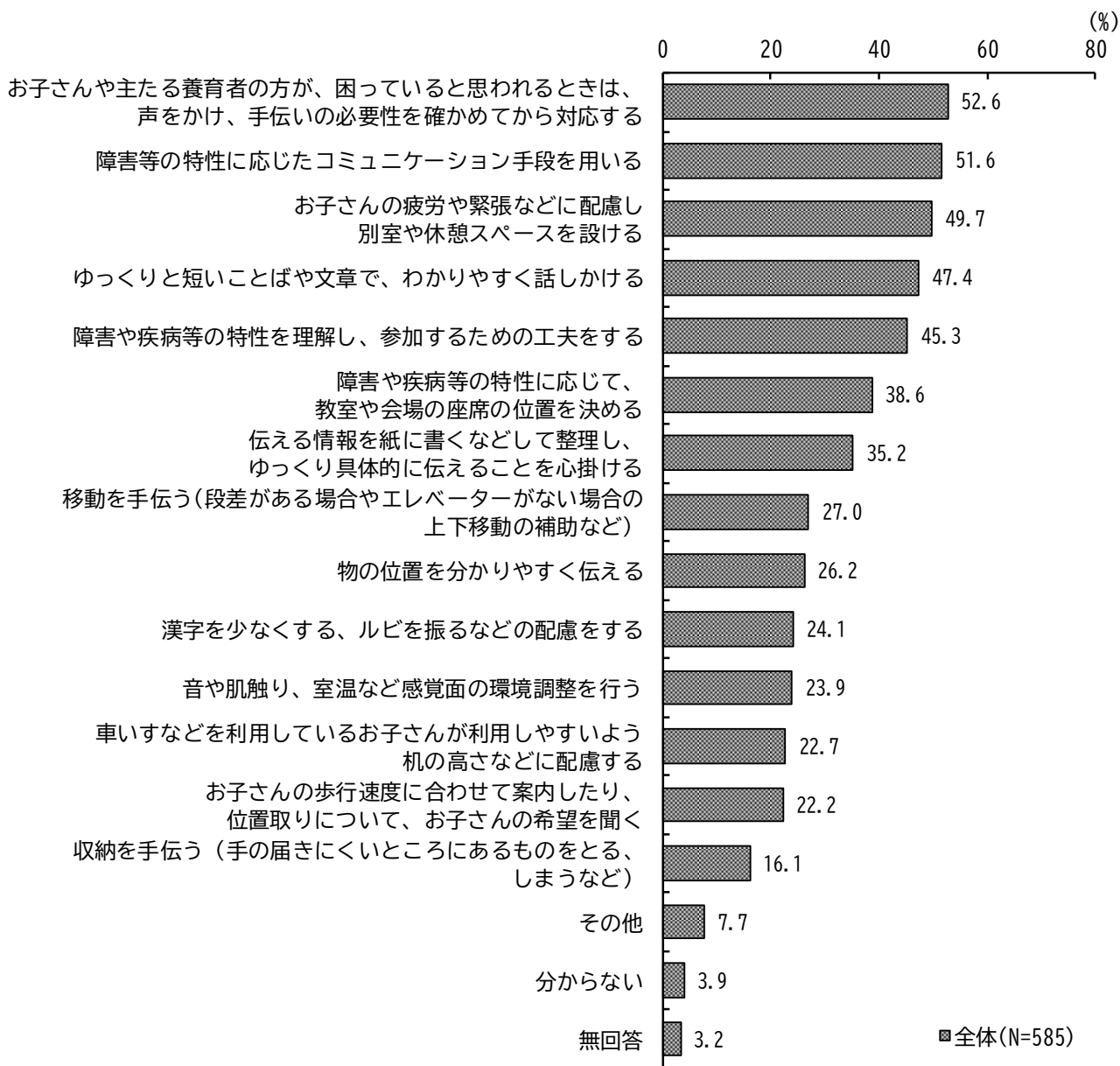


問20 「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律(障害者差別解消法)」では、「合理的配慮」として、国・地方公共団体や会社・お店など事業者に対して、障害等のある人からバリアを取り除く対応を求められた際に、対応することが求められています。

役所、保育所・保育園・幼稚園、学校、会社、お店などで、どのような合理的配慮があればよいと思いますか。(いくつでも○)

- ・「お子さんや主たる養育者の方が、困っていると思われるときは、声をかけ、手伝いの必要性を確かめてから対応する」(52.6%)が最も多く、「障害等の特性に応じたコミュニケーション手段を用いる」(51.6%)、「お子さんの疲労や緊張などに配慮し別室や休憩スペースを設ける」(49.7%)、「ゆっくりと短いことばや文章で、わかりやすく話しかける」(47.4%)、「障害や疾病等の特性を理解し、参加するための工夫をする」(45.3%)が続いている。

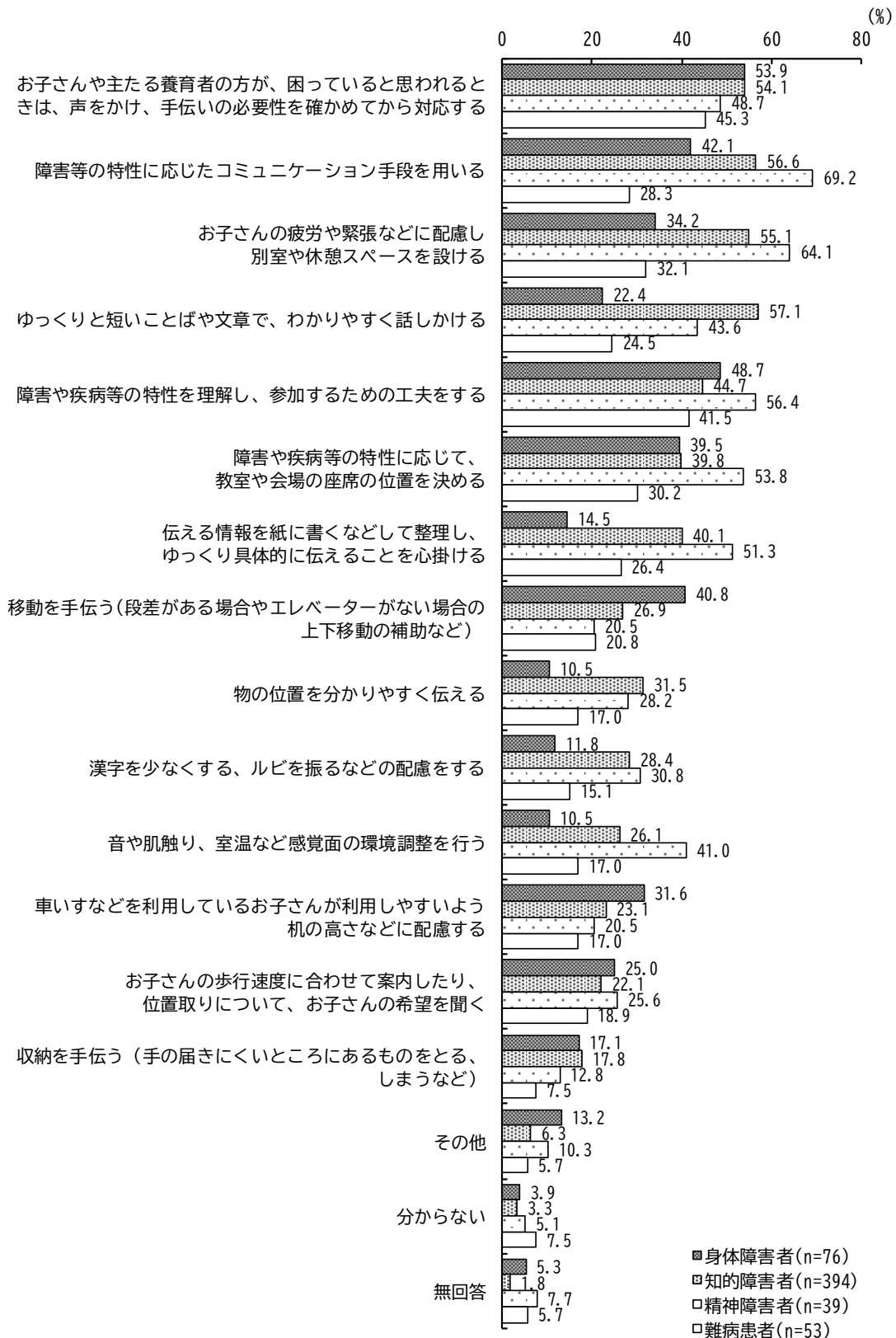
図表 必要とする合理的配慮(全体：複数回答)



【障害等の種類別】

- ・身体障害者、難病患者は「お子さんや主たる養育者の方が、困っていると思われるときは、声をかけ、手伝いの必要性を確かめてから対応する」（身体：53.9%、難病：45.3%）が最も多い。
- ・知的障害者、精神障害者は、「障害等の特性に応じたコミュニケーション手段を用いる」（知的：56.6%、精神：69.2%）が最も多い。

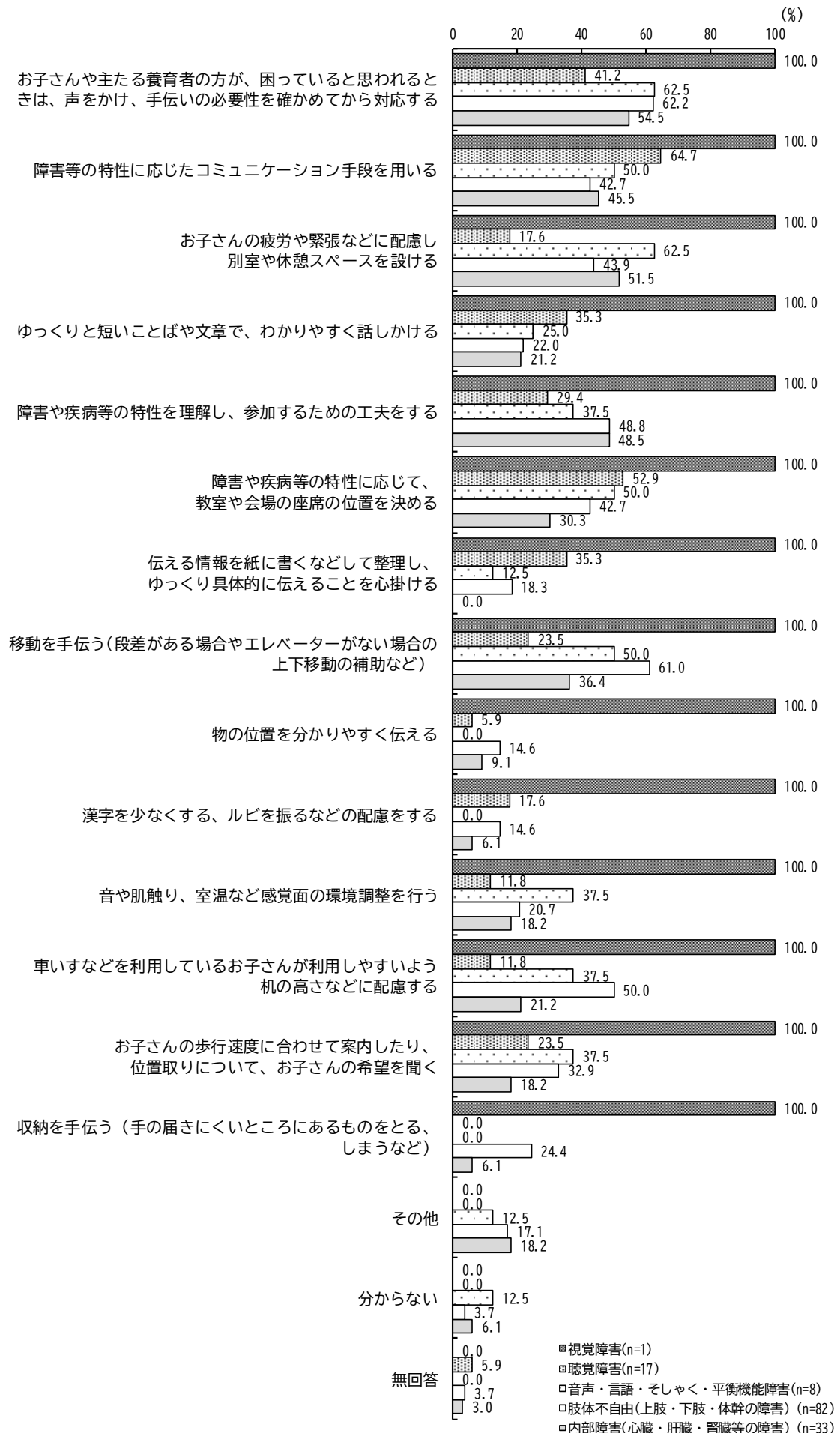
図表 必要とする合理的配慮(障害等の種類別：複数回答)



【身体障害者手帳の記載項目別】

- ・視覚障害は回答者が1人で、全項目を挙げている。
- ・聴覚障害は「障害等の特性に応じたコミュニケーション手段を用いる」（64.7%）、音声・言語・そしゃく・平衡機能障害、音声等は、「障害等の特性に応じたコミュニケーション手段を用いる」（62.5%）と「お子さんの疲労や緊張などに配慮し別室や休憩スペースを設ける」（62.5%）、肢体不自由と内部障害は「お子さんや主たる養育者の方が、困っていると思われるときは、声をかけ、手伝いの必要性を確かめてから対応する」（肢体：62.2%、内部：54.5%）が最も多い。

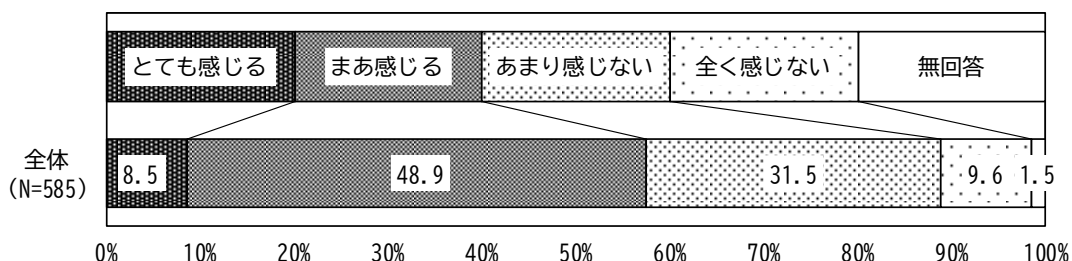
図表 必要とする合理的配慮(身体障害者手帳の記載項目別：複数回答)



問21 あなた(記入者)は、地域がお子さんの成長を支えてくれていると感じますか(1つに○)

- ・「とても感じる」(8.5%)と「まあ感じる」(48.1%)をあわせた<感じる>は57.4%、「あまり感じない」(31.5%)と「全く感じない」(9.6%)をあわせた<感じない>は41.1%である。

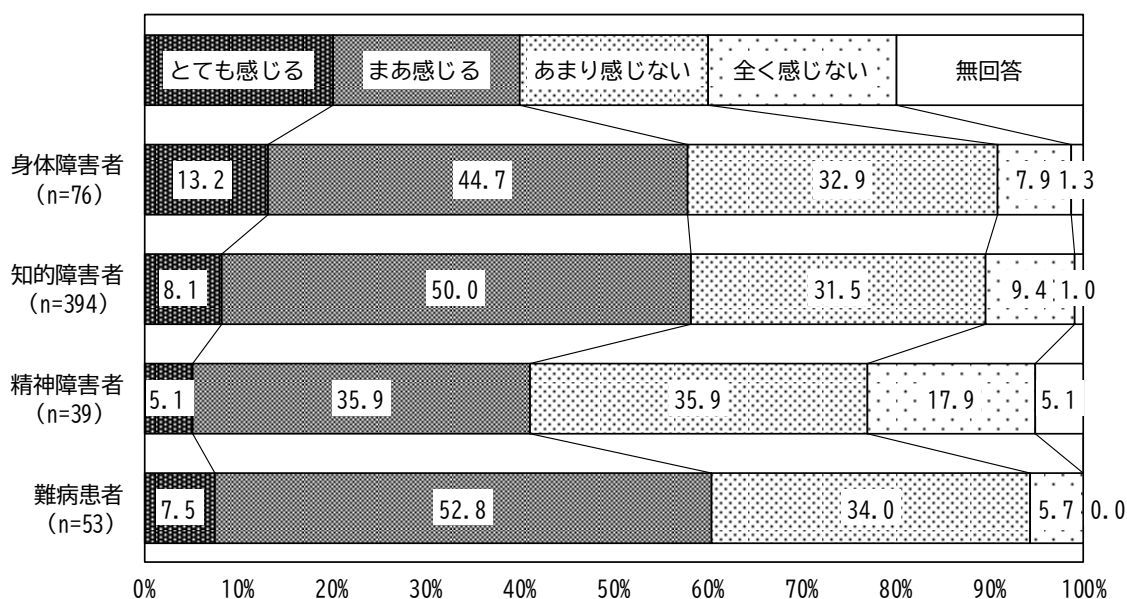
図表 地域がお子さんの成長を支えてくれていると感じる程度(全体:複数回答)



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「とても感じる」(13.2%)と「まあ感じる」(44.7%)をあわせた<感じる>は57.9%、「あまり感じない」(32.9%)と「全く感じない」(7.9%)をあわせた<感じない>は40.8%である。
- ・知的障害者は「とても感じる」(8.1%)と「まあ感じる」(50.0%)をあわせた<感じる>は58.1%、「あまり感じない」(31.5%)と「全く感じない」(9.4%)をあわせた<感じない>は40.9%である。
- ・精神障害者は「とても感じる」(5.1%)と「まあ感じる」(35.9%)をあわせた<感じる>は41.0%、「あまり感じない」(35.9%)と「全く感じない」(17.9%)をあわせた<感じない>は53.6%である。
<感じない>は全体より12ポイント以上高い。
- ・難病患者は「とても感じる」(7.5%)と「まあ感じる」(52.8%)をあわせた<感じる>は60.3%、「あまり感じない」(34.0%)と「全く感じない」(0.0%)をあわせた<感じない>は34.0%である。

図表 地域がお子さんの成長を支えてくれていると感じる程度(障害等の種類別:複数回答)

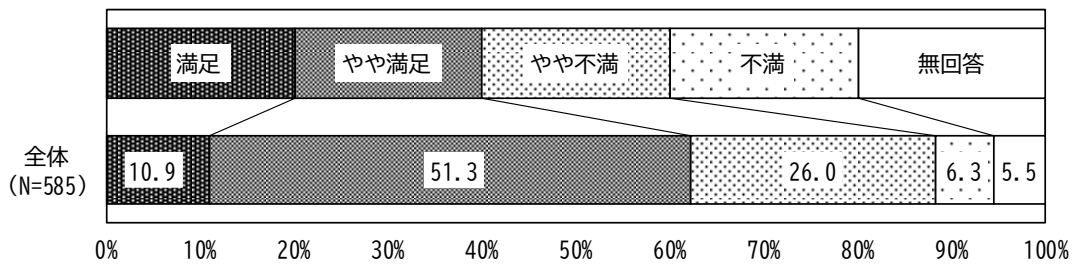


(11) 施策について

問22 市内のバリアフリー環境の整備状況の満足度は、次のうちどれですか。(1つに○)

- ・「満足」(10.9%)と「やや満足」(51.3%)を合わせた<満足>は 62.2%、「やや不満」(26.0%)と「不満」(6.3%)を合わせた<不満>は 32.3%である。

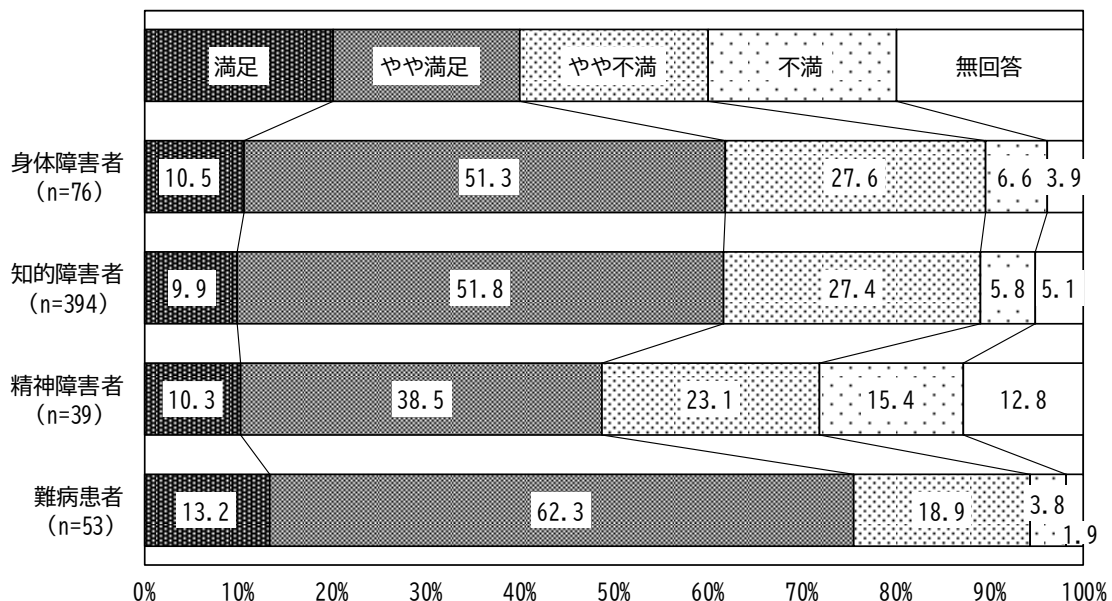
図表 市内のバリアフリー環境の整備状況の満足度(全体)



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「満足」(10.5%)と「やや満足」(51.3%)を合わせた<満足>は 61.8%、「やや不満」(27.6%)と「不満」(6.6%)を合わせた<不満>は 34.2%である。
- ・知的障害者は「満足」(9.9%)と「やや満足」(51.8%)を合わせた<満足>は 61.7%、「やや不満」(27.4%)と「不満」(5.8%)を合わせた<不満>は 33.2%である。
- ・精神障害者は「満足」(10.3%)と「やや満足」(38.5%)を合わせた<満足>は 48.8%、「やや不満」(23.1%)と「不満」(15.4%)を合わせた<不満>は 38.5%である。
- ・難病患者は「満足」(13.2%)と「やや満足」(62.3%)を合わせた<満足>は 75.5%、「やや不満」(18.9%)と「不満」(3.8%)を合わせた<不満>は 22.7%である。<不満>の22.7%は全体より10ポイント近く低い。

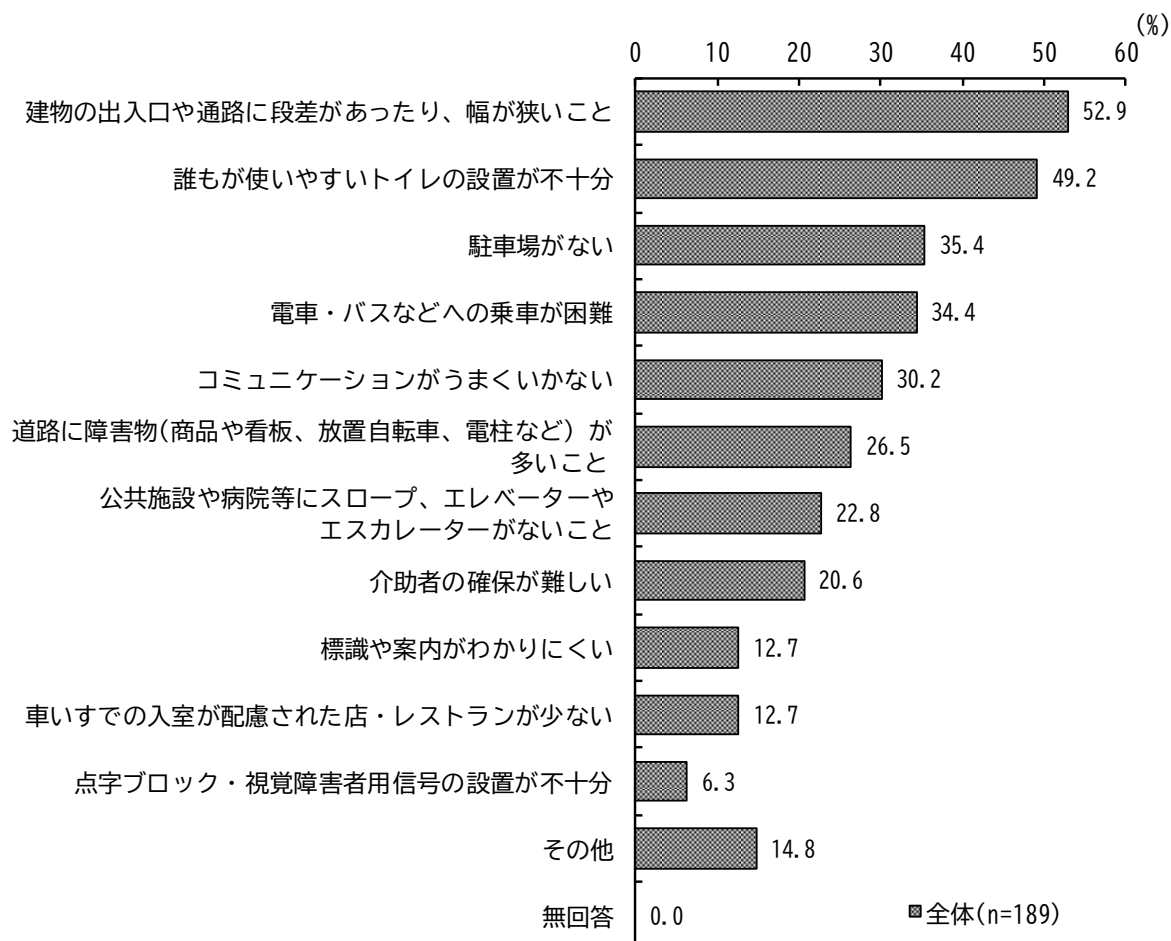
図表 市内のバリアフリー環境の整備状況の満足度(障害等の種類別)



問22-1 問22で「3」「4」と答えた方におたずねします。バリアフリー環境の整備状況に不満な理由は次のうちどれですか。(いくつでも○)

- ・「建物の出入口や通路に段差があったり、幅が狭いこと」(52.9%)が最も多く、次いで「誰もが使いやすいトイレの設置が不十分」(49.2%)、「駐車場がない」(35.4%)が続いている。

図表 不満な理由(バリア等)(全体:複数回答)
<やや不満、不満と回答した人>

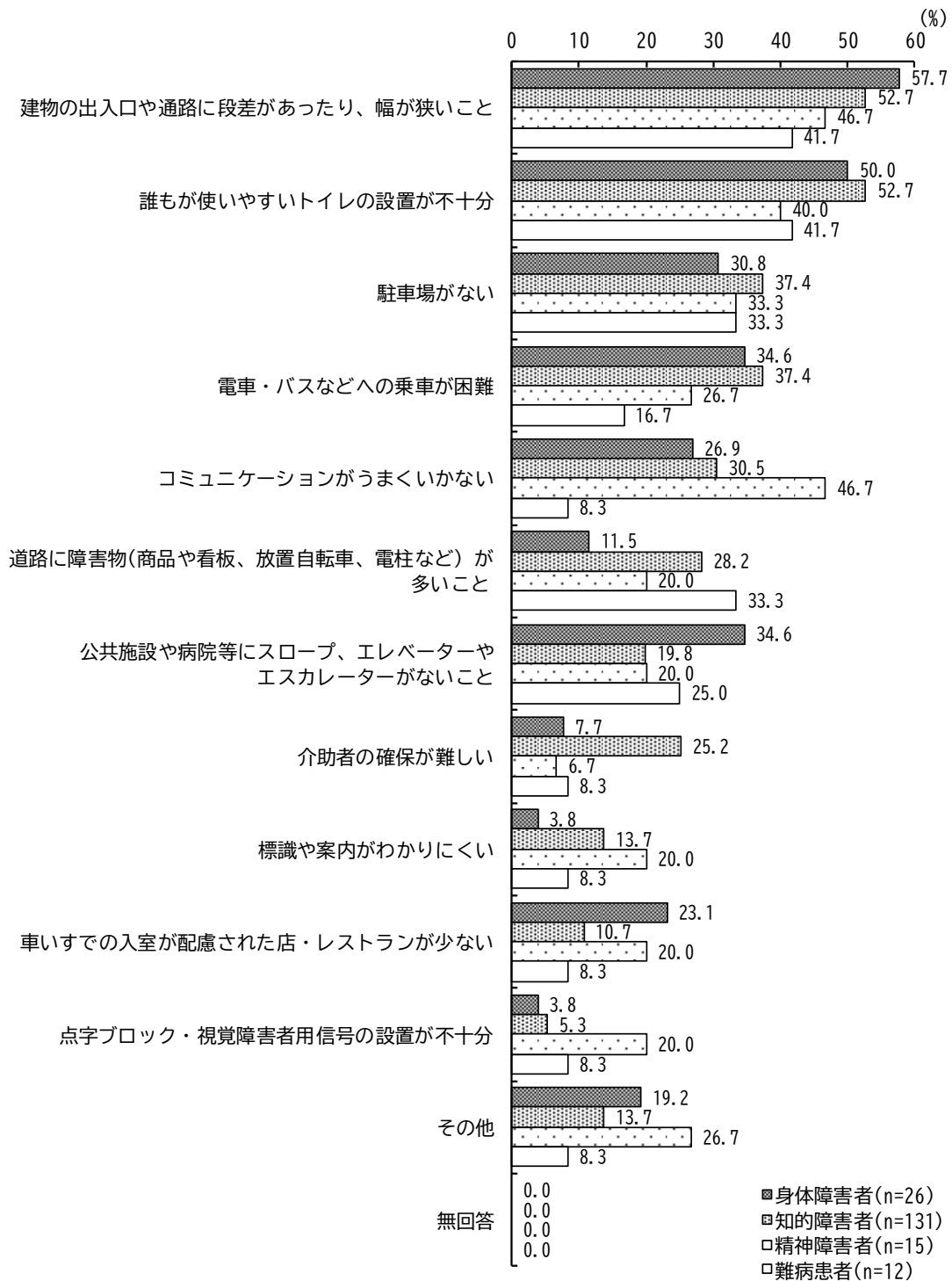


【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「建物の出入口や通路に段差があったり、幅が狭いこと」(63.6%)が最も多い。
- ・知的障害者、難病患者は「建物の出入口や通路に段差があったり、幅が狭いこと」(知的:52.7%、難病:41.7%)と「誰もが使いやすいトイレの設置が不十分」(知的:52.7%、難病:41.7%)が同率で最も多い。
- ・精神障害者は「建物の出入口や通路に段差があったり、幅が狭いこと」(46.7%)と「コミュニケーションがうまくいかない」(46.7%)が同率で最も多い。

図表 不満な理由（バリア等）（障害等の種類別：複数回答）

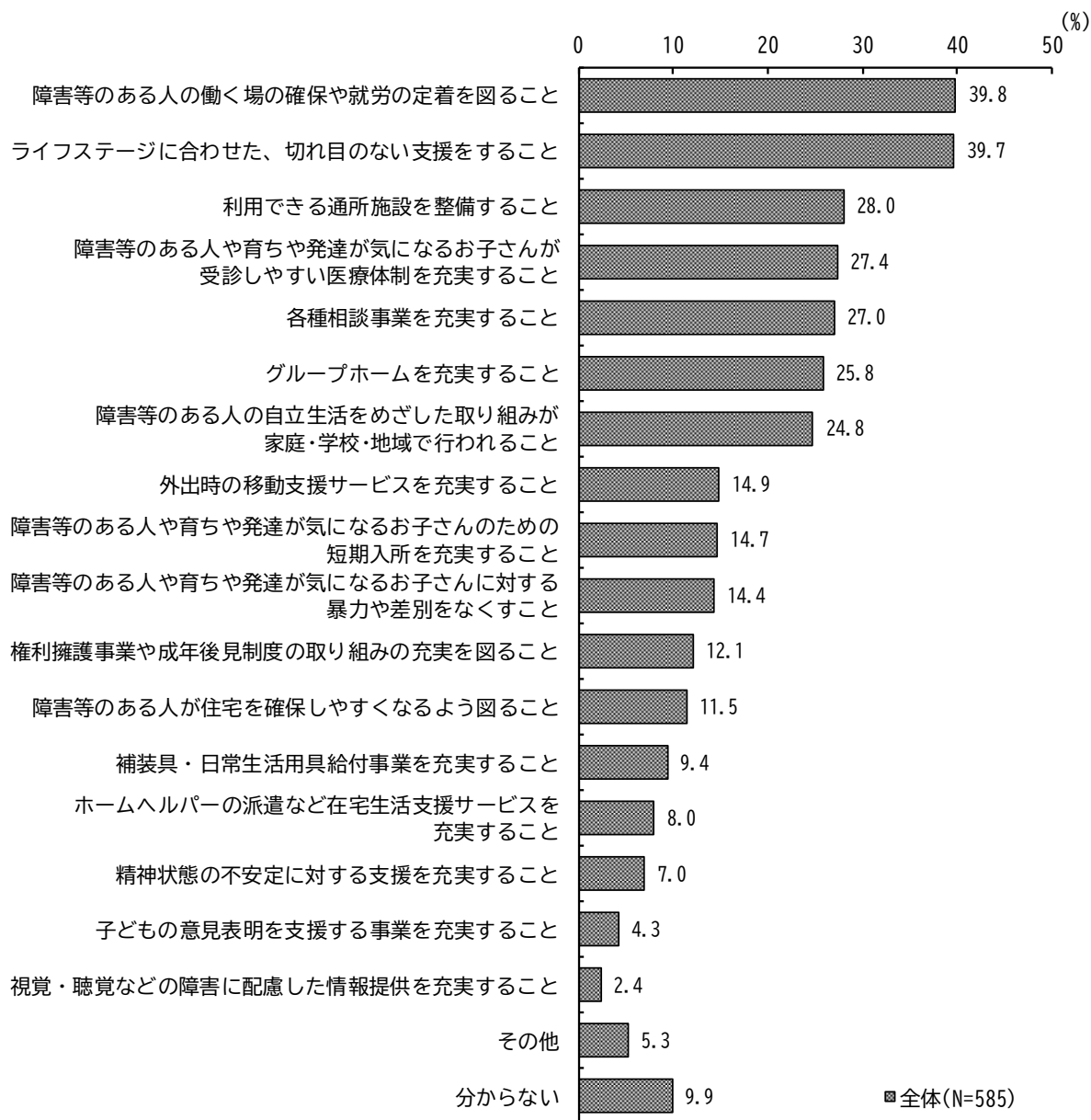
<やや不満、不満と回答した人>



問 23 府中市は障害等のある人や育ちや発達が気になるお子さんの施策について、どのようなことを充実させていけばよいと思いますか。次の項目の中から5つ、重要なものから順に、下記の に左から番号と具体策を記入してください。＜充実を望む施策＞

- ・「障害等のある人の働く場の確保や就労の定着を図ること」(39.8%)、「ライフステージに合わせた、切れ目のない支援をすること」(39.7%)が4割近くで多く、次いで「利用できる通所施設を整備すること」(28.0%)、「障害等のある人や育ちや発達が気になるお子さんが受診しやすい医療体制を充実すること」(27.4%)が続いている。

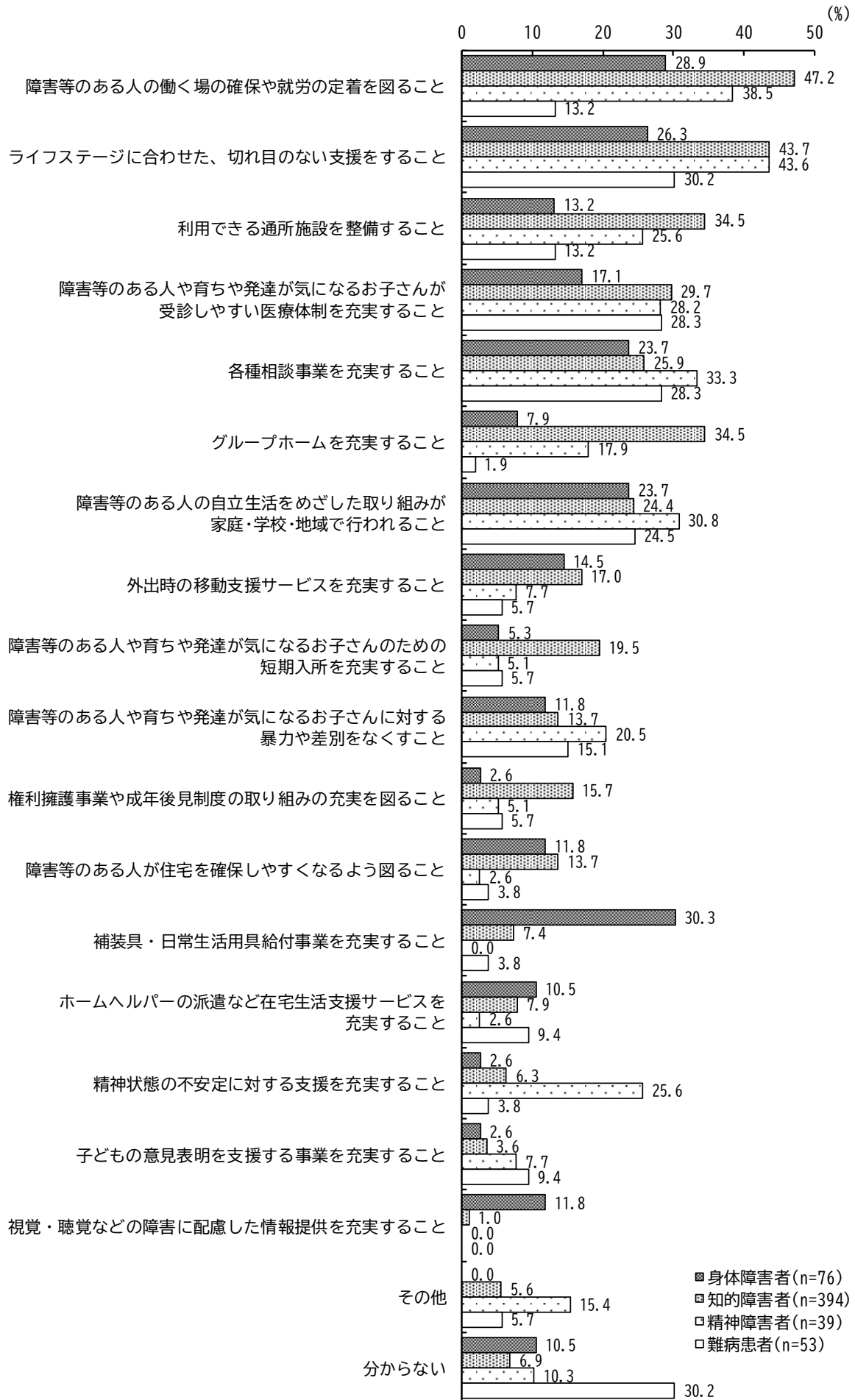
図表 充実を望む施策(全体：複数回答(1位～5位の合計))



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「補装具・日常生活用具給付事業を充実すること」(30.3%)が、知的障害者は「障害等のある人の働く場の確保や就労の定着を図ること」(47.2%)が最も多い。
- ・精神障害者と難病患者は、「ライフステージに合わせた、切れ目のない支援をすること」(精神：43.6%、難病：30.2%)が最も多い。

図表 充実を望む施策(障害等の種類別：複数回答（1位～5位の合計））



【障害等の種類・年代別】

- ・身体障害者では、乳幼児期は「ライフステージに合わせた、切れ目のない支援をすること」(40.0%)、学齢期と中学生～17歳は「補装具・日常生活用具給付事業を充実すること」(学齢期33.3%、中学生～17歳：29.2%)が最も多い。
- ・知的障害者では、乳幼児期は「ライフステージに合わせた、切れ目のない支援をすること」(59.6%)、学齢期と中学生～17歳は「障害等のある人の働く場の確保や就労の定着を図ること」(学齢期：54.2%、中学生～17歳：41.9%)が最も多い。
- ・精神障害者では、学齢期は「ライフステージに合わせた、切れ目のない支援をすること」(50.0%)、中学生～17歳は「障害等のある人の働く場の確保や就労の定着を図ること」(42.9%)が最も多い。
- ・難病患者では、乳幼児期は「各種相談事業を充実すること」(36.4%)、学齢期は「ライフステージに合わせた、切れ目のない支援をすること」(40.9%)と「各種相談事業を充実すること」(40.9%)、中学生～17歳は「障害等のある人や育ちや発達が気になるお子さんが受診しやすい医療体制を充実すること」(38.9%)が最も多い。

図表 充実を望む施策(全体、障害等の種類別、障害等の種類・年代別：複数回答)

			(%)									
障害等	種類	年代別	障害等のある人の働く場の確保や就労の定着を図ること	ライフステージに合わせた、切れ目のない支援をすること	利用できる通所施設を整備すること	障害等のある人や育ちや発達が気になるお子さんが受診しやすい医療体制を充実すること	各種相談事業を充実すること	グループホームを充実すること	障害等のある人の自立生活をめざした取り組みが家庭・学校・地域で行われること	外出時の移動支援サービスを実施すること	障害等のある人や育ちや発達が気になるお子さんのための短期入所を充実すること	障害等のある人や育ちや発達が気になるお子さんに対する暴力や差別をなくすること
障害者	全体	(N=585)	39.8	39.7	28.0	27.4	27.0	25.8	24.8	14.9	14.7	14.4
	身体障害者	(n=76)	28.9	26.3	13.2	17.1	23.7	7.9	23.7	14.5	5.3	11.8
	知的障害者	(n=394)	47.2	43.7	34.5	29.7	25.9	34.5	24.4	17.0	19.5	13.7
	精神障害者	(n=39)	38.5	43.6	25.6	28.2	33.3	17.9	30.8	7.7	5.1	20.5
	難病患者	(n=53)	13.2	30.2	13.2	28.3	28.3	1.9	24.5	5.7	5.7	15.1
障害者	身体障害者	乳幼児期	(n=15)	26.7	40.0	13.3	26.7	46.7	6.7	40.0	13.3	6.7
		学齢期(小学生)	(n=36)	25.0	27.8	11.1	16.7	19.4	2.8	22.2	16.7	2.8
		中学生～17歳	(n=24)	33.3	16.7	16.7	12.5	16.7	16.7	12.5	8.3	12.5
	知的障害者	乳幼児期	(n=47)	38.3	59.6	42.6	36.2	29.8	25.5	8.5	23.4	21.3
		学齢期(小学生)	(n=179)	54.2	48.0	40.2	26.3	27.9	37.4	26.8	21.2	22.3
		中学生～17歳	(n=167)	41.9	34.7	25.7	31.7	22.8	34.1	21.6	15.0	13.8
	精神障害者	乳幼児期	(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		学齢期(小学生)	(n=18)	33.3	50.0	38.9	38.9	38.9	16.7	44.4	5.6	11.1
		中学生～17歳	(n=21)	42.9	38.1	14.3	19.0	28.6	19.0	9.5	0.0	19.0
	難病患者	乳幼児期	(n=11)	0.0	27.3	9.1	18.2	36.4	0.0	27.3	9.1	0.0
		学齢期(小学生)	(n=22)	18.2	40.9	18.2	22.7	40.9	0.0	27.3	9.1	18.2
		中学生～17歳	(n=18)	16.7	22.2	11.1	38.9	11.1	0.0	22.2	0.0	5.6

			権利擁護事業や成年後見制度の取り組みの充実を図ること	障害等のある人が住宅を確保しやすくなるよう図ること	補装具・日常生活用具給付事業を充実すること	ホームヘルパーの派遣など在宅生活支援サービスを充実すること	精神状態の不安定に対する支援を充実すること	子どもの意見表明を支援する事業を充実すること	視覚・聴覚などの障害に配慮した情報提供を充実すること	その他	分からない
障害者	全体	(N=585)	12.1	11.5	9.4	8.0	7.0	4.3	2.4	5.3	9.9
	身体障害者	(n=76)	2.6	11.8	30.3	10.5	2.6	2.6	11.8	0.0	10.5
	知的障害者	(n=394)	15.7	13.7	7.4	7.9	6.3	3.6	1.0	5.6	6.9
	精神障害者	(n=39)	5.1	2.6	0.0	2.6	25.6	7.7	0.0	15.4	10.3
	難病患者	(n=53)	5.7	3.8	3.8	9.4	3.8	9.4	0.0	5.7	30.2
障害者	身体障害者	乳幼児期	(n=15)	0.0	20.0	26.7	11.7	6.7	6.7	0.0	0.0
		学齢期(小学生)	(n=36)	0.0	5.6	33.3	11.1	0.0	2.8	13.9	0.0
		中学生～17歳	(n=24)	8.3	16.7	29.2	12.5	4.2	0.0	12.5	8.3
	知的障害者	乳幼児期	(n=47)	6.4	21.3	8.5	6.4	2.1	4.3	8.5	10.6
		学齢期(小学生)	(n=179)	17.9	12.8	7.8	10.6	7.8	2.8	0.0	5.6
		中学生～17歳	(n=167)	16.2	12.0	6.6	5.4	6.0	4.2	1.2	4.8
	精神障害者	乳幼児期	(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		学齢期(小学生)	(n=18)	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	16.7	0.0	5.6
		中学生～17歳	(n=21)	9.5	4.8	0.0	4.8	19.0	0.0	0.0	14.3
	難病患者	乳幼児期	(n=11)	9.1	0.0	0.0	18.2	0.0	9.1	0.0	18.2
		学齢期(小学生)	(n=22)	4.5	4.5	9.1	9.1	4.5	4.5	0.0	22.7
		中学生～17歳	(n=18)	5.6	5.6	0.0	0.0	5.6	16.7	0.0	5.6

問 23 府中市の障害等のある人や育ちや発達が気になるお子さんの施策について、どのようなことを充実させていけばよいと思いますか。次の項目の中から5つ、重要なものものから順に、下記の ☐ に左から番号と具体策を記入してください。＜具体策＞

府中市の障害等のある人や育ちや発達が気になるお子さんの施策の具体策を自由記述形式でたずねたところ、304 件の回答を得た。以下、主なものを掲載する。【 】内に本人と記入者との関係を記している。なお、施策ごとの件数は、1人で複数の施策について回答している場合は重複してカウントしている。

（1）各種相談事業を充実すること（52 件）

【身体障害者】

- ・ 相談員を増やす(男性、小学校高学年)【父親】
- ・ もっと情報発信して欲しい（こちらが問い合わせるのではなく市からの積極的なアプローチがないとわからないことが多すぎる）（女性、小学校低学年）【父親】

【知的障害者】

- ・ 子どもの計画相談支援を義務化（それができる事業所の確保）。（女性、小学校高学年）【母親】
- ・ 各種相談事業から医療機関など必要な支援につなげてもらえるとありがたい。（男性、幼児期）

【母親】

- ・ 障害児相談支援でもう何年もいっぱい入れない。事業所かスタッフの増加。（女性、小学校高学年）【母親】
- ・ セルフプランを作ってくれる事業所が少ないので増やしてほしい。（男性、中学生）【母親】
- ・ 受けられる支援やサービスの情報や手続きの窓口を一本化して、情報弱者でも公平にサービスを受けられるようにする。（男性、小学校高学年）【母親】
- ・ 受けられるサービスをまとめて提示してほしい。（男性、幼児期）【母親】
- ・ 専門員が増えること。専門員を増やすための勉強会や資格取得に資金を出すこと。（男性、小学校高学年）【母親】
- ・ 生成 AI によるチャットサービス導入（女性、幼児期）【父親】
- ・ どのような内容を相談できるのか、どこで相談できるのか明確にしてほしい。（女性、乳児期）【母親】

【精神障害者】

- ・ 親と本人を支える相談支援。（女性、中学生）【母親】

【難病患者】

- ・ 民間の療育施設との連携を強化して欲しい。（男性、幼児期）【母親】

(2) 障害等のある人が住宅を確保しやすくなるよう図ること (12 件)

【知的障害者】

- ・ 障害者の収入でも市内の住宅を確保できる支援。(男性、小学校高学年)【父親】
- ・ 独り暮らしができる住宅があるといい。(性別は回答したくない、高校生)【母親】
- ・ 知的障害があっても、虐待の心配がない管理者のいる居住場所があるとありがたいです。(女性、小学校低学年)【母親】

(3) 権利擁護事業や成年後見制度の取り組みの充実を図ること (4 件)

【知的障害者】

- ・ 制度に関する勉強会や相談会の開催。(女性、中学生)【母親】
- ・ 親族が後見人になる。養育する人が高齢になり世話できないので 後見人制度を無償化する。(男性、小学校高学年)【母親】

(4) 障害等のある人の働く場の確保や就労の定着を図ること (41 件)

【身体障害者】

- ・ 就労枠の確保。(女性、中学生)【母親】
- ・ 外見ではわからない内部障害がある人でも働きやすい(休みやすい)職場作り。(女性、小学校高学年)【母親】
- ・ 企業の障害者募集の案内など、情報発信。(男性、年齢無回答)【母親】

【知的障害者】

- ・ 障害を理由に就労の定着が困難な場合が多いので、一人一人に合った働く場の拡充が必要(男性、幼児期)【父親】
- ・ 必ず皆、大人になるので就労に対しての支援をしてほしい。(男性、小学校低学年)【母親】
- ・ 自立可能な給与をもらえる就労先の確保、市と事業者提携。(男性、高校生)【母親】
- ・ 市役所などで働く場所を作る。(男性、中学生)【母親】
- ・ 障害のある人が働いて安定した収入が得られる職場を増やして欲しい。(男性、幼児期)【母親】
- ・ 障害者が就労するためには、周囲の健常者の理解や障害者自身が、健常者と関わることが必要だと思います。そのためには、全ての小・中学校に支援学級を設置して、普段からお互い関わり合って生活することが重要だと思います。奈良県の生駒市立の小・中学校は 30 年前から、インクルーシブ教育がなされていました。胃ろうの子も、気管切開で吸引が必要な子も普通学級で可能な限り健常児と一緒に過ごしていました。障害のある子を分けるのは簡単ですが、大人のやり方次第で一緒に過ごすことは可能だと思います。周りの健常の子達にとって必ず良い影響があると思います。次の時代を担う、今の子ども達をインクルーシブ教育で育てることで必ず社会は良い方向に変わっていきますよ。(女性、幼児期)【母親】
- ・ A型作業所ができてほしい(男性、小学校高学年)【母親】

- ・雇用して終わらず、離職しないような取り組みを図っていく。（男性、高校生）【母親】
- ・肢体の障害より知的の障害者を雇う会社がないように思います。（男性、高校生）【母親】

【精神障害者】

- ・そのような場が少ないので、市が社会に対して働きかけをしてほしい。（男性、小学校高学年）【母親】
- ・職場の理解。（女性、高校生）【母親】

（５）ホームヘルパーの派遣など在宅生活支援サービスを充実すること（９件）

【身体障害者】

- ・子どもの場合でも必要に応じてヘルパーが使えると良い。（女性、小学校低学年）【母親】
- ・できるだけ地域で生活できるよう、ヘルパー利用枠を増やす。（女性、中学生）【父親】

【知的障害者】

- ・ヘルパーが足りなくて利用できないのでヘルパーを増やしてほしい。（女性、小学校高学年）【母親】
- ・ヘルパーの質が不安定なことが多いので人材育成に力を入れてほしい。（男性、高校生）【母親】
- ・小児ケアできる事業所の充実。（女性、小学校低学年）【母親】

（６）利用できる通所施設を整備すること（２３件）

【身体障害者】

- ・施設を運営する団体への支援。職員の働きやすい環境づくり。（女性、幼児期）【母親】
- ・本人の特性を生かした仕事ができる施設がいろいろあると良い。アートの工房、音楽できる所とか。（女性、高校生）【母親】

【知的障害者】

- ・はばたきの長期休暇（3weeks×年３回）中に利用できる児童発達支援の施設がほぼない。これが大きな問題です。（男性、幼児期）【母親】
- ・はばたきだけでなく保育園でも重度の知的障害がある子どもを受け入れてほしいです。「どろんこ保育園」のような所を増やしてほしい。（男性、幼児期）【母親】
- ・療育、放課後デイサービス等が少ない。増やしてほしい。（男性、小学校低学年）【母親】
- ・学習的なフォロー施設をもっと増やして欲しい。（男性、中学生）【母親】

【精神障害者】

- ・もう少し長い時間預ってほしい。（男性、小学校高学年）【母親】

(7) 補装具・日常生活用具給付事業を充実すること(16件)

【身体障害者】

- ・給付申請について、分かりやすいフローチャートのようなものがあるとよい。(男性、小学校高学年)【母親】
- ・助成してくれる物が少ない。人工内耳の助成がもっと欲しい！(女性、小学校高学年)【母親】
- ・障害の程度は大きいのに、基準から外れて支援を受けられません。(男性、小学校高学年)【母親】

【知的障害者】

- ・アフターケアを充実してほしい。(男性、中学生)【母親】
- ・所得制限の廃止。(男性、高校生)【母親】

(8) 外出時の移動支援サービスを充実すること(9件)

【身体障害者】

- ・通学時の送迎が毎日で大変。障害OKのヘルパー等の整備(たちのヘルパー拡充等) (男性、小学校低学年)【母親】

【知的障害者】

- ・通学バスの整備(特別支援学級の学区外から通う子どものため)(男性、小学校高学年)【母親】
- ・バス、電車などの不特定多数の人物と接触を避けるようなタクシーサービス。(男性、幼児期)【母親】

(9) グループホームを充実すること(15件)

【身体障害者】

- ・肢体不自由な人たちのグループホームが足りない。(男性、高校生)【母親】

【知的障害者】

- ・数を増やす。親なき後が不安(女性、小学校低学年)【母親】
- ・老朽化した市営アパート跡地利用等で場所確保。(男性、小学校低学年)【母親】
- ・親がいなくなっても支援を受けながら生活できるような世の中。(男性、中学生)【母親】
- ・家族と離れて暮らすことのできる施設を市内各町で設ける。(男性、小学校低学年)【母親】

(10) 視覚・聴覚などの障害に配慮した情報提供を充実すること(2件)

【身体障害者】

- ・保護者がいなくても自立できる支援。(男性、幼児期)【母親】

(11) ライフステージに合わせた、切れ目のない支援をすること (46 件)

【身体障害者】

- ・ 支援機関が変わる時など、スムーズにいくように、機関どうしでも連携する。(男性、小学校低学年)【母親】
- ・ 入学、進学等での支援が継続される様な仕組み。(女性、中学生)【母親】
- ・ 進学や就職する際、行政からも障害の情報などを共有・進言する(進学先等へ)。(男性、幼児期)【母親】

【知的障害者】

- ・ ライフステージが変化する場面が多々あるのに、その相談窓口が少なすぎる気がする。(女性、幼児期)【母親】
- ・ 年齢の上限下限でつながれない支援も多いので、そういった場合の代替案が提案していただける支援が欲しい！(男性、小学校高学年)【母親】
- ・ 小児から成年になる時に病院(通院の)を変えなければならないので通院できる病院(0才～成人以降まで)をふやしてほしい。(男性、中学生)【母親】
- ・ 卒業後の生活が見えにくく、情報がもっとオープンであってほしいです。(男性、小学校高学年)【母親】
- ・ 子ども、保護者ともに、そのときの状況に沿った具体的な打開策を話し相談できる場。(女性、高校生)【母親】
- ・ 縦割ではなく横のつながりによる親も子も一度切れてもまたつながられる支援体制。(男性、高校生)【母親】
- ・ 就学前と就学後で支援がプツッと切れるように感じる。その後の方が大切だと思う。(女性、小学校低学年)【母親】
- ・ 生涯、継続して相談、サポートしてくれる機関の充実。(男性、小学校高学年)【母親】
- ・ 連絡を途絶えさせず、必要ならば家庭訪問など行う。(男性、小学校高学年)【母親】
- ・ 児童→成人に移行する際に新しい医療機関を探すのが困難だった。(男性、高校生)【母親】

【精神障害者】

- ・ 卒業後に相談できる機関を統一する。一か所で相談できるように。(男性、高校生)【母親】
- ・ 学校、福祉サービス、市とが情報連携してほしい。(男性、高校生)【母親】

(12) 障害等のある人の自立生活をめざした取り組みが家庭・学校・地域で行われること (11 件)

【知的障害者】

- ・ 一人で登下校をするのに学校主導となっていくカリキュラム。(男性、小学校低学年)【父親】
- ・ 支援学級の先生の質と人数の充実。(男性、小学校低学年)【父親】
- ・ 各学校に支援級。人員確保。(男性、中学生)【母親】

【精神障害者】

- ・ 分かりやすい成長のフローと相談機関の一覧。

(13) 障害等のある人や育ちや発達が気になるお子さんに対する暴力や差別をなくすこと（9件）

【知的障害者】

- ・ 社会の理解を深め、傷つく人が少なくなればと思う。障害が違う場合障害者同士でもばかにする人がいる。（男性、小学校高学年）【母親】
- ・ 通常級との日常的な関わりが皆無。支援級というだけでレッテルを貼られている。隔離されているような現状ですが、日頃からの関わりがあれば排除しようとはしなくなるのでは。（男性、小学校低学年）【母親】
- ・ 差別が大きすぎる。障害者を排除したいという気持ちをひしひしと感じる。子どもの頃から障害ある子たちと接するよう特別支援学級を全学校に設置すべき。（女性、幼児期）【母親】

(14) 障害等のある人や育ちや発達が気になるお子さんが受診しやすい医療体制を充実すること（28件）

【身体障害者】

- ・ 療育の診察機関が増えてほしい。（男性、高校生）【母親】
- ・ 発達検査ができる医療機関を増やしてほしい。療育や小学校での支援も。（男性、小学校高学年）【母親】

【知的障害者】

- ・ 障害児でも受けいれてくれる病院はホームページなどに記載して欲しい。（男性、幼児期）【母親】
- ・ 障害の程度にかかわらず言語聴覚士や作業療法士などの専門家のサポートを必要に応じて受けられるような体制づくり。（男性、幼児期）【母親】
- ・ 病院内に入ることが難しかった時に、車内で診察を希望したが無理と言われてしまった。何か方法があればうれしい。（女性、小学校高学年）【母親】
- ・ 順番が待てない、大声を出すなどの困り事があっても安心して受診できるような体制を早急に整備してほしい。（女性、高校生）【母親】
- ・ どの病院も新規患者を受け入れてなかったりです。なかなか病院に行けなかった。（女性、小学校高学年）【母親】

【精神障害者】

- ・ 発達障害の疑いがあっても受診まで1年かかりました。病院を増やして欲しい。（男性、小学校低学年）【母親】
- ・ 病院を受診したいと思ってもどこに行けばいいかわからない。府中市は病院が少ない。病院のリスト等をもらえたら嬉しい。（男性、小学校高学年）【母親】

(15) 障害等のある人や育ちや発達が気になるお子さんのための短期入所を充実すること（9件）

【知的障害者】

- ・ 家族が疲弊してしまうと（特に母親）結局、うつになったりストレスで手をあげてしまうこともあると思う。休息は大事。母が元気なら子どもにも良い影響が出る。（男性、幼児期）【母親】
- ・ 老人ホームのような子ども向け施設をふやす。（女性、幼児期）【母親】
- ・ 医療的ケアOKのショートステイ先。医師確保。（女性、中学生）【母親】

(16) 子どもの意見表明を支援する事業を充実すること（1件）

- ・ 放課後デイサービスなどでソーシャルスキルトレーニングをできるようにする。（男性、中学生）【母親】

(17) 精神状態の不安定に対する支援を充実すること（3件）

【精神障害者】

- ・ 学校等の先生方の理解に差がある様に思います。研修などより深く学んでいただく機会が増えたらと思いました。（男性、小学校高学年）【母親】

(18) その他（12件）

【知的障害者】

- ・ 愛の手帳取得に時間がかかりすぎる。検査や診断できる施設の充実を。（男性、幼児期）【父親】
- ・ 通常級に通える程度の軽度障害への正しい理解（学校での）。（男性、高校生）【母親】
- ・ デイサービスの情報。困った時はどこへやどんなサービスがあるかの一覧表やHPへまとめてリンク飛べるように。親の会がない親同士の交流や勉強会。（男性、小学校高学年）【母親】

問 24 府中市の障害等のある人や育ちや発達が気になるお子さんの施策、地域で暮らし続けるために必要なこと等に関して、ご意見・ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

府中市の障害等のある人への施策、地域で暮らし続けるために必要なこと等に関して、自由記述形式でたずねたところ、215 件の回答を得た。以下、主なものを掲載する。【 】内に本人と記入者との関係を記している。

(1) 教育 (41 件)

【身体障害者】

- ・インクルーシブ教育を進めていくべき。地域で学ぶことは、地域で生きることになる。障害があっても地域の学校に通うことがあたりまえにしていって!地域の人にも知ってもらい助けてもらったり学ぶことができる。(女性、小学校低学年)【母親】
- ・息子が幼稚園へ入園する際、障害があるというだけで本人も見ずに断られたり、府中市に紹介してもらって下さいと言われたり、受け入れ側に理解がありませんでした。できること・できないことを伝えたり、理解してもらうのに苦労しましたが、それを小中高と進学する際また同じことをするのかと思うと正直ストレスです。子どもへの差別なく働きかけも大切ですが、大人(教育者)への働きかけも大事です。公立・私立問わず、教育関係者へ理解を深めてもらう活動をしてください。(男性、幼児期)【母親】

【知的障害者】

- ・情緒学級を設置してほしい。それが難しいならインクルーシブ教育の導入を推進してほしい。それも難しいなら交流級を充実させてほしい。(男性、小学校低学年)【母親】
- ・小学校入学まで療育園で過ごしてきた子が特別支援学級に入れないことを耳にした。どのようにして通常級でその子のサポートをするのか不思議でならない。教師側に余裕がないのに、更に課題のある子と明らかに分かっているのに、その子を考えているのか。親の思いは無視していいのか。その子にあった数字だけじゃない所をみて学校を選んでほしい。(男性、高校生)【母親】
- ・市内の小中学校全てに特別支援学級を設置してほしい。通常級との壁をととても感じたのでもっと交流を増やして、小さい頃から発達障害への理解を深めて互いがあたり前の存在になることを願っています。全校への設置がむずかしい場合にはスクールバスを運行してほしい。先生方ももっと発達障害への理解を持つ方が増えるといいなと思います。(男性、中学生)【母親】
- ・発達障害や知的障害について知らない人が多すぎる。学校教育に取り入れられるなど、もっと知ってもらう機会を増やして欲しい。(女性、幼児期)【母親】
- ・府中市の公立学校の教師たちへの発達障害の子どもへの理解を深めるための研修の義務づけをする。全員の教師たちは発達が気になる子どもたちへの関わり方を知っておくべきだと思う。(男性、高校生)【母親】
- ・なかよし学級が各学校にほしい。もしくは、通うための手段がほしい。遠いため、歩行が無理。毎日母が自転車で送迎している。(女性、小学校高学年)【母親】

- ・公立の小学校の支援級を充実させてほしい。個別支援、対応に満足していない。（女性、小学校低学年）【母親】

【精神障害者】

- ・就学相談で支援学校判定だった子が支援級に行く場合、毎年でなくとも継続するかどうかを話し合ったり、再判定してほしい。学校側の負担が増えて、支援級判定の子どもが適切な支援を受けられていないように感じるため。（男性、小学校低学年）【母親】
- ・発達障害の学級をつくってほしい。通常級では限界だし、通級で足りないし、支援級は入れてもらえないし。（男性、小学校高学年）【母親】
- ・発達特性で極端に苦手なことがあるのは、甘やかしてるのでもわがままでもなくて、本当にダメなものはダメなんだと、多くの人に知ってもらいたい。特に先生に。（女性、中学生）【母親】

(2) 療育、発達支援 (12 件)

【知的障害者】

- ・障害児を受け入れてくれる保育施設が少なすぎる、受け入れる側の体制もあるだろうがもう少しどうにかして欲しい。また今時は共働きが多く、療育に連れて行ったりするのも公休をわざわざ取ったりしているので、その分の手当や交通費など何らかの補助が欲しい。（男性、幼児期）【母親】
- ・療育施設、放課後デイサービスがもっと増えたら良い。希望日数通えない。空き待ち状態。支援学級が小・中全ての学校にあれば良い。学区外から通っている為、通学が大変。近所に友達がいない。（男性、小学校低学年）【母親】
- ・日常生活での身体的なフォローは必要ないが、学習での困り事がある、グレーゾーンへの対応が、本当に少なく、もう少し手厚さが欲しい。（男性、中学生）【母親】

【精神障害者】

- ・知的障害を伴わない発達障害（ADHD・ASD）を子どもがもっています。もともと東京ではない場所に住んでおり、情緒固定学級に在籍しながら、普通級でも授業を受けたりしていました。本人の特性に合わせた支援は、普通級+ひばりでは足りていません。担任の先生にも負担をかけていると感じ、親もつらいです。全ての学校に情緒固定学級が設置されることを願っています。（男性、小学校高学年）【母親】
- ・早期に発見、療育などにつながる事がとても大切だと思います。（男性、小学校高学年）【母親】

(3) 障害・難病への理解 (18 件)

【身体障害者】

- ・周囲の理解・配慮があれば良いのですが、そこが足りないと上手くいきません。（男性、高校生）【母親】
- ・お出かけをすると色々なまわりの視線が気になる。障害がもっと身近に理解されるような取り組みをしてほしい。（女性、乳児期）【母親】

【知的障害者】

- ・障害のある子が地域で暮らし続けるために必要なことは、一番は周りの障害の理解とお金のサポートだと思います。それと同じく、養育する保護者への心のサポートが必要だと思います。家族にうまくサポートしてもらえず心療内科に通院するまでになり、その分のお金と心の余裕のなさは子どもにも良くないのに、どうにもなりません。（男性、中学生）【母親】
- ・社会の人の理解が必要だと考えます。障害の有無に限らず誰でも過ごしやすい社会になるにはどうすればいいのか考えていただきたいです。（男性、小学校高学年）【母親】

【精神障害者】

- ・市民全員の理解は難しくとも、せめて学校関係に勤める方にはもう少し障害のことを理解して欲しいです。サポートを求めても、「他の子はできているから」と断われ登校拒否ぎみになっています。（女性、中学生）【母親】
- ・周りの理解、市の方の理解、教師の理解（障害児への）。（女性、高校生）【母親】

（4）情報提供（13件）

【身体障害者】

- ・家族からの相談や問合せを待つのではなく、必要な又は有用な情報（受けられる給付やサービスの内容や手続き等）を市から積極的に案内・発信すること。（女性、小学校低学年）【父親】
- ・障害児を産んだ時に何のサービスが受けられるのか自ら調べないといけない所があったので、知らない人は受けられるサービスも受けていないことがないように情報を提供してもらえるようお願いしたい。障害児を産んで不安で自分事で精一杯な精神状態なので、市が積極的に福祉サービスの内容を伝えてもらえるとありがたい。仕事はあるのに保育園が見つからず2年半貯金を切り崩して生活していたので、障害児保育の受け入れも積極的に行ってもらえるよう支援してもらいたい。（女性、中学生）【母親】

【知的障害者】

- ・1歳半健診から相談していても、ずっと「様子を見ましょう」ばかりだったので、もっと早期から具体的なアドバイスや施設へのつながり、具体的な支援が必要。特に普通級にいと何も情報が無く、自分で情報を集めるしかないが、市のホームページなどにまとまっていない。特別支援学級でも保護者のネットワーク頼みであり、むしろ市の情報の方が古い。市の担当部署は、もっとアンテナをはり、情報収集、更新、そして発信を細かくやってほしい。（男性、小学校高学年）【母親】
- ・障害があるとわかってから家族への情報提供が不十分と感じます。わかりやすく、これからの必要となる療育とその施設への連携を充実させていただけたらと思います。また卒業後が一番不安です。作業所やグループホーム、大人向けのデイサービスがあったらと思います。（女性、小学校高学年）【母親】

(5) 相談 (14 件)

【身体障害者】

- ・府中市の支援には感謝しております。”前例がない”で相談終了になることがありましたので、その様な相談も前向きな対応をお願いしたいです。(女性、小学校低学年) 【母親】

【知的障害者】

- ・相談がしやすい環境。相談をしても良いということを広めてほしい。相談できずに困っている人は多いので。(男性、小学校高学年) 【母親】
- ・親がいなくなった後に向けて、今からやっておいた方がよいことを相談できる場所を教えてほしい。信頼できる相談員の方を増員してほしい。事業所に問い合わせても空きがないと断られ続けています。相談員の方を市役所から割り当ててほしい。(男性、小学校高学年) 【母親】
- ・安心しいつでも相談ができるように、府中市の中で状況を共有してほしい。定期的に困っていることがないか、相談員さんが決まっていると相談しやすい。連絡をくれたりなど。(男性、中学生) 【母親】

【精神障害者】

- ・2回就学相談を受けたが対応が親切ではない。情緒級が無く本当に困りました。なので引っ越します。就学する中学校の方の対応がとても良かった。小学校の先生、特に担任の先生の対応がとても良く感謝しております。(男性、小学校高学年) 【母親】

(6) 放課後等デイサービス (10 件)

【身体障害者】

- ・夏休み時期の放課後等デイサービスの預り時間が短く、仕事を時短にしないといけない。(女性、小学校低学年) 【母親】

【知的障害者】

- ・特別支援学校の中にも公立小学校と同じように学童や児童の預り場所を作してほしいです(放課後に利用できる場所)。(男性、小学校低学年) 【母親】
- ・普段、放課後等デイサービスを週5日利用しているが、1日約1,000円自己負担がかかっているのに、普通級に通う兄弟が利用している学童の利用料6,800円(おやつ代込)と比べて高額で、家計を圧迫している。(男性、小学校高学年) 【母親】

(7) 障害者施策全般 (8 件)

【身体障害者】

- ・重度障害(児)者に対する支援(施設や手当)は手厚いが、軽度や聴覚障害など見た目にはわかりにくい障害(児)者に対する支援をもっと充実させてほしい。(男性、小学校高学年) 【母親】

【知的障害者】

- ・障害のある方についてのサービスを増やして欲しい。（男性、高校生）【母親】
- ・サービスは多くあるのに、子に合わせた支援が少なく、利用できない。（女性、小学校高学年）【母親】

【サービス利用者】

- ・障害があるから他の人とは違う道（進路など）を行くべきとか、専用の場所に対応すべきなどとあまり切り分けないでいただけないかなと思います。（男性、中学生）【母親】

（8）移動支援、通院介助（3件）

【知的障害者】

- ・現在、支援級が少なく、小学校へ通学するのに30分以上かけて歩いています。精神も不安定なため付き添い登下校です。毎日のことなのでものすごく負担が大きいです。今のままですと、中学校は四谷から第四中学校まで1時間ほどかかります。日新からの子どもたちも四中です。スクールバスの運行、支援級の増設を強く要望いたします。（男性、中学生）【母親】

【精神障害者】

- ・移動支援で学校送迎が求められている。特に母子家庭では必要。不登校の母親の離職率が高いことから、放課後デイサービスの無償化や、自治体のフリースクール助成金を検討してほしい。給食費など無償化になりましたが、不登校の家庭では負担があり様々な福祉サービスで家庭の負担を軽くしてほしい。（女性、小学校高学年）【母親】

（9）手続きや窓口対応（7件）

【身体障害者】

- ・いろいろと受けることのできるものがあると思いますが、窓口が複雑でわかりにくいので、わかりやすくしてもらおうと、自分の子どもたちが利用することのできるものが何なのか把握できるかなと思います。（男性、幼児期）【母親】

【知的障害者】

- ・愛の手帳4度を取ったにもかかわらず、成人判定の際に支援をストップされる（愛の手帳を取得できない）事例を身近に聞いております。一度判定されたものを取り上げられるという制度は、どう考えてもおかしいです。保護者は大変困るので、成人で無くすのは止めて下さい。（男性、高校生）【母親】

(10) 在宅生活支援 (2 件)

【知的障害者】

- ・共生や共存はむずかしいという前提で、支援体制のみの強化で良いと思う（お金、設備）。（男性、幼児期）【父親】

(11) まちづくり (3 件)

【身体障害者】

- ・道路と歩道の段差が低いところでも、車イスでは難しいところも多く、歩道なのに 20~30cm の起伏（傾斜）が周囲にあり、大人が介助していても大変です。府中駅等はフラットですが、各駅停車駅の小さな町には不便がたくさんあります。細やかなところのインフラ整備を進めて頂けると子どもが大きくなった時に安心できます。（男性、小学校低学年）【母親】

(12) 学校卒業後の生活 (14 件)

【身体障害者】

- ・卒業後の進路の拡充、卒業後の預かりサービス（通所）の時間を夕方にしてほしい。（女性、小学校高学年）【母親】

【知的障害者】

- ・支援学校(武蔵台学園)はとても良く安心して通っていますが、卒業後(高等部)の生活がものすごく不安です。親はずっと支援しつつける体力はないので、自立した生活(グループホームなど)が見分かるイメージがわかりません。（男性、小学校高学年）【母親】
- ・学校卒業して就職すると、放課後デイサービスが受けられなくなり、土・日など休みの日を過ごすのが大変で、余暇活動を自力で探し続けるのはとても大変なので、成人した人が使えるデイサービスみたいなことをしていただきたいです。（男性、中学生）【母親】
- ・親が面倒をみるのは限界がある。申し訳ないことではあるが、18 才以降は希望すれば親元を離れて生活できる場を確保してほしい。（女性、小学校高学年）【母親】
- ・支援学校に通うレベルの子どもは、卒業後就労施設しか行ける場所がないので、卒業後有料でもいいので通えるところがあるといい。アート教室、体操教室など簡単な内容でも行き場があるのはうれしいです。（男性、高校生）【母親】
- ・特別支援高等学校に通っているが、卒業後就職することが決定コースのようにになっているが、本人は大学（もしくは専門学校）に進学希望している。進学相談（ハードルが高い子も）場所があると良い。（男性、高校生）【母親】
- ・学校を卒業してしまうと、特に生活介護の子どもはリズムが狂ってしまい問題行動をおこすことが多いです。本当は学校のようにメリハリのある生活ができれば良いですが、なかなか難しいと思うので体力を使う活動を増やしてほしいです（散歩や体育館で運動など）。

(13) 医療、医療的ケア (8 件)

【身体障害者】

- ・小さい子ども3人を育てながら仕事をしている為保育園の利用が必須ですが、1人医療的ケアが必要なため、入所できる園やタイミングが限られていることにより、兄妹の保育園同時入所など厳しく、仕事になかなか復帰できないことや、復帰しても以前と同じ労働時間働けないかもしれない状況なため、もっと医療的ケア児に対する対応を変更してほしいと感じました。(男性、幼児期)

【母親】

- ・発達が気になる子の病院の先生に相談できるまで6ヶ月待ちと言われて、そのままになったことが有るので、すぐ受診できたらよかったと思ってました。(男性、中学生) 【母親】
- ・医療ケア児を受け入れてくれる保育園・幼稚園が減少していると聞きました。それらが拡充していただければうれしいです。(女性、乳児期) 【母親】

【知的障害者】

- ・病院が受診しにくいのが一番の悩みです(覚悟が必要)。理解、配慮がある病院が家の近くにほしいです。(男性、幼児期) 【母親】

【サービス利用者】

- ・精神科を増やし、診断された後のケアも充実させて欲しいです。(男性、中学生) 【母親】

(14) 家族への支援 (8 件)

【知的障害者】

- ・18才までの子どもが利用できるショートステイを増やしてほしいです。(男性、中学生) 【母親】
- ・両親共に50代、兄弟で障害有。親の負担はものすごいです。助けてほしい。(男性、高校生)

【母親】

- ・子どもが入院中に兄弟の面倒を見られる人がおらず自己負担でシッターさんを手配したのが大変でした。双子出産時にして頂いたサポートさんを頼むのに使えるチケットがあったらよかったのと思いました。(女性、幼児期) 【母親】
- ・親が障害ある子どもと共に総崩れして精神崩壊しない環境があればと思う。(男性、中学生) 【母親】
- ・子個人だけでなく、家庭全体で支援してほしい。(男性、幼児期) 【母親】

(15) 手当や経済的な支援 (6 件)

- ・親は仕事をやめて障害児を24時間みています。所得制限でもらえるはずの助成金がもらえません。子どものために使うお金がない。オムツ代もかかる。コミュニケーションカードを手作りしても壊されるのくり返し、お金がかかる。市の所得制限を廃止してほしい!!! (女性、幼児期) 【母親】

- ・障害児が通える習い事が少なすぎる。もっとたくさん経験する場を。民間の習い事(障害児向け)は高額なので助成してほしい。障害児の育児に所得は関係ない。色々な手当の所得制限を撤廃してほしい。(男性、小学校高学年)【母親】
- ・若干収入が増えたことで4,600円の上限から37,000円に増え、急に負担が大きくなりなかなか利用ができなくなったので、もう少し緩やかにしてほしい。(男性、小学校高学年)【男性】

(16) 交流 (2件)

【知的障害者】

- ・障害のある人、ない人がいつでも触れあえるような場がたくさんあると良いと思います。(男性、中学生)【母親】

(17) 施設、グループホーム (7件)

【知的障害者】

- ・グループホームを充実させてください。親が老いた時必要です。(男性、小学校低学年)【母親】
- ・グループホームで重度の人が利用できる場所を増やして欲しいです。ショートステイも同様に思います。(男性、中学生)【母親】
- ・養育者が高齢になった時に障害者が安心して暮らせる施設を市内に作って欲しい。例えば、高齢者の両親が暮らせる施設と子(障害者)が暮らす施設を隣接して作り日中は同じ場所で過ごせるような施設があれば将来の不安がなくなります。障害者が入所できる施設が近くになく、地方に行くしかない現状があるようなので…(女性、高校生)【母親】

(18) 就労 (2件)

【知的障害者】

- ・就労A型がない。働ける場が少ない。(男性、高校生)【母親】
- ・特別支援学級で学ぶ子どもたちが、将来どうなっていくか、どうなれるかについての情報が少ない。親から経済的に自立するには、家賃も高く物価も年々上がっていて、いつまでも子を経済的に支えていなくてはならないのかという不安が大きいので、就労支援や就労し長く働き続けるためにはどうしたら良いかという教育を充実させてほしい。(女性、中学生)【母親】

(19) 謝意や政策への期待 (15件)

【身体障害者】

- ・デイサービスなど、障害のある子を見てくれる施設が増えてきてありがたいですが、一方で経営が大変だったり職員不足だったり困難の中見て下さっている施設も多いとききます。そのような法人にもっと支援がいき、職員の方たちも安心して働ける環境が整ってほしいです。それが障害のある子や親の支援につながると思います。(女性、幼児期)【母親】

(20) 文化・スポーツ活動 (5件)

【知的障害者】

- ・年配の方への配慮ばかりで障害児への優しさをあまり感じない。気兼ねなく遊べる場所がほしい。

(女性、幼児期) 【母親】

- ・見た目でもわからない、発達グレーゾーンの子ども達（不安が強い子など）が通いやすい学びの場、居場所。フリースクールとはまた違った所が欲しいなと思います。(男性、小学校高学年) 【母親】

(21) 親亡き後の不安 (5件)

【知的障害者】

- ・親亡き後にそなえ、地域の支援の輪にたくさんつながっていきたいと思っています。なかなか支援につながらなかったり、情報が集まりにくいなど、困難さが多いと感じます。点が線になるような、そんな総合的な支援の輪が府中でつながるといいなと思います。(男性、小学校高学年) 【母親】
- ・親亡き後の自立が可能であるよう生活の場、就労の場を整えていただけたら幸いです。(男性、高校生) 【母親】

(22) 近所づきあい (5件)

【知的障害者】

- ・自治会でのご理解、班長の免除。(男性、幼児期) 【母親】

【精神障害者】

- ・近所に障害があり見守ってもらうようどう知らせるか難しい。(女性、高校生) 【母親】

(23) 交通手段 (4件)

【知的障害者】

- ・電車が大好きな子はホームでもうろうろ、ぴよんぴよんしています。駅やホームに、”そっとしておいて下さい”などの啓蒙活動をしてもらえると、こちらも冷たい目で見られることが減り出かけやすいです。(男性、小学校高学年) 【母親】

(24) 住宅 (1件)

【知的障害者】

- ・地域で暮らして、それが日々のこととして認知されることが大事だと思う。大声など、家族が気にして苦しい思いをしていることもあると思う。市営住宅を活用して、負担を減らしてあげて欲しい。(男性、小学校高学年) 【母親】

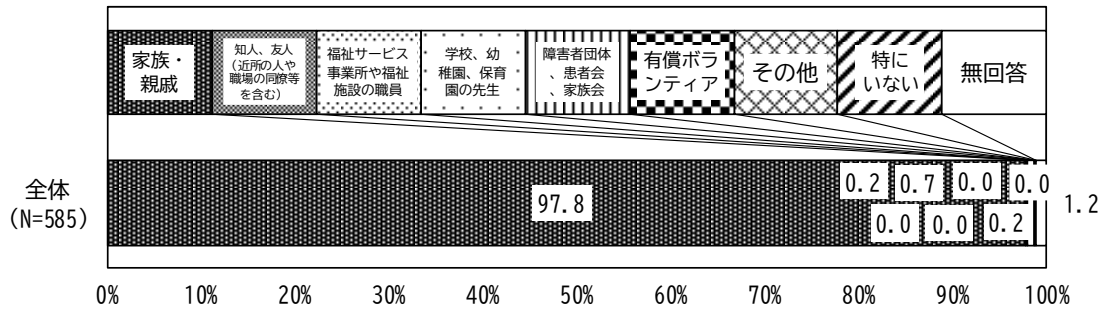
(25) その他 (2件)

(12) 子どもを主に養育している人について

問25 お子さんを主に養育している人はどなたですか。(1つに○)

- ・「家族・親戚」が95.9%、「学校、幼稚園、保育園の先生」が0.7%である。

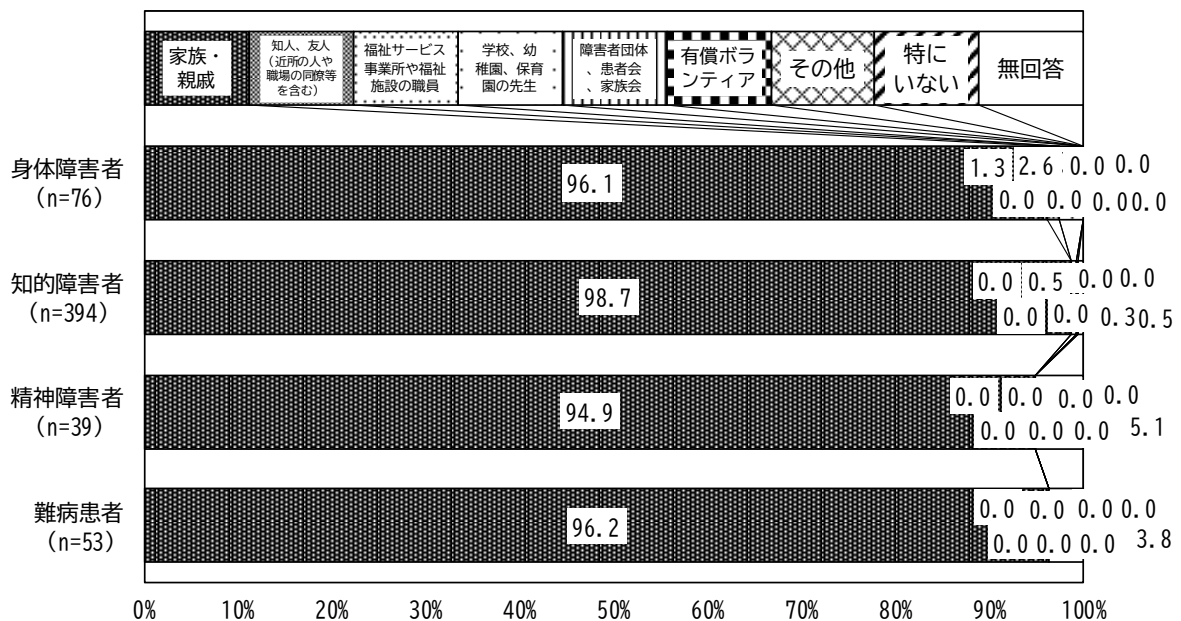
図表 主な養育者(全体)



【障害等の種類別】

- ・いずれの種類別でも、「家族・親戚」(身体:96.1%、知的:98.7%、精神:94.9%、難病:96.2%)が最も多い。
- ・身体障害者、知的障害者では、「学校、幼稚園、保育園の先生」(身体:2.6%、知的0.5%)が続いている。

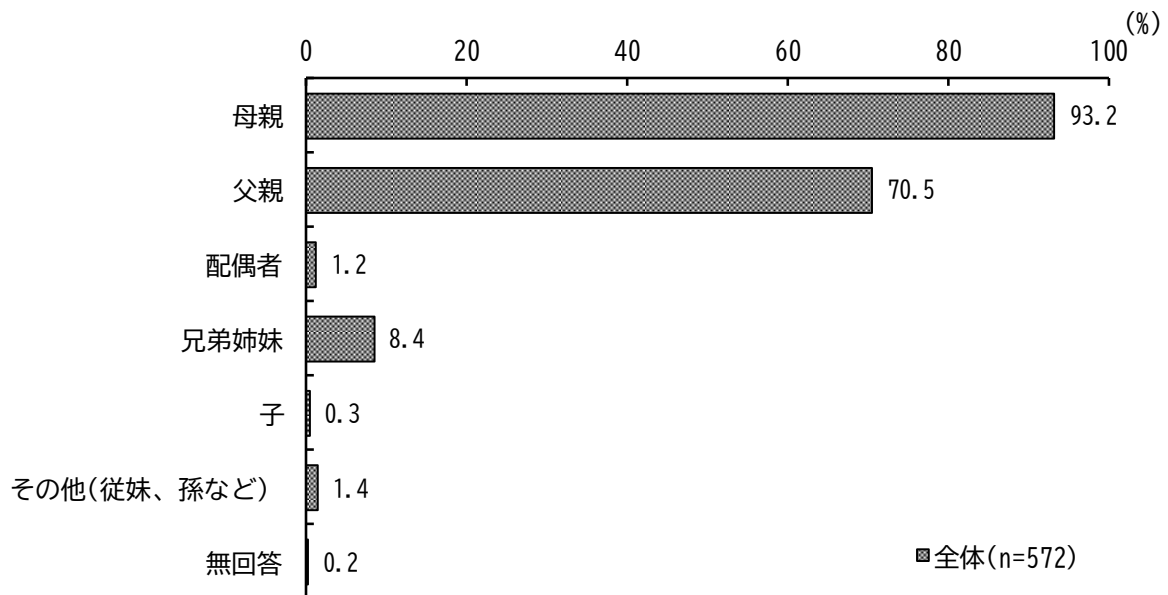
図表 主な養育者(障害等の種類別)



問25-1 問25で「1. 家族・親戚」と答えた方におたずねします。どなたが養育していますか。
(いくつでも○)

- ・「母親」が93.2%、「父親」が70.5%である。

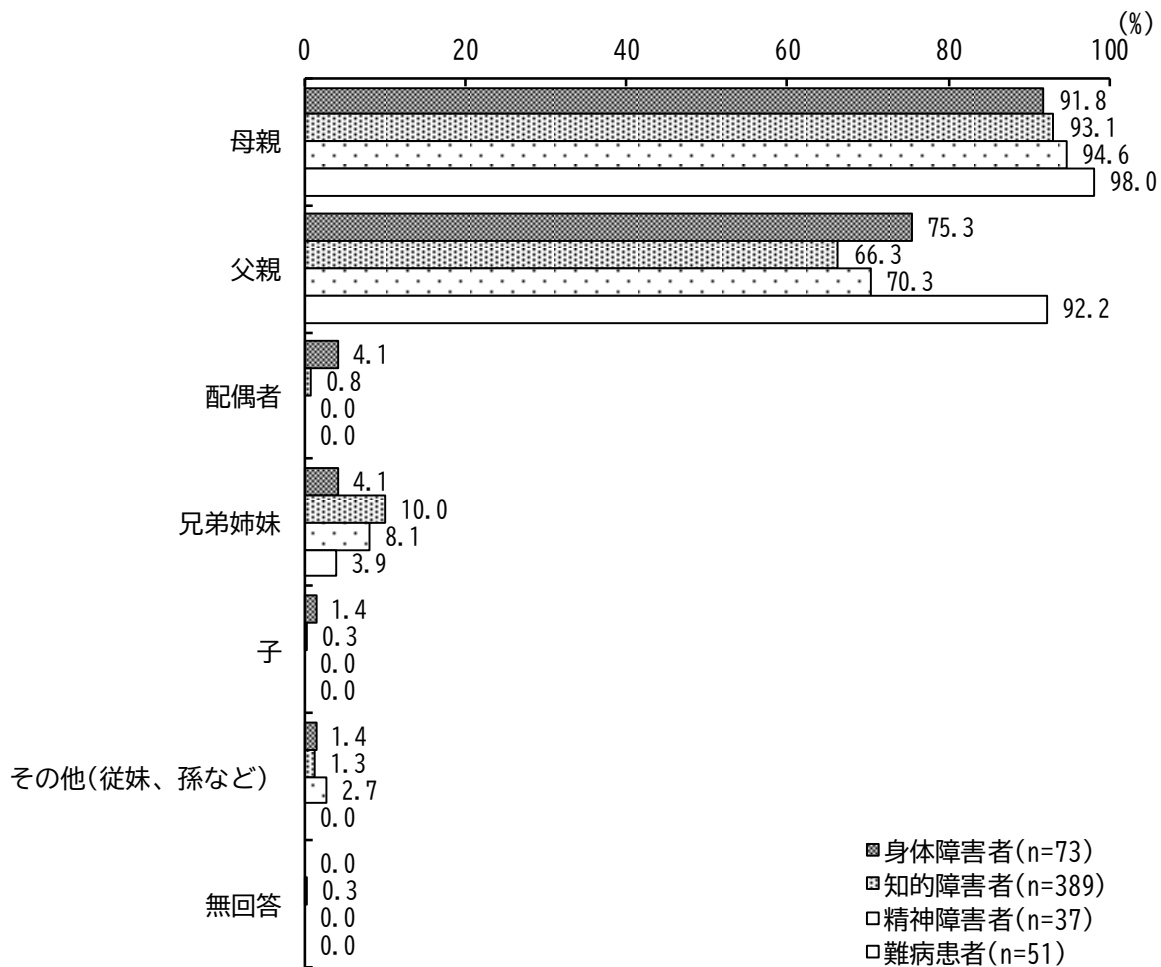
図表 家族・親族の主な養育者(全体：複数回答)
<主な養育者が家族・親族の人>



【障害等の種類別】

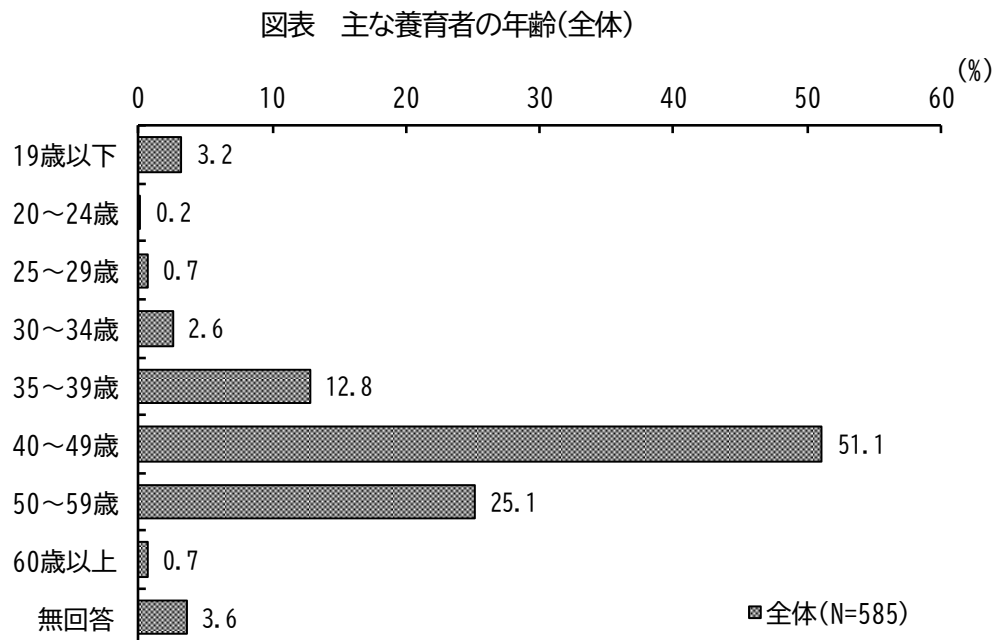
- ・身体障害者は「母親」が91.8%、「父親」が75.3%である。
- ・知的障害者は「母親」が93.1%、「父親」が66.3%である。
- ・精神障害者は「母親」が94.6%、「父親」が70.3%である。
- ・難病患者は「母親」が98.0%、「父親」が92.2%である。

図表 主な養育者(障害等の種類別：複数回答)



問26 主に養育している人の年齢を教えてください。(1つに○)

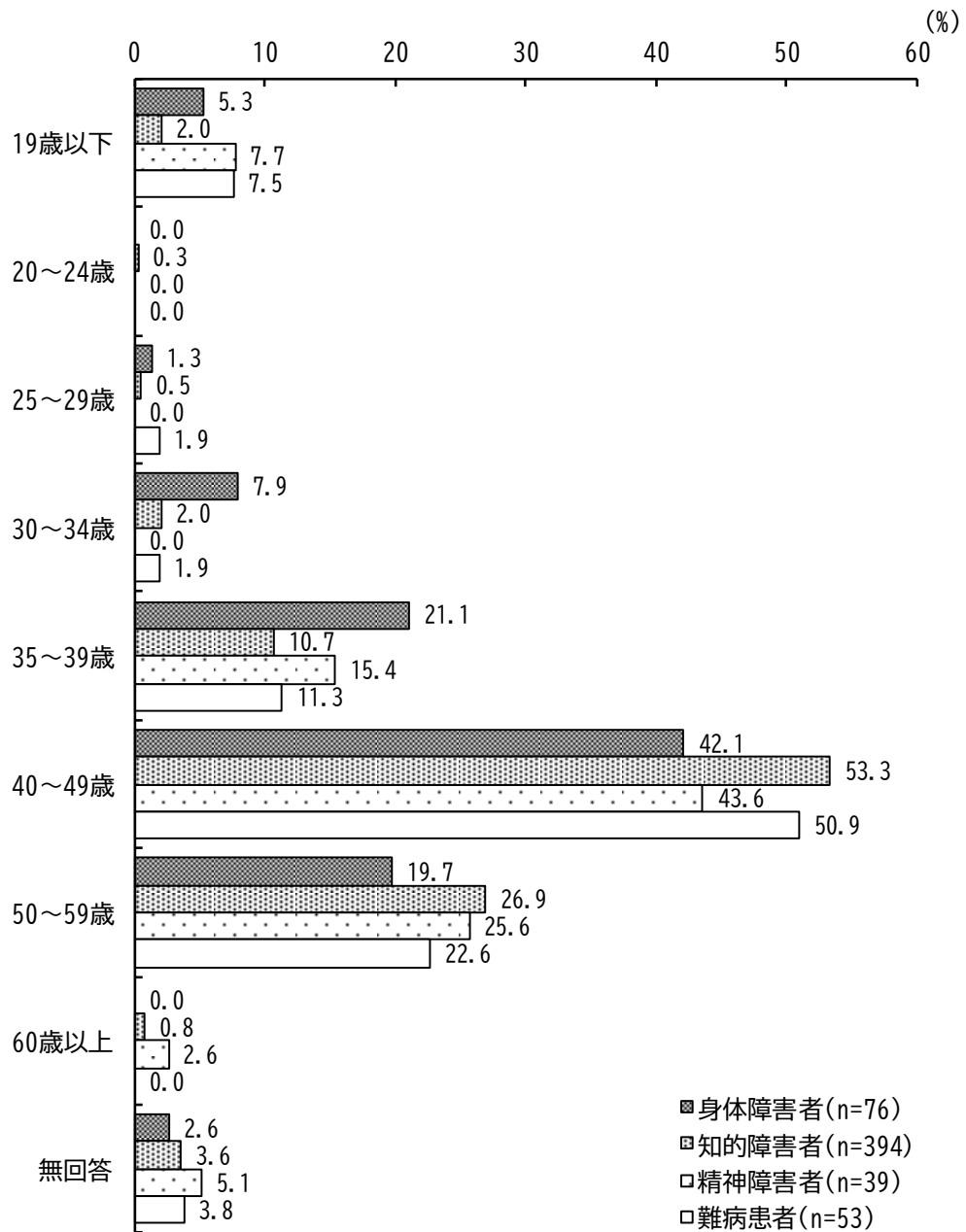
- ・「40～49 歳」(51.1%)が最も多く、次いで「50～59 歳」(25.1%)、「35～39 歳」(12.8%)が続いている。



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「40～49 歳」(42.1%)が最も多く、次いで「35～39 歳」(21.1%)、「50～59 歳」(19.7%)が続いている。
- ・知的障害者は「40～49 歳」(53.3%)が最も多く、次いで「50～59 歳」(26.9%)、「35～39 歳」(10.7%)が続いている。
- ・精神障害者は「40～49 歳」(43.6%)が最も多く、次いで「50～59 歳」(25.6%)、「35～39 歳」(15.4%)が続いている。
- ・難病患者は「40～49 歳」(50.9%)が最も多く、次いで「50～59 歳」(22.6%)、「35～39 歳」(11.3%)が続いている。

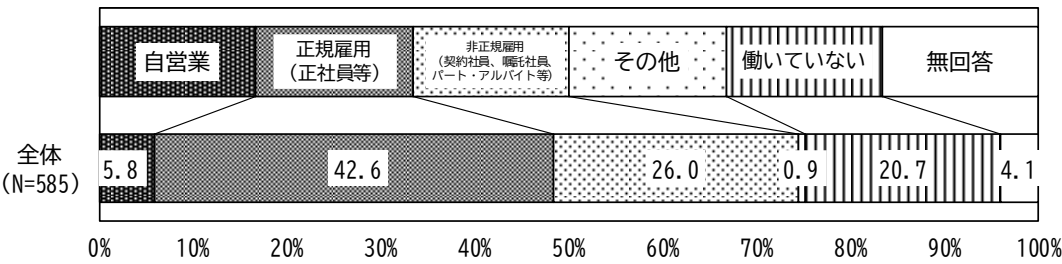
図表 主な養育者の年齢(障害等の種類別)



問 27 主に養育している人の就労状況等を教えてください(1つに○)

- ・「正規雇用(正社員等)」(42.6%)が最も多く、次いで「非正規雇用(契約社員、嘱託社員、パート・アルバイト等)」(26.0%)、「働いていない」(20.7%)が続いている。

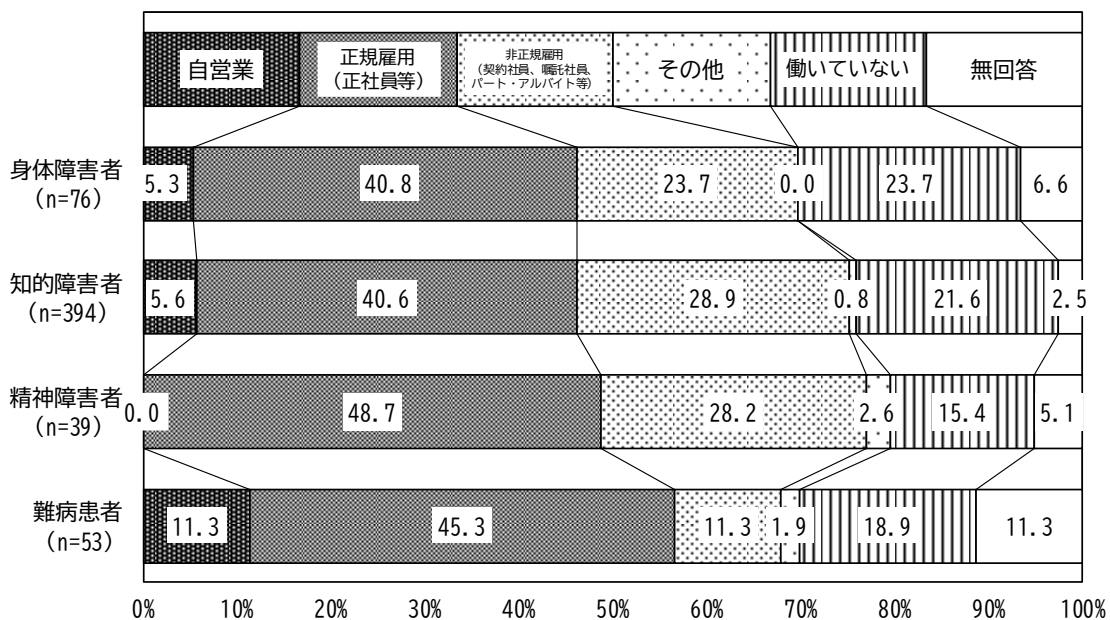
図表 主な養育者の就労状況(全体)



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「正規雇用(正社員等)」(40.8%)が最も多く、次いで「非正規雇用(契約社員、嘱託社員、パート・アルバイト等)」(23.7%)と「働いていない」(23.7%)が同率で続いている。
- ・知的障害者は「正規雇用(正社員等)」(40.6%)が最も多く、次いで「非正規雇用(契約社員、嘱託社員、パート・アルバイト等)」(28.9%)、「働いていない」(21.6%)が続いている。
- ・精神障害者は「正規雇用(正社員等)」(48.7%)が最も多く、次いで「非正規雇用(契約社員、嘱託社員、パート・アルバイト等)」(28.2%)、「働いていない」(15.4%)が続いている。
- ・難病患者は「正規雇用(正社員等)」(45.3%)が最も多く、次いで「働いていない」(18.7%)、「自営業」(11.3%)と「非正規雇用(契約社員、嘱託社員、パート・アルバイト等)」(11.3%)が同率で続いている。

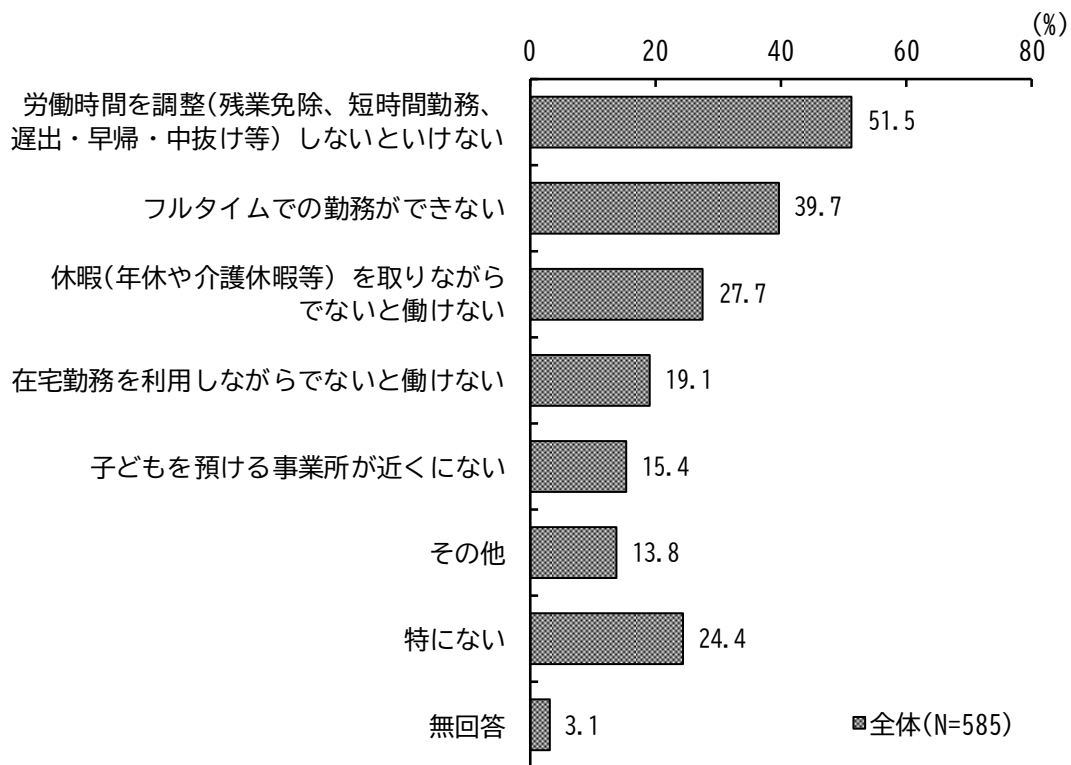
図表 主な養育者の就労状況(障害等の種類別)



問28 就労するにあたって困難なことはありますか（いくつでも○）

「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）しないといけない」（51.5%）が最も多く、次いで「フルタイムでの勤務ができない」（39.7%）、「休暇（年休や介護休暇等）を取りながらでないと働けない」（27.7%）が続いている。

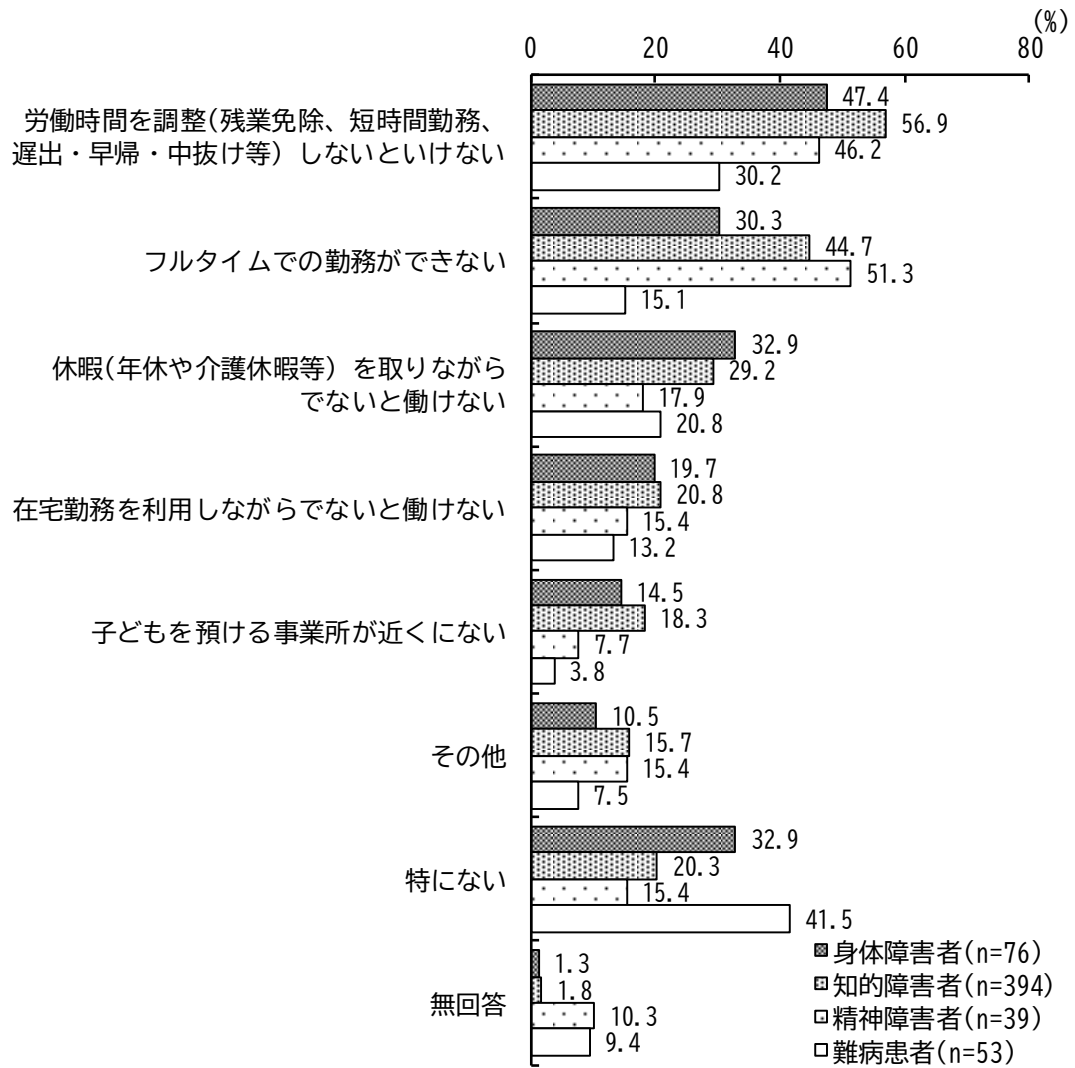
図表 就労するにあたり困難なこと（全体：複数回答）



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）しないといけない」（47.7%）が最も多く、次いで「休暇（年休や介護休暇等）を取りながらでないと働けない」（32.9%）が続いている。
- ・知的障害者は「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）しないといけない」（56.9%）が最も多く、次いで「フルタイムでの勤務ができない」（44.7%）が最も多く、次いでが続いている。
- ・精神障害者は「フルタイムでの勤務ができない」（51.3%）が最も多く、次いで「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）しないといけない」（46.2%）が続いている。
- ・難病患者は「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）しないといけない」（30.2%）が最も多く、次いで「休暇（年休や介護休暇等）を取りながらでないと働けない」（20.8%）が続いている。

図表 就労するにあたり困難なこと(障害等の種類別：複数回答)

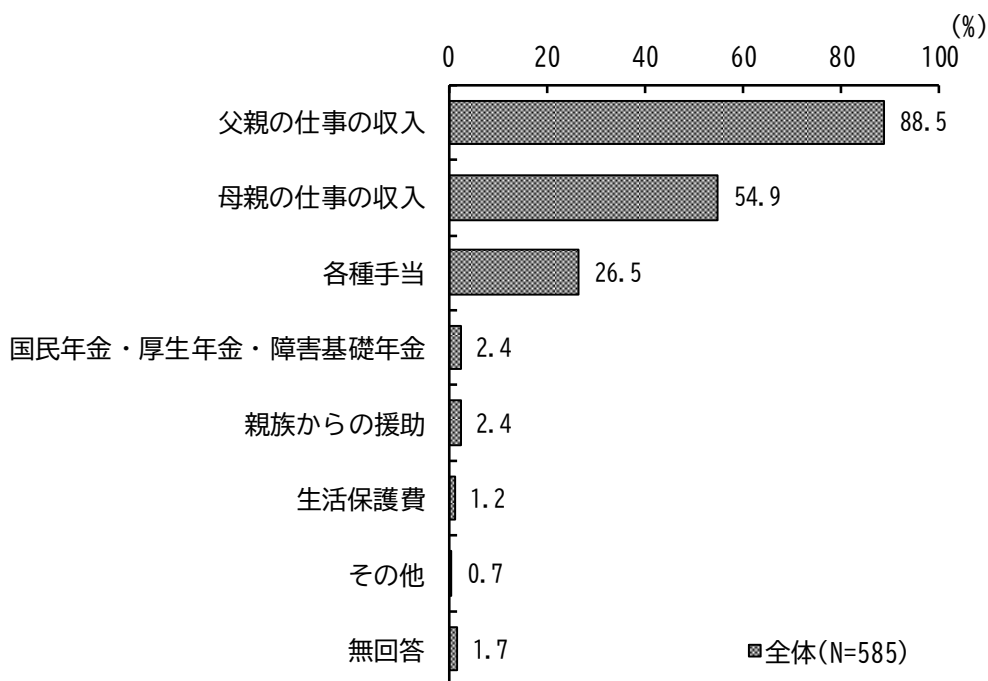


問 29 世帯の収入源と、年収についておたずねします。年収は、税金などを差し引く前の額でお答えください。年金、手当、生活保護費、親族からの援助もすべて含みます。

(1) 世帯の収入源(いくつでも○)

- ・「父親の仕事の収入」(88.5%)が最も多く、次いで「母親の仕事の収入」(54.9%)、「各種手当」(26.5%)が続いている。

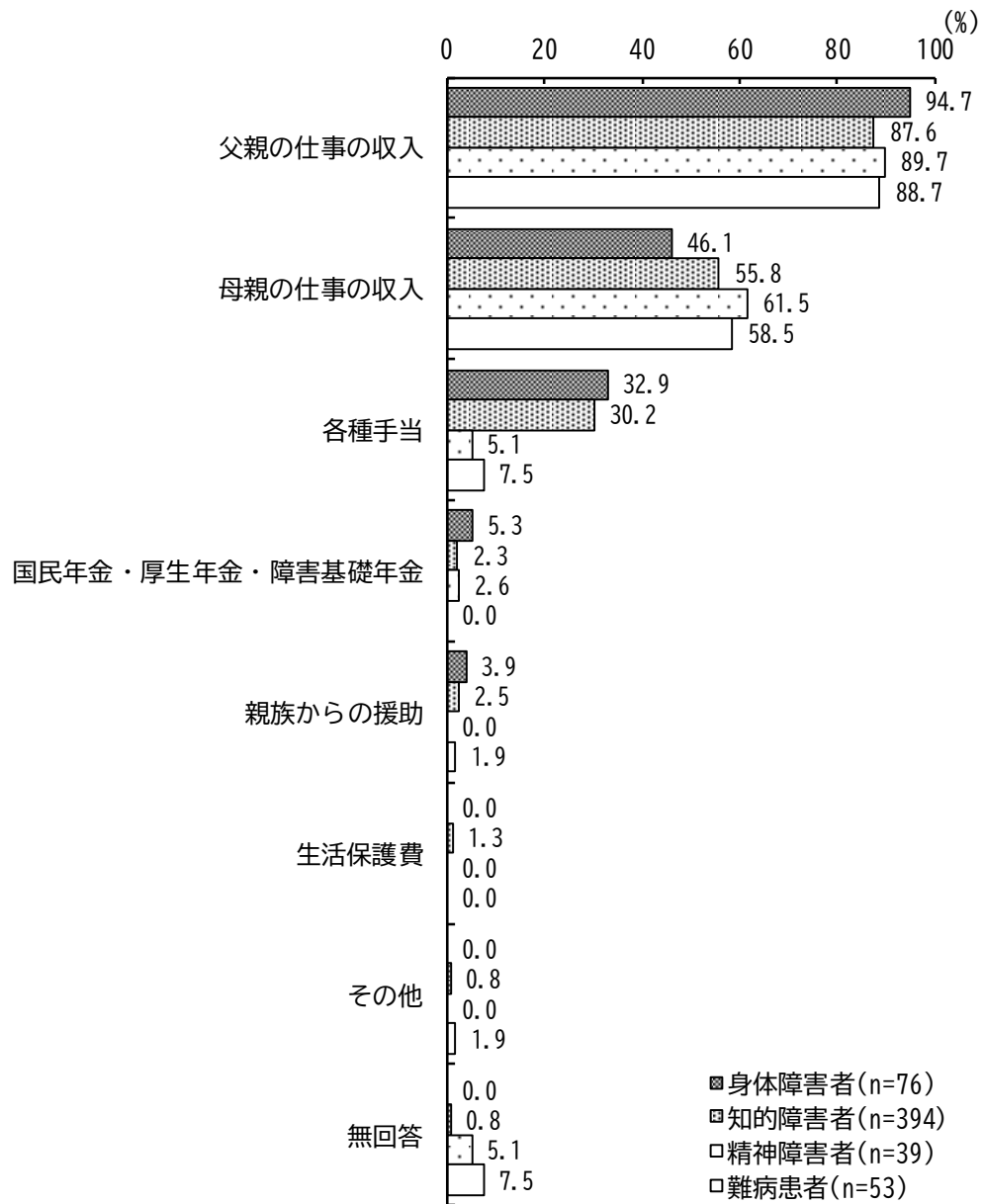
図表 収入源(全体：複数回答)



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「父親の仕事の収入」(94.7%)が最も多く、次いで「母親の仕事の収入」(46.1%)、「各種手当」(32.9%)が続いている。全体と比べ、「各種手当」が6ポイント以上高い。
- ・知的障害者は「父親の仕事の収入」(87.6%)が最も多く、次いで「母親の仕事の収入」(55.8%)、「各種手当」(30.2%)が続いている。
- ・精神障害者は「父親の仕事の収入」(89.7%)が最も多く、次いで「母親の仕事の収入」(61.5%)、「各種手当」(5.1%)が続いている。全体と比べ、「母親の仕事の収入」の割合が6ポイント以上高い。
- ・難病患者は「父親の仕事の収入」(88.7%)が最も多く、次いで「母親の仕事の収入」(58.5%)、「各種手当」(7.5%)が続いている。

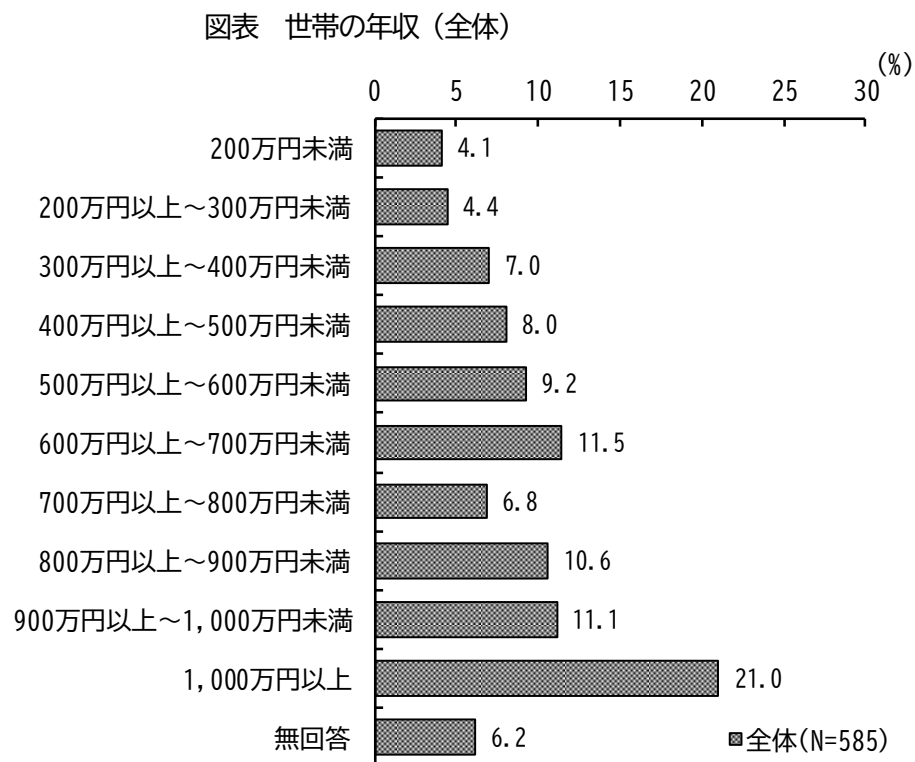
図表 収入源（障害等の種類別：複数回答）



問 29 世帯の収入源と、年収についておたずねします。年収は、税金などを差し引く前の額でお答えください。年金、手当、生活保護費、親族からの援助もすべて含みます。

(2) 世帯の年収(1つに○)

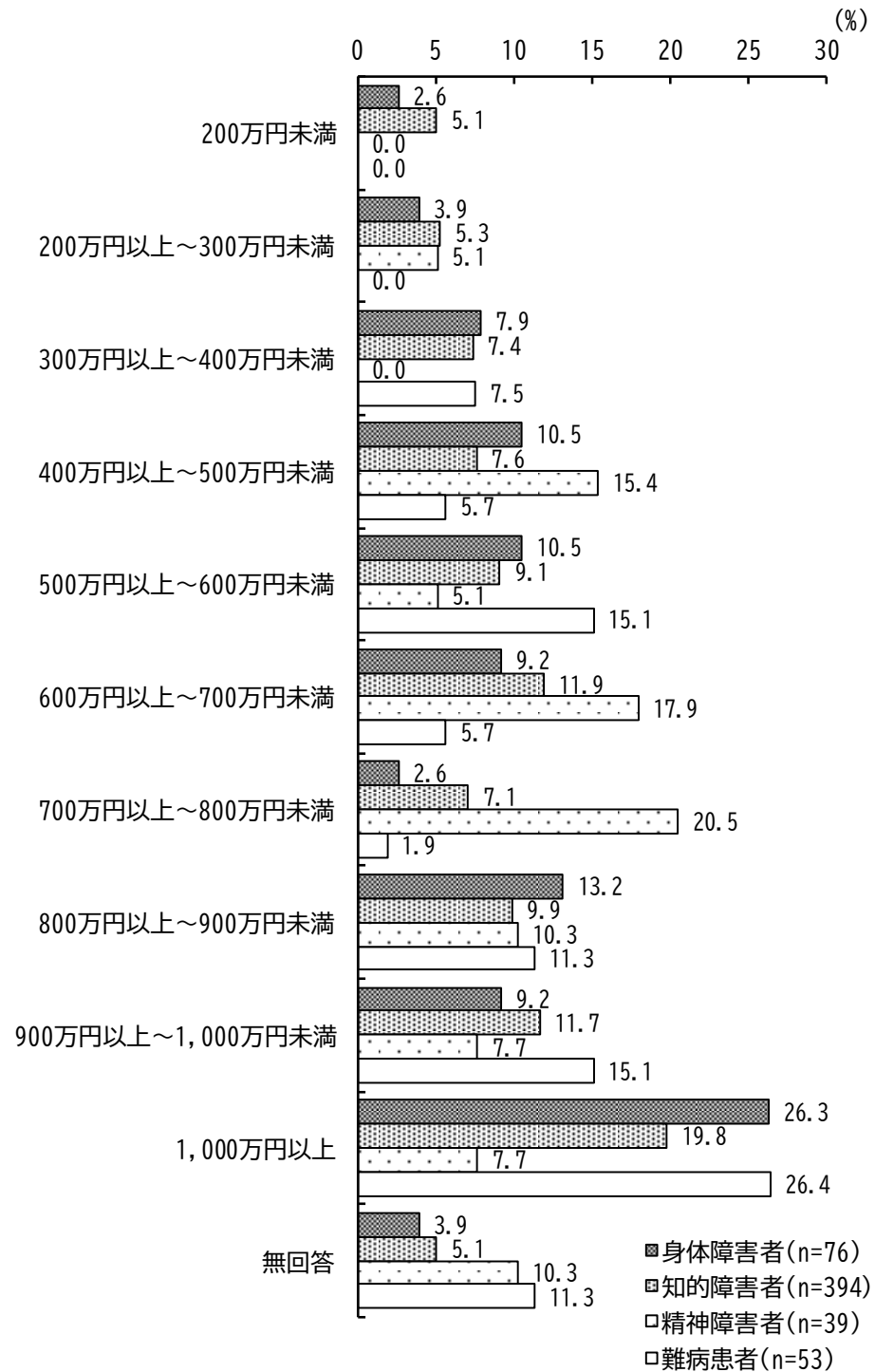
- ・「1,000 万円以上」(21.0%)が最も多く、次いで「600 万円以上～700 万円未満」(11.5%)、「900 万円以上～1,000 万円未満」(11.1%)が続いている。



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「1,000 万円以上」(26.3%)が最も多く、次いで「800 万円以上～900 万円未満」(13.2%)、「400 万円以上～500 万円未満」(10.5%)と「500 万円以上～600 万円未満」(10.5%)が同率が続いている。
- ・知的障害者は「1,000 万円以上」(19.8%)が最も多く、次いで「600 万円以上～700 万円未満」(11.9%)、「900 万円以上～1,000 万円未満」(11.7%)が続いている。
- ・精神障害者は「700 万円以上～800 万円未満」(20.5%)が最も多く、次いで「600 万円以上～700 万円未満」(17.9%)、「400 万円以上～500 万円未満」(15.4%)が続いている。「700 万円以上～800 万円未満」が全体より10ポイント以上高い。
- ・難病患者は「1,000 万円以上」(26.4%)が最も多く、次いで「500 万円以上～600 万円未満」(15.1%)と「900 万円以上～1,000 万円未満」(15.1%)が同率が続いている。

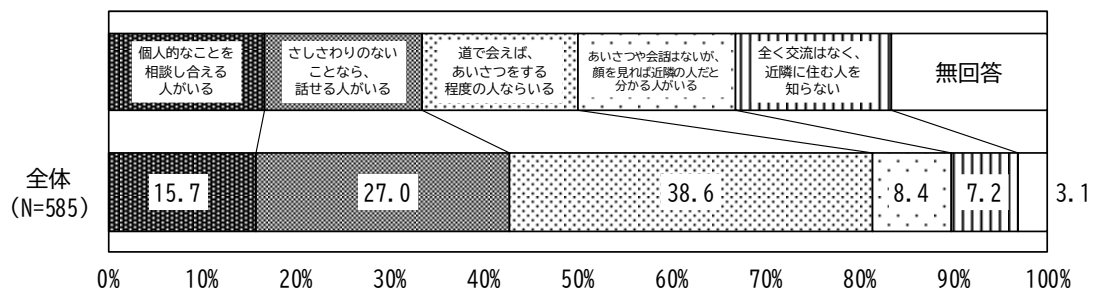
図表 世帯の年収(障害等の種類別)



問30 主に養育している人は、近隣に住む人と、どの程度おつきあいしていますか。(1つに○)

- ・「道で会えば、あいさつをする程度の人ならいる」(38.6%)が最も多く、次いで「さしさわりのないことなら、話せる人がいる」(27.0%)、「個人的なことを相談し合える人がいる」(15.7%)が続いている。

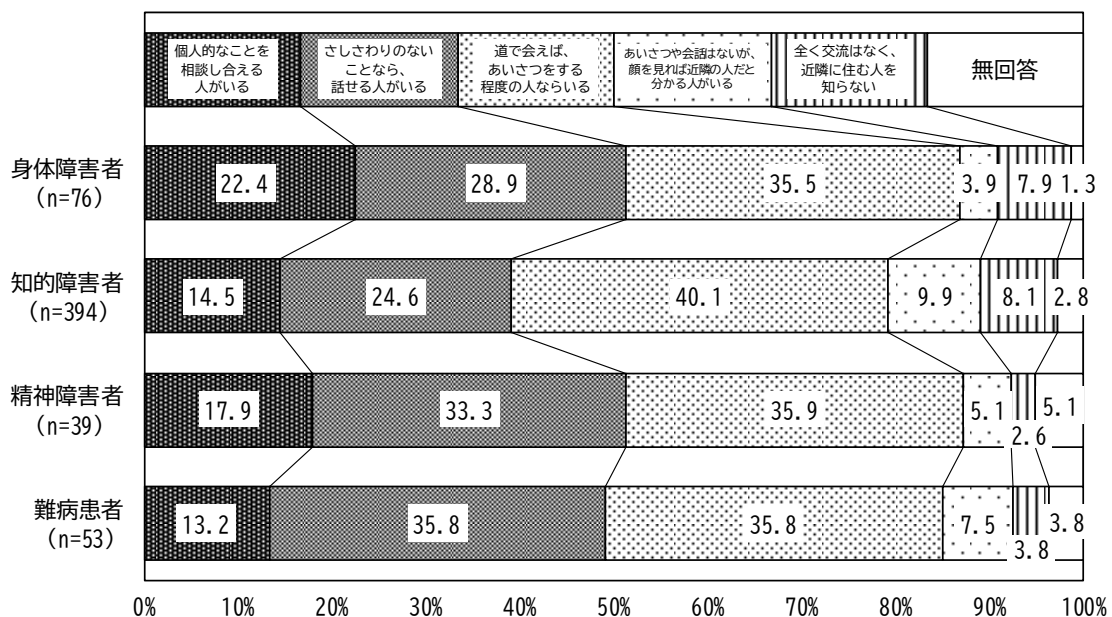
図表 近所づきあいの現状(全体)



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「道で会えば、あいさつをする程度の人ならいる」(35.5%)が最も多く、次いで「さしさわりのないことなら、話せる人がいる」(28.9%)、「個人的なことを相談し合える人がいる」(22.4%)が続いている。
- ・知的障害者は「道で会えば、あいさつをする程度の人ならいる」(40.1%)が最も多く、次いで「さしさわりのないことなら、話せる人がいる」(24.6%)、「個人的なことを相談し合える人がいる」(14.5%)が続いている。
- ・精神障害者は「道で会えば、あいさつをする程度の人ならいる」(35.9%)が最も多く、次いで「さしさわりのないことなら、話せる人がいる」(33.3%)、「個人的なことを相談し合える人がいる」(17.9%)が続いている。
- ・難病患者は「さしさわりのないことなら、話せる人がいる」(35.8%)と「道で会えば、あいさつをする程度の人ならいる」(35.8%)が同率で最も多く、次いで「個人的なことを相談し合える人がいる」(13.2%)が続いている。

図表 近所づきあいの現状（障害等の種類別）

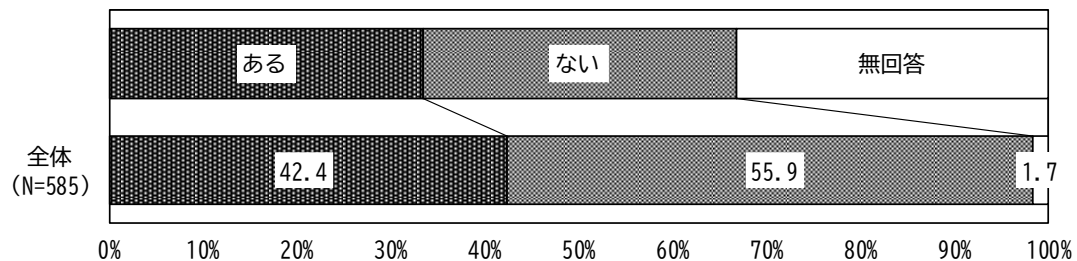


問31 主に養育している人は、どこに相談すればいいかわからない生活上の困りごとがありますか。

(1つに○)

- ・「ある」は42.4%、「ない」は55.9%である。

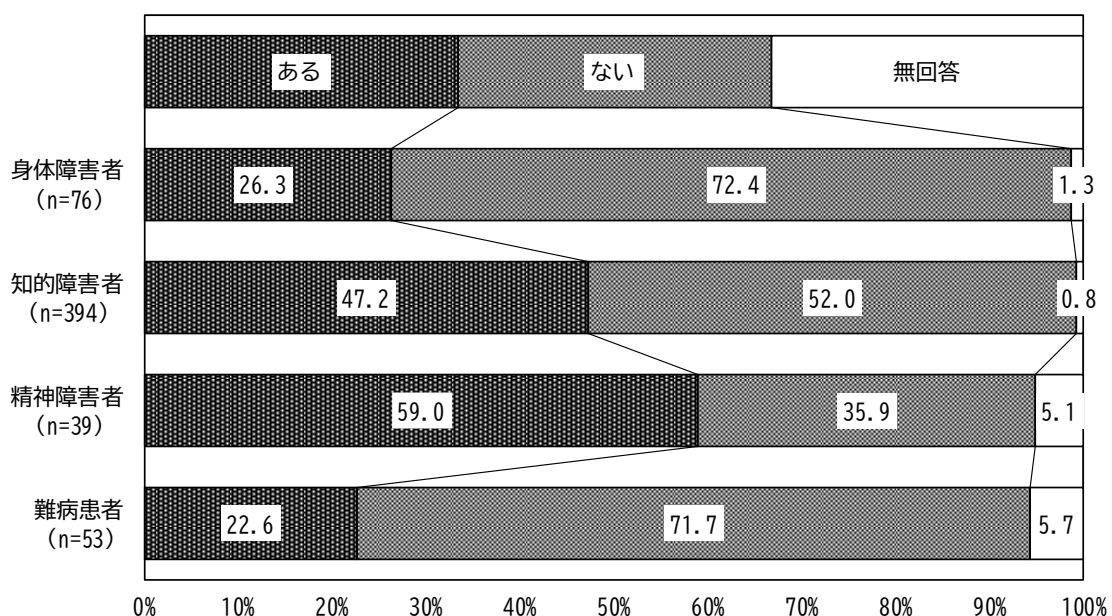
図表 どこに相談すればいいかわからない生活上の困りごとの有無（全体）



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「ある」は26.3%、「ない」は72.4%である。
- ・知的障害者は「ある」は47.2%、「ない」は52.0%である。
- ・精神障害者は「ある」は59.0%、「ない」は35.9%である。「ある」は全体より16.6ポイント高い。
- ・難病患者は「ある」は22.6%、「ない」は71.7%である。

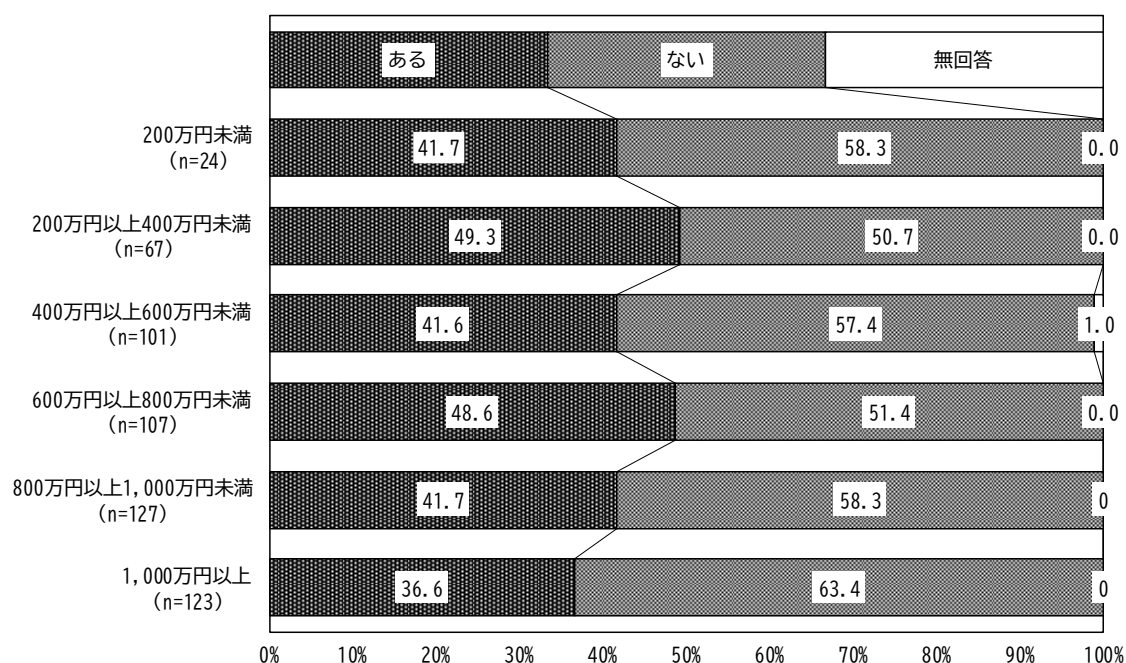
図表 どこに相談すればいいかわからない生活上の困りごとの有無（障害等の種類別）



【世帯の年収別】

- ・「ある」の割合は、世帯年収 200 万円以上 400 万円未満層（49.3%）で最も高い。
- ・「ない」の割合は、世帯年収 1,000 万円以上（63.4%）で最も高い。

図表 どこに相談すればいいかわからない生活上の困りごとの有無（世帯の年収別）



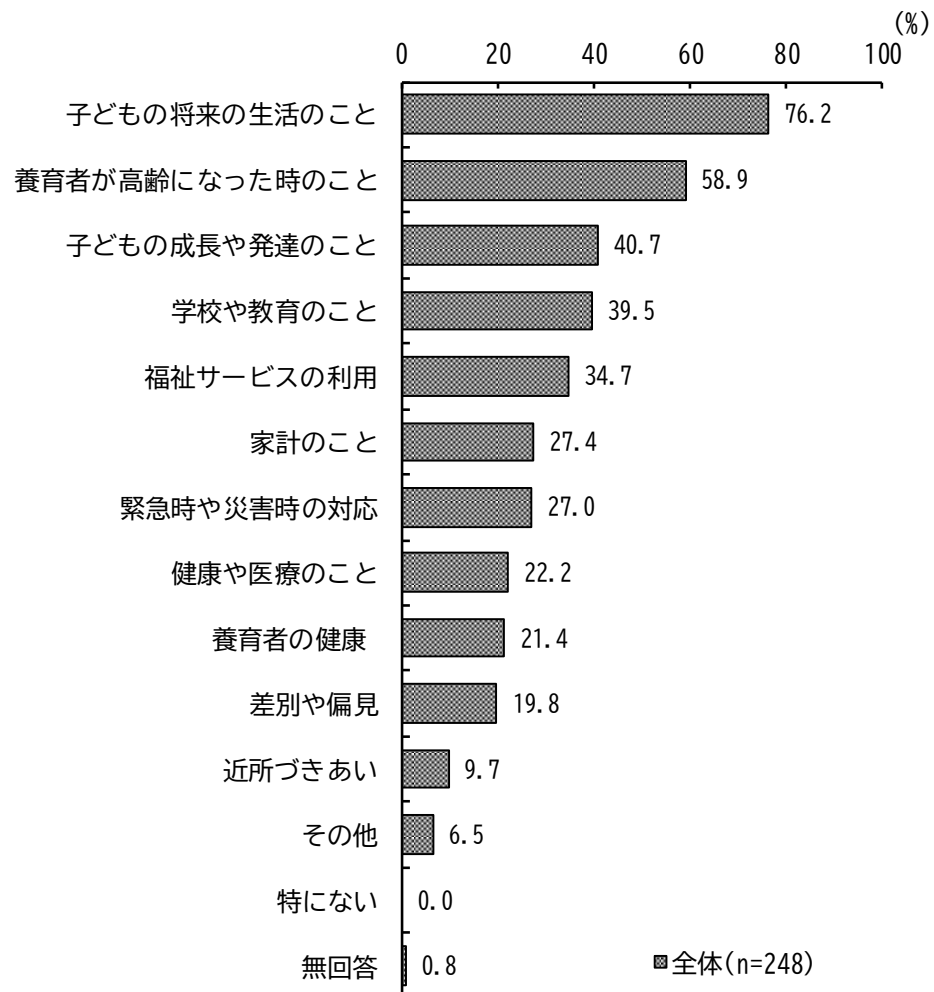
問31-1 問31で「1. ある」と答えた方におたずねします。お困りの内容をお聞かせください。

(いくつでも○)

- ・「子どもの将来のこと」(76.2%)が最も多く、次いで「養育者が高齢になった時のこと」(58.9%)、「子どもの成長や発達のこと」(40.7%)が続いている。

図表 困りごとの内容(全体:複数回答)

<困りごとのある人>

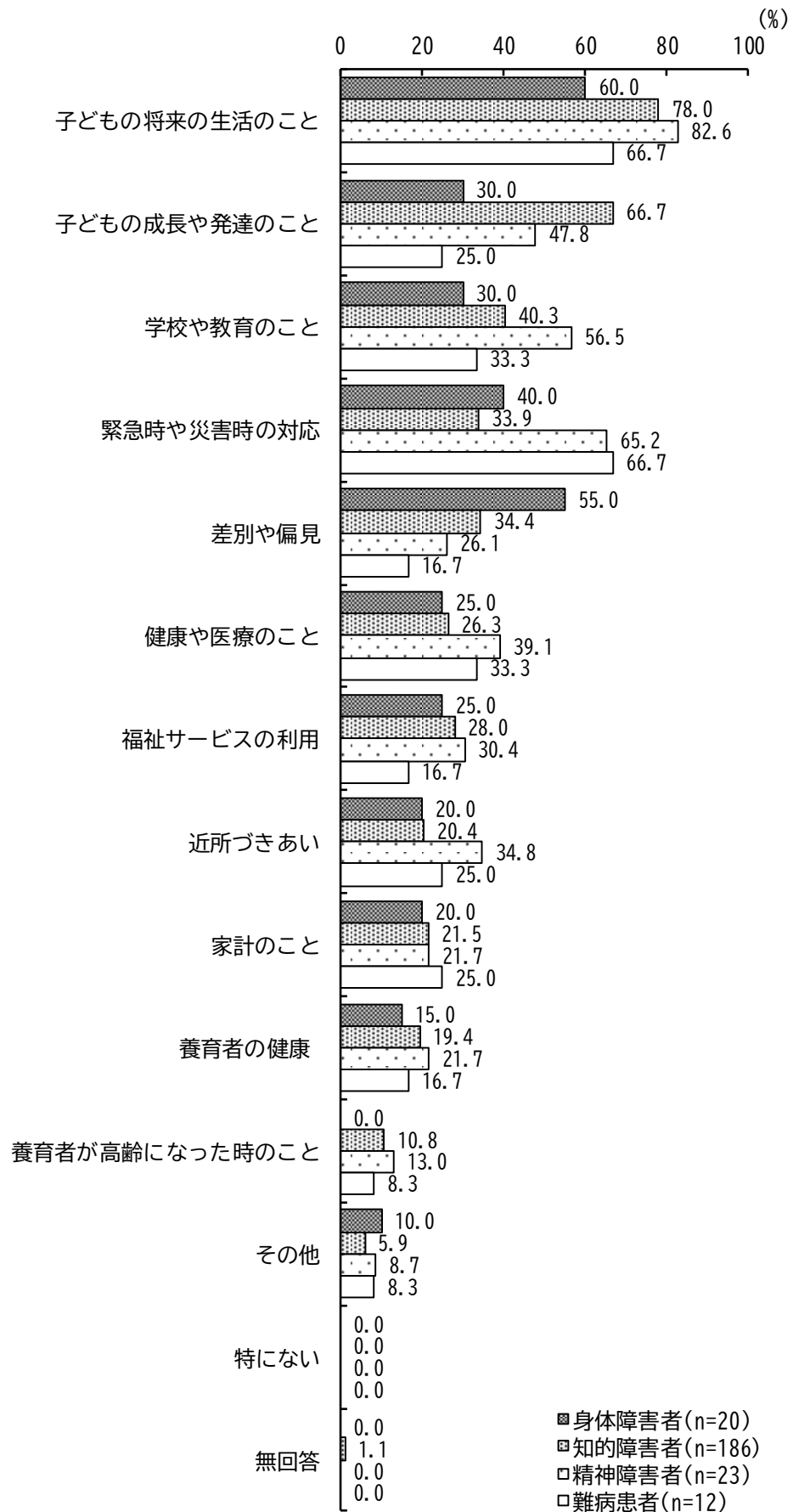


【障害等の種類別】

- ・身体障害者、知的障害者、精神障害者は「子どもの将来のこと」(身体:60.0%、知的:78.0%、精神:82.6%)が最も多い。
- ・難病患者は「子どもの将来のこと」(66.7%)と「緊急時や災害時の対応」(66.7%)が同率で最も多い。

図表 困りごとの内容（障害等の種類別:複数回答）

<困りごとのある人>

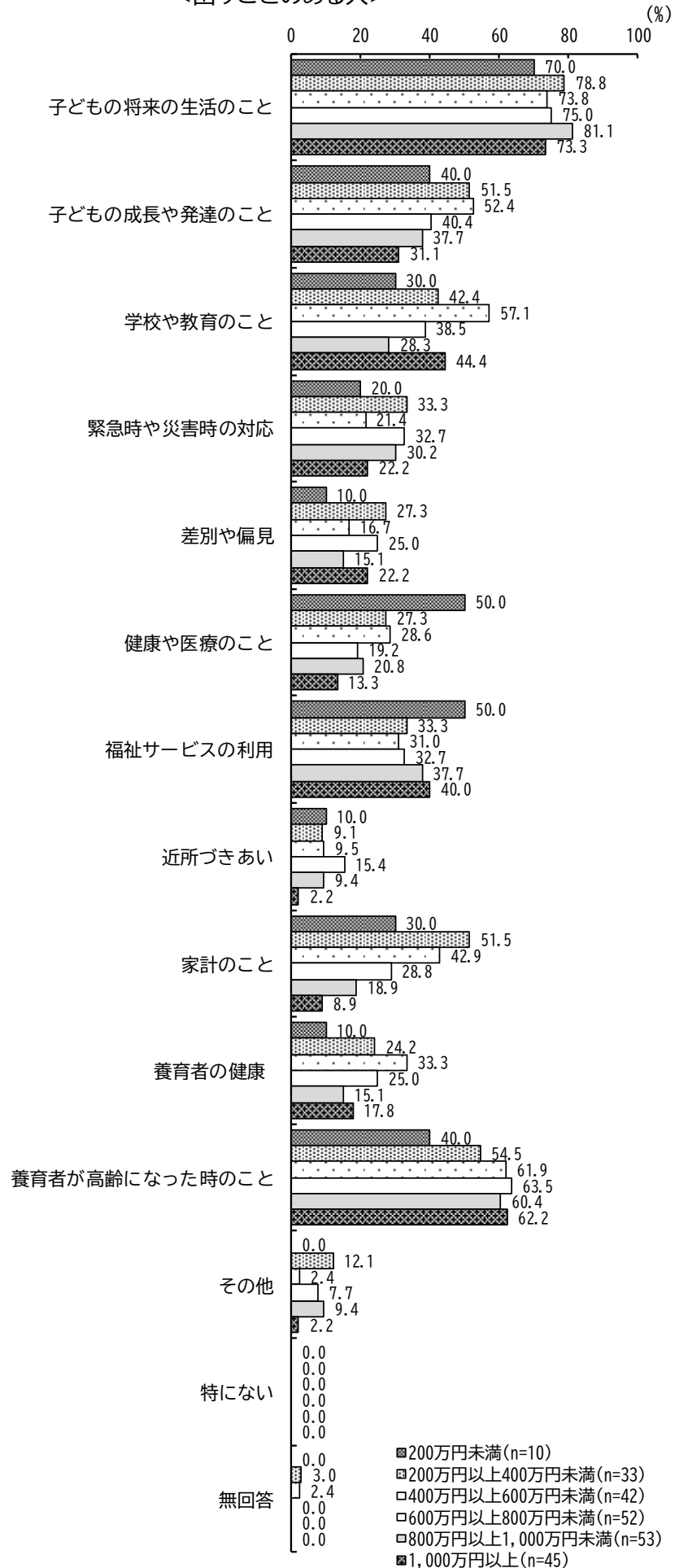


【世帯の年収別】

- ・ いずれの世帯年収でも「子どもの将来の生活のこと」（200万円未満：70.0%、200万円以上400万円未満：78.8%、400万円以上600万円未満：73.8%、600万円以上800万円未満：75.0%、800万円以上1,000万円未満：81.1%、1,000万円以上：73.3%）が最も高い。

図表 困りごとの内容（世帯の年収別:複数回答）

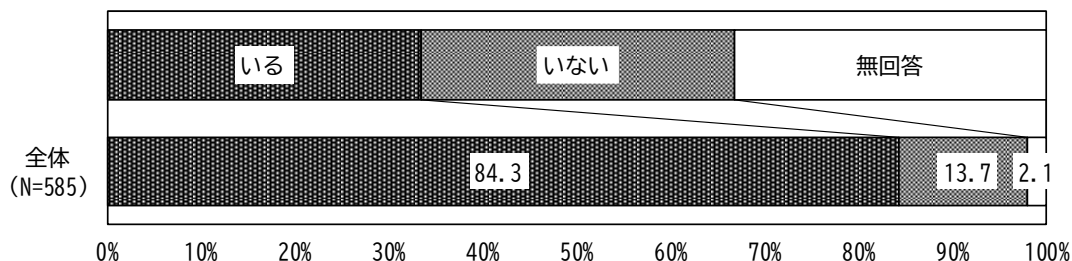
<困りごとのある人>



問32 主に養育している人は、ご自身の悩みや困りごとを相談できる人がありますか。(1つに○)

- ・「いる」は84.3%、「いない」は13.7%である。

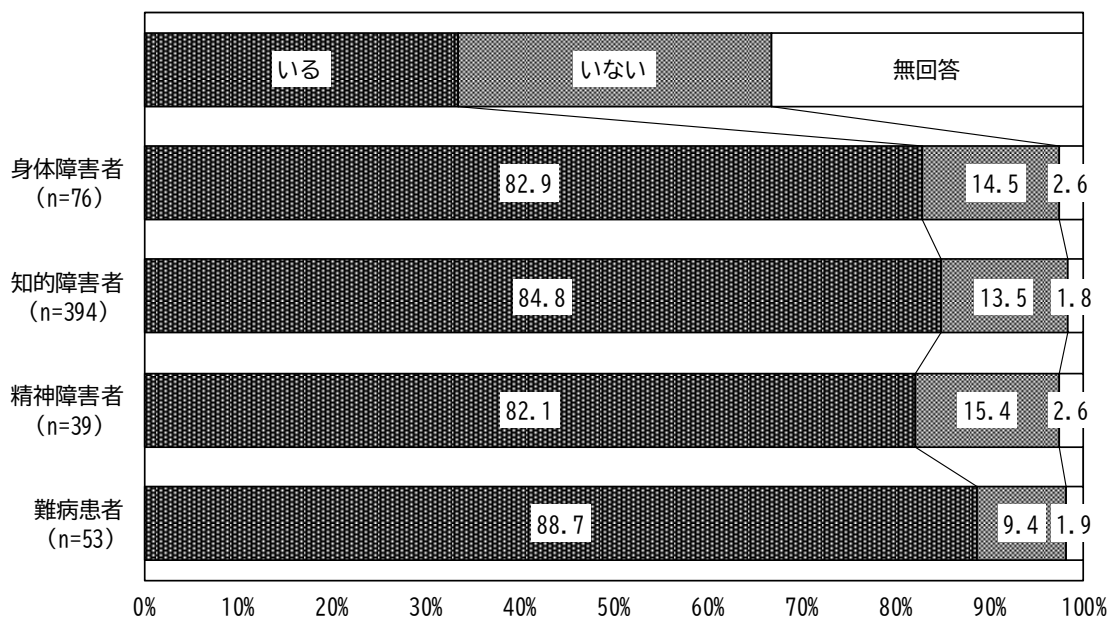
図表 相談できる人の有無（全体）



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「いる」は82.9%、「いない」は14.5%である。
- ・知的障害者は「いる」は84.8%、「いない」は13.5%である。
- ・精神障害者は「いる」は82.1%、「いない」は15.4%である。
- ・難病患者は「いる」は88.7%、「いない」は9.4%である。

図表 相談できる人の有無（障害等の種類別）



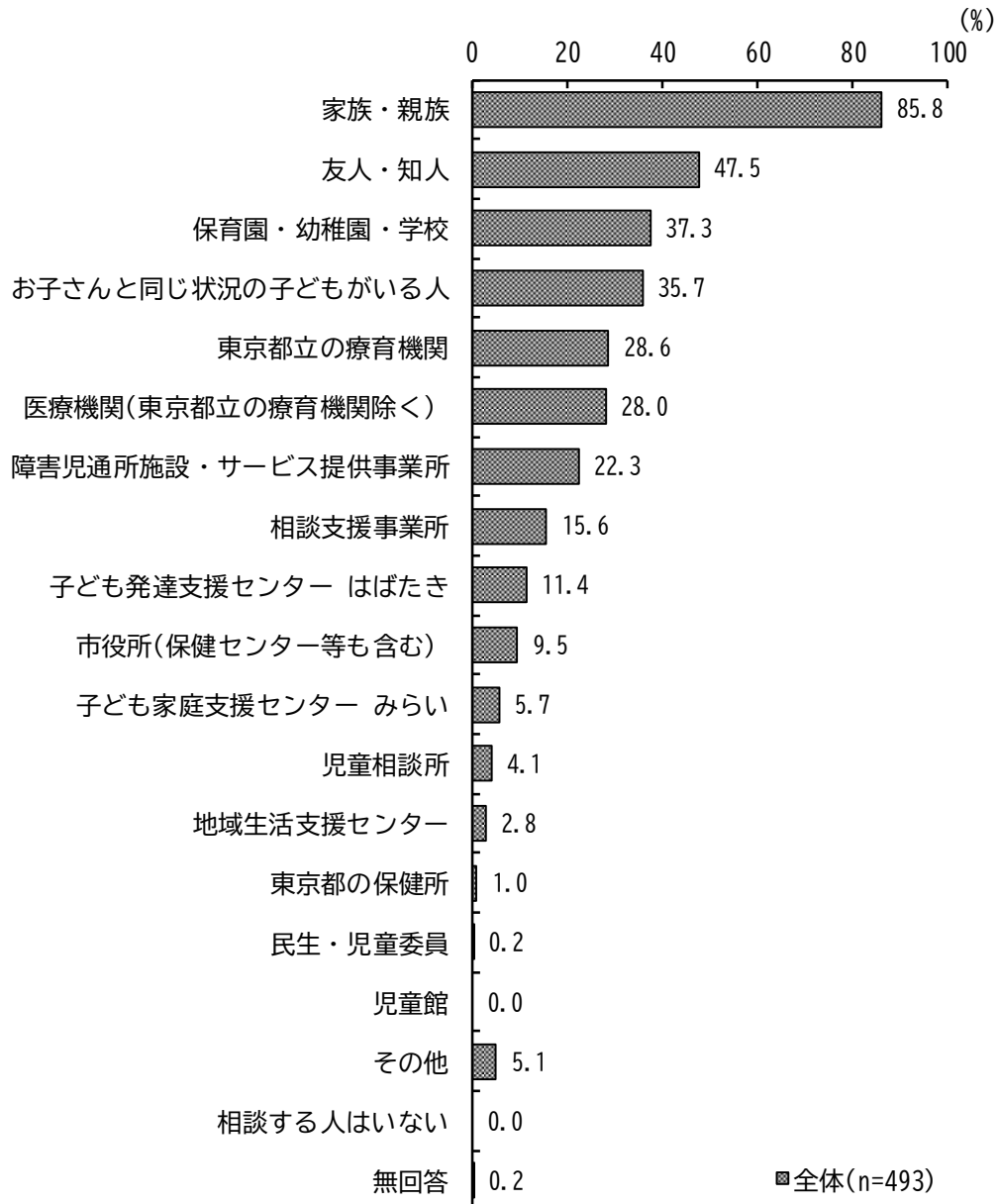
問32-1 問32で「1. いる」と答えた方におたずねします。相談できる人・機関をお聞かせください。

(いくつでも○)

- ・「家族・親族」(85.8%)が最も多く、次いで「友人・知人」(47.5%)、「保育園・幼稚園・学校」(37.3%)、「お子さんと同じ状況の子どもがいる人」(35.7%)が続いている。

図表 相談先(全体:複数回答)

<相談できる人がいる人>

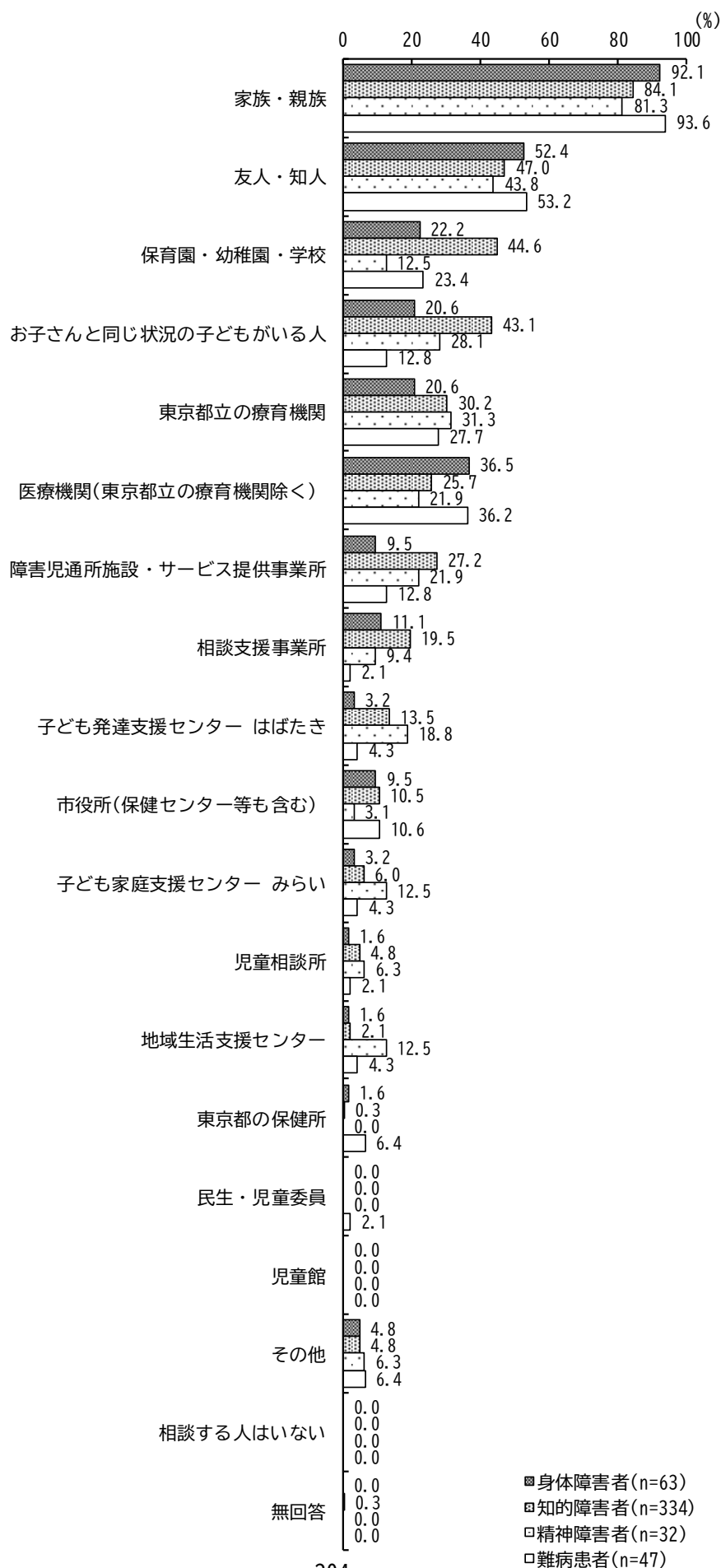


【障害等の種類別】

- ・障害等の種類別でも、「家族・親族」(身体:92.1%、知的:84.1%、精神:81.3%、難病:93.6%)が最も多い。

図表 相談先（障害等の種類別：複数回答）

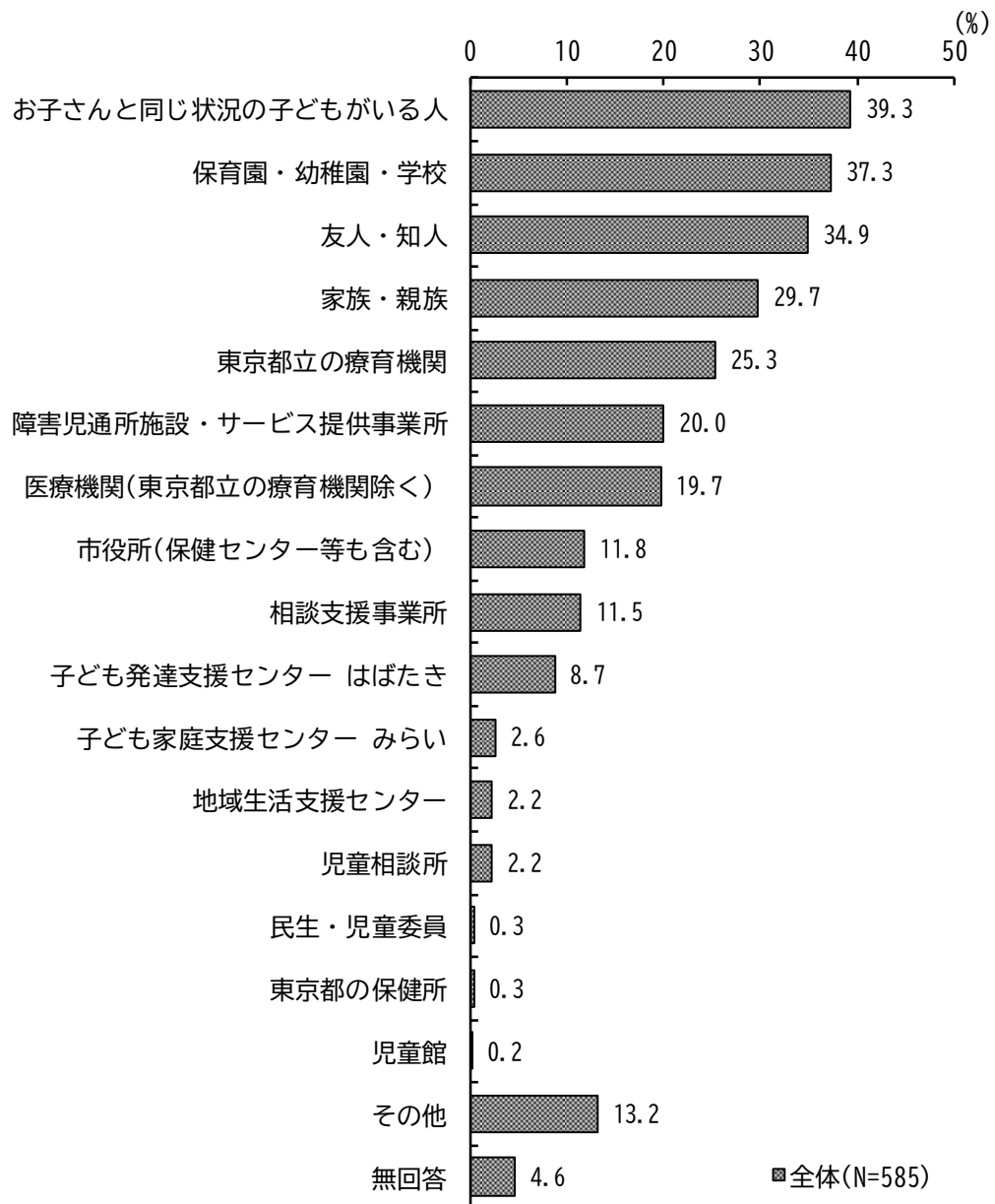
<相談できる人がいる人>



問33 主に養育している人は、どこから情報を得ていますか。(いくつでも○)

- ・「お子さんと同じ状況の子どもがいる人」(39.3%)が最も多く、次いで「保育園・幼稚園・学校」(37.3%)、「友人・知人」(34.9%)、「家族・親族」(29.7%)が続いている。

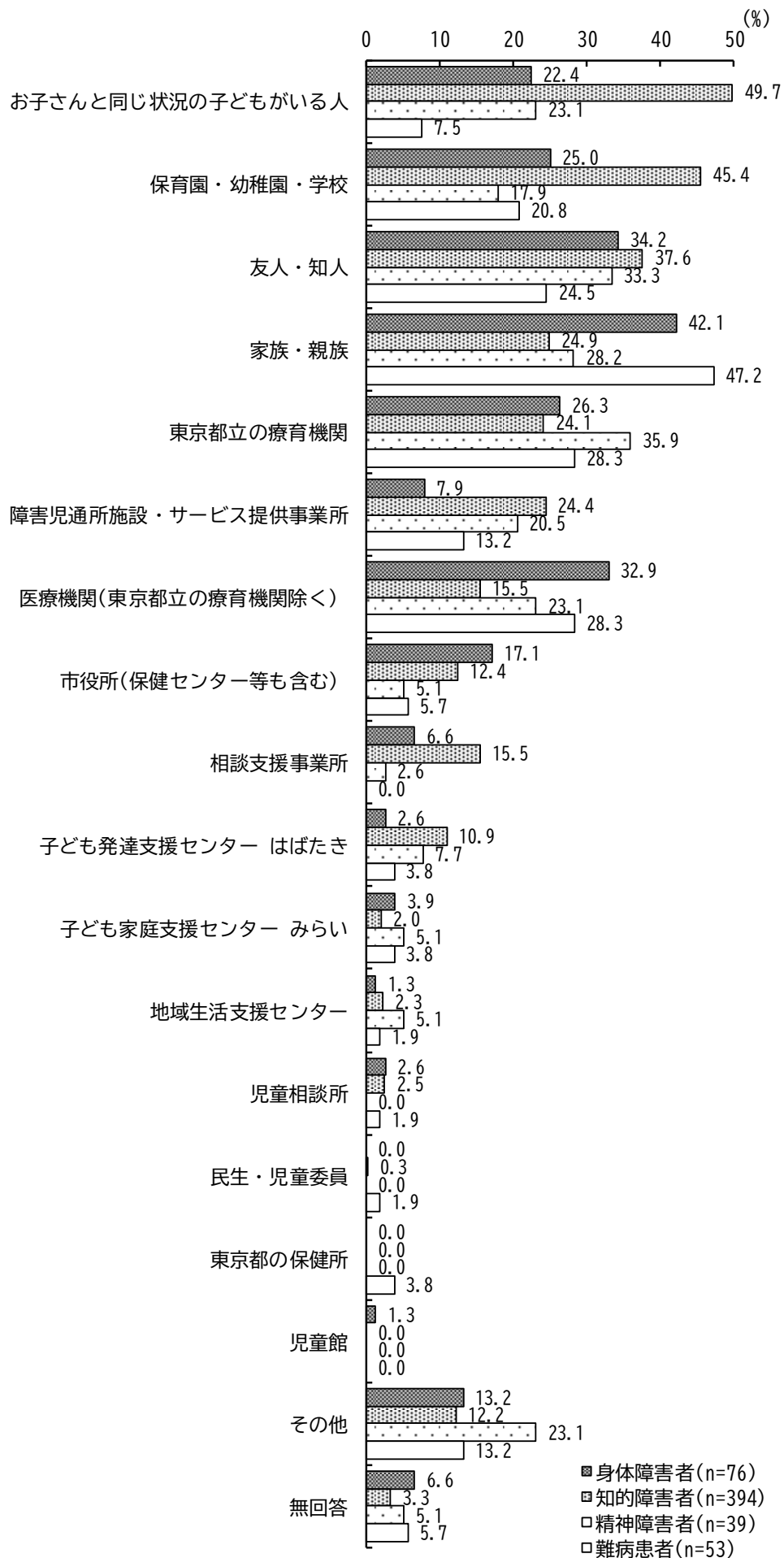
図表 情報の入手先(全体:複数回答)



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「家族・親族」(42.1%)、知的障害者は「お子さんと同じ状況の子どもがいる人」(49.7%)、精神障害者は「東京都立の療育機関」(35.9%)、難病患者は「家族・親族」(47.2%)が最も多い。

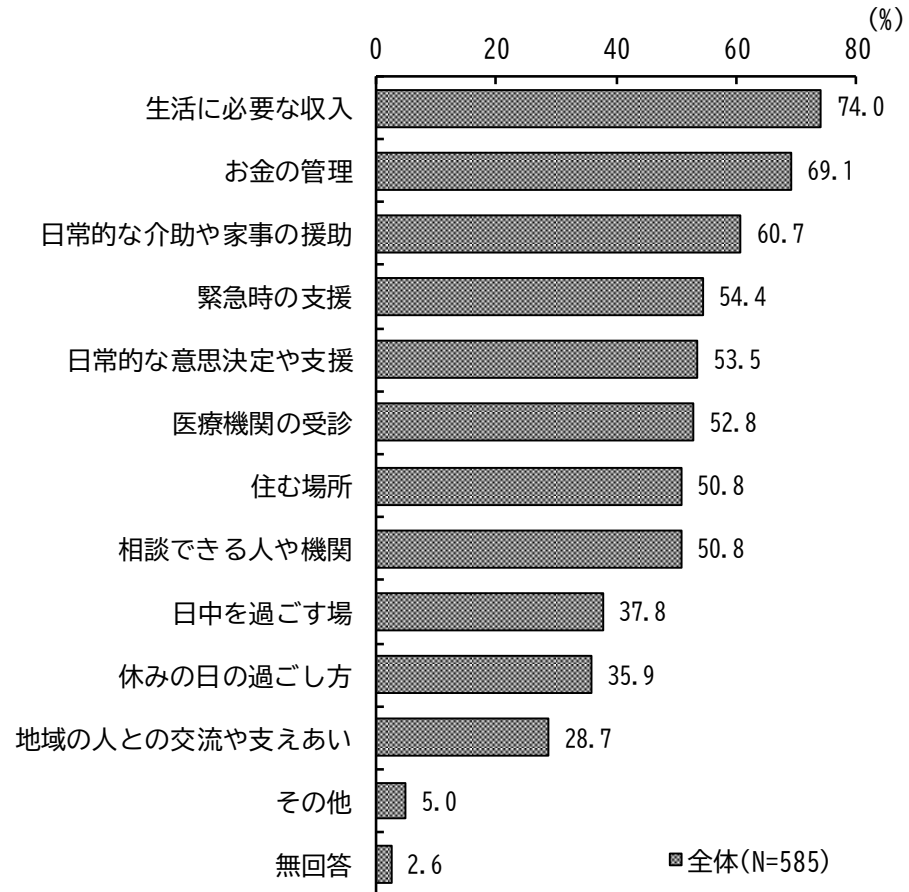
図表 情報の入手先（障害等の種類別：複数回答）



問34 将来、主に養育している人が亡くなった場合、どのようなことが不安ですか。(いくつでも○)

- ・「生活に必要な収入」(74.0%)が最も多く、次いで「お金の管理」(69.1%)、「日常的な介助や家事の援助」(60.7%)が続いている。

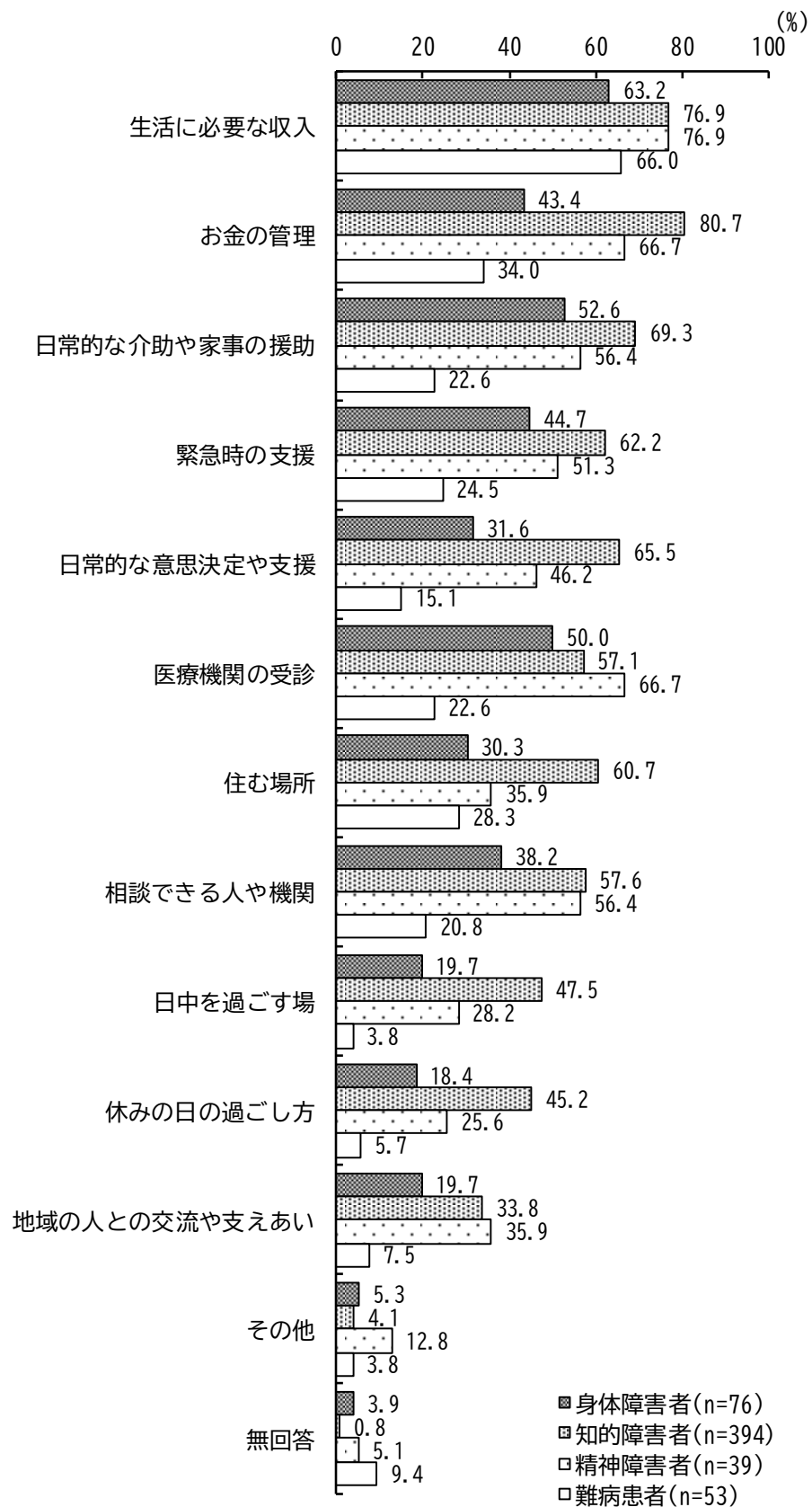
図表 主な養育者が亡くなった場合の不安(全体:複数回答)



【障害等の種類別】

- ・身体障害者、精神障害者、難病患者は「生活に必要な収入」(身体:63.2%、精神:76.9%、難病:66.0%)が最も多い。知的障害者は「お金の管理」(80.7%)が最も多い。

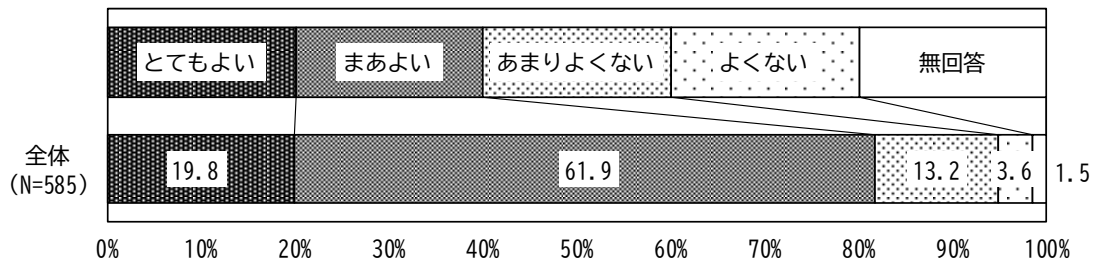
図表 主な養育者が亡くなった場合の不安（障害等の種類別：複数回答）



問 35 主に養育している人の健康状態はいかがですか。（1つに○）

- ・「まあよい」（61.9%）が最も多く、次いで「とてもよい」（19.8%）、「あまりよくない」（13.2%）、「よくない」（3.6%）が続いている。「（とても・まあ）よい」とする健康群が 81.7%、「（あまり）よくない」とする不健康群が 16.8%と、健康群が多数となっている。

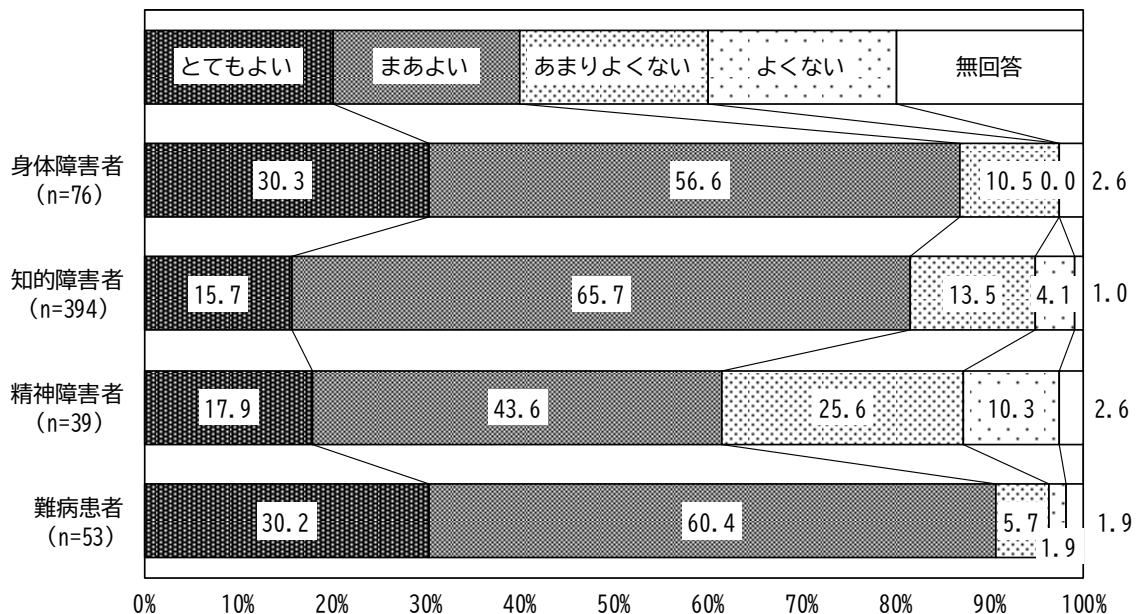
図表 主な養育者の主観的健康感（全体）



【障害等の種類別】

- ・障害等の種類別でも、「（とても・まあ）よい」（身体：86.9%、知的 81.4%、精神障害者：61.5%、難病：90.6%）とする健康群が多数となっている。精神障害者は「（あまり）よくない」とする不健康群が 35.9%と、全体より 20 ポイント近く高い。

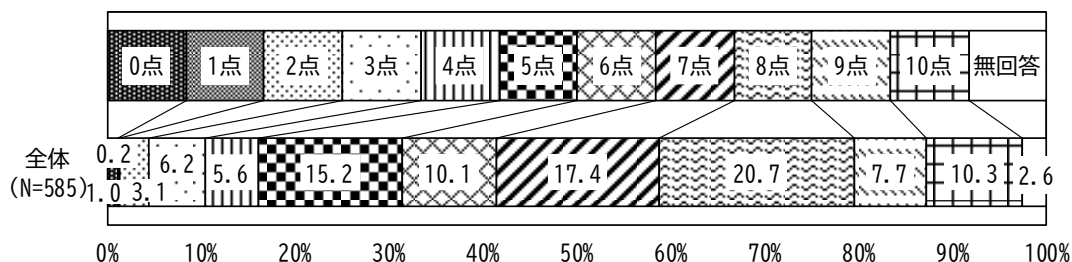
図表 主な養育者の主観的健康感（障害等の種類別）



問 36 主に養育している人は、現在どの程度幸福だと感じていますか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とした場合、あなたはどれぐらいになると思いますか。最も近いものをお選びください。（1つに○）

- ・「8点」（20.7%）が最も多く、次いで「7点」（17.4%）、「5点」（15.2%）、「10点」（10.3%）と続いている。なお、8点以上の割合は38.7%、2点以下の割合は4.3%となっている。

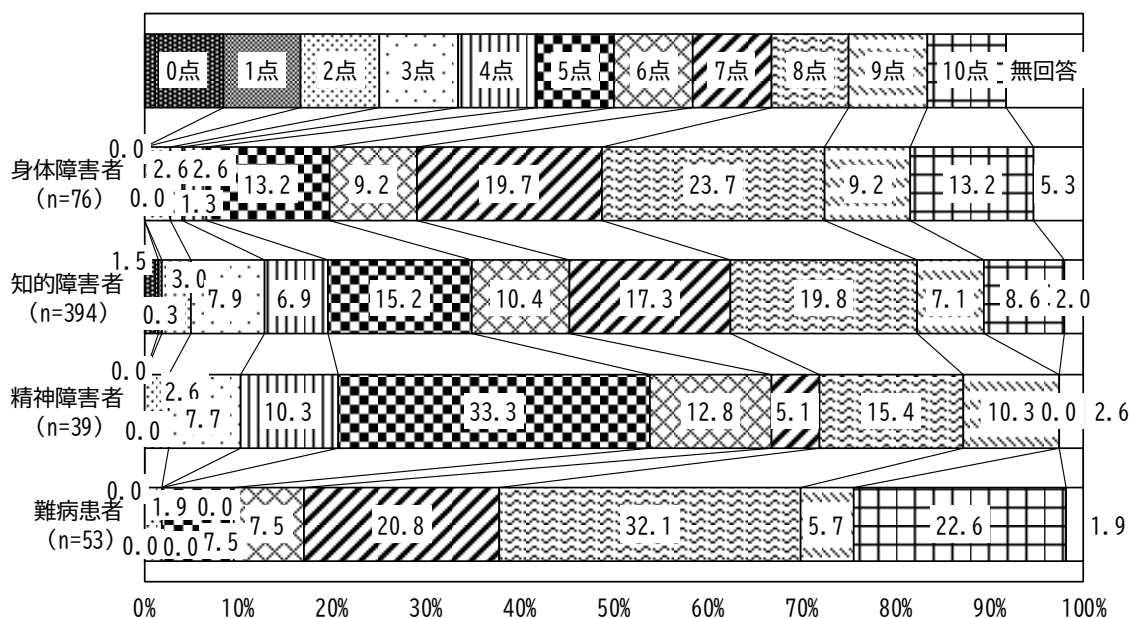
図表 主な養育者の主観的幸福度（全体）



【障害等の種類別】

- ・身体障害者、知的障害者、難病患者は「8点」（身体：23.7%、知的 19.8%、難病患者：32.1%）が最も多い。精神障害者は「5点」(33.3%)が最も多い。

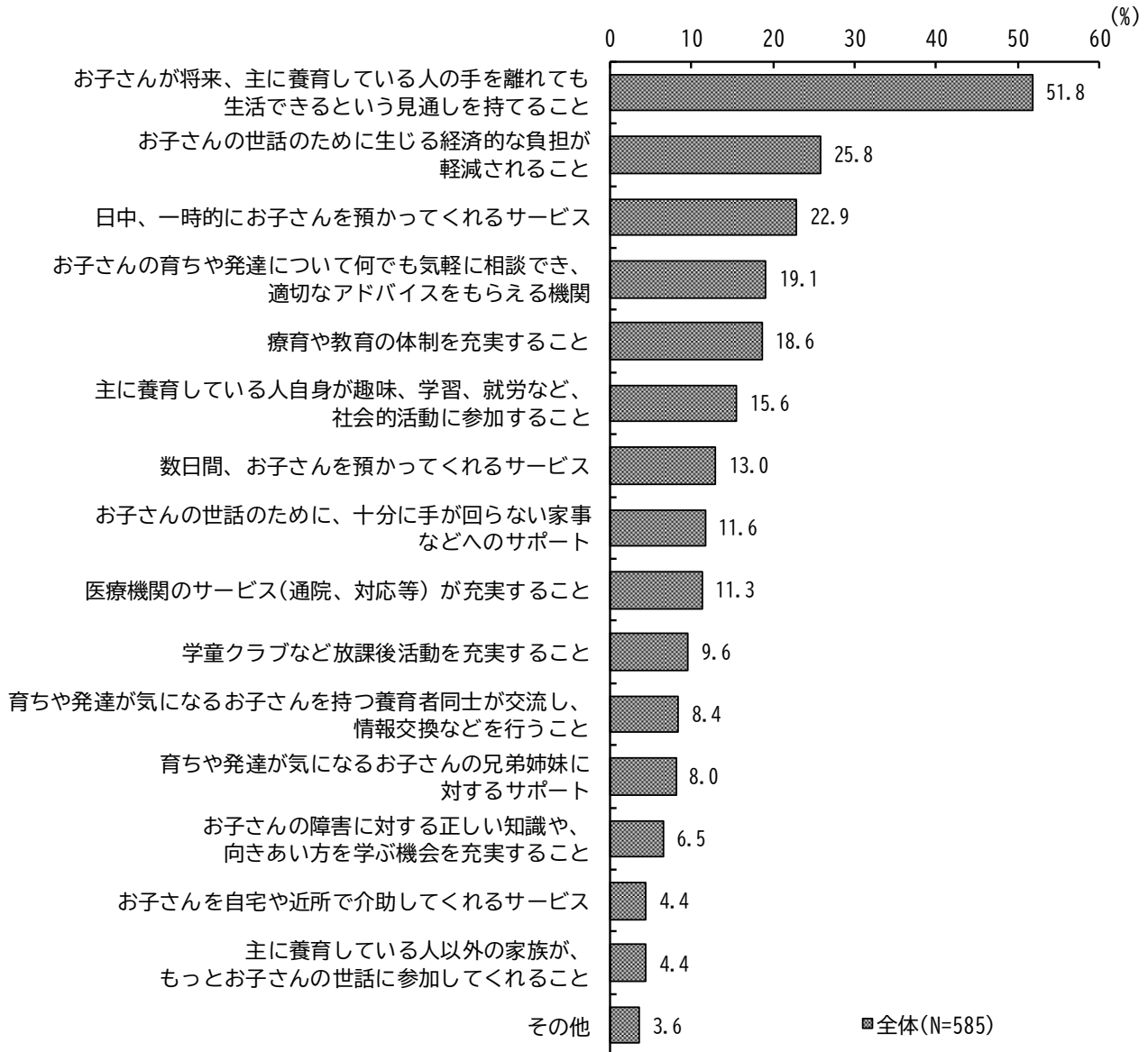
図表 主な養育者の主観的幸福度（障害等の種類別）



問 37 育ちや発達が気になるお子さんに関して、養育の負担感やストレスを軽減させるために、主に養育している人が重要だと考えることは何ですか。次の項目の中から、3つ、優先順位の高いものから順に、下記の に左から番号と具体策を記入してください。＜優先順位の高い項目＞

- ・「お子さんが将来、主に養育している人の手を離れても生活できるという見通しを持てること」(51.8%)が最も多く、「お子さんの世話のために生じる経済的な負担が軽減されること」(25.8%)、「日中、一時的にお子さんを預かってくれるサービス」(22.9%)が続いている。

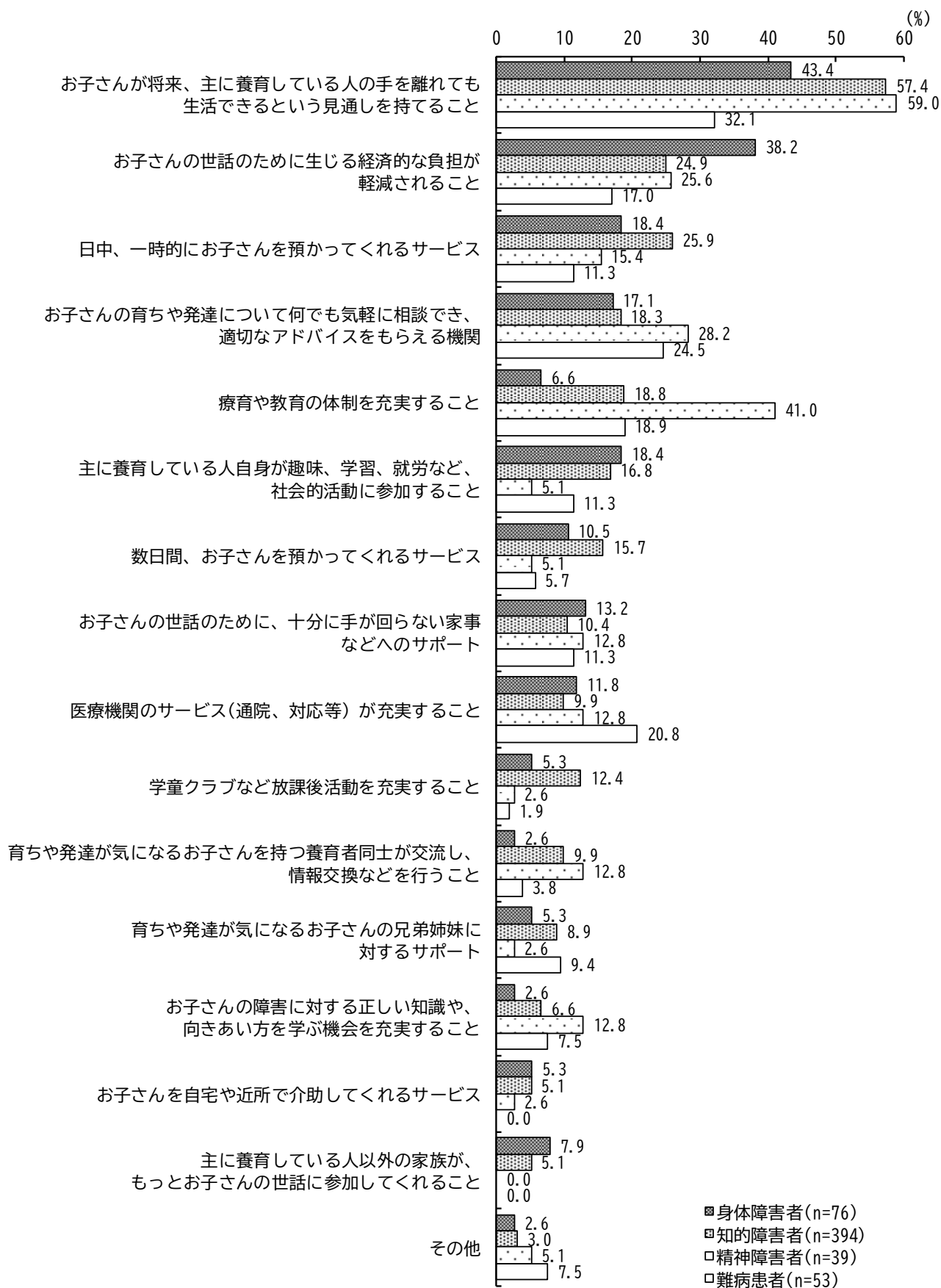
図表 養育の負担感・ストレス等軽減のために重要なこと(全体：複数回答)



【障害等の種類別】

- ・障害等の種類別でも、「お子さんが将来、主に養育している人の手を離れても生活できるという見通しを持てること」(身体：43.4%、知的：57.4%、精神：59.0%、難病：32.1%)が最も多い。

図表 養育の負担感・ストレス等軽減のために重要なこと(障害等の種類別：複数回答)



問 37 育ちや発達が気になるお子さんに関して、養育の負担感やストレスを軽減させるために、主に養育している人が重要だと考えることは何ですか。次の項目の中から、3つ、優先順位の高いものから順に、下記の に左から番号と具体策を記入してください。＜具体策＞

育ちや発達が気になるお子さんに関して、養育の負担感やストレスを軽減させるために、主に養育している人が重要だと考えることの具体策について、自由記述形式でたずねたところ、全体で743件の回答を得た（複数項目に記載があった場合は重複して計上）。以下、主なものを掲載する（優先順位は考慮していない）。【 】内に本人と記入者との関係を記している。

（1）日中、一時的にお子さんを預かってくれるサービス（87件）

【身体障害者】

- ・ 医療的ケア児を受け入れられるような看護師の増員。（男性、幼児期）【母親】
- ・ 小さい頃は定期的な介助で本当にまとまって寝れたことがなかったので、預かってもらいゆっくり寝れるようにしてほしい。（女性、幼児期）【母親】
- ・ 特に、重症心身障害児でなくとも車椅子使用の肢体不自由児が利用できる放課後等デイサービスの拡充、施設への助成金の拡大。（女性、小学校高学年）【母親】
- ・ 市の支援センターでも、重度の障害のある子たちの支援も行ってほしい。（女性、幼児期）【母親】

【知的障害者】

- ・ 親子の離れる時間があるだけで優しくなる。（男性、小学校低学年）【母親】
- ・ 幼少期は特に離れられる時間が必要。家事、趣味の時間が欲しい。保育所の受け入れ。（男性、高校生）【母親】
- ・ やはり日中6時間程度預けられるサービスがあると大変助かり、負担感も軽減される。利用できる施設を増やしてほしい（男性、幼児期）【母親】
- ・ 保育園のすくすくを増やせると良い。（女性、幼児期）【母親】
- ・ ワンオペで短時間でも人と離れたい時がある。いちばん辛い幼児期に日中支援もないのはおかしい。日中支援は18才以上という制度はなくすべきだ。（男性、小学校高学年）【母親】
- ・ 他害のある子どもの預かり先がないため増やしてほしい。（男性、小学校低学年）【母親】
- ・ 希望する人が全員使えるぐらいの数の放課後デイサービスを用意する。就労継続できるため、養育者の人生を豊かにでき心の余裕ができる。（男性、小学校低学年）【母親】
- ・ 理由はある程度決めて頂いていいと思います。事前契約なしの一時預り。（男性、幼児期）【母親】
- ・ 空いてる所がないため、もっとその施設を増やしてほしい。（女性、小学校低学年）【母親】
- ・ 緊急時など突発的な用事があった時に預かってくれる場所がほしい。（男性、小学校低学年）【母親】
- ・ 小学校高学年でも、「明日、お願いします」くらいな感じで預かってもらえるところ（夜までとか）。（男性、高校生）【母親】
- ・ 保育所に預かっていただいている。（男性、幼児期）【母親】
- ・ 学校の長期休暇に子どもを預かってくれるサービスを充実させる。（男性、小学校高学年）【母親】

- ・今は保育園を併用しているが、子どもと離れる時間があるのが一番ありがたい。（男性、幼児期）
【父親】
- ・お迎えがフルタイム勤務の壁（特に長期休み）なので、働き続けるためのサポートをしてくれるサービスがほしい。（女性、小学校高学年）【母親】
- ・空きがなかったり、条件(学校行事、冠婚葬祭、利用日数)も厳しかったりで、利用が難しい。仕事の場合に利用できる所がほしいです。他害がある、障害がある場合は預かり先がなかなかないです。年に数回しか利用もできず、理由も厳しく、仕事に行けません。（女性、高校生）【母親】

【精神障害者】

- ・一時的に障害が軽くても預かってくれるサービスがほしい。（男性、小学校低学年）【母親】
- ・放課後等デイサービスが自宅以外の所にも送り、とどけてくれるとありがたい（実家等）。（男性、小学校高学年）【母親】
- ・施設が近くに少ない。（男性、中学生）【父親】
- ・通院（自分）などさえ難しかったので。（男性、小学校高学年）【母親】

(2) 数日間、お子さんを預かってくれるサービス (53 件)

【身体障害者】

- ・府中市内に預けるサービスを提供するように取り組んでほしい。（女性、小学校低学年）【父親】

【知的障害者】

- ・ショートステイが足りていません(兄妹もいて手が回らない)。不安です。（男性、小学校高学年）
【母親】
- ・養育者の心のゆとりは、子ども（障害児）に影響がともあると思う。休みたくても休めないストレスで壊れていく。休みたい。（男性、幼児期）【母親】
- ・緊急時に預かってもらえる場所がないと不安でストレスになるのでショートステイ先の拡充を早急に進めてほしい。（女性、中学生）【母親】
- ・宿泊学習のような、本人の自立支援も兼ねるサービス。（男性、小学校低学年）【母親】

【精神障害者】

- ・心身ともゆっくり休め気力体力を取り戻すことが何回も必要。ミドルステイ、ショートステイを増やして。（女性、幼児期）【母親】

(3) お子さんの世話のために、十分に手が回らない家事などへのサポート (45 件)

【身体障害者】

- ・料理をつくってほしい。（男性、小学校低学年）【母親】

- ・親が離れられないタイプの障害も有るので、家事に時間がさけないこともある。高額な代行サービスは使えません。（男性、高校生）【母親】

【知的障害者】

- ・ヘルパーなど障害児でも使えるサービスがあれば。（男性、幼児期）【母親】
- ・家事代行サービスはあるが、日常的に利用するには月数万の出費になる。一部でも補助がでると利用しやすい。親が不調で休職等だと利用しづらくなる。（男性、小学校低学年）【母親】
- ・自分が体調が悪い時に、衣食住すべて介助が必要な子どもを看るのが辛いことがあります。そういう時に使える家事代行サービスがあると良いです。（男性、小学校低学年）【母親】
- ・サポートを受けるにしてもどこに何があるのかを伝えるのが大変。（男性、小学校低学年）【父親】

【精神障害者】

- ・不登校の家庭の家事サポートを安価に利用したい。週1回昼食等訪問で一緒にやってもらいたい。（女性、小学校高学年）【母親】

（4）お子さんを自宅や近所で介助してくれるサービス（10件）

【知的障害者】

- ・預けられるのは本人の不安が大きいので、家にきてくれるとよい。（女性、小学校高学年）【母親】
- ・ファミサポのように当事者やシニアの方を中心としたネットワークで日常的に助け合えるしくみを作ってほしい。（男性、高校生）【母親】

【精神障害者】

- ・通院の支援。（女性、中学生）【母親】

（5）育ちや発達が気になるお子さんの兄弟姉妹に対するサポート（28件）

【身体障害者】

- ・娘の体調や進学先によっては兄妹の送迎が十分に行えないためサポートが欲しい。（女性、小学校高学年）【母親】

【知的障害者】

- ・兄弟児という言葉も作られるくらい、大変な思いをあたりまえのようにしていて、気付けない子がたくさんいると思うので、それこそ情報交換、お茶会等。（男性、中学生）【母親】
- ・障害のある子ども以外兄弟がいる時、兄弟にまで手が届かないことが多く苦労した。そのため学校などに理解してほしい。（男性、高校生）【母親】
- ・障害児に目がいきがちで「できなくても！！」と思うが、他の兄弟には厳しくなってしまうことも多い！！その子たちへの支援も必要かと思う。（男性、小学校低学年）【母親】

(6) 育ちや発達が気になるお子さんを持つ養育者同士が交流し、情報交換などを行うこと (33 件)

【身体障害者】

- ・養育者のつながりがあると頑張れることも多い。(女性、中学生) 【母親】
- ・障害や子どもの年齢で区切らず、情報交換できる場を作って欲しい。曜日や時間帯も様々に設定し、多くの人が参加できるように。(男性、高校生) 【母親】

【知的障害者】

- ・子どもの行動や学校選び療育や病院など、地元の情報を気軽に聞けて答えられる場。対面でもネットでも。(男性、高校生) 【母親】
- ・サークルなどを市が紹介してつながる場を見つけやすくする。(男性、高校生) 【母親】
- ・チラシや広報で会を催すことを載せて定期的に行ってほしい。(男性、小学校高学年) 【母親】
- ・親同士でも、同じ疾患同士であると相談しやすく仲間になれると思います。(女性、小学校低学年) 【母親】

【精神障害者】

- ・同じような子をもつ保護者の方で、お子さんが今の息子より先のステージに進んでいる方から話を聞きたい。(男性、小学校高学年) 【母親】

【難病患者】

- ・小児医療センターでたまに行われているきずなの会、同じ境遇の人と話す機会が一番ありがたい。(男性、小学校低学年) 【母親】

(7) 主に養育している人自身が趣味、学習、就労など、社会的活動に参加すること (55 件)

【身体障害者】

- ・デイサービス(放課後デイサービス)施設が増えて、運営する施設への支援が増えて、養育者も社会的活動に参加できるようになると良い。(女性、幼児期) 【母親】
- ・私自身、就職してとても良かったと感じています。いきいきできた。(女性、中学生) 【母親】

【知的障害者】

- ・放課後デイサービスと日曜、祝日も利用できるデイサービスがあると良い(時間が作れるので)。(男性、中学生) 【母親】
- ・子育てとリフレッシュのバランスがとても大切。ヨガやマッサージ、友人との食事など行っている(女性、小学校低学年) 【母親】
- ・レスパイトを充実させ、養育者自身の心身の健康を確保。次に見通しをもって育てられる様、必要な情報を共有できる機関、サービスを充実させる。(女性、中学生) 【母親】

- ・ 養育する前と変わらない様な社会的活動が行われる時間と体力を確保する。（男性、小学校低学年）
【母親】
- ・ 医療的ケア児をみていると、母は家にこもることが多くなり社会とのつながりはママ友とのつながりだけになります。これらの部分の支援は必要だと思います。私自身、心の余裕がまったくなかったです。仕事もやめなくてはいいはず 10 年経っている。自分のキャリアは何一つ積みあげられなかったと感じています。（女性、小学校高学年）【母親】
- ・ 私自身、就職してとても良かったと感じています。いきいきできた。（女性、中学生）【母親】
- ・ お母さん自身が自分の時間をもつことはとても大事だと思う。自分でみたくことで子どもにもやさしくできる。（男性、高校生）【母親】

【精神障害者】

- ・ 生きる＝働かなければいけないを生きる＝楽しむに変化させたい。（男性、中学生）【母親】

（8）お子さんが将来、主に養育している人の手を離れても生活できるという見通しを持てること（193 件）
【身体障害者】

- ・ 障害によっては、初めましての人だと不安になることも有るので段階を階んで、養育者と協力しながら進めていくのが良い。（男性、高校生）【母親】
- ・ 私の息子は心臓病で、将来サラリーマンのように 9：00～5：00 で働くのはできるのか。もしできない時は、収入が止まるので、どうなるのか心配で、生活の助成があるといいです。ふつうに今は健康な子と変わらないが、変わった時が心配です。（男性、中学生）【母親】
- ・ 複数の障害を持ちあわせていて、リスクも困難度も高いのに既存の支援の認定基準から外れているのが不安です。教育や子ども時代の医療費は手厚いですが、大人になったとたん、何もなくなってしまふ。自立して生活できるのか、同じような困難をもった人でも中途か先天性かで支援の差がある。解消してほしいです。（男性、小学校高学年）【母親】
- ・ 勉強だけでなく生活に必要なことを指導してくれることで将来に対する不安を少し軽減できる。男性、小学校低学年）【母親】
- ・ こういう特性の人が、こういう人生を歩んだなど、事例をもっと知ることができるような情報が提供されてほしい。Youtuber の「虹色のあまえんぼ」のお母さんのように。（男性、小学校低学年）【母親】

【知的障害者】

- ・ 進路相談または、中学、高校、大学、社会人までの通うイメージが分かると早めに動ける。選択肢の提供。（男性、小学校低学年）【父親】
- ・ 中学生くらいから同年代の子がいるグループホールの体験の場のようなものに参加させてもらえると子ども自身がイメージが付きやすいんじゃないかと思います。（女性、小学校高学年）【母親】

- ・とにかく将来が不安で、いつでも心の負担となっている。どのようなライフプランがあるか詳しく知りたい。（女性、幼児期）【母親】
- ・支援学級や支援学校に入る前に、先々どのような流れがあるか知ることができたら。例：小学校の学級の先生が、高等部や高校卒業後の支援のあり方や方向性を保護者に説明できるなど。現状ご存知ないと思われます。（男性、高校生）【母親】
- ・グループホームや一人暮らしに対する支援の充実。（男性、高校生）【母親】
- ・高校を卒業したらどこで何をさせるのか分からず漠然とした不安がある。どこに相談すればよいのか？（女性、幼児期）【母親】
- ・もう少し大きくなればショートステイなど体験できる場があれば嬉しい。（女性、小学校低学年）【母親】

【精神障害者】

- ・どのような仕事がむいているのかなど、本人や家族が考えられる場や、経験者の話を聞きたい。（男性、小学校高学年）【母親】
- ・特性、特技を生かした仕事で収入を得つつまじいながらも安定した暮らしができることを望みます。（女性、高校生）【母親】
- ・日常で必要なスキルを身につけられる教室があったらいいと思う（片付け、洗たくなど）。（男性、高校生）【母親】

(9) 主に養育している人以外の家族が、もっとお子さんの世話に参加してくれること (14件)

【身体障害者】

- ・共働き、実家遠方だと主に養育している人以外の人がいらない。家族が一番だけど、近くで介助してくれる所があると助かります。（男性、小学校低学年）【母親】

【知的障害者】

- ・夫の理解がない。私がやればいいと思っているし、自分でもそう思ってしまう。これをどうにかしたいと思ってきたが、どうしても上手くいかない。逆に教えてほしいし助けてほしい。（男性、中学生）【母親】
- ・義理の親や自分の親も一緒に勉強会みたいなのに参加させて、受け入れさせた方が良くと思う。親の理解がえられなくて、大変だった。（男性、中学生）【母親】
- ・同じような幼少期を過ごして成人した方のお母さんの話をきく機会がほしい（女性、幼児期）【母親】

(10) お子さんの世話のために生じる経済的な負担が軽減されること (100 件)

【身体障害者】

- ・ 装具や食事面でも思いどおりにいかないところがあると負担大きい。もう少し補助の拡大。(男性、小学校低学年) 【母親】
- ・ 通院や送迎があるのでフルタイムで働けず収入が少なくて困ってる。(男性、小学校高学年) 【母親】
- ・ 交通費等にかかる補助の継続。(女性、小学校高学年) 【父親】
- ・ 補聴器は高額なものほど、学習面で効果があるので、買わざるを得ない。補助額を上げてくれれば助かる。(女性、高校生) 【母親】
- ・ 生活に必要なもの(子どもの障害に必須なもの)を聞き取りし、それに対して補助金を出す等援助する。(男性、幼児期) 【母親】

【知的障害者】

- ・ 障害者がいると働きたくても働けないことが多い。手当てを増やしてほしいです。(女性、中学生) 【母親】
- ・ 福祉サービスに対する所得制限をなくしてほしい。(女性、中学生) 【母親】
- ・ シングルで息子が2人。長男が発達障害を持っており体調を崩しやすい為、会社を休みがち。フル在宅でかなり年収を減らされている。(男性、幼児期) 【母親】
- ・ 収入面においてのサポート。支援金等。(男性、小学校低学年) 【父親】
- ・ 世帯の年収にかかわらず、一定の経済的支援が得られるようにしてほしい。我が家は、大学生、専門学生がいて、それぞれ収入があるので世帯としての収入は多いが、実際の生活費は増えていないので、こういう世帯があることも考慮してほしい。(女性、中学生) 【母親】
- ・ 母子家庭でも充分子どもと関われる様に。(男性、小学校低学年) 【母親】
- ・ 子どもの障害で母親は働けない家庭も多い。物価高なので経済的な支援が必要。手当の増額。(男性、幼児期) 【母親】
- ・ 助成金や補助金が愛の手帳4級でももう少し出してほしい。(男性、小学校高学年) 【母親】
- ・ 手当てを受けれて助かっているのですが、物価高により年収も若干UPしているため、制限も上げていただきたい！(男性、小学校高学年) 【男性】
- ・ 特別児童扶養手当の所得制限をなくして欲しい。(男性、小学校高学年) 【男性】

【精神障害者】

- ・ 助成金のような形で支援があれば、もっといろいろな挑戦させられると思う。(男性、高校生) 【母親】

(11) お子さんの障害に対する正しい知識や、向きあい方を学ぶ機会を充実すること (25 件)

【身体障害者】

- ・ 親、をはじめ、家族、教師、ケアワーカー、障害者に接するすべての人に、定期的に理解促進のための機会を作してほしい。(男性、中学生) 【母親】

【知的障害者】

- ・ペアレントトレーニングを希望者が経済的負担少なく受けられる制度。（男性、幼児期）【母親】
- ・目がなかなか合わず多動で夜に頻繁に起こされる状態でどう向き合えば解決したかわかりませんでした。（男性、小学校高学年）【父親】

【精神障害者】

- ・親や家族もとまどうことが多く、もっと学べる場がほしい。（男性、小学校高学年）【母親】

(12) お子さんの育ちや発達について何でも気軽に相談でき、適切なアドバイスをもらえる機関（68 件）

【身体障害者】

- ・身近な所、学校等にPT、ST、OTなどがいて気軽に困りごとを相談できる。（男性、小学校高学年）【母親】
- ・体重のことや体の動かし方等 ささいなことをケータイで相談できるといい。（女性、幼児期）【母親】

【知的障害者】

- ・就学後、学校以外で専門的な分析のもとアドバイスがほしい（心理士、言語聴覚士など）。（男性、小学校低学年）【母親】
- ・一つで相談した情報を関係部所、部門で共有していただければ助かります（同じ話を何度も説明することが多いので）。（女性、中学生）【母親】
- ・気軽に相談できるカフェみたいな場所があったら相談しやすいです。（男性、小学校低学年）【母親】
- ・必要な支援を受けられるよう、どんな相談先があるか、どんなサービスがあるのか、もっと市が周知してほしい(学校から情報を得ることが多い)。（男性、小学校高学年）【母親】
- ・学齢期は学校に相談できるが、子どもが成人すると気軽に相談できる所がなくなる。とぎれることなく継続した知識のある相談員がいると安心だ。（男性、小学校高学年）【母親】
- ・相談した後に不安だったことが安心に変わり、行動できることが増える。スクールカウンセリングや保育相談に通っている。（女性、小学校低学年）【母親】
- ・入口は何でも気軽に相談できて、具体策を考え、場合によって必要な機関へつないでくれる。（男性、小学校高学年）【母親】

【精神障害者】

- ・特に小さな頃は不安が多かったので、発達に関し相談しやすい環境が整うと有り難いです。（男性、高校生）【母親】
- ・児相から卒業した場合 その後の相談の場はどこなのか。成人した場合不安。（女性、高校生）【母親】

(13) 療育や教育の体制を充実すること (80 件)

【身体障害者】

- ・療育を受けたことで初めて私も子どもも家を出て社会と繋がりを持てた。また、教育は子が集団生活や知識、知恵を学び、大切な友だちや先生方と出会う姿を見て嬉しく感じる。(女性、中学生)

【母親】

- ・人員不足や職員の理解不足による体罰、虐待をなくすために、資格更新制度や研修、定期内覧など行ってほしい。(男性、中学生) 【母親】

【知的障害者】

- ・通級に年度途中から入れるように体制を強化する。支援級に知的、情緒級を設置してほしい。(男性、小学校低学年) 【母親】

- ・療育所、保育園、幼稚園、学校の横の交流を市をこえて実施してほしい。(女性、小学校高学年)

【母親】

- ・重度な障害だけでなく、学習的な障害の悩みが多いので、これに対するものをもっと増やして参加できるようにして欲しい。(男性、中学生) 【母親】
- ・療育できる機関が少ない。連携がとれていないので連携してほしい。(女性、高校生) 【母親】

【精神障害者】

- ・就学前は療育が受けられたが、就学後の療育機関がないので、療育体制を強化する。就学後の療育機関をつくる。(男性、高校生) 【母親】
- ・学校の支援員が少なく、毎日トラブル続きでストレスフルです。支援員を増やして、手厚くみてもらいたい。(男性、小学校低学年) 【母親】

【難病患者】

- ・グレーゾーンや知的に問題ないが発達特性がある子ども達に対する支援をもっと充実してほしい。(男性、中学生)

(14) 学童クラブなど放課後活動を充実すること (43 件)

【身体障害者】

- ・我が子は身体障害のみ(車イス)で重心児ではありません。そのため、放課後デイサービスは重心児のみの事業所から断られ(車イスの子もいるのに)、発達、知的障害専門の放課後デイサービスにも車イス対応できないからと断られます。市では加配をつけて学童というものの、なかなか加配が見つからない。そもそも働いていないといけないという理由で入れません。放課後デイサービスには働いていなくても入れますが、早い者勝ちで待機になり、「働きたい」という親はどっちにも入れることができず詰みます。こういうスキマの障害の子の手立てはないのでしょうか。困っています。(男性、小学校低学年) 【母親】

【知的障害者】

- ・就学後のサービスの拡充がないと夏休み期間親が休みをたくさん取らないといけなくなり、就労が安定しない。施設が少ない。（男性、幼児期）【父親】
- ・小人数で送迎付の放課後過ごせる場所（放課後デイサービスや民間学童など）の充実。（男性、小学校低学年）【母親】
- ・デイサービスの終了時間をもう少し延ばしてほしい（長期休みの時）。（男性、中学生）【母親】
- ・子どもを宿泊に預けるのが不安。信頼できる放課後デイサービスなどで宿泊行事などやってもらい子どもを慣らしたい。（男性、高校生）【母親】
- ・休みの日に学童を預けてはならない為、動ける時間に制限がある。日曜の放課後等デイサービスの実施。（男性、小学校低学年）
- ・中学以降も入れる学童的なものを作る。（学校の夏休みなどは8:00-18:00まであずかってもらえないと困る。）（女性、小学校高学年）【母親】

(15) 医療機関のサービス（通院、対応等）が充実すること（41件）

【身体障害者】

- ・通院費や薬の調合時間の待機が大変なので、通院費の助成と薬局から薬を送ってもらうための送料の助成がほしい。（女性、小学校低学年）【母親】

【知的障害者】

- ・医療につながるまでの時間がかかりすぎる。とにかく相談できる場を増やす。療育の場（公的）が少なすぎるので、もっと増やすなど。（男性、小学校低学年）【母親】
- ・障害者が通院できる病院を増やしてほしい。障害者だと診察も断わられてしまうことがあり、保護者の心労が大きいです。（女性、中学生）【母親】

【精神障害者】

- ・精神医療の治療について充実させてほしい。（男性、小学校低学年）【母親】

(16) その他（17件）

- ・入院時の介助付き添い者に対するサービスの拡充（食事・洗濯などの補助）。（女性、小学校高学年）【母親】
- ・卒後の居場所づくりに放課後デイサービスに協力してもらうなど。（男性、高校生）【父親】